



新聞切り抜きに見る 女の16年 III

女性元年—メキシコ会議
1975





新聞は時代を映す鏡です。

私たちはその意味で一九六〇年以来、新聞の切り抜きを続け、そのダイジェストを雑誌『あごら』に連載してきました。

『新聞切り抜きに見る女の16年』は、当時のデータを基に、新しい資料も加えて、「国連女性の十年」を中心とした女性の動きに焦点をあててまとめたものです。

I リブの台頭 1970—72

II メキシコ会議前夜 1973—74

を刊行後、資金難で頓座していたところ、一九九一年度市川房枝基金の助成を仰ぐことができ、続刊に踏み切りました。

この号に続き一九八〇年までの刊行を目指して作業を続けています。ただ、この仕事は、想像以上の莫大なエネルギーと資金を必要とします。作業を手伝ってくださる方、資金提供のお志のある方、ぜひご一報ください。千円、二千円の資金でも、どんなにありがたいかわかりません。また編集作業はかなりの忍耐力を必要としますが、女の問題に関心のある方には、またとない学習のチャンスでもあります。ご連絡をお待ちしています。

新聞切り抜きに見る女の16年 III

1975

女性元年—メキシコ会議

オイルショック、列島改造ブームによる物価高騰を契機に、なりふりかまわず発言するようになった日本の女性たちも、「女性解放」を大声で叫ぶのはまだ抵抗があった。その抵抗を一挙に拭き払ったのがこの年である。

一九七五年六月、メキシコシティで開かれた初の「世界女性会議」と、会議で可決された「世界行動計画」は、一九六七年、第二十二国連総会で採択された「女性に対する差別撤廃に関する国際連合宣言」を、ついに現実の「行動計画」に具体化させた。

この年を「国連婦人年」とし、「世界女性会議」を開くことは、一九七二年の国連女性の地位委員会で計画され、七二年、第二十七国連総会で決議されたが、それは一九四六年に国連に設置された「国連女性の地位委員会」を中心に、全世界の女性先覚者たちが血のにじむ努力を重ねた結晶であった。

この動きを早くから察知して活動を開始していた欧米の女性活動家の動きに対し、日本政府は「差別撤廃宣言」の原文さえ公表しなかった。この宣言の最初の邦訳が掲載されたのは「あごら」16号である。

初の「世界女性会議」では、国連の本会議と並行してNGO会議が開かれ、日本からも約二百名が見学、あるいは参加した。「第一回世界母親大会」と参加者を驚嘆させた世界各国の女性のパワフルな発言と、開催地メキシコの随所で見られた南北格差は、その後の日本の女性運動に計り知れない影響を与えた。世界の女性たちが心おきなく差別撤廃を叫べるようになった七五年「国際婦人年」は、まさに「女性元年」だったと言える。

新聞切り抜きに見る女の16年 III 女性元年・メキシコ会議

AGORAZEIN

メキシコ会議を振り返って

有馬真喜子・安東美佐子・斎藤千代・深尾凱子・松井やより

4

年表 ● 1975年の主な出来事

法・裁判

定年差別／雇用差別／賃金差別／中絶／実子特例法／育休法／併給禁止／結婚の不利解消
責任の所在／その他

政治

国際婦人年にちなむ施策／請願

労働

不況のしわ寄せ／就職難／賃金／職場／平等めざして／ILO

教育

保育・子育て

保育・保育所／子育て／母乳運動

健康

避妊／添加物・薬害／合成洗剤

差別

活動

グループ活動／集会／抗議・要請／公害／反核・反原発／消費／福祉／教育／出版／活躍

86 83 80 74 72 64 62 58 29

風潮	進出／衣／食／住／家族／主婦／消費生活／性	99
調査・統計	政治／労働／くらし／事件	104
意見	国際婦人年／差別／解放・平等／働く／法・政治／子育て・教育／折にふれて	109
相談		126
人	ひと／賞／逝去	129
本		142
事件	母子心中／子捨て・子殺し／思い余って／世相の反映／乱暴／遭難／だます・だまされる	148
海外	中国／北朝鮮／韓国／フィリピン／タイ／インドネシア／ベトナム／南ベトナム バングラデシュ／スリランカ／インド／ニュージラランド／オーストラリア サウジアラビア／イラン／トルコ／イスラエル／リビア／エジプト／ガーナ／アルジェリア アイスランド／スウェーデン／デンマーク／西ドイツ／スイス／フランス／イタリア バチカン／イギリス／ルーマニア／東ドイツ／チェコスロバキア／ソ連／カナダ アメリカ合衆国／メキシコ／アルゼンチン／キューバ／ペルー／ブラジル	155
国際婦人年・メキシコ会議	政府は秘密主義／会議前夜／開会式／本会議討議開始／行動計画討議／閉幕／トリビュン 会議を終えて／社説・開会に先立って／社説・世界会議を終えて	170
資料		
I 世界行動計画		192
II メキシコ宣言		223
III 国際婦人年世界会議において採択された諸決議		228

AGORAZEIN

メキシコ会議を振り返って

深尾凱子

茨城県立婦人教育会館館長
埼玉短期大学教授
(元読売新聞編集委員)



有馬真喜子

横浜女性フォーラム館長
(元フジテレビキャスター)



松井やより

朝日新聞社会部編集委員



安東美佐子

毎日新聞学芸部編集委員



司会 斎藤千代 あこら編集部

編集部 一九七五年のメキシコ会議の意

義の大きさは、年を経るとともにますます痛感します。しかしあれからはや十七年、最近の若い方々は、メキシコ・コペンハーゲン・ナイロビの三つの世界女性会議があったことも存じない方が多いようです。第一回の世界女性会議、メキシコ会議を振り返って、改めてあの会議の意味や、今後の課題を考えてみたいと思います。今夜は、メキシコ会議にご参加なさったジャーナリストの方々にお願いいただき、参加者の生きた声を、一つの証言として記録したいと思います。

海外報道がウケ始めた時期に

便乗して

編集部 さっそくですが、まずご参加の経緯から。——あれほどたくさんの女性ジャーナリストが一斉に海外に向向いたことはそれまでなかったように思いますが、すんなりとお話がまとまったところ、

抵抗のあったところなど、社によってさまざまなだったとも伺っています。

安東 最初はただのお祭り騒ぎかと思われて理解がなかった。女性の会議だから女性を出しておこうというのか、行かせることにはなかったけれど、出張期間が一月あるんだったら国連の会議をやっている二週間は出張扱いにする、他は年休と自分のお金で行ったかどうかという話で……。もうその程度の認識かと思ってビックリしたのです。

編集部 朝日新聞はどうだったんですか？

松井 わりと良かったですね。七五年は国際婦人年だと、社内一年前ぐらいから知られていたのね。というのも佐藤洋子さんとか女性記者たちで、国際婦人年はいちチャンスだから女性問題をこの際大いにやろうと、社内で盛り上げていたわけ。私の場合は七二年に国連の人間環境会議がストックホルムであって、六〇年代の終わりから七〇年代に環境問題をやっていたわけですが、それで今度は、

というか次は女性問題だと直感したの。ウーマンリブという女性解放の新しい運動がアメリカで起こって、私も公害取材でアメリカへ行って肌で体験して来たものだから、日本の女もこのまま黙っているのは許されないことだと感じていた。そういう流れのなかで七五年が国際婦人年ならそれを大いに活用しよう。私は社会部にいたんで、女性の問題を婦人欄だけに閉じ込めず、社会面とか政治面とか硬派のニュースとしても取り上げられるようにもっていこうという戦略をとったわけです。予告的に女性に関する記事もいろいろ書いて、それで、メキシコで国際婦人年の会議があるというのでぜひ行きたいと希望を出して行くことになりました。だから行くことそのものは大変ではなかった。

安東 私たちも半年ぐらい前から続きものをやりまして、PRには努めていたつもりだったんですね、家庭面とかで。「国際婦人年こちらでは」っていう続きものをして、世界のいろんな国に住んで

いる日本人女性の方々に原稿を送っていたくという企画をやっていたんです。たとえば、メキシコであつたら、黒沼ユリ子さん、オーストラリアだったら、グリーヴゆうこさん、スウェーデンだったらヤンソン由実子さん、モスクワからは石島ユタカさん。とにかく今も活躍して下さっている方たちに年のはじめから書いていただいたんです。それから日本の働く女性の現状ということで連載もして、PRに努めたつもりなんですけれど、なかなか浸透しなかったのです。

深尾 読売の場合は、行かせるとか行かせないとかいうゴタゴタはまったくありませんでした。私は、以前からアメリカのフェミニズム運動のことをずっと書いていて、いよいよ七五年の国際婦人年ということになりました。そのころ読売の婦人部長は男性だったんだけど、奥さんはTBSの記者で、部長自身にもフェミニズムの感覚と言いますか、意識が十分にあるわけなんです。奥さんの影響で、女性記者の気持ちとか女性の意識がかな

りわかる人でした。ですから国際婦人年

の世界会議という時も、「英語のできるおときさん、行ってくれや」とすんなり送り出されました。自分の口から言うのもなんですけど、非常な期待をかけられて。どんどん書いて送ってくれよ、どんなキャッチするからな、ということで、テレックスで送ればバンバン、一面、解説面、婦人面と、送れば送るだけ全部載って非常にやりがいがありました。

斎藤 確かにあのころ読売新聞の婦人面は良かったですね。

深尾 ですから改めて感じたことは、新聞っていうのはピッチャーとキャッチャーがしっかりしていないと良い紙面にならないんだな、ということ。実感として受け止めましたね。いやな思いはまったくなかったです。早く帰って来いとか、お金を節約しろということも、まったくなかった。

安東 恵まれていますね。

深尾 読売婦人部の場合は理解のある部長がいたことがとても良かったんだと思

います。

安東 そういうふうには個人的に大変理解のある方がいれば助かるけれど、私どもの場合はなかなか行かないんじゃないかと思っていました。そうしたら出発前に、前ニューヨーク特派員で国連担当記者だった方が直接の上司になりました。それで、それはやっぱり行ったほうがいいという決断で後押ししてもらって行けた、というようなことがありました。そういうポジションにいる人に理解があるかどうかということが、今もそうでしょうが、その当時は非常に大きい要素だったと思うんです。

一同 (うなずく)

有馬 私の場合はちょっと流れが違うと思うんです。テレビだったでしょ。松井さんと同じ、七二年のストックホルムの会議があつて、あれが世界会議の最初の取材でした。七五年はテレビがそういう海外からの報道を増やそうっていう時期にあつたことが一つ。それから私がちょうど自分の番組をもっていたという

ことがあつて、なんかこういうのがあるから行きたいと言ったら、七二年も行ってし、じゃあ、ということで三人のチームで行きました。だから民放から出たテレビ局は唯一ということです。NHKは現地から石川さんって人が出て、東浦さんは日本からいらしたけれど。

斎藤 たしかNTVの方もいらしてたよな気がします。

有馬 外信の石橋さん。ただチームで行ったのは、フジテレビだけだったと思います。

当時はまだVTRではなくて十六ミリを持って行って、衛星送りができなくて日航にこつつけてというようなことで、ともかく海外取材をしようっていう時期にあつたので、じゃあ、やってみたら、というようなところがあつたんですね。七二年のストックホルムの環境会議の時には強烈な思い出があります。コペンハーゲンに着いたら、空港で名前を呼ばれるんですよ。なんで海外に取材に来て呼ばれなくちゃいけないんだらうと思つて、

電話を入れるためにインフォメーション

に行ったら、フジテレビのロンドン支局にかけろって言う。当時ロンドンには、亡くなった山川千秋さんがいたんですが、彼がロンドンから私が東京からというかたちでストックホルムの会議をカバーするはずだったんです。電話をしたら山川さんからの伝言があって、テルアビブのロッド空港で岡本公三が機関銃を乱射した。それでイスラエルに行くから、ストックホルムはよろしく、と。ヨーロッパ中の特派員がワーツと行ってしまつてストックホルムの会議はカバーが手薄になったという記憶があります。でもあの時の映像の生々しさがあって、海外報道に目が向いたこともあるように思います。もうひとつはベトナム戦争ですが、婦人会議だからってことじゃなく、価値なんかよくわからないけど、行ってみたら、やってみたら、ってことだったんですね。だから自分の番組にはわりに入つた。でも特に歓迎されてもないし、海外取材の一つのテストケースって感じがしまし

たね。

深尾 読売だけじゃなくて朝日も毎日もうさうだけど、女性記者が東京本社から行って、パートナーとして、助っ人っていうのかな、海外特派員の男性記者が来てくれることになりましたね。読売の場合は、ブエノスアイレス駐在の鈴木特派員でした。

松井 私たちのところは国連担当のニューヨーク特派員だった有吉さんという記者が来てくれました。国連の会議などですごく取材慣れしていて、会議の流れを押さえるのが上手で、ベテランだなと思いました。

有馬 あの方も亡くなりましたね。

キーセン代理店を拒否して大苦勞

斎藤 記者の方はそれなりのお勉強をなさっていたと思いますが、私も民間人は何が何だかわからないわけですよ。世間会議があるらしい、ということを知っ

ていて、聞いた以上は行きたいけれど、普通の人が行けるものかどうか全然わからないし、情報もない。だいたい、市川房枝さんが先頭に立って「日本人が英語もろくにわからないのにソロソロ行っても意味がない」っておっしゃったのね。一同 変でしたね。

斎藤 それに、当時は女の人が二週間家をあけるのは大変なことで……今だったら何か作って冷凍庫に入れておくとかできますが……いろんなことで、条件整備が大変だった。〈あごろ〉も行こうって話があつてから行きつ戻りつしつ、それでも日がどんどん迫ってくると、柱の陰からでも見たいなという気持ちが止みがたくなつて行つたんですね。

あの時、ツアーを組んだのが〈あごろ〉と〈行動する女たちの会〉と〈新宿リブセンター〉と、藤田たきさんたちの〈婦人少年協会〉だけだったと思うんですね。

安東 〈新しい地平〉の青木やよひさんたちは違う？

斎藤 青木さんたちも「あごろ」で行ったんです。私たちも、「あごろ」のメンバーだけで行ったんではなくて、拡大して一人でも安く行けるようにと混成部隊で行ったので、ものすごく大変でした。私などは海外旅行もしたことがなくて、国内の集会さえ出たことがない。ただ、好奇心だけはあったんです。

もうひとつ大変だったのは、何も彼も、一から手づくりで行ったので、ビザの取り方などもわからなかったこと。旅行社を使えば簡単だったんでしようが、使わなかったんです。松井さんたちがキーセン観光なんかをしている旅行社は使うな、という運動をしてらしたので……。

松井 近畿日本ツーリストを使うって言ったから、あんなところを使っちゃダメだったっていったわけ。

斎藤 「行動する会」と同じ代理店を予定していたのですが、「あごろ」はそれをやめました。それでほんとに大変だった。私が全部代理店みたいなことをして……。

松井 旅行代理店を使うってことではなくて、近畿日本ツーリストはとくにひどいからやめたらと言ったのです。

斎藤 調べてみると、近畿日本ツーリストだけでなく大きい代理店は全部キーセン観光をやった。それじゃ、と手づくりでということになった。で、メキシコ大使館に「ビザを取るのはどうするんですか」って行ったら、そこに中南米の大きな地図がありまして、見たら、メキシコの涙みたいにくゅーバがある。こんなに近くにあるならついでに行きたいな、行けるかなということ、世界の飛行機の、六、七センチもあるぶ厚い時間表を生まれて初めて見たら、スペインとメキシコからは行けることがわかった。それで今度はくゅーバ大使館に行ったりして、もう私はただただ旅行代理業に徹しましたが、このお陰で当時絶対不可能だったくゅーバ入りができました（笑）。

深尾 そういう面では、私たちマスメディアの人間は苦勞をしていないわね。斎藤 だいたい私たちは認知されていな

いわけですよね。正体不明のミニ・グループってことで、現地に行っても何のインフォメーションも受けられない。コペンハーゲンの時はやっと多少は政府のお知らせなんかもいただきましたが。深尾 最初のころはね……。五年たっていますから、五年の違いっていうのはかなりのものですよね。

南北問題を肌で実感

編集部 それでは、いらした第一印象をお聞かせ下さい。

松井 メキシコっていう場所が非常に強烈でしたね。私が会議で得たものは何かっていうと、やはり南北問題に目を開かれたことです。開会式の日のことを非常に鮮烈に覚えているんですね。会議のオープニングということで、豪華な会議場に、各国の代表者がきらびやかな民族衣装を着てどんどん入ってくるわけです。会場のすぐ外ではメキシコ・シティーの

人たちの暮らしの貧しさが目に入って、そのコントラストがあまりにも大きくてショックでした。解放っていつでもエリート女性と庶民の女性の解放がどうやってつながるのかと、思ったんですね。

泊まったホテルの前にも、物売りとか物乞いの人たちがたくさん来るし、そういう街の光景と会議のぜいたくな光景との差が私にとっては一番強烈な印象でした。

深尾 私もそうですね。アメリカから国境を一本越えただけなのに、もう風景も人々のなりわいも違う。

松井 南北問題は、政府の会議だけでなくNGOのトリビューンでもつきつけられました。今も目に焼きついているのは、アメリカの女性解放グループの人たちと、メキシコを中心とした中南米の第三世界の女性の対決です。マイクを奪い合うほどのすさまじさで、もう終わりのほうになったらスペイン語圏の中南米グループの人たちだけで別の会議をやるくらいになったでしょう。ラテンアメリカ

の女性たちは「あなたたちアメリカの女性たちは豊かさの中で自分たちの男女平等だけ唱えている。アメリカが、ラテンアメリカから何もかも奪っていることをどう思うのか。今、この時間にも、私たちの国では、死んでいくわが子を抱いて泣いている母親が多いのだ」と激しく追及していた。とにかく反米感情をぶつけていました。アジアで開かれたら、日本の女性がやられたんじゃないかと思いたね。

斎藤 あれは印象的な光景でした。アメリカの人たちについていうのはリブの凝り固まりみたいで、意気軒高として来た。でもメキシコに来てすごい打撃を受けて、のちに良かったと思いませんか？

松井 打撃だったかしら？「南の女性たちは男の政治に振り回されている」と軽蔑したような態度さえ感じましたよ。

斎藤 あの時すぐには彼女たちは理解できなかったと思うけど、打撃だったと思います。コペンハーゲンの時にはガラッと雰囲気が変わってた。

松井 たしかに、コペンハーゲンでは第三世界のことを理解しなければということのようですが、アメリカの女性がどの程度受け止めたかしら。コペンハーゲンでも、その後も、南北問題では、アメリカの女性の動きはヨーロッパの女性にくらべたら全然鈍いと思う。国連婦人の十年の三つの目標は「平等・開発・平和」ですが、今から考えるとやっぱり開発の問題についてはほとんど知らなかったなと反省します。私自身も日本の女性差別に怒り狂っていたから、第三世界の女の人たちの問題との関連が、メキシコの時はいま見えてませんでした。南北問題は知ったけど、それと開発の関係をあまりとらえることができなかったですね、あのころは。

斎藤 それとフェミニズムとの関係というところもね。

深尾 それから会議が始まる前は、会議に集まった人たちは、なんとなく女の問題はみんな共通、世界共通という考えがベースにあって、話し合えるみたいな錯

覚というか、思い込みがありましたね。

けれど、メキシコをはじめとする中南米の女性たちの多くが、そうじゃないって。子どもにパンも与えられないような女の人こそ二重に差別されているんだっていうことが初めて全世界にアピールされた。それでメキシコ宣言が出たんですね。

安東 エチエベリア大統領の官邸に行きました時、日本の女性記者団の中の一人が婦りがけに大統領夫人に日本の『ベビーエイジ』という雑誌をプレゼントしたんです。そうしたら彼女がバラバラッと頁をめくって「こんな立派な印刷の立派な表紙の本が育児のための雑誌なのか」「これが私たちの国の資源を安く買っ作った本なのか」と。ここに第三世界の差別の根っこがあるんだ、というようなことをおっしゃったのね。それをみんな記事にして送ったと思うんです。あれは病気の子どもを抱いて、セントロ・メディコ（医療センター）のトリビュン会場の前に聖母子像のように座っていた物乞いの母子とともに、私には生涯忘れ

られない光景でした。

松井 道端で雨に打たれながらインディオのお母さんが顔色の悪い赤ん坊を抱いてじっと座っていた……。

安東 あれが私、メキシコ会議の原風景として頭の中に残っているんです。それと、エチエベリア大統領夫人のあの会見のあの印象も強烈ですね。第三世界の現実というものを本当に象徴的に表して、大袈裟に言えば、目からウロコが落ちたという感じ。そういう体験だったと思います。

斎藤 南北問題が初めて視覚的に見えた。そういう意味ではすごく大きいことでしたね。

世界から大きく遅れていた日本

有馬 私はそれよりも少し前に、もっと原始的なことで驚いたことがあります。それは婦人問題が世界でこんなに大きな問題になり得るんだってことね。ワルト

ハイム国連事務総長でしよ、エチエベリア大統領でしよ、次々に世界の政治家がスピーチをするわけだけど、その中で「人類においてこれほど大きな差別はない」とか「これは不正である」なんてことを言う。日本ではこんなことを我々は言われたことはないというのが率直な第一印象で、それをまず情報として送った記憶があります。婦人問題っていうのは人権、女性の人権をおかされることでしよ。差別って言葉自体、あのころは、まあ戦後一時期あったけどしばらく使っていなかったと思うんです。だからそういうスピーチを聞いた時に、世界と日本のずれていうか……私はその印象が一番強かったですね。

初めにジャーナリストのためのエンカウンターがあって、そこにグローリア・スタインナムが出て来た。カッコよく出て来て、これがあのスタインナムか……。ペティ・フリーダンも来てたし、そういう点ではこんなすごい人たちがいる、有名な人たちがいる、と思いつつ、彼女たちは

こういうところに来てこういうことをする

のかつていうのもあったわね。それから各国の大統領がどンドンメッセージを送ってきて、スウェーデンのバルメ首相はご本人が首席代表で出席して記者会見したのね。「女性の社会参加を言うならば男性の家庭参加も」っていうのを彼は記者会見でしゃべった記憶があるけど、彼だけじゃなくて各国どンドン首相や大統領のメッセージが来るわけ。そこで日本の代表団もあわて始めた。外務省に訓令を出して「何か頂戴」って。結局最終日でしたっけ、三木首相のメッセージが来たの。遅れてるのよね。日本で女性がどれだけ軽視されているかっていうことを痛切に感じましたね。

松井 メキシコに来ていた北の女性も南の女性も強いなあ、日本の女性はおとなしいなあ……。

有馬 そう。

松井 非常にパワフルで圧倒されるような印象でした。はっきりした自分の考えを持っている。アフリカの女性なんか本

当に堂々としていた。

安東 そうですね。力がある人たちも農村の人たちも、みんな自己主張をしていて。開会式にデモ隊が来たのを覚えていらっしゃる？

一同 覚えてます。

安東 十九世紀のインディオ出身の大統領ベニート・ファレスの夫人マルガリータの名前を旗印に掲げたメキシコの農村女性たちが来て、「私たちも会場に入れろ、エリート女たちだけがこういうことを論議しても」といってデモをしてね。

深尾 日本の代表は藤田たきさんでしたね。素晴らしい方ですが、でもああいうカッコいい人たちがいたり、パワフルな人たちがいたりする世界舞台の中に置いたら、何か痛々しさが先に立ってしまった。

一同 車椅子か、松葉杖でしたね。

深尾 こういうことを言ったら酷かも知れないけども、もうちょっと颯爽と自己主張のできる方が代表であつたら……という気がしました。

有馬 片やイメルダ・マルコスなんてのは、後ろに軍人を三人従えて台を持たせて、それをスピーチする時に足の下に置いて。台の上が上がって会場にのしかかるようにしてスピーチしていたね。

深尾 イランのアシラフ王女もカッコよくてね、王女様だから。

松井 でも私は、ああイランの独裁者の一族なんだと、あまりいい気持ちはしなかった。あのころ、反政府的だと拉致されたイランの女性の釈放を訴える手紙が日本にも届いていたので、自国の女性のそういう状況をどう思っているのかと、彼女の言動をまともに支援できなかった。彼女は大金を国連に出して大きな顔しているとすぐくちくちしい批判も耳にしました。斎藤 アシラフ王女が五万ドルの小切手をサッと書いて国連にカンパして、「次はイランに……」と言ったというのは有名な話ですよ。

深尾 「国際婦人年一年で解決することはあまりない、五年後にもう一度見直し会議をやろう」という彼女の発言がべー

スになって「国連婦人の十年」が出来たということですよ。あのころは本当にアシユラフ王女は勢力があつて自信もあつたからああいう発言ができたんでしょね。ひょうたんから駒じゃないけれども、それが「国連婦人の十年」として実現したんだから。

斎藤 それは大きい貢献ですね。

深尾 そういうさなかにあつて藤田たきさんの代表する日本の発言は弱い——という感じでした。

斎藤 内容はどうかだったんですか？

有馬 政府の下書きにひとこと付け加えたのね、「元始女性は大太陽であつた」というスピーチ。日本の女性の置かれていゝる地位からいへば、それが精いっぱいだったと思います。

斎藤 あの方は日本の政府代表団の中にいらしたから全部政府のチェックもあるし、NGOの人たちが勝手なことを言うようなわけにはいかなかったんでしょね。

松井 NGO側の日本の女性たちも、

ちろん頑張つてはいたけど、国際会議にまだ慣れていないから、トリビュンでもあまり発言しなかったし、影が薄いという感じでした。それと、参加した二百人の人たちのほかにも、たまたま団体で観光旅行に来て半日でものぞいてみようという日本の女性たちも多かったんですね。トリビュンの会議場にドヤドヤッと女性たちが入ってくるわけ。で、一時間か二時間座つていてみんなさつと立つてさあーと出て行っちゃうわけ。そういう光景が何回かあつたので驚きました。斎藤 とにかくバツバツと写真を撮りまくつて、しかも和服を着た女の人が一番前に出て写真を撮るから、世界の人たちがそれをまた撮る。そんな光景でね。あれは恥ずかしかったですね。でも日本の女性だけではないんです。私の両側にいたアフリカ人は、こちらはひとことも聞かすまいと必死なのに、二人でベチヤクチャ。お互いの衣裳とかネックレスなんかを「すてき」なんて誉めあつて話しているんですよ。

松井 結局メキシコに来た女性には恵まれた人ということなのよ。とくにアジアやアフリカから来た人たちっていうのは非常に数少ないエリート上流女性でしょう。十年後のナイロビ会議ではずいぶん違つていて、アジアからも活動家の女性たちが来てすごくパワフルに動いていて、十年間の前進をはっきり感じましたね。メキシコはそういう意味でもまさに出発点だったといえます。

斎藤 あの時NGOの展示資料を今読んでみると、環境・からだ・南北問題など、のちに問題になったことが全部出てくるんですね。全部書いてあるのね。各国の人たちは既に目をつけていた。私みたいな情報不足で世界の情報からうんと離れていた人間にとっては、ただただ驚きの連続でした。

深尾 ところでファッションの話をちょっとしたいんだけど……。事務局長がシビラ夫人でした。彼女はあつちこつち大変忙しく挨拶したり演説なさつたりしてただけど、開会式の時のファッショ

ンが忘れられないのね。あの会議のテーマカラーっていうのがメキシコの色であるローサ・メヒカーナっていう目のさめるようなピンク色でした。そのローサ・メヒカーナでムヘール(女)って書いてあるポスターが市内のあちこちに貼ってあった。今もはっきり覚えているんだけどシビラ夫人はダーク・グレーのすごくシックなスーツを着ていた。そしてスカーフがローサ・メヒカーナ色でパーッと目立っていた。

有馬 ああ、そうでしたっけ。

深尾 彼女は主催国メキシコに敬意を表してローサ・メヒカーナのスカーフを結んだんだなと思って、社会面用の原稿の最初にそれを書いたのよ。そしたらそれを受け取ったデスクが「やっぱり女性記者だね。国際会議をファッション感覚で捉えている」なんてあとから言っているのが聞こえてきておかしかった。

有馬 とてもすてきな話じゃない。女性記者だから捉えられて男性記者だと捉えられないことがあるじゃない。

松井 私は一緒に仕事をして下さっている相棒の有吉さんの記事、とても高く評価しているの。会議の流れをきちんとおさえて書いていた。ただ一つだけやっぱり男の目だなんて思ったのは「トゲトゲしい女の対立」だって(笑)出ているのね。やっぱり男の目ね。つまり自分たちの問題じゃなくて、ああ、女たちがケンカしているな、っていうような見方……。斎藤 女たちじゃなくて、あれは国際的な問題なのね。女たちの対立ではないし、まさにフェミニズムの原点の問題なのに。

深尾 あれが男の大会であっても、南と北の問題は対立するわね。でも「トゲトゲしい男の対立」とは書かない。

有馬 そう、書かない。

松井 見出しがいけないのかも知れないけれど、いずれにしてもちよつとがっかりしましたね。私たちは女性の視点で、見出しも考えて書くけどね。

安東 でも私たち、「自分たちは差別されている」と怒っていたわけだけど、あ

の大会に行って日本の女性の置かれている立場が客観的に位置づけてきたということはある。これは私にとってはとても大きな収穫だったのね。それまで自分たちは差別されているという被害者意識が強かった。けれどエチェベリア夫人もそうだし、メキシコの聖母子像のような病気の子どもとお母さんを見ても思いましたけれど、私たちは重層的な差別の構造の中にすっかり組み込まれていて、私たちもまた、他の人たちを踏み付けているということに気づいたんです。それはそのあと十年といわず、これまでの私のあの意味での出発点になった。少なくとも物の考え方の出発点になったと思うし、生き方の出発点にもしたいと思ったけれど。

斎藤 それは安東さんに限らず、観光組は別として、NGOで行った人も少なくとも女の問題をやっている行った人はやっぱり同じ共通認識だったと思いますね。とにかく路上に立つ女たちの多いこと。しかも低年齢化していて、公園に立つて

いる七、八歳の子を大人の男がボンチョの中にパッと包みこんで連れて行くのを見た衝撃っていうのは、一生忘れられませんがね。それまでは日本の女の問題がどうしても中心だったけど、ここに女の問題の原点がある、というのがよくわかった。日本の女の問題は世界の構造の中でどのへんにあり、私たちの認識はどのくらいかって考えさせられた。いろんな意味であんな生きた勉強っていうのはなかったですね。

松井 私も、時差の関係で真夜中に原稿を送るために起きていて、ホテルで原稿を送り終わってちよつと食事をしていたのね。そうしたら窓の所に人影があつて見てみたら、小さな女の子、九歳か十歳ぐらいの子が小さな弟の手をひいて窓の外から物乞いをしていたのね。

安東 来ましたねえ。

松井 小さな子がね。あと、二つか三つかないガムなんかを会場のまわりで売っていたでしょう。

安東 花売りとか。

深尾 新聞も……。

有馬 ビーナッツもあそこだけ。

斎藤 物売りはまだいいけれど、七歳ぐらいの子を大きな外套のようなボンチョにフツと包みこんで連れて行くんですよ、公園で。

安東 ありとあらゆるものを見ましたね。

松井 そういう現実を背負って、南米コロンビアの女性たちがアメリカの女性たちに向かって「アメリカの企業は南米に来て一億ドル投資して五十億ドル持ち去って行くじゃないか」って言ったのね。

その時「一億ドルが五十億ドルに」って数字にエツと思つてその言葉の中に何か見た感じだね。「私の国では今、この間に子どもたちが栄養不良でどんどん死んでいる」っていうんですよ。それに対してアメリカの女性たちは、そんな政治的なアジェンションみたいなことをして、と冷やかな対応をしてましたけど。

有馬 話が飛んで申し訳ないんだけど、北京会議はナイロビから十年目でしょ、ものすごく心配してますよ。途上国の人

たちが今度はアメリカの女性に対してではなくて、日本の女性に対する攻撃っていうのかな、すごくあると思う……。

斎藤 それはもうナイロビでも感じましたね。コペンハーゲンの時とはガラッと感じが変わってて、日本人に対する目がほんとに冷めたかった。

松井 だから八五年のナイロビの会議に取材に行つて良かったのね。私はコペンハーゲンの会議には行かなかったんだけど、メキシコの時は南北の対決があったのに、南の状況を知ろうと北の女の人たちの関心が高まっていたんですよ。そのあとODAの政策の中に女性への配慮をするようにという勧告がOECDで出たわけです。で、ナイロビに行つたら、北欧の女性たちが援助や開発の問題で、いろいろワークショップをやりましたね。アフリカとか第三世界の女性たちと対話をしていたので、私はそういうワークショップに重点的に出たけど日本の女性には来ていなかった。私はアジアの特派員から帰国したばかりで、援助のあり方

に関心があつたから出たんです。その時スウェーデンの女性団体が配っていた資料の一つに「開発と女性」行動計画を開発援助庁に作らせたものがあつた。それとアフリカの援助している国に自分たちで調べに行って、ODAがその国の女性にプラスになっているか、問題はないか、五センチぐらいの厚いレポートにして配っていたんですけど、今でもそれはすぐ参考になります。女の人がアフリカの各国で援助プロジェクトの現場を点検したもの。だからああいう女の視点での監視活動はこれから私たちにもっとも必要だと思つたし、そういう意味ではメキシコは本当に出発点だつたと思う。

斎藤 ナイロビはとにかくワークシヨップの数がものすごく多かつた。開発や援助のワークシヨップも結構たくさんあり、一日に七つも八つもやりました。私もできるかぎり参加しましたけど、日本人はいたりいなかったり。やっぱり一番熱心なのは北欧の人たちでしたね。メキシコ会議では開発に関するワークシヨップ

は少なかつたと思いますが、会場内外の現実がヨーロッパの女性に与えたインパクトは大きかつたと思います。

有馬 メキシコで、今日に続く女性の問題はほんとにみんな出てる。

斎藤 出てますね。ほんとに宝の山……。その宝の山にその場で気づいていた人もいるし、しばらくしてから気づいた人もいましたし。深尾さんは、あの時から「宝の山」という表現を使っていりましたね。

深尾 メキシコ会議のシビラ夫人の演説の中の一節が今でも私のもうひとつの宝となつてゐるわけだけど、覚えてない？ 七二年のストックホルム環境会議を逆手にとつて「世界の人たちは資源資源って言つてるけど、ちょっと待つて下さい。人間だつて大切な資源、すなわちヒューマン・リソースです」「ヒューマン・リソースの半分は女性ですよ。どこの世界に資源の半分以上を眠らせてたり腐らせる国があるでしょうか、つまり人的資源の半分、女性を腐らせてゐる限り、この地

球に未来はないでしょう、繁栄はないでしょう」つていうオーブニングの演説をしました。今でもその一節はそのまま通じると思う。

安東 国連の婦人年のよびかけの文章にもそういう人的資源という言葉があつて、それを受けてシビラさん、そうおっしゃったのね。

深尾 今もまた、資源が大切って言つてるでしょ、それと人的資源をひっかける考え方はそのまま永久に続いていくと思う。

日本の男性記者を洗脳したのが

最大の効果

安東 あの当時、メキシコ会議が始まる前に、「世界婦人会議と男女平等」というような各社の社説が載つたので、ちょっと調べてみたんです。これがとても面白かつたです。中央紙三紙見てみたんですが、Y紙は「いたずらに男性の理解の

なさを嘆く前に、まず、女性が就職時の「腰掛けの意識」を捨てるなど、自分を変えなければなるまい」と書いています。他の一紙、まあ、A紙ですが(笑)、これも興味深い。結論はこうなっていました。「女性も……、きれいで、カッコいい仕事より、福祉部門への参加に熱意を燃やしてほしい」と。

一同(爆笑)。

安東 ところが、二週間後、とにもかくにも会議が終わりましたら、みんな「これを出発点に、今後の実行が問われている」というふうに書いているんです、ほとんどの論説がね。やっぱり教育効果は大きかったと思います。

松井 日本の男性たちに「これは大問題だ」ってことを、女性問題の重要性を印象づけたことが一番大きいんじゃない。

安東 政治にまきこまれてトゲトゲしかったとかいろいろあったけど、ま、それもある、これだけの問題なんだからと最後に「行動計画などガイドラインが出たが今後の実行が鍵である」みたいなこ

とを三紙そろって説いているんですね。松井 結局そういう論説っていうのはまさに「男」の眼なんですね。つまり自分の問題でない、他人ごとなんですよね。マスコミを男が牛耳っているということの典型ね。

安東 もう一つ、M紙は論説面の「展望」というコラムでふれています。行動計画は一括採決だったけど、メキシコ宣言のほうは、途上国や日本は賛成票を投じたけれど先進国は最初賛成しなかったんですね。

有馬 二四票の棄権ね。

安東 それを受けて「日本の男は、日本の女性のためばかりでなく、このうえ途上国の女たちのためにまだ働け、とでも言うのか」と書いてあって。

一同 (爆笑) わかってないわねえ。

深尾 でも論説を書かねばならない男性の苦しさも察するわ。つまり、とにかく訳がわからないけど何か書かなきゃならないのよ、世界が騒いでいるから(笑)。それで何を書いていいのかわからないけ

どとりあえず締め切りまでに書く。だからピントが狂ったものができちゃう。

安東 担当記者の目から論説を評価しますと、始まる前にくらべて、終わったあとは大体無難にまとめてありました(笑)。

有馬 じゃあ、良くなっていたと。

安東 二週間のなかでは格段に……。

松井 だけど、国際婦人年のころに新聞社の男性たちが一番カチンとくるのは、「男も家事をやれ」ということらしいのね。絶対自分ではできないと思っているし、やる気もないわけ。だから私は「そういう男女の役割分担の解消が今度の会議で決まった」って書いたら「そんな非現実的なことはできない。僕が何時に帰れると思ってるのか、そんなことしたら子どもたちが飢えてしまうじゃないか、なんでこんなこと書くんだ」って言ったデスクがいたけれど。

一同 (爆笑)

松井 結局自分の生活を変えたくないわけ。

有馬 脅かされるっていう予感があるのね。

深尾 世界行動計画にきちんと書いてあるのね。

松井 それを何回も強調したのよ、私も。女性がもっと政治の場に出たり、組合にも出る。マスメディアにも出て、政策の場にも出なさい、と。

深尾 反対に、男は家庭や育児の分野も分担しなさいってことがきちつと書いてあるわけ。

松井 「性別役割分業をやめましょう」が何より脅威に感じるらしいのよね。

深尾 それを読んで、今だったら、かなりわかる人が多いけれど、十七年前には衝撃だったでしょ。「女性の目から見ておかしいと思っていたことがちゃんと行動計画の中に盛り込まれてある」と私は情熱をこめて解説記事を書いたけれど。

松井 やはり国連っていうとお墨付きでしょ。男たちも国連が言ってるっていうと、いちがいに文句いえないということね(笑)。

斎藤 P K Oと同じですね。昔も今も(笑)。

深尾 それで私はその結びに、婦人行動計画は女性にとって汲めども尽きせぬ宝の山である、と書いたんだけど、その言葉が一人歩きしているようです。その後、藤田たきさんは日本の報告会で「ある女性記者は世界行動計画を『宝の山』であるとしていますが、私もそう思っています」と引用して下さった。その後の記録などには「ある女性記者は」となっているけれど藤田さんの著書の『東中野日記』の中では「読売の深尾さんが」と書いて下さったんですね。

草の根女性が

本音で話し合ったNGO

斎藤 コペンハーゲンやナイロビとの差を考えてみると、メキシコではNGOとマスメディアはバラバラでなんの関連もなかった。

松井 そう？

斎藤 ほんと、なかった。松井さんはずっと前から存じ上げていて、頑張っていたらっしやと思っていましたが、NGOの会議にマスメディアの方がいらっしやるということはほんとに少なくてね。国連本会議を見聞できなかった私たちのほうからすると、NGOこそ「宝の山」という感じでしたけど。

有馬 そういう批判は当たっていると思うんです。私も本会議中心に取材していたと思いますが、一つ弁解させていただけなら、たとえばバルセロナ。オリンピックっていうとあれだけの人が行くわけですよ。そうするとみんな選手村などに貼りつくことができる。こっちは取材は一人でしょう？ 一人で行ったらやっぱりカバーはできない。やっぱり三人か四人のチームでカバーできればいいと思いますね。本会議で「今日は大丈夫だろう。何も起こらないだろう」って思ってたNGOに行くワークショップなんか面白くないことやってるし。

私はもう一つ印象的なのは『トリビューン』という新聞が出たでしょう、毎日あれを読むとNGOで何が起こっているかがかなりわかるわけだけど、斎藤さんもインタビュアーされていましたね、覚えてます。で、私はあの新聞取材に行っただけです。誰がどう作っているのかって。それはフィジーのアン・ウォーカーが中心になって、数人の仲間とともにまったく自発的に始めたものだったんです。アンはその後ヘンターナショナル・ウイメンズ・トリビューン・センター」という組織を作って今も国連に諮問的地位をもつNGOとして活動しているわけ。あそこでまったくのボランティアで始めたっていうあの行動力、これがNGOなんだなってものすごく感じた。

斎藤 自分たちの問題は自分たちでやり遂げるという迫力には、ただただ感嘆しましたね。アメリカの女性たちに対する批判もたくさんあるけど、彼女たちがヨーロッパや世界の女性に呼びかけてNGOの活動の基本になる部分を作ったって

いうことは言えますね。地理的に近いということもあって、アメリカのウーマン・リブを中心にした勢力がワッと乗り込んだ。ヨーロッパの人々も会議の基本になる討論の部分を時間をかけて積み重ねてきたし、民間活動の具体例を示してくれたっていうのは世界の草の根の活動家にとってほんとうに良かったと思います。有馬 そうですね。ヘンターナショナル・ウイメンズ・トリビューン・センター」は、今度の北京会議でも、「広報」の役割を担っています。アンとはそれ以来の友達ですが、この行動力と持続力はほんとうに尊敬しています。

安東 日本の女性はいまはほとんどいないなんて言われましたけど、メキシコに行ったら知り合って帰って来てグループを作ったとか、交流の種があそこで蒔かれたってことはあると思うんですよ。言葉の壁の問題で「なぜ日本語も公用語にしないのか」って発言した方もいらっしやいましたけど、メキシコで成果をあげたかどうかは、あそこで蒔かれた種が日本で

育っているかどうかということでもあると思うんです。その後ずいぶんいろんな会ができたし、連帯していったグループもあるし、やっぱり大きかったですね、波及効果が。

深尾 トリビューンで質問に立った人の中にその後フェミニスト・セラビーを広めた河野貴代美さんがいましたね。あのころ河野さんはボストンに住んでいて英語で「私はボストンからやって来た。このメキシコ会議にも三百人の日本女性が来ているということですがその人たちに会いたい。日本の女性たちよ、レッツ・ゲット・トゥギャザー!」と、会議が終わったら集まって、という演説をしたのね。

斎藤 貴代美さんはそう言ったんですか。私はその時キューバの人たちとキューバ入りの交渉してたんでそこにいなかったんですが、仲間が来て「日本から三百人来たそうだけどどんな理由で来たのか言え、誰もしゃべらないのか」って発言した人がいる。誰も答えようとしな

ら「斎藤さん、行きなさい」って言う。何のことかいきさつがわからないまま突然会場に行った。日本語でしゃべってもいいのかと思って行列に並んでいたら、ちよっと前に田中美津さんが割り込んで入って来ちゃったの。

安東 日本語で話されて……。

斎藤 それにスペイン語の訳をつけて、ということだったんだけど、田中さんが日本語で話したことですごく向こうが怒っちゃって、私の番に来たら「ドン・スピーク・ジャパニーズ！」ってガツと言われた。ものすごい顔でにらみつけて。安東 書いたものを読んでいらしたんじゃないですか？

斎藤 いえ、いえ。何を言おうかな、とメモみたいなものは書いてましたけど。いざ発言しようとしたらいきなり「オンリー・トゥー・ミニッツ」って言われてもう頭がクラクラ。輸入映画の日本語版の仕事はしていたので、「二分か……、そうすると二百二十ワード」ってまず思っちゃった(笑)。集会が大きらいで日

本の集会にも出たことのない人間、もちろん発言など一度もしたことがないのでホントにしどろもどろになって、「震えた日本人」って深尾さんに書かれました(笑)。見ていた人たちの話では、歩いている時にも割り箸が歩いているみたいにギクギクしていたんですって。そしてブルブル震えだした。それで誰かが後ろから抱きとめてくれたのね。へあごろゝの人かと思っていてあとから写真を見たら私の二倍もありそうな大きな外国人がしっかり抱きかかえている(笑)。

ただなぜ来たかって言われた時に山ほど言いたいことがあったのね。それで思わず体が前に出て、私はなぜ来たかって答えたんなんですけど……。

安東 田中さんは、日本代表のパネリスト井上繁子さんの報告がほとんど政府の白書同然で「日本の女性はここまで解放されて、ここまで重要な地位を占めている」というように、成果だけを強調して発表した、と非常に怒っていたのね。それで「あれは日本の女性の現状を表して

いない。私たちは今晚『日本女性の夕べ』を開きます。下町にあるヘミングウェイの泊まったホテルに来て下さいい」とかおっしゃって。松井さんもそこで、夜に呼びかけをなさったけど。

斎藤 〈新宿リブセクター〉の人はそれなりにいい活動をなさったんですね。いま平和運動で活躍している新美みつ子さんなんてまさに田中さんとメキシコに行った人。その時は無名の人ですが。いろんな人がそこで学んだことから、さっきのお話じゃないけど種が育ったということがある……。

松井 私は全然逆の後日談があるんですよ。NGOのいろんなグループが活動しているなかで私はアムネスティ・インターナショナルの会合をのぞいたわけ。そうしたら中南米で女性に対する性拷問がすさまじい、グアテマラでは肛門に棒を突っ込まれるとか、残酷な目に合っていることをわーっと言ってるのね。韓国では女性に蛇を使つたとか言っている人もいた。それをコラムの中に二行か三行

書いたら「韓国は民主国家だからそんな

ことはあり得ない。何を根拠に書いたのか」って、何百人という民団系の韓国人女性団体が有楽町の朝日新聞本社の前を包囲したのね。「あんた、あぶないから出社しないように」って言われて（笑）、私は見なかったけれど。

安東 バスを連れて来たんでしょ？

松井 そういう発言はなかったって、抗議に來たの。

深尾 メキシコから帰って来てから？

松井 そう、メキシコから帰ってから。

安東 トリビュンでこういう発言があったからってコラムにお書きになったのね。

松井 そう。女性の問題も人権問題、政治問題に絡むと大変な反応があるわね。

安東 現地では、北朝鮮に渡った日本人妻の自由往来や、ウクライナの人たちの人権問題での発言も目立っていた。

斎藤 でもあのころはそういうことでなくともウルサイ時代でしたね。へあごら〜なんかもしょっちゅう警察が来て張

り込むぐらい不自由な状況っていうのがあったんですよ。大変な時代でした。

安東 全共闘の関係と思われて？

斎藤 ええ。そう疑われていたみたいですね。やっとこのごろ認知されましたけど、二十年かかったって感じですよ。

私たちは、外国との問題はありませんでしたが、日本の女が情けなかったと、帰国後あちこちで突き上げられました。日本の女性は何しに來たのかと黒沼ユリ子さんには特に怒られました。私たちは土曜、日曜は会議が休みだからというところで向こうの遺跡に行ったら、そのことをものすごく怒られて。でも行ってよかったと私は思いましたけど。

安東 まさか、黒沼さんそんなことで怒らないと思います。何かの誤解じゃないでしょうか。

斎藤 日本で講演をなさったのです。

安東 遺跡を見て下さいというのも黒沼さんの考えで、メキシコ国立人類学博物館などにわざわざ連れて行って下さったくらいだから、黒沼さんは絶対そういう

ことはないと思う。

斎藤 そうですか。遺跡を見てこそメキシコが理解できたのになぜお怒りになったのか、十七年間ふしぎに思っていましたけど。

有馬 ほかの某女史のことでみんな怒ってたんですよ。

安東 会議の途中でアカブルコ観光に出かけたタレント議員や、途上国がちゃんとやらないからいけないんだとか、発言された方もありましたね。

深尾 某女史は何のために來たの？

一同 あるテレビ局のゲスト・リポーターということでしたのよ。

斎藤 私たちも今までの運動の中で似たようなことを感じます。現実に参加している者は、重要な会議でも非常に参加しにくくて一から手作りしなければならぬ。一方、時流に乗っている方は放送局や新聞社からお金が出てすつと行けて、そういう方の原稿はすぐ記事になる——そのパターンは基本的には今も変わっていませんね。

「メキシコ会議」と「女性の十年」

で生まれたもの

編集部 いろいろなことがあったにせよ、メキシコ会議をどう評価なさいますか。

松井 今の時点でどう評価するかと言えば基本的にはプラスの評価だけど、手放しでは喜べないですね。国連婦人の十年が、女性のパワー、ウーマンリブみたいに激しいパワーを体制の中に取り込んで、体制の中で女性の地位を少しでも改善するように、うまくからめ取られている面もある。女性差別体制の日本の社会を揺さぶるようなパワフルな行動はかえって難しくなっている。お墨付きができて、形としての男女平等は社会的に認知されたから。

斎藤 七五年当時はまだまだ重圧があったからこそ、それをね返すエネルギーがあった。今はガス抜きされている状況があるから。

松井 今の女性の状況というものを全体

として疑問に思ってしまうんですよ、この頃。男性だけでなく、本当の意味で女性が目立っていない。そういう女性が増えてきている。とくに若い世代は女性問題そのものをいやがる。今とき古い、ダメ、ってね。

深尾 今は「女性の生き方」「婦人問題」みたいな本は全然売れなくて、女性と男性とセットでないと売れないそうです。

松井 一方では安易に「共生」という言葉が使われている。

有馬 本場に流行っちゃって。

松井 消費文化の中で実際の差別の構造というのが見えて来なくて、若い女性たちは、ネッシーくん、アッシーくんなんて男をコントロールできるような幻想を持ってしまっている。

安東 ミツグくんとか。

松井 ネットシー、メッシー。ネットシーというのは寝る、メッシーというのはごはんをおごってくれる男の子（笑声）。

有馬 結果的にそうなったかも知れない

けど、メキシコ大会は私はプラスの評価です。あれがあったとなかったとは大違いだと思う。

深尾 あれなしには今日はなかった。

斎藤 ネットシーとかアッシーとかの言い方はともかくとして、男女の関係もオープンになり語りやすくなった。潜在していた諸問題が地表まで出て来た意味は大きいと思います。

安東 それは大きいという評価はあるとしても、メキシコ大会を今に生かすというなら、やはりもう一度原点に返ることが大切ではないか。なぜかというところ、その頃第三世界は、身の周りに目に見える形ではなかなか表れなかったけれど、今日ではタイの女性の問題とか、東南アジア、南米から出稼ぎに来ている日系人たちなど、はっきり見える形になっているのですから。ここで原点に返って、女性解放がただのジェンダーの問題ではないということを考えなければならぬでしょう。

斎藤 ただのジェンダーの問題ではない

ということとは、まさにメキシコ会議で始まっていますね。それを受けてコペンハーゲン会議では、環境問題・南北問題が主なテーマになっていましたね。そういう意味でまさに原点に戻るべきでしょうね。

松井 同時にメキシコの時にまだなかった問題が深刻になっている。来年は国連の世界人権会議がありますが、日本に來ているアジアの女性たちがこんなに増えてきたのは八〇年代から。殺される事件も起きてひどい人権侵害を受けている。

安東 タイの女性たちなど、信じられないような虐待を受けている。

松井・まるで戦前の「遊郭」と同じように、物理的に外出できないようにして、売春をやらせる。現代の奴隷制ですよ。

斎藤 日本の国内で女性差別の構造的な部分が何一つ解決されていないということが大きな問題ですね（同意の声あちこちで）。しかしこのことを言うと、「それはたかが日本の女性の問題ではないか」という切り方をされる。今日のアジア

アの女性の問題も従軍慰安婦の問題も、日本の女性差別の構造と全くコインの表裏の関係なのに（そう、そう、の声）。

松井 慰安婦の問題は過去のことではなく、全く現在の問題なのに。軍隊のための慰安婦から、企業戦士のための慰安婦に形が変わっただけですよ。

斎藤 そうなんです。全く現在の問題。自衛隊がコンドームを持っていくという発想とも、今日の女子大生売春・主婦売春のすさまじさとも、深くかわわっている。

松井 性についての考え方、日本の性文化は基本的に問われていない。メキシコの時、ちょっと足りなくて不満だったのは、セクシュアリティの問題があまり出なかった。性的な暴力の問題はそれほど意識されなかった。

斎藤 あの時南北問題とジェンダーが主流でしたからね。

有馬 私にとってはジェンダーの問題のほうが大きかった。

斎藤 「性別による役割分業」が言葉と

して定着したのはあの時ですね（そうです、の声、声）。

有馬 ODAはOECDの援助国会議で「女性と開発」についてのガイドラインが出来たのが八三年で、日本は九〇年から七年ほど遅れてたわけだけど、われわれにしても、取り組み始めたのは最近ですもの。

松井 日本がこれだけ経済大国になって、世界最大の援助国、海外投資国といわれるほどの経済的なパワーを築いているわけだけど、私は今の日本の状況は特異だと思う。経済開発という面では最も進んでいるにもかかわらず、女性の地位とか、一人一人の自立度の低さ、社会参加への壁の厚さ。アメリカかどこかの研究所が世界各国の女性の地位のランクづけを発表したけれど、日本は三十四位。社会進出度が極端に低いと見られたからです。経済力と女性の地位のひどいギャップをどうしたらよいのか。

安東 もうひとつ言えば、高い地位にある女性は、途上国のほうがはるかに目立

つ所にいるでしょう。インドにしろフィ

リピンにしろ、教育を受けて男性以上の力を持つていれば、それ相当の評価を得ていますね。政治でも最高の地位にすることがあるわけだけれど、日本ではどこをみてもそんな例はない。

松井 政界なんかでもメキシコ以後どれだけ変わったかと言っても相変わらず男の世界ですからね。全く遅々たる歩みでしかない。

問題なのは、そんな状況なのに女性差別はもうないとか、女性問題は古いとか言われていることです。そういう意味では今のほうが状況が悪くなっていると思う。メキシコの時は「こんなのおかしい」と怒って行動する女性はそれなりにいた。それが最近は女性解放の運動は元気がなくなってしまった。

深尾 今回の参院選挙でも、名簿の順位の上位は男性ばかりで（共感の声、声）。松井 マドンナなどおだてたかと思う

と、今度の選挙では「いらぬ」なんて。深尾 長尾立子さんなんかもあんなに順

位が低くてはどうにもならない。

斎藤 マドンナとしてさんざん利用した山東昭子が二十一位。あそこまで露骨にやるとは思わなかった（口々に怒りの声）。

安東 世界の状況を見て、先進国でも状況は良くなったかというところ、決して劇的な変化というわけではないですね。

今日、衛星放送のイギリスBBCを見ていたら、差別を受けて昇進できなかった五十二歳の女性警官が、労働審判所に審判を申し立てているという話題がありました。女性側は最後までたたかうといっていたのに、早期退職を条件に和解金が提示される模様、といったニュースです。

そして『ヘラルド・トリビューン』紙には、セクシャル・ハラスメントで米海軍の士官が辞めた事件で、『ポストン・グループ』のエレン・グッドマン記者のコラムが載っていました。

先進国も少しずつしか進んでいないということですね。

女性差別の「構造」は

今も厳然と残っている

松井 先に失礼しなければならぬので、今とくに感じていることをちょっと発言させて下さい。均等法ができたために、一部の恵まれた条件にある女性、人一倍意欲、能力のある女性は、男性並みに働けば、それなりに扱われるようになった。キャリア・ウーマンとかもてはやされたりして。でも、大多数の女性は、相も変わらず下働きの仕事をさせられ、家庭と仕事の両立に悪戦苦闘です。その根本原因は、日本が市民社会でなく、企業社会であるということ。能率や競争原理が極端にあつて、女性はやっぱり使い捨て労働者、企業戦士たちを支える主婦、あるいは「慰安婦」という基本構造になっています。そうでなければ、企業が作り過ぎた製品を買い続ける消費者……。そして、女性自身が商品として売買される。しかも、まわりのアジアの国々からも若

女性を連れてきて性を利用する。

日本の女にとってもアジアの女にとっても非人間的な、この日本の社会をどのようにして人間化していくか。それがこれからの私たちのフェミニズム運動の一番の課題だと思っています。東西の冷戦が終わって、二十一世紀は、南北問題、環境問題など人類のサバイバルに関わる問題に、日本の女性として立ち向かう責任を感じますね。そのためには、日本の女性一人一人が、経済的にも、精神的にも、性的にも自立しないと……。その点、マスメディアの役割は教育と並んでとても大きいと思います。メキシコで眼を開かれた、地球上の女たちが共に生きられるようにという視点を今後も貫きたい。

(松井さん退席)

深尾 メキシコ会議から振り返ってみて、ちつともよくなっていない、一層深刻ということもあるかもしれないけど、私は物のいいほうを見る性格なの。いろいろと問題はあるけれど、メキシコ会議があったことによってこの十七年間、女性の

地位とか男性の意識とか、はっきり言って革命的に変わったと思う。非常に大きな意味があったと思う。

斎藤 その見解に私も八割は賛成です。日本は官僚主導の国だから、国連が動いて政府も動き、各自治体が動いて、手のつけられなかった部分に手がつけられた。ただ、松井さんがおっしゃったように非常に根深い差別の構造、日本社会の非人間性は少しも改まっていない。ほとんど絶望的になるほどですね。また、男女差別について言えば、まだほとんど手がつけられていないのが、農漁村の問題。彼女たちの作業場には今でもトイレさえない。農協や漁協の役員には女性ほとんどいない。農業の六割は女性が担っているというのに。

有馬 今度その分野で引き受けましたけど。〈農山漁家生活改善研究会〉の会長を。やはり誰かがやらなきゃならない問題だと思うから。

斎藤 日本の農業の問題が一般化しないのと同様に、依然として3K構造があり

ますね。キタナイ、キケンは外国人労働者に押しつける。これは女性差別の基本的構造が解決してないと全く同じだと思います。都会のインテリの状況はたしかに改善したけれど、生産労働を支えている基本的部分の女性は変わらない。だからこそ過疎になっていく。ただ、だからといってメキシコ会議を否定したくない。何と言ってもまだ二十年経ってませんものね。それに続く「国連女性の十年」が起爆剤になったのは間違いない。その波が底に達するのにはまだ時間がかかるのでしょうけど。

深尾 農村の問題がまだだと言われるけれど、たった十七年しかたっていないんですよ、まだ。これから。

斎藤 女の問題を考える基本は「自分だけ良ければいい、ではない」ということです。そういう意味でこれからは、「取り残されている部分は何か」を繰り返して考えていきたい。

有馬 一番根が深いのは意識の問題だと思ふ。精神的自立がない。何かどこか腐

っているというか、侵されているというか……という気がしている。

安東 女性の意識もそうですが、変わってほしいのは日本の男性の意識……。

斎藤 だけど、男も変わったと思う、女が変わったことによって。

有馬 一昨日までオーストラリアにいたんだけど、ウワァーとおばさんの団体がやって来て、とにかく何でも買いあさる。それはものすごい。

深尾 男も買いあさるウー。女・男ではない。

斎藤 男女を問わず日本人に「草の根金権体質」があるような気がする。モノの価値、お金しか見えない。物質中心主義とでもいうか……。敗戦後ひどくなったんじゃないんですか。

有馬 そのおばさんたちを見てみると、Hanakoで始まったのだけど、ケン・ドーンのTシャツが流行っていて娘から言われた、誰から頼まれた、とかで、ワッとかかえて買っている。何とかさんから西瓜二つ貰ったから何か買ってい

かなくては、とか言ってるわけ（笑声）。斎藤 だから政治だつて変わらないんです。よその国が軍を出すから日本も自衛隊を出さなくては……というのは、おばさんたちの「返礼」の思想と少しも変わらない。

問題はまだまだ

山積しているけれど

有馬 私にとっては、十年がかりで取り組んでいることとして、婦人問題の本部の機構のことがあります。調べてみると、各国とも日本と全然違っているもの。あまりの違いのようにいやになってしまったほど。どの国も政府の女性問題への取り組み方が本気です。日本のように総理大臣が本部長になって、女が一人もいない次官が本部作ってれば、それでいいとするのと全く違う。

斎藤 「足並み揃えないと『国際貢献』に立ち遅れる」と言えば変わるんじゃないか

いですか（笑声）。

有馬 とにかく何とかしなければ、と思う。あれが変わればもう少し変わる。

斎藤 ただ仕事でも、九〇%の所まではワッとかやれますけれど、あとの一〇%がそれまでの九〇%と同じくらい大変ですよね。

有馬 そうです。今の時点では女だからと言ってひとくくりではなくなってきたる。

斎藤 もともと女の問題というのは、女は一つの階層でないと難しさがあつたわけなんです。問題として考える時、一つの階層としてまとまっていらない。一つの階層に散らばっていてさまざま現象がある。現実の問題はそこで見えにくくもなっているし、解決しにくくもなっている。この基本的構造は変わっていない。だから九〇%までは一見トントンと進むように見えるけれど、そこから先が実は大問題なんです。そこをどうやって進めるかということをも第二段階で考えない。

安東 繰り返しになるけれど、私は原点に返りたいと思う。

斎藤 メキシコ会議が一つの原点ですね。九五年の北京会議はどうなるか、心が重いですね。

有馬 間もなく準備会議が始まりますけど。

深尾 日本でやればいいという声はあったのに、日本は結局何もやらなかった。日本でやれば日本の男性の意識が少しは変わるかもしれない。北京でやったんではよそごとでしょう。

斎藤 そうでしょうか。企業社会に取り込まれている男が、日本で会議をやっても関心を払う余裕があるのでしょうか。

深尾 日本でやれば日本のマスコミは書くでしょう。

斎藤 私は北京のような、西側の人々が知らない場所でやるほうが遥かにいいと思いますけど。コペンハーゲンでもナイロビでも、これまでの会議ではどの新聞もよく紙面をさきましたね。よりすぐりの女性記者が出かけて、各社の取材合戦

のような感じがしたくらいです。北京でやっても同じでしょう。

有馬 私は北京の時はこれまでのように紙面をさいてくれないように思う。

深尾 三年先でしょ。その間にいろいろ変わるかも知れないけど。

安東 メキシコの時が私にとってはやっぱり一番の衝撃でした。

斎藤 メキシコの時は、行った人はみんなすごいショックを受けたけれど、一般への波及効果はそれほどではなかった。農村の女性には「遠い鐘のようだ」と言われましたね。

安東 なんとという言葉……。

斎藤 でもその後裾野が広がった。そして女の問題を大きな声で語れるようになった。メキシコの時は「報告を聞いた」という人は少数でした。コペンの時はずっと人数が増え、ナイロビは現地への参加者も多かったし、報告会もどこでも盛況でした。

深尾 私は四月から茨城の婦人教育会館の館長になったんですが、まだまだ市町

村段階ではこれから女性学講座を開きますとか、女性行動計画を作成中ですとかいうところが多い。そういうのを見ると、私たちが十七年間、報道し続けてきたことがさらに波及し、広がっていつていることをひしひしと感じます。だから最後まで責任を持って見守っていかねければならないと思っています。

有馬 全面的に賛成。私は区や市のレベルで話に来いと言うときは、時間が許せば必ず受けている。今はそこまで降りて来ている。ブレイク・ダウンしていかねければ駄目です。地域に行って「メキシコ会議がありました」と話をしている。それはやらなければいけないこと。

斎藤 波紋が伝わるのには、やっぱり十五年、二十年かかるんです。

有馬 そうです。

深尾 来月長野市から講演に呼ばれているんですが、略歴を送ったら、「世界婦人会議に三回も行かれてるんですね、その話もぜひ聞かせて下さい」と言われました。それが新しく見えたり聞こえた

りする時代になっているのかと改めて思っています。

安東 それは感じます。私も長野で「新聞における女性の表現」という勉強会をするので、問題提起者になってほしいという依頼を受けました。

深尾 女の目で新聞を読むということがあったけど。

安東 基本は変わっていないんですね、残念ながら。今でも問題は山積しているわけです。

有馬 国際婦人年は今の大学生が五つか六つの時だから、若い人たちに話していかねければならない。

深尾 今の大学一年生が生まれた年です。有馬 いま困っているのは、われわれの次の世代の人がいないということ。

安東 団塊の世代まで下がればいますよ。その間がない。

深尾 今日も半日読売新聞にいたんです。「女性と新聞のシンポジウム」の準備のために、現在の女性記者たち取材に行ったんですが「男だ、女だ、とあんまり

意識したくない」と言うんです、今の女性記者たちは。

安東 それを思うと少しずつですけど、よい時代に向かっているかな、と思います。私たちの駆け出しの頃は女性は（新聞社で）大学の専攻にかかわらず「家庭欄」にまわされ、そこからなかなか出られなかった。今は演劇・文壇・運動部、外信部、政治部、あらゆる面に女性記者がいます。社を代表して署名で書く記者もいる。

深尾 読売の人事部に行って、女性記者のリストを頂戴、って言ったらコンピュータでバットと打ち出してくれました。政治部、外報部、経済部と、あらゆる部に女性たちがいる。そんな状況のなかで「あなたは女性よ、婦人問題を」なんて言うのはもうナンセンス。時代錯誤。

有馬 とところで、マスメディアの人たちが、婦人会館などの婦人施設にかかわることをどうお思いになりますか？ 深尾さん、佐藤洋子さん、私もそうだけど。

深尾 茨城婦人教育会館は東浦めいさん

（元・NHK解説委員）が初代館長ですね。それから五年も経っているし、県内出身の方がいらっしゃるでしょと言ったんですが、中央の人的ネットワークを持っている人のほうが多いということでは？ マスメディア出身の私にお話があったらいい。でもこの傾向も長くは続かないと思います。

斎藤 ジャーナリストが官界に入ること批判する人もいますが、女性センターの所長などは、できるだけ民間の人も登用してほしいですね。いま、女性学やつてる人は、昔とはくらべものになりませんね。大学のポストが足りなくて騒ぎになっていくくらいです。それから各地の女性講座の受講生、これもすごい裾野の広がります。むしろ、何の肩書もない人に、大変な実力者がいることを感じます。人材があそこにもここにも育っている。現実の運動をしている立場から言えば、私はあえて有名人ではない、そういう草の根の血の通った人たちが、これからどんどんいろいろなポストについて下さる

といいな、と思つてます。草の根のネットワークも広がつてきていますし、それがたしかな人脈も持っている。これからが本当の「行動の時代」になつていくのではないかと、期待しています。

有馬 私も九五五年まではいろいろな公的な役職をやらなければならぬけど、後の人をリクルートしなければならぬ。でも日本では女性問題のようなグサイイのはなかなかやる人がいない。

女性問題というのは、つまり人間の問題で、一人ひとりの人権を大切にするという考えがどれだけ日本に根づくかということと、女性問題がどれだけ社会全体の問題として捉えられるかということは相関関係にあると思います。その意味で、来年、九三年の世界人権会議に注目しています。今年の環境サミットをきっかけに地球環境を守ろうという意識がともあれ広く社会で共有されるようになったように、人権会議をきっかけに、人権意識がもう少し強くなり、一人ひとりのなかに、世界のさまざまな立場、さまざまな

人の人権を尊重しようという考えと行動が育つてほしいものです。日本は人権意識の弱い国だということを自覚する必要があります。もう少し人権意識が育てば、

その視点から、真剣に女性問題と取り組む態度も出てくるし、若い人たちも関心をもつてくると思うのです。そうでなければ、少しずつ大きな声になりつつある

「なんで今さら女性問題」「機会が整えられて、意志や能力のある人はちゃんとやっている」という意見がますます幅をきかせてくるように思います。これでは、少しでも弱い人や困難な立場にある人は切り捨てられていくのです。人権会議についていえば、これはだれかが取り組むのだ、という意識で向かい合うべきでなく、自分の問題として、女性たち自身が深く関わっていかねばならないと思います。まだ、取り組みは少ないですね。そして九四年の国際家族年と、人口世界会議。これも女性と深いかわりがあります。九五年はナイロビ以来十年ぶりの世界婦人会議です。こうした一連の国

際的なイベントをどう受けとめ、どう取り組むか、まさに私たち自身が試されているのだと思います。

深尾 私たち女性が目ざしているのは、女性と男性が共に学び、共に働き、共に育て、全てを分かち合つて生きてゆく「人間の時代」なのです。

斎藤 全くそのとおりですね。そのために、日本の中にある非人間的な部分をどれだけ改めていけるか。政・財・官界の根深い癒着、重層的な腐敗の構造を考えると、ほとんど絶望的になりますけど、だからこそ敗北主義にはなりたくない。そういう腐った根を、一つひとつ、根気よく抜きとっていく力を、いま女たちは持っていると思います。一人ひとりが自らの人権を守るために行動してこそ、ネットワークも生まれる。世界に、地球に、つながり、広がってもいける。まず「自分の人権問題」として取り組むことが、ほんとうの「国際化」の出発点ではないかと思ひますね。

(一九九二、七、二二、於へあごら)

1975



雇用者の平均月収、男一三九、六〇〇円、女八五、七〇〇円。憲法に男女同権をうたいながら、日本の現実はこの数字の示すとおり大きな差別の中にあった。

列島改造バブルがはじけた後は、女性、とくにパートの解雇が始まり、新卒女性には深刻な就職難に。働く母たちは相変わらずの公立保育所不足の中で共同保育などに活路を見いだす。しかし、こうした中から女たちの協同作業は、各地で少しずつ着実なものになっていった。

一方、政治の腐敗は目に余るばかり。その「改正」を目指して選挙二法（公職選挙法と政治資金規正法）が成立したが、「公選法は営利をはかり、規正法は企業寄付奨励の悪法」という市川房枝さんの指摘の正しさは、後にまさしく証明されることになった。

金権政治追放を訴え続ける市川さんに対し、田中寿美子さんは政府の情報秘匿を常に追及、女性問題に関する集中審議を国会で実現させた。市川、田中のような女性運動の大先輩が先頭に立って超党派女性議員をまとめ、渡る政府に行動を迫った時代でもあった。

メキシコ・シテイで開かれた史上初の世界女性会議は、民間女性会議トリビュンとともに各紙で連日大きく報道された。会議に参加した女性たちの衝撃とともに、日本の「眠れる女性たち」も遠く大きな世界の波をかすかに感じ始めた。

〔ブーム〕 男女平等・NGO・中ビ連・ミニコミ共闘・紅茶きのこ・テレビゲーム
〔ことば〕 わたし作人／性別役割分業／ミニコミ共闘／母性保障／赤ちゃん幹旋
／障害児療育／安楽死／ツッパリ／チカレタビー／オヨヨ／千円亭主／自宅待機
〔論争〕 性別役割分業／働く母は母性失格か／男女の定年差別／中絶／ピル解禁／実
子特例法／夫婦の別産制／育児休業法／政治資金規正法改正／母乳運動
〔環境・公害〕 リジン／AF2／六価クロム／PCB／合成洗剤／複合汚染
〔賞〕 田村俊子賞＝島尾ミホ／田村俊子賞&大宅壮一賞＝吉野せい／芥川賞＝林京子
泉鏡花賞＝森茉莉／芸術院賞＝安川加寿子／芸術院恩賜賞＝片岡球子、中里恒子
太宰賞＝不二今日子／吉川英治文化賞＝与那覇しづ／女流文学賞＝大庭みな子／
大仏次郎賞＝山川菊栄／毎日・日本研究賞＝松原純子ほか
〔本〕 伊藤雅子『子どもからの自立』塩沢美代子・島田とみ子『ひとり暮らしの戦後
史』山川菊栄『幕末の水戸藩』牧瀬菊枝『九津見房子の暦』あごら『メキシコ会
議と世界行動計画』あごら『国際婦人年を考える』山高しげり『山鷲』吉野せい
『涙をたらした神』宇野千代『薄墨の桜』青木やよひ『ホビの国』澤地久枝『暗
い暦』佐多稲子『時に佇つ』和田芳恵『暗い流れ』大原富枝『建礼門院右京大夫』
〔TV〕 欽ちゃんのドンとやってみよう／前略おふくろ様／大草原の小さな家
〔漫画〕 はだしのゲン／ガキデカ／キャンディ・キャンディ／はいからさんが通る
〔うた〕 シクラメンのかほり／年下の男の子／いちご白書をもう一度／弟よ
〔映画〕 青春の門／寿——自由労働者の街／ジョーズ／タワーリング・インフェルノ
〔物価〕 ハガキ10円から30円、封書20円から50円、第3種は6円から30円、小包料金
は平均48%値上がり。ちふれの100円化粧品が150円、米10キロ2,230円／牛乳
1本48円／新聞(朝夕刊1か月)1,700円
〔雇用者の平均月収〕 女子85,700円 男子139,600円
〔雇用者の平均年齢〕 女子33.4歳 男子36.4歳
〔女子の平均勤続年数〕 5年 〔雇用者中の女子の比率〕 32.4%
〔月間平均労働時間〕 女子163.9時間 男子180.6時間
〔女子労働力〕 女子労働力人口1996万、労働力率46.6%、賃金・男子の53.9%
〔日本人の平均寿命〕 女子76.89歳(世界第4位) 男子71.73歳(世界第3位)
〔出産力〕 平均出産数1.91人(20～34歳の女子の配偶率60.9%)、妊娠経験者の47%
が死・流産を経験(都市部と農村部の差なし)
〔進学率〕 大学・女子34.6%、男子33.8%／高校・女子93.0%、男子91.0%
〔物故〕 3月15日 オナシス(ギリシャの実業家)／4月12日 ジョセフィン・ペー
カー(シャンソン歌手)／6月22日 石島菊枝(元新聞記者・脚本家)／7月25
日 きだみのる(小説家)／8月3日 中込ちゑ(学者)／8月9日 ショスタ
コーヴィチ(作曲家)／8月14日 柴田道子(児童文学者)／9月13日 棟方志
功(版画家)／10月22日 アーノルド・トインビー(歴史家)／11月20日 フラ
ンコ(スペイン総統)／12・6 正木ひろし(弁護士)

1975年の主な出来事

年 月 日	国 内 の 動 き	海 外 の 動 き
1974. 12.		第29回国連総会で1975年を国際婦人年とすることを宣言。
12. 18	国連NGO国内婦人委員会の呼びかけで、全国組織民間34団体が、国際婦人記念集会の相談会。	
1975. 1. 1		・国連、国際婦人年を宣言。 ・エチオピア軍部評議会が外資系企業の国有化を発表。
1. 2		・キッシンジャー米國務長官「中東石油産出国が先進国の首を絞めれば軍事力行使も」と示唆。
1. 4		フォード米大統領、CIAの非合法活動調査委員会を設置。
1. 5	環境庁、緑の国勢調査結果を発表。乱開発で、純粋自然は国土の2割に。	南アフリカの金鉱山で暴動。
1. 6	労働省、雇用情勢はさらに悪化、失業者 100万人突破と発表。	
"	日本の大型タンカーマラッカ海峡で座礁、原油流出。インドネシア政府が日本に補償を要求。	
1. 7	関東甲信越老人クラブ連合会、東京・日比谷で、「食える年金」要求大会開催。	ILO、勤労女性とは男と同じ仕事で給料は半分、家事を含めて男の2倍働いていると発表。
1. 10	障害児を保育所から閉め出すのは差別意識を拡大させると母親が大阪八尾市役所に座り込み。12日には支援者50人も参加。	
1. 11		中国で全国人民代表大会開催。周恩来首相が「四つの現代化」を提示。

年 月 日	国 内 の 動 き	海 外 の 動 き
1. 12	中国婦人代表团12名訪日、農村都市等、各界女性と交流。	
1. 13	〈国際婦人年をきっかけとして行動を起こす女たちの会〉発足（呼びかけ人、田中寿美子ほか）	
1. 15		ポルトガルがアンゴラ独立に関する協定に調印。
1. 16	宮城県気仙沼署、生活苦で9ヵ月で中絶した女性と医師、中絶を依頼した友人を殺人罪で送検。	
1. 19	三木内閣総理大臣、「国際婦人年にあたって」特別見解発表。	
1. 24		ウォール街でプエルトリコ民族解放武装勢力が爆弾テロ。
1. 25	東京の各界女性、中国婦人代表团と交流集会。（於YWCA）	韓国『東亜日報』、広告弾圧はKCIAの指示、と暴露。
"	厚生省、母乳育児運動に本腰を入れると発表。	
1. 28		サハラ大陸棚石油・ガス探鉱で日ソ交渉が合意、調印。
1. 29	国際婦人年日本大会第1回準備会。34団体、11月の日本大会に向けて実行委・運営委・常任委を結成。実行委員長・市川房枝。	
1. 30	きれいな水といのちを守る合成洗剤追放全国集会。花王石けんに合成洗剤製造中止を申入れ。	
1. 31		エチオピアでエリトリア解放戦線（ELF, EPLF）が政府軍を攻撃。
〔この月〕	郵便料金大幅値上げ発表にミニコミ各誌が連帯して阻止運動。	

年 月 日	国 内 の 動 き	海 外 の 動 き
2. 1	厚生省、母乳復権運動を目的として研究班発足。	
"	〈家庭科の男女共修をすすめる会〉、家庭科教科書点検集会。	
"	〈原爆体験を伝える会〉核を考える市民集会を開催。	
"	厚生省農業調査発表。農家人口、全人口の20.7%に減少。	
2. 4	保母さんが厚生省・労働省に請願デモ、低賃金・過労で倒れ、人員不足でさらに病人続出と。	<ul style="list-style-type: none"> ・米のテレビ番組規制委員会、セックス・暴力番組追放を発表。 ・米、トルコ軍事援助打ち切り。
2. 5		ペルーの首都で賃上げ要求の警察官7000人に軍が戦車を出動。
2. 6	美濃部亮吉都知事、同和問題をめぐる社共対立で不出馬表明。	
2. 8		韓国ソウルで原理運動・統一神霊教会の合同結婚式に1800組出席。日本からも 799組が参加。
2. 9	毎日・日本研究賞、青木やよひ、小池保子ほか。	北アイルランドIRAが英当局と無期限停戦。
2.11		英保守党が初の女性党首マーガレット・サッチャーを選ぶ。
2.12	〈婦団連〉、国際婦人年を考える講座。	韓国が国民投票で維新憲法を承認。
2.13		<ul style="list-style-type: none"> ・米国住宅都市開発長官にヒルズ女史（20年ぶりの女性大臣） ・トルコ系キプロス住民、北部キプロスの分離独立を宣言。
2.14	日中平和友好条約の第3回予備交渉、「覇権」の取り扱いで難航。	

年 月 日	国 内 の 動 き	海 外 の 動 き
2. 15		韓国朴大統領、民青学連の太刀川正樹・金芝河らの釈放を発表。
2. 17 ～18	反インフレ・働く権利を守る内職大会に全国の主婦 200人が参加、労働省・経企庁に陳情。	アラブ連盟、イスラエルと取引のある外国銀行14と外国企業200社のボイコットを発表。
2. 19	無党派の市民・主婦ら、三選不出馬の美濃部都知事の出馬懇願、都庁前で座り込みを開始。	インドネシア・マレーシア・シンガポール3国外相がマラッカ海峡航行分離方式確立で合意。
”	民社党大会、保革連合の可能性を主張。	
2. 21		国連人権委、イスラエルがアラブ諸国の占領地域でイスラム教やキリスト教の教会堂の尊厳を犯したと非難決議。
2. 26	「伊豆シャボテン公園事件」東京高裁判決。女子従業員に対する男子より10歳低い47歳の定年制は合理的理由がなく民法第90条により無効であると判決。	
2. 27	〈主婦ゼンセン〉が主婦(女)を問う集会。子もち専業主婦が闘うことが女性解放の基幹と。	フィリピンでマルコス政権の戒厳令継続是否を問う国民投票。
2. 28	間組本社と大宮工場で時限爆弾が同時爆発、東アジア反日武装戦線「さそり」が犯行声明。	比・国民投票開票の結果、マルコス支持が90%を越える。
”	東京地裁、エールフランスのシュワーズ18人のパリ移籍事件で「移籍拒否で解雇するのは権利の濫用」と判決。	
[この月]	完全失業者激増。不況深刻化。	米デトロイトの自動車産業危機。

年 月 日	国 内 の 動 き	海 外 の 動 き
3. 1	労働省「女子の雇用管理に関する実態調査」、女子雇用者数は減少したが女子賃金の上昇はめざましいと発表。	
"	労働省「労働災害遺族の生活実態に関する調査」。妻の9割が家計と過労で苦勞と発表。	
3. 2 ～14		ニューヨークで国際婦人年世界会議諮問委員会開催。世界行動計画草案を検討。
3. 4		・エチオピアが土地改革を発表。 ・チャップリンにナイトの称号。
3. 5		パレスチナゲリラがテルアビブ奇襲。
3. 6	警察庁、初の『非行少女白書』を国家公安委員会に報告。スケバンなどの非行急増。	アルジェリアの仲介で、イランとイラクが和解。イラク国内の反乱クルド族支援をイランが停止、国境紛争解決など。
3. 8	国際婦人デー中央大会（東京）「国際婦人年を成功させ、平和、独立、婦人の解放をかちとろう」。大阪では国際婦人年大阪連絡会（40団体）が第1回集会。	言論弾圧闘争中の韓国『東亜日報』記者18人が解雇される。
3. 9	自民党が資金集めパーティーを大阪で初開催、会費6万円。	
3. 10	新幹線岡山－博多間が開業。	
3. 11	〈合洗追放全国連絡会〉合洗の製造・販売禁止を各省に請願。	
3. 14	総理府労働力調査発表。就業者5000万人を割り、女子は前年比58万人の激減。	ポルトガルで全銀行を国有化。

年 月 日	国 内 の 動 き	海 外 の 動 き
3. 15	婦民創立記念の集い。	ポルトガルでクーデター失敗。
〃	〈家庭科共修をすすめる会〉が永井文相に推進を申し入れ。	スピノラ前大統領ブラジルへ亡命。
3. 16	東京23区の緑のおばさんが学童擁護15周年記念総決起大会。職業病認定要求、定年制に反対。	
3. 18		ローデシアの黒人運動指導者チテボ、ルサカで爆殺される。
3. 20	吉野せい『涙をたらした神』で大宅賞・田村俊子賞。	
3. 21	ねむの木学園長の宮城まり子、テレビ25時間番組で福祉の訴え。	エチオピア軍事評議会が3000年に及ぶ君主制を廃止、選挙により政体と元首を選ぶと声明。
3. 25		・南ベトナムで解放軍が大攻勢 政府軍が旧王都ユエを放棄。 ・サウジアラビアのファイサル国王がリヤドで甥のムサエド王子にピストルで撃たれ、死亡。
3. 26	ワカメ行商で身障児施設づくりに江戸川区が工事費援助。	サウジアラビア、ハーリド第一皇太子が即位。
3. 27	大阪地裁、大阪朝日放送の女子アルバイト解雇は女性差別ゆえ無効と判決。	
3. 27	名古屋高裁が大須事件控訴審で97被告に騒乱罪適用、有罪判決。	
3. 27	参院公害対策特別委、合成洗剤追放で関係各省を追求。	
3. 28		ベトナム・ダナン陥落。
3. 29		・エジプト・サダト大統領、スエズ運河の再開を声明。 ・南ベトナムの難民救出に米艦隊動員。
〔この月〕	週休2日制実施企業は4割。	

年 月 日	国 内 の 動 き	海 外 の 動 き
4. 1	「雇用保険法」施行。出産のため育児で就業できない場合の失業給付の受給期間を4年（従来1年）まで延長。	・カンボジア、ロン・ノル大統領、インドネシアに亡命。
"	育児休業奨励金制度発足。	・南ベトナム中部16省が解放軍の手に落ちる。
"	中国電力の女子25歳定年解雇無効の和解成立、職場復帰。	
"	札幌市市民局青少年婦人部設置。	
"	公立零歳児専門保育所初めて設立（東京都中野区）。	
"	北海道公立高校に初の女性校長が2人誕生。	
4. 5	日本医学会総会、ピルの副作用警告。中ピ連、ピル解禁を要求、不倫医師を告発。	蒋介石・中華民国総統死去、87歳。
"	〈行動を起こす会〉差別体験を語り合う。	
4. 7	産休あけに配転された東洋鋼鋳の女子社員、一審勝訴、二審敗訴で本訴を起こす。	
4. 8	最高裁、「もらい子を実子と偽って届け出た場合、法律上の権利は得られない」と実子特例法に厳しい判決。	
"	〈石油たんぱくを拒否する会〉農林省が開発中のSCPを追求。	
"	芸術院賞に安川加寿子、恩賜賞に片岡球子。	
4. 9	東京地裁、デモで重傷の女子学生に東京都が慰謝料を、の判決。	

年 月 日	国 内 の 動 き	海 外 の 動 き
4. 10	「秋田相互銀行不当利得返還請求事件」秋田地裁で勝訴。女子であることを理由に、賃金を男子と差別的取り扱いをしたのは労働基準法4条に違反と。	
4. 10 ～16	第27回婦人週間「男女の平等と婦人の社会参加をすすめる」	
4. 11	ゼンセン同盟女子組合員、母性保障基本法を労働省に要求。	
”	最高裁、平城宮訴訟上告審で、文化財保護のためには私権の制限やむなしと判決。	
4. 12	港区で規定いっぱい産休をとった女教師、一部の母親たちに責められ自殺。	・米がカンボジア大使館を閉鎖、館員が国外脱出。 ・ジョセフィン・ペーカー死去。
4. 13	第8回統一地方選挙（神奈川県知事に革新の長洲一二当選、東京・大阪とも革新が勝利）。	バイルートでパレスチナゲリラと右派キリスト教徒武装団が戦闘。
4. 14		スペインの民主評議会が独裁制からの民主的決別を唱える「和解宣言」を発表。
4. 16		ポルトガルが電力・石油・運輸などの国有化を発表。
4. 17	大阪八尾市、保育所の障害児措置をようやく認可。	カンボジアのカンプチア民族統一戦線がプノンベンを制圧。市民に農村地帯への移動を命令。
4. 18	同盟婦人委員会、長谷川労相にILO 111号条約の批准とそれに沿った政策を要請。	金日成、毛沢東と会談。（14年ぶり）

年 月 日	国 内 の 動 き	海 外 の 動 き
4. 19	日本政府、カンボジア王国民族 連合政府承認を通告。	
"	東京・銀座と兵庫県尼崎市の韓 国関連企業で、東アジア反日武 装戦線による時限爆弾同時爆発。	
4. 24		ゲリラ7人がストックホルムの 西独大使館を占拠。大使を人質 に仲間の釈放要求。拒否されて 大使館を爆破、逮捕される。
4. 27	第8回統一地方選、女性の当選 者は県議会議員29人(1.11%) 市議会議員 279人(2.27%) 町村議会議員 110人(0.46%) 特別区議会議員72人(6.61%)。 県議選への女性立候補者は 123 人を数え、戦後最高。	
4. 28		南ベトナムの大統領にドン・バ ン・ミンが就任。
4. 29		ベトナムから米人総引き揚げ。 「過去の罪のなすりつけあいはい やめよう」とフォード米大統領。
4. 30		南ベトナム無条件降伏。解放戦 線軍サイゴンに無血入城、30年 にわたる死闘終わる。
〔この月〕	夫婦の財産共有化について別産 制の主張も強く、法制審議会は 審議案が出せず。	東洋工業、米GM社とロータリ ーエンジンの技術提携に合意。
"	寺山修司の「天井桟敷」、「ノ ック」上映でパトカー出動。	

年 月 日	国 内 の 動 き	海 外 の 動 き
5. 1	長崎空港開港。初の海上空港。	北アイルランドで制憲議会選挙、 プロテスタント過激派が大勝。
5. 3	環境庁が渡り鳥白書を発表。	
5. 6	妊娠中の若い母親の相談相手 「エンゼル110番」開設(渋谷)。	
5. 7	不二今日子に第11回太宰賞。	日本、南ベトナム臨時革命政府 承認を決定。
”	英エリザベス女王夫妻が初来日。	
”	三菱石油水島製油所の重油流出、 漁業補償協定に4県漁連が調印。	
5. 9	下田澄子に環境庁長官賞。	ラオスで反米デモ。親米右派の 閣僚・将軍追放と米国際開発局 の閉鎖を要求。
5.11	母の日に〈子殺しを考える会〉 が良妻賢母反対のビラまき。	
5.12		
5.13		米貨物船「マヤゲス号」公海上で カンボジア砲艦に捕獲される。
5.14		英ポンドが過去最高の下げ。 米「マヤゲス号」救出に陸・海・ 空三軍作戦、奪還に成功。
5.16	エベレスト日本女子登山隊田部 井淳子隊員がエベレスト登頂に 成功。女性では世界初。	「マヤゲス号」奪還作戦でタイ の基地使用に抗議、バンコクで 大規模な反米デモ。
5.17		
5.19	警視庁が前年来の連続企業爆破 事件の容疑者8人を逮捕。	
5.20		・韓国が女子をふくむ全学生を 学徒護国団に編成。年1回10日 間の兵営生活を義務づける。 ・バイルートで内戦。パレスチ ナゲリラとの戦闘再発。

年 月 日	国 内 の 動 き	海 外 の 動 き
5. 21 ～31	昭和50年家内労働旬間「家内労働者の労働条件の向上を図る」	・ラオスの米国際開発局を学生らが占拠。
5. 22	瀬戸内海に赤潮発生、養殖ハマチがほぼ全滅。	
5. 25	東京で働く婦人の中央集会。保護と平等をめぐるがテーマ。	チェコのスポボダ大統領辞任。後任、共産党フサーク第一書記。
5. 26	大気汚染の公害病に悩む患者らが川崎製鉄に5億6000万円の損害賠償訴訟を起こす。	
5. 29	県が保育所を作ってくれないなら、と静岡の看護婦たちが院内の医師公舎を保育所に占拠。	
5. 31	厚生省、母乳中のPCB調査結果発表、汚染母乳25%。	
6. 1	労働省、事業場に「母性健康管理推進者」の設置勧奨を開始。	豪閣僚ケアンズ、オイル・ダラー スキャンダルで更迭。
6. 2		仏のリヨンで夜の女 100人が警察の取り締まりに抗議して教会にたてこもる。各地に波及。
6. 3	元首相佐藤栄作が急死。74歳。16日に国民葬。	ジュネーブで第60回ILO総会開催。「婦人労働者の機会及び待遇の均等を促進するための行動計画」等採択。
6. 4 ～25		
6. 5	参院外務委で田中寿美子、政府の婦人問題の態度を追求。	
”	国際婦人年世界大会日本準備会代表、ILO3条約の批准国内法に関する要請を首相に提出。	第三次中東戦争以来閉鎖のスエズ運河が8年ぶりに再開。

年 月 日	国 内 の 動 き	海 外 の 動 き
6. 6	50市民団体が反原発市民集会。	
6. 7	NGO国内婦人委員会シンポジウム「現代における日本の婦人問題を考える」	フィリピン・マルコス大統領が訪中。9日、国交樹立共同声明。台湾はフィリピンと断交。
6. 8	七里が浜で、暴走族 600人乱闘。	
6. 9		ビルマ政府、学生の反政府デモは共産党の扇動と、ラングーン・マンダレー両大学を閉鎖。
6. 10	経済企画庁、74年度のGNPは戦後初のマイナス成長と発表。	米委員会、CIAの黒人運動・反戦組織へのスパイ送り込み、電話盗聴、などを指摘。
6. 11	警察庁、暴走族総合対策委員会を発足させ、取り締りを強化。	
6. 12	試運転中の九州初の原子力発電所九電玄海1号で放射能漏れ。	
6. 13	衆議院社会労働委、国際婦人年にちなみ初の婦人問題集中審議。	ソ連がアンゴラ解放戦線への支援を表明。
〃	衆院外務委でILO 102号ほか批准の5党共同提案を採択。	
6. 15		伊の統一地方選挙。共産党が多くの大都市で第一党に。
6. 16	NGO国内婦人委の市川房枝ら、三木首相に「国際会議に女性代表を」など決議文を手交。	南アフリカ、英に軍港使用を認めたサイモンズタウン協定破棄。
6. 17	衆・参両議院本会議で「国際婦人年にあたり、婦人の社会的地位の向上をはかる決議」を採択。	北マリアナ連邦発足。マリアナ群島で住民投票。米自治領化への賛成票が80%以上。
6. 18	辻佐世保市長が原子力船「むつ」の修理港受入れを表明。	
6. 19		メキシコシティで国連国際婦人年世界会議開会。133か国参加。(7月2日まで)

年 月 日	国 内 の 動 き	海 外 の 動 き
6. 20	東京都衛生研究所、合成洗剤の毒性を指摘。	シュレジンジャー米国防長官、韓国への核兵器配備を確認。 ・ ロンドンで妊娠中絶反対派がデモ。中絶論争、再燃。 ・ ウガンダ、アミン大統領、大統領批判問題で英に抗議。
6. 21		
6. 22	石島菊江さん死去。	
6. 23	世界NGO女性会議で〈あごら〉が「日本の女性—過去と現在」を開催（日本人主催唯一のワークショップ）	
6. 24	独占禁止法改正案、衆院で可決（参院で廃案）。	
6. 25		モザンビーク人民共和国成立。500年のポルトガル支配から独立。
6. 26	サッカリン追放連絡会発足。8食品メーカー、使用中止。	インド首相ガンジー非常事態宣言、野党指導者 676人逮捕。
6. 27	長崎・平戸農協の女子職員、定年差別を訴え、男子と同じ58歳で和解。	
”	実子特例法の菊田医師、ハワイ日系米人との養子をまとめる。法のぬけ穴。	
6. 28	八王子労働基準監督署、「市立保育園保母の労働は基準法違反」と市に勧告。	
6. 30	日韓議員連盟結成（自民・民社議員約 180人）。	
〔この月〕	サッカリン使用緩和方針に主婦連・日消連等が反対運動。	英国で妊娠中絶に賛否両論。

年 月 日	国 内 の 動 き	海 外 の 動 き
7. 1	通産省、本省と全国9局に消費者問題相談室を設置。	
7. 2		国際婦人年世界会議「世界行動計画」とメキシコ宣言を採択して閉会。
7. 3	育児休業法案、参院で滑り込み成立。日教組の要求12年で成就。	ポルトガル、全放送局を国有化。不在資本家の財産も没収。
7. 4		インド、反政府26団体非合法化。
7. 5	国際婦人年長野県大会。	
"	ウィンブルドン女子複で沢松和子、アン・キヨムラ組が優勝。	ウィンブルドン男子単で、黒人が初優勝。アッシュ（米）。
7. 6	6.12に衆院外務委で採択の婦人関係ILO批准決議は参院で審議未了に。	
7. 7		インドネシアと日本、アサハナルミ精錬計画契約に調印。
7.11	育休法公布。(義務教育諸学校等の女子教育職員及び医療施設、社会福祉施設等の看護婦、保母の育児休業に関する法律)	アンゴラでアンゴラ解放人民運動と解放民族戦線の内戦再発。
"	女の平均寿命 76.31歳で世界3位、男は71.16歳で2位(74年)。	西アフリカ、ポルトガル領サントメ・プリンシペ独立。
7.15	政府、婦人問題企画推進会議新設を決定、省庁間の壁を越えた解決をはかる。	
"	赤松良子さん日本初の女性労働基準局長に。	
"	公職選挙法改正(文書配布などの大幅制限)・政治資金規正法改正(企業・団体献金に最高1億円の限度を設定、政治資金収支の公開義務化)公布。	

年 月 日	国 内 の 動 き	海 外 の 動 き
7. 16	実子特例法推進委、中絶可能期間を8か月未満とする厚生次官通達を「7か月未満」にと要望。	インドで大統領令により治安維持法を改正、外国人も裁判なしで投獄可能に。
"	東京・江戸川区の日本加工が投棄した六価クロム汚染が表面化。	
7. 17	自民党首脳、経済4団体代表と政治献金再開で合意。	米・ソ宇宙船「アポロ」と「ソユーズ」が初めてドッキングに成功。この日と翌日、両宇宙飛行士が相互訪問。
"	皇太子夫妻、沖縄ひめゆりの塔参拝、火炎ビンを投げられる。	
7. 18	芥川賞に林京子。	
7. 19	北海道警本部でパチンコ玉をこめた時限爆弾が爆発、5人負傷。	
7. 20	沖縄国際海洋博覧会開幕。不況で入場者は348万人。	
"	足利銀行栃木支店の女子行員、愛人のために2億円を横領。	
7. 22	メキシコ会議政府代表団報告会（於東京・中野、300人参加）。	
7. 24	厚生省、発ガンの疑いでウレタン混入注射液を回収、販売中止。	金大中事件は最終決着と表明。
7. 25		トルコ、国内の米軍基地を接收。
7. 26	〈行動を起こす会〉茨城で合宿。	
7. 27	共産党と創価学会とが不干涉・共創協定を発表。期限10年。	
7. 29	大阪地裁、3歳児の養育争いに「母による養育が不可欠」の判決。	ナイジェリア無血クーデター。ムハンマド将軍が新国家元首に。
"	〈あごろ〉メキシコ・キューバの旅、報告会。（四谷公会堂）	
"	政府・自民党、独禁法改正の見送り決定。	

年 月 日	国 内 の 動 き	海 外 の 動 き
7. 30	政府、婦人行政三本柱を発表。 ①関係省庁連絡会議②民間人による婦人問題推進会議③総理府内の婦人対策機構設置。	ヘルシンキで、欧州安保協力会議開催。東西首脳35か国参加。
7. 31	自治労、第18回学校集会で給食調理員の合成洗剤被害を追求。 サッカリンメーカー、〈追放連絡会〉に使用中止を回答。	
〔この月〕	〈関西リブ連絡会議〉が全日制24時間保育所を開設。	ソ連、早ばつで米・加・豪から穀物1260万トンを買付け。
8. 1	YWCA創立70年シンポ。「今日の世界における女性の役割」	欧州安保協力会議でヘルシンキ宣言採択（ヨーロッパの安全保障に関する10原則＝人と情報の交流、経済・科学技術協力等）。
8. 3	中込ちゑさん死去。	
8. 4	日本赤軍、クアラルンプールで米・スウェーデン両大使館を占拠。過激派の釈放を要求。	ショスタコービッチ死去、68歳。
8. 5	日本政府は要求を受入れ、7日赤軍を日航機で出国させる。	
8. 6	訪米の三木首相、韓国の安全は平和保持に必要なとの条項を含む日米共同声明を発表。	
8. 9 ～10	〈母と女教師の会〉中央集会。 中教審路線の危険性等を討議。	仏が南アへの武器輸出禁止。
8. 11		・米が国連安保理で南北ベトナムの国連加盟に拒否権発動。 ・東チモール内乱。
8. 14	柴田道子さん死去。	

年 月 日	国 内 の 動 き	海 外 の 動 き
8. 15	三木首相、現職首相として戦後初の靖国参拝（私人の資格）。	バングラデシュで軍事クーデター。ラーマン大統領を殺害。
8. 17	第21回母親大会。男女の平等をテーマに18日まで47の分科会。	
8. 18		米の海運労組、穀物相場急騰に抗議、対ソ穀物の船積み・出荷ボイコット。
8. 19	超党派婦人議員懇談会の市川房枝ら植木総務長官に世界行動計画推進の具体案を提出。	タイの日本製麻の子会社での労使紛争が解決、日本人幹部19日ぶりに解放される。
8. 20	第7回全国保育団体研究集会。	
8. 23	大阪で婦人研究者問題全国シンポジウム。研究者差別を告発。	パテト・ラオ（ラオス愛国戦線）がビエンチャン州を制圧、
"	第4回全P研全国大会。24日も。	国土全域に支配権。
"	三菱商事、大卒女子採用を中止。在職年数が短く非効率が理由。他にも同様の企業が。	
"	中央高速道の恵那山自動車トンネル開通。日本最長・世界2位。	
8. 25		・リマで第5回非同盟外相会議 北朝鮮・北ベトナム・パナマ・PLOの加盟承認。韓国は却下。 ・フィリピンで民族解放戦線に誘拐された日本女性釈放。
8. 26	東京女子医大が日本で初めてX線コンピュータ断層撮影開始。	
8. 27		エチオピア最後の皇帝ハイレ・セラシエが幽閉中に死去。83歳
8. 28	政府「婦人問題企画推進会議」構想を発表、9月中に発足予定。	

年 月 日	国 内 の 動 き	海 外 の 動 き
8. 28	興人、会社更正法適用を申請 (戦後最大の倒産、負債2000億)	中国で『水滸伝』批判キャンペーン始まる。
8. 29	坂田防衛庁長官、日米防衛首脳 定期協議・日米作戦協力の協議 機関設置で合意(日米軍事一体 化進展の契機)	
8. 29	伊豆シャボテン公園事件で定年 制男女差別無効確定。	
8. 31		
[この月]	〈あごら〉女のグループの連絡 会を、約100のミニ・グループに 呼びかけ、活動を開始。(通称 〈グル連〉)。	
9. 1	米・酒・タバコ・水道・バス・ 国鉄・私鉄等、値上げ申請殺到。	第7回国連経済特別総会開幕。 「開発と国際経済協力」をテー マに 137か国参加。
"	〈あごら東海〉教科書の男女差 別を点検、自立した母親像がな いと指摘。	
"	墨田区婦人消防隊、訓練を披露。	
9. 2	黄海で佐賀県のフグはえなわ漁 船が北朝鮮警備艇に銃撃される。	エジプト・イスラエルが第二次 シナイ協定。イスラエル軍は撤 退。 トルコ東部でマグニチュード 6.8 の地震。死者2000人。
9. 4	福岡の幼稚園教諭が腰痛等で公 務傷病認定。幼稚園では初。	
9. 6	労働省「昭和49年婦人労働の実 情」発表。74年の女子労働力人 口は1996万、労働力率は46.6% に減少、賃金は男の53.9%。	
9. 6	第14回女流文学賞、大庭みな子。	

年 月 日	国 内 の 動 き	海 外 の 動 き
9. 7		レバノンでキリスト教徒とイスラム教徒の戦闘が激化、75年末までに7000人が死亡。
9. 9		・カンボジアのシアヌーク国家元首、北京から帰国。 ・フォード米大統領、対ソ穀物禁輸を解除の予定と発表。
9.10	婦人少年問題審議会「職場における男女平等の促進に関する建議」を労働大臣に提出。	米連邦地裁で無罪のソンミ事件・カーリー中尉に連邦巡回高裁が逆転有罪判決。
9.10	労働省婦人少年局、国家公務員試験差別撤廃を人事院等に要請。	
9.11	労働省、雇用動向調査を発表。女子労働者は60.9%が既婚、賃金は男の53.9%。	
”	実子特例法推進委、中絶期間に無回答と厚生省を告発。	
9.12	東京地裁、コパル事件で解雇無効の判決。2子以上の既婚女子の人員整理は違法。	
9.13	警視庁、アメリカのSSに模した要人警護部隊SPを創設。	ペロン・アルゼンチン大統領権限を一時委譲、休養声明。
9.15	総理府世論調査で男女の地位に差があるのは当然が7割。	
”	名古屋で国際ソング第3回アジア大会。	
”	第8回日韓定期閣僚会議開催。	
9.17	政府、第四次不況対策を決定（東北・上越新幹線など公共事業費8000億円の追加決定）。	

年 月 日	国 内 の 動 き	海 外 の 動 き
9. 18	佐賀相互銀行女子準行員が15年間に2億5千万円使い込み。	米新聞王の娘で過激派のパトリシア・ハースト逮捕される。
9. 20	日本産婦人科学会、菊田医師を除名。	
”	天皇が訪米を前に『ニューズウィーク』誌と単独会見。	
9. 21	東京で第5回離島婦人会議。	
9. 22	六価クロム、全国112か所の無処理埋め立てが判明。	
9. 23	総理府に「婦人問題企画推進本部」（本部長・総理大臣）設置を決定、婦人問題担当室が発足（初代室長・久保田真苗）。	
9. 24		東南アジア条約機構（SEATO）定例理事会が同機構を段階的に解消することで同意。
9. 27		OPECが10月から原油価格の10%値上げを決定。73年12月以来の大幅値上げ。 ・スペインでバスク独立運動家を銃殺刑。3万人の抗議デモ。14か国の政府代表が引き揚げ。
9. 29	〈行動を起こす会〉、ハウス食品に「私作る人、ぼく食べる人」CMの中止を要望。	
9. 30	山川菊栄さん、大仏次郎賞受賞。	東チモール内乱にインドネシア軍介入。
” 〔この月〕	天皇・皇后が初の訪米に出発。来春大卒の女子74,000人。7割が就職希望だが就職難。	

年 月 日	国 内 の 動 き	海 外 の 動 き
10. 1		伊とユーゴスラビアがトリエステ領有に関する議定書案作成。
10. 7		メキシコが 200カイリの経済水域設定を発表 (200カイリ時代に)
10. 9	〈国際婦人年連絡会〉、三木総理大臣と植木総務長官に婦人問題企画推進会議について要望。	ソ連のサハロフ博士にノーベル平和賞決定。
10.10	婦人問題懇話会、小学校の国語教科書男女像を調査。	
10.12	全国学童保育研究集会(於東京)に 1,700人参加、問題解決署名を開始。	
10.13	農林省内に婦人問題連絡会議を設置。	
"	東京高裁、パリ勤務拒否で解雇のエールフランスのシュワードス解雇無効の判決。18人は職場復帰。	
10.14	改正公選法施行 市川房枝、議員収入の三分の一を福祉に寄付を禁じられたと困惑。	
10.15	〈女子学生の就職問題を考える会〉結成大会。	アイスランドが専管水域を 200カイリに拡大すると宣言。
10.16	同会、首相官邸、文部・労働省日経連、経団連に要請文手交。	モロッコのスペイン領サハラ領有権を国際司法裁判所が否定、モロッコ国王が抗議声明。
10.17	〈行動を起こす会〉、都知事に「離婚の母の家」設置を要望。	ニューヨーク市が破産寸前、教員労組が市債への投資を決定、救われる。
10.20	お茶の水女子大、初の博士課程「人間文化研究科」を来春設立と発表。	・4月以来昏睡状態の米女性カレンの両親が安楽死主張、提訴。

年 月 日	国 内 の 動 き	海 外 の 動 き
10. 20		<ul style="list-style-type: none"> ・米ソ穀物長期取引協定調印。米は穀物を、ソ連は原油を供給。 ・国際婦人年世界大会、東ベルリンで開催（24日まで）。
10. 21	第23回婦人労働旬間開始、「職場における男女の平等をすすめる」。	
〃	石田あき子さん死去。	
10. 22	国民参政85周年、普選50周年、婦人参政30周年記念式典開催。	<ul style="list-style-type: none"> ・ソ連の「金星9号」が初の金星衛星に。無人探測機が軟着陸。 ・A・トインビー没、86歳。
10. 23	大学への現役進学率は女34.6、男33.8。高校進学率も93.0対91.0と女性上位一文部省の発表。	タンザニアとザンビアとを結ぶタンザン鉄道が中国の援助で完成、開通式。
〃	賃金・定年差別等で闘う全国連絡会、衆参社労委員と全婦人議員に差別撤廃要望書を手渡し。	
10. 24		人口22万人のアイスランドで19歳以上の主婦・労働者など女性6万人が、女性が欠かせない存在であることをしめすためにゼネスト。全国がマヒ状態に。
10. 27	ハウス食品「私作る人」のCM放送を中止。	
10. 30	子と無理心中、殺人罪に問われた母に、家出した夫にも責任と、東京地裁、執行猶予の判決。	<ul style="list-style-type: none"> ・国連が、日米など韓国支持派、中ソなど北朝鮮支持派が提出の朝鮮問題解決決議案を共に採択。
〃	森茉莉に第3回泉鏡花文学賞。	<ul style="list-style-type: none"> ・スペインでファン・カルロスが臨時国家元首に就任。
[この月]	新日鉄、室蘭3高炉操業停止。	
〃	講談社「日刊ゲンダイ」発刊。	

年 月 日	国 内 の 動 き	海 外 の 動 き
11. 1	〈女のグループ連絡会〉（連絡先くあごら）が国際婦人年民間集会の企画を発表。	
11. 3	東京展会場で女性解放連合体、〈女の波〉がシンポジウム。	
11. 5 ～ 6	政府は国際婦人年記念日本婦人問題会議を開催、テーマ「男女平等と婦人の社会参加」。天皇・皇后出席に〈女のグループ連絡会〉は民間集会を同時開催後、デモ行進。機動隊が出動。	
11. 5	第4回全国消費者大会、値上げ三法案等に反対決議。	
11. 6	参院予算委で佐々木静子、婦人問題企画推進本部が全員男性とは、と追求。	<ul style="list-style-type: none"> ・米がILO脱退を通告。 ・米国の男女同権法、通らず。 ・スペインのサハラ領有に抗議モロッコのサハラ大行進35万人が越境、スペイン軍が阻止態勢。
11. 7	一般会計補正予算成立。赤字国債計上。	バングラデシュでジアウル・ラーマン派のクーデター失敗。
11. 9	〈ミニコミ大共闘〉郵便料値上げ反対集会。	
11. 10	「婦人問題企画推進会議」スタート。	国連総会が「シオニズムは人種主義・人種差別」の決議を採択。
”	女手で2児を育てた全盲の堀本文子の児童扶養手当訴訟、大阪高裁が国側に逆転勝訴判決。障害年金との併給は不可と。	
”	山梨県が高給共働き職員のどちらかに退職勧奨を決定。	
”	〈大阪女性解放教育研究会〉がK子さん事件の出版記念会。	

年 月 日	国 内 の 動 き	海 外 の 動 き
11. 11		<ul style="list-style-type: none"> ・アンゴラがポルトガルから独立。 ・豪の労働党内閣提出の予算案否決で財政危機、首相罷免。
11. 13		超長距離ジェット旅客機ボーイング 747SPニューヨークー東京間を13時間30分で無着陸飛行。
11. 15	合成洗剤で手荒れの主婦たち、メーカーに損害補償請求訴訟を集会で決定。	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回先進国首脳会議（サミット）仏で開催。 ・南北ベトナム代表、サイゴンで再統一政治協議。
11. 17	国際環境保全科学会議を京都で開催。27か国95人参加。	モロッコ国王ハッサン2世、スペイン領サハラをモロッコとモーリタニアに分割するよう、スペインと合意と発表。
"	郵便料値上げに反対する60団体〈ミニコミ大共闘〉を結成。	
"	〈子殺しを考える会〉が『子殺し白書』を発表。	
"	野田愛子さん札幌家裁所長に。	
11. 18	参院法務委で「離婚による復氏の義務づけ」等の差別を野党が追求、法相は民法改正案の次期国会提出を約束。	スペイン総統フランコ死去。 南北ベトナム代表、76年前半に全土で総選挙、と発表。
"	小林則子の「リブ」がゴール。女性単独ヨットの世界最長記録。	
"	文部省、大学・短大の女子学生は32.3%、学生数 200万人超過と発表。	
11. 20		
11. 21		

年 月 日	国 内 の 動 き	海 外 の 動 き
11. 22	全国組織41団体、国際婦人年日本大会を開催、「なくそう男女差別、つよめよう婦人の力」を掲げ、男女平等促進決議を採択。参加 2,300人。	スペイン、カルロス王子が即位宣誓。44年ぶりに王政復古。
”	厚生省「出産力調査」発表。“子どもは2人まで”の考え方が定着、妊娠経験者の47%が死・流産を経験、地域差はない。	
11. 23	75侵略＝差別と闘うアジア婦人会議大会、「戦後婦人運動の総括と展望」。	
11. 26	公労協が8日間・192時間打ち抜きの「スト権スト」に突入。	
11. 27	真田しんさん死去。	
11. 28		東チモール独立革命戦線が独立を一方的に宣言。
〔この月〕	カシオ、デジタル腕時計発売。	
12. 1	〈国際婦人年日本大会の決議を実現するための連絡会〉結成。世話人、市川房枝・大羽綾子・中村紀伊。	フォード米大統領訪中。4日、上海コミュニケによる米中関係正常化推進を再確認。
”	三木首相、公共事業体労働者のスト権を否認、スト中止を要求。	
”	東京為替市場でドル高騰、305円に。変動相場制以来の最高値。	
12. 2		ラオス、王制廃止と人民民主共和国樹立を決定。首相にカイソン人民革命党書記長、大統領にスファヌボン。

年 月 日	国 内 の 動 き	海 外 の 動 き
12. 2		イスラエル軍30機がレバノンのパレスチナ難民キャンプ爆撃。
12. 4	第27回人権週間（法務省主唱） 今回から「婦人の地位を高めよう」を強調事項の一つに。	中国、教育革命キャンペーンを開始。
"	公労協のスト権スト中止で国鉄が9日ぶりに運転開始。スト中に18万4000本の列車が運休。	
12. 5	〈行動を起こす会〉総括集会。	第30回国連総会、1976年から10年間を「国連婦人の十年」とすることを宣言、国際婦人調査訓練所の設置及び1980年に世界会議を開催することを決議。
12. 7		・フォード米大統領、新太平洋ドクトリンを打ち出す。日・中との関係強化。 ・インドネシア軍が東チモールに軍事介入。ポルトガルが断交。
12. 8		国連安保理イスラエルのレバノン爆撃非難決議に米が拒否権。
12. 9	国際婦人年連絡会、政府関係当局・各政党・財界・労働団体に国際婦人年日本大会の決議の実現を申し入れ。（9～23日）	
12.10	東京・府中市の3億円強奪事件が時効に。捜査費用9億7000万円。	
12.12	ILO 102号条約の批准を国会が承認(社会保障の最低基準)。	
12.12	〈婦人問題懇話会〉シンポジウム「国際婦人年の総括と展望」	
12.13		アンゴラ総選挙で自由党が大勝。

年 月 日	国 内 の 動 き	海 外 の 動 き
12. 14	国鉄最後のSL旅客列車が室蘭－岩見沢間でサヨナラ運転。	
12. 15		第30回国連総会「世界会議が採択した勧告を含めた国際婦人年」及び「社会における婦人の地位と役割」を課題に、婦人に関する決議10項目を採択。
12. 16	高橋展子さんILO事務局長補に。	
12. 17		キューバで、革命以来17年目で初の共産党大会開催。
12. 18		フィリピンで大学での英語・タガログ語併用を決定。
12. 20	東京高裁が家永第二次教科書控訴審で、文部省検定は一貫性を欠き、違法と控訴棄却。	
12. 21	本四連絡橋、尾道－今治ルートの大三島橋起工。	定例閣僚会議開催中のOPEC本部（ウィーン）を6人の武装ゲリラが襲撃、サウジアラビア石油相ヤマニら各国閣僚を人質に占拠。23日、投降。
12. 24	臨時国会会期切れ間際に赤字国債発行の財政特例法案が成立。	
12. 29	毎日・日本研究賞に大久保操、松原純子、川村佐和子ほか。	英で雇用・教育・広告・娯楽施設での男女差別を禁止した性差別禁止法と男女同一賃金法が発効。
〔この月〕	東洋紡・鐘紡・ユニチカが天然繊維分野で全面的提携。	

法・裁判



〔定年差別〕

女性の定年差別は不合理

伊東市の伊豆シャボテン公園の女子従業員たちが「男子より十歳早い四七歳定年制は不合理」と差別定年制による解雇の無効を訴えていた控訴審で、東京高裁も従業員側の申請を認め一審判決を支持。この裁判の陪席裁判官の一人は野田愛子さん。「女性のほうが男性より早く老化するとはいえない」と一審を担当したのも女性の永石泰子判事。（2・26朝日・毎日）

政府はこの判決を政策に入れよ

この種の裁判が、新聞、テレビなどで大きく報道されることは、働く女性の能力を過小評価する風潮、性によって差別するという後進性が、依然として社会に根強いことを物語る。こうした背景から見て、この判決の意義は大きい。

政府に、差別のない定年制はもとより、定年延長問題についても、新たな発想に立った実効ある政策を望みたい。

（2・28毎日社説）

定年差別無効は当然

この判決は当然。ましてや会社側が控訴した女性の職種は店員や調理師である。店を一軒まかされていながら、女では正當な商取引もできないと思っている男性もいる。この判決を男性の頭から差別観を除く契機にしたい。（投書、3・11毎日）

男女の定年差別は無効

七三（昭和四八）年の「日産自動車事件」で五〇歳の女子定年制を有効とした判決は時代に

逆行する判決だと話題になったが、伊豆シャボテン公園の判決で男女定年制を無効とする傾向はどうやら定着した。結婚退職制や出産退職制の無効に関する判例もほぼ固まっております今回の判決は国際婦人年にふさわしい重要な意義をもつ。

（鍛冶良堅、千鶴子3・7朝日）

〔雇用差別〕

女子アルバイトの解雇

大阪の朝日放送でアルバイト契約四回更新の際、同社の臨時

雇用者就業規則に基づいて解約された二人の女性が、「女性だけを不当に差別する雇用制度で憲法に違反する」と訴えた結果、大阪地裁で「著しく過酷で権利の乱用だ」と二人の主張をほぼ全面的に認めた。(3・28毎日)

子持ちを理由の解雇は無効

東京板橋区の主婦二人が、会社と労組との協定に基づき二児以上もつことを理由に精密機械メーカー(コパル)を解雇され、「解雇無効」の訴えを東京地裁に出していたが、同民事十一部は、二人の主張を認め、解雇は差別で、憲法、労基法、民法に違反すると決定。

(9・13毎日、朝日、9・14読売)

エールフランス控訴取り下げ

パリ転勤を拒否して解雇されたエールフランスのスタッフワー

デス十八人の解雇無効の訴えを支持した一審判決を不服として、東京高裁に控訴していた会社側は、十三日「これ以上労使間紛争を長びかせたくない」として控訴取り下げ、一審確定、原告たちは二年ぶり職場復帰。

(10・14毎日)

〔賃金差別〕

男女差別賃金は違法

男と同じ仕事なのに女を理由の差別賃金は憲法と労基法に違反する、差額分を支払え、と秋田相互銀行を相手にした女子行員七人の「女子賃金差額請求訴訟」の判決は、女子行員の訴えを支持。差額一〇〇万円余りの支払いを命じた。男女間の賃金差別が正面から争われたのは初めてのケース。定年差別無効に続き、ウーマンパワー再度の勝利。(4・10読売・毎日・朝日)

中国電力、二五歳定年制和解

中国電力の「準職員」河野千穂子さん(28)は「女子二五歳定年制」による解雇の無効を訴えていたが、三年間の闘争の結果、山口地裁下関支部で和解成立、今年四月職場復帰した。この勝利は河野さんの不屈の闘争心によるもの。たった一人でも「不屈の一人」は大独占資本にとってこわい存在。電産労組の支援、婦人の地域共闘の力も大きかった。

(7・11婦民)

〔中絶〕

後期妊娠の中絶で送検

宮城県警気仙沼署は十六日妊娠九か月の胎児を帝王切開で取り出したS医師と、胎児の母A子(39)、中絶を依頼したA子の勤め先の女性を殺人の疑いで書類送検した。A子は四児をかか

えて飲食店に勤め、生活苦と世間体を恥じて中絶したもの。

(1・17毎日)

八か月未満中絶は殺人では

中絶は優生保護法で胎児が母体外では生きられない時期内に規定、厚生省は五三年、目やすを八か月未満とした。ところが医学の進歩で六か月でも生存ケースが増加、七か月の生存率が六〇%を超える現在、放置すれば合法的殺人を認めるに等しいとして、実子特例法制定推進委が関係機関に公開質問状を出した。

(7・16信毎)

優生保護法違反で厚生省を告発

実子特例法制定推進委は、人工妊娠中絶可能期間を「八か月未満」とする厚生次官通達を「合法的殺人」として厚生省に公開質問状を七月十六日に提出、

「七か月未満」とするよう要請したが、厚生省は正式回答に難色を示したため、同省を告発する方針。
(9・11信毎)

〔実子特例法〕

もらい子を実子に、は違法

もらい子を実子として届けた場合、その子の相続権の有無が争われていた民事訴訟の上告審で、最高裁は「もらい子を実子と偽った届け出の場合、実の親子関係も、法律上の養子縁組も認められず、相続権などの法的保護は及ばない」と子側の上告棄却の判決。この判決で「実子特例法」の将来になお問題が残る。

*

血縁だけを重視している日本の社会を反映した迷信的な判決。出生率の低下した現在、未婚の母を持つハンディを負った子

しかもらい子になる余地はない。こうした子の幸福を考えたと、生物学的な親子関係を重視することの無意味さは明らかだ。

(菊田昇医師) (4・8朝日)

二児ハワイへ養子

実子特例法制定運動中の菊田医師がハワイ日系米人と養子二組をまとめた。離婚や別居中の実母の子として届け、家裁で縁組手続きの後、移民として渡り、ハワイで実子の手続き。米国では実母との関係は断絶(関係戸籍は米家裁で封印保管)でき、養親の資格審査が厳格なので安心、と菊田氏。実子特例法の、いわば抜け穴。

(6・27・28朝日・信毎)

菊田氏産婦人科学会からも除名

実子特例法制定の提唱者、石巻の菊田昇医師は二〇日、日本

産婦人科学会宮城地方部会を除名された。①産科学で認められない誤りを訂正しない②他の産婦人科医が違法であるごとく印象づけた③永年にわたり出生証明書に虚偽を記載、赤ちゃんあつせんの違法をした——と。

(9・21朝日・毎日)

菊田医師、除名処分に反論

「赤ちゃんあつせん」は赤ちゃんの生命を守る緊急避難行為。また現代の最高の医療のもとでは七か月末の胎児は欧米では八〇%以上、日本では六〇%以上生存可能で七か月中絶は殺人。未婚の母を中絶、子捨て、子殺しから救うためにも「実子特例法制定」は必要と菊田氏。

(10・10毎日)

〔育休法〕

育児休業法案滑り込み成立

七月三日未明、参院本会議で。休暇中は無給、対象は一歳未満の子を持つ女教員、看護婦、保母の希望者に限られるが、日教組大会の要求が十二年で成就。

しかし休業する先生の代替要員が臨時の身分、教員以外の事務職員が取り残された、育児は女の固定観念助長など、不安や批判もある。(7・3、15朝日)

〔併給禁止〕

堀木訴訟 国が逆転勝訴

全盲ながら女手一つで二児を育ててきた堀木文子さんは自身が障害福祉年金を受けているため、七〇年に児童扶養手当申請を却下され、提訴した神戸地裁で併給禁止は違憲として却下取り消し。国側が控訴していたが、大阪高裁は合憲の逆転判決。

(11・10朝日)

〔結婚の不利解消〕

論議を呼ぶ「妻の座」

夫婦の財産共有化について内助の功を認め、夫の収入も妻と共有すべきとの賛成論と女性の自立をすすめるのが本筋という反対論に分かれている。

妻の遺産相続、離婚時の財産分与などについても、法制審議会は結論が出せない現状。

(4・16朝日)

婦人地位向上に民法改正

十八日の参院法務委で野党議員の質問に答えて稲葉法相は①民法七六七条の「離婚による復氏」の義務づけは男女平等にそぐわない②人事訴訟手続法一条で離婚請求事件の裁判管轄権が男性有利はおかしいと、「民法

等改正法案要綱」の次期通常国会提出を約束。(11・19朝日)

〔責任の所在〕

母親は育児に不可欠

長男の養育で争う別居中の夫婦に、大阪地裁黒川正昭裁判長は、「子の肉体的・精神的成長には母親による養育が不可欠」と母親への引渡しを判決。しかし法廷には父親と三歳の長男は出廷せず、裁判所は強制力がな

いためむなし判決。

(7・29信毎)

家出の夫にも責任、と刑猶予

生活苦から娘と無理心中、殺人罪に問われた生残りの妻に対して、東京地裁は家族を捨てて家出した夫にも原因があるとして懲役三年、執行猶予四年の判決。

(10・20毎日)

〔その他〕

デモ規制で判決

東京地裁は「デモの際、機動隊員の規制で顔を強打、二か月の重傷を負った」との女子学生

の訴えを認め、「機動隊員として適法な排除活動の範囲を越えた過失責任がある」として、東京都に慰謝料など請求額のほぼ半額の四五万円の支払いを命じた。

(4・8毎日)

“目減り” うつぶん晴れず

「庶民貯金の目減り損害を政府の責任で償え」と求めた訴えが、一日、大阪地裁で「門前払い」の判決。「門前払い」はひどい、庶民はインフレ被害にただ耐えろということか」と原告たちの怒り爆発。

(10・1毎日)

安楽死を認めず

昏睡状態のまま七か月間、病床に横たわるわが娘に「安らかに死ぬ権利」を認めてほしいと養父母が訴えたニュージャージー州のカレン・クインランさん事件に、ミューア高裁判事は十日「カレンさんは法的にも医学的にも生きており、人工呼吸装置をはずすことによりその生命を奪うのは認めがたい」との判決を下した。

(11・11朝日)

洗剤被害で訴訟準備

東京で開催中の合成洗剤追放全国連絡会の第二回全国集会で、学校給食調理員、主婦など、合成洗剤による手荒れ被害者の原告団を結成、国や洗剤メーカーを相手取って早急に損害補償請求の訴訟を起こす方針を決めた。

(11・15信毎)

政治

〔国際婦人年に ちなんだ〕

婦人問題で政府追求

国際婦人年をめぐる問題が五日の参院外務委員会ですべて取り上げられた。田中寿美子議員が「政府は婦人の地位向上にどのように取り組んでいくのか」と約一時間半追求、宮沢外相は当局の「答弁用カンニングペーパー」を見ながらしどろもどろ。午後は、労働省主催の国際婦人年国内連絡会議が、婦人団体、労働組合の代表、報道関係者な

どを集めて、大手町農協ビルでも火の手。
(6・6 毎日)

集中審議で追求

六月十三日、衆院社労委で国際婦人年にちなみ婦人問題を集中審議。公務員採用で差別がある、世界行動計画案に熱意がない、トルコぶろを取り締め、など婦人議員が超党派で攻撃。
(6・13・14 各紙)

市川さんら首相に訴え

国連NGO国内婦人委員会の

市川房枝委員長ら代表は、国会内で三木首相に同委員会の決議文を手渡した。

①国際会議に婦人代表を②婦人の働く権利保障のためILO条約一〇三号などの早期批准③公職への婦人参加④婦人の教授、校長増加⑤売春・トルコ追放、など。
(6・17 読売)

婦人の地位向上決議

衆院は十七日各党共同提案の「国際婦人年に当たり婦人の社会的地位の向上を図る決議案」を全会一致で決議、差別撤廃の

姿勢を示した。超党派婦人議員懇談会(世話人栗山ひで、田中寿美子)は、これを「婦人憲章」としたいと発表。
(6・17・18 各紙)

婦人問題で推進会議新設

植木総務長官は、総務長官の私的諮問機関「婦人に関する諸問題懇談会(座長・福武直東大教授)」を解消し、「婦人問題企画推進会議」新設を決定。国際婦人年を期して、政府が婦人問題に積極的に取り組む。
(7・15 各紙)



婦人行政三本柱

メキシコ会議で採択の「世界行動計画」実行の三本柱として政府は①局長または次官クラスの関係省庁連絡会議②各界民間人による婦人問題企画推進会議③総理府内に婦人対策機構の構想を発表。(7・30朝日)

婦人担当省庁設置など要望

女性議員全員による超党派の婦人議員懇談会の市川房枝ら七議員は、国際婦人年世界会議で採決された世界行動計画を進めるため、植木総務長官を訪問。婦人問題企画推進会議、婦人対策本部、婦人問題のみを所管する婦人国務大臣、婦人対策のための独立の行政機関(省庁)の設置を要求、「要望書」を手渡した。(8・19毎日)

婦人の地位向上推進本部発足へ

国際婦人年に当たり、三木首相は政府としても婦人問題に取り組む体制をつくる約束をしたが、九月中にも総理府に推進本部設置を閣議決定する方針。労働、厚生、文部などの事務次官で構成し、本部長は首相。諮問機関として新たに婦人問題企画推進会議(仮称)を設け、婦人運動家や有識者の意見聴取などを行う。(8・28朝日)

大臣、答弁に大汗

六日の参院予算委での社会党の佐々木静子議員の質問、「婦人問題企画推進本部が全員男性とは」に対して三木首相は「推進会議は三分の二、婦人問題担当室は七人中六人が女性。日本は不平等ではなく慣習の中の特性が日本婦人の良いところ」と本音ものぞかせながら汗だくの

答弁。質問は四年制女子大生の深刻な就職難にも言及、文相に答弁を求めた。(11・7朝日)

婦人問題を考える諮問機関発足

「世界行動計画」推進などの首相の諮問機関「婦人問題企画推進会議」が初会合。先に発足した婦人問題企画推進本部が各省次官を集めた行政機関であるのに対し、民間の各分野からの意見を反映させる。(11・11朝日)

〔請願〕

美濃部さんやめないで

美濃部東京都知事は二月十六日、社共統一戦線が成らないと三選出馬しないと声明した。これに対し、政党に属さない主婦商店主などの市民が、三選実現を願って都庁前で十九日から座り込みを始め、支援者も続出。

(2・28婦民)

働く女性への差別やめて

差別定年、賃金男女差別などで、全国各所で裁判や労組で闘っている人たちが約七〇名は六月にできた横の連絡会を下地に国会へ要請書を作成、二三日衆参両議員中、社会労働委のメンバーと婦人議員を戸別訪問して手渡したが、中には室中なのにならずと断わる議員もいた。(10・25朝日)

寄付禁止に思案

改正公選法・同施行令の十四日施行に伴い、寄付は禁止となる。参院議員の市川房枝さんは「初当選以来通算十九年間、議員収入の三分の一を福祉施設や婦人団体などに寄付してきたができなくなる」と思案。(10・14朝日)

労働

〔不況のしわよせ〕

失業者百万人超す

労働省の調査によると、雇用情勢はさらに悪化、雇用調整の動きが不況業種の繊維・電機から、比較的好調とみられた化学・鉄鋼に波及、雇用調整の対象が臨時工・季節労働者ばかりでなく常用労働者に波及。この一・三月の完全失業者が百万人超過は確実。失業率は一・八％。米国七％、西独四％より低い。

(1・6朝日)

奪われた暮らし

夫が瀬戸内海でとった魚を町で売りさばく主婦「いただきます」は、三菱石油の重油流出で売り物がなく失業。「雑煮もかたちばかり、冬着はシャツ一枚買えない」と嘆く橋本広美さん(38)。水島は東からも西からも大型タンカーは案に通れない所タンカー事故もいつ起こるかわからない。

(1・16朝日)

目立つ婦人の失業

不況のしわよせで、下請工場

が次々に閉鎖または縮小され多くの女性が失業。職安でも失業保険金受給の女性が目立つ。好景気期には下請け工場が続出、低賃金の主婦がもてはやされたが、失業で苦しい家計にショックをうけている。(2・5赤旗)

“会社の都合で転校なんて”

閉鎖に揺れる企業内高校

鐘紡は、京都工場閉鎖、従業員の配転案を提示。女子従業員は、工場内の洛北高等女学院で資格取得を目標に就職した者がほとんど。工場閉鎖＝学院廃校

の大ショックに、学習権闘争が噴火。(2・9毎日)

*

昨年春、鐘紡淀川でも学習権闘争が発生。闘争の先輩たちは「弱い立場の女子従業員の学習権を守り抜いて」と励ましている。(2・11毎日)

主婦も“内職春闘”

「反インフレ・生活向上・働く権利を守る内職大会(総評主婦の会主催)」が十七、十八日、東京・全通会館であり、全国の内職主婦二〇〇人が参加、内職



やパートの賃金引上げ等の要求を決め、労働省や経企庁に陳情を行なった。(2・18毎日)

女子の就業者が激減

総理府発表の労働力調査。就業者数は産業界の操短拡大で、四九七五万人と、七二年以来初めて五〇〇〇万人を割った。とくに女子は前年同月に比べ、五三万人も激減。不況のはね返りで、主婦のパートや内職がなくなっているため。主婦の失業で非労働力人口は大幅に増加。完全失業者は九九万人。(3・14朝日)

女子就労五一万人減

労働省は昨年一年間の「婦人労働の実情」を発表。調査によれば、昨年の女子労働力人口は一九九六万人、労働力率は四六・六%でいずれも減少、新規求

人の手控え、希望退職の募集・解雇が女子に集中した結果。賃金は二七・六%上昇(男子は二五・八%)。男に対する賃金格差五三・九%。男女定年差別の企業は三割。採用条件差別が四割。(9・6朝日)

“切り捨て”臨時雇いから

大企業から零細工場までひしく川崎工場地帯ではクビ切り旋風。真っ先の対象はパートタイマーでほとんどが共働きの女性。平均月収四万は家計の一部。T製薬ではパート組合が結成されたが団交は平行線。切り捨ては常に弱い部分からで多くは泣き寝入り。(4・2朝日)

激化する女性“人べらし”

大企業は不況を口実に、合理化を強めている。他に収入のあるもの、共働き女性、五〇歳以

上の人が退職者の条件に該当するので、まず女性労働者にしわよせがくる。高度成長期に、大企業は安い賃金の女性で利益をあげながら、不況では首切り攻撃。しかし政府にはなんの施策もない。(4・16赤旗)

きびしい内職戦線

今年一―三月の求人 は前年度比で一〇%減、求職は三倍。主婦の内職希望はふえる一方だが、せいぜい、月一万九〇〇〇円足らず。低賃金の理由は、技能の低さ、認識の甘さ。「技能なし、認識なし」の「無い職」から脱皮する意欲がほしい。(5・17日経)

休憩所暮らし三か月

給料はもらえても、仕事がない――不況のあおりを受けた青梅市の化学工場では、職場をな

くした女子従業員がもう三か月、休憩所暮らし。毎朝正門前で「仕事をよこせ」「人権侵害だ」と書いたビラを配り、会社の「不当」を訴え続けている。(6・6朝日)

婦警希望者殺到

不況のあおりか意識の変化か、今年の婦警採用試験は二三倍という史上最高の狭き門。受験資格は高卒以上だが応募者の二六%が大学、短大卒業予定者。(10・13朝日)

女性を“長”に節約に成功

不況下経費節約に苦慮する日清製粉では、節約に協力度の低い女性社員を洗脳すべく職場ごとに女性社員の節約リーダーを選び、部、課長も従わせる権限を与えたと、張り切って実績をあげ、月額二〇万円の節約

になった。(11・7朝日)

〔就職難〕

長谷川芳相に直訴

三人の子どもと年寄りをかかえた未亡人と、能力を社会に生かせない主婦が芳相と対談、育児施設の充実や寡婦雇用の促進を要望。また学校や職場での男女差別に対する見解を問うたところ、寡婦雇用については現行の奨励金を伸ばしていく、男女差別については、母性の重要性を強調、夫と妻の協力は人情で解決と答弁。(7・18朝日)

女子の大卒採用中止

三菱商事は七六年度の大学卒女子の採用を中止。ビジネス・ウーマンとしての自覚不足、在職年数二―三年で非効率というのが理由。三井物産も短大卒重

視に切換え。

(8・23毎日、8・29朝日)

女子事務員から保証金

就職難の折、応募した若い女性から雇用契約の際一〇〇万円を保証金を取っていた盛岡市の金融業者が、労基法違反容疑で捜索された。(9・7朝日)

女子大生就職難

来春大学を卒業予定の女子学生約七万四〇〇〇人の七割が就職希望といわれるが、不況で深刻な就職難。強気の企業からは公然とお茶くみまで要求される始末。高度成長時代、女性の採用に積極的な姿勢を示した企業も今は消極的。(9・8信毎)

就職不利な文学部はイヤ

都立のある高校、今年は文学

部志望者が三割減。その分だけ短大家政科や保母・看護婦養成課程への希望者が増加。他の高校、予備校でも傾向は同じとか。「安易な教養主義からの脱皮は結構」と川上源太郎氏。

(10・2朝日)

食いちがう希望

不況の中の就職難、その中の筆頭は大卒女子。七社から十社まわってもただ激励されるのみ。希望側の順位①出版②教員③放送局④商社⑤公務員⑥新聞⑦観光⑧広告⑨銀行⑩航空に対して、求人側は①卸・小売②サービス③信用金庫④繊維加工⑤建設とズレが原因。じつと来春の追加求人を持つという人も。

(10・18朝日)

一流好みの優雅な女子大生

女子大生の就職難は一流好み

にも起因しているとは各大学就職課の話。一流会社がダメなら就職はとりやめとか。しかし当の女子学生にいわせると、マスコミなどの希望職種は軒なみ採用ゼロ、四年制大学の女子はダメという会社も多いという。某大学就職担当者によると女子大生の一流好みの原因は永久就職にあるのでは……。

(10・20朝日)

大学卒ホステス募集

山口大学経済学部に舞いこんだこの求人主は、広島市で会員制クラブなど二〇店を経営するA社。「これからの水商売は容姿プラス楽しい会話のできる教養が必要」が理由。七〇年の伝統をもつこの学部の就職担当者をして前代未聞と驚かせたが、初任給は二〇万円、応募はゼロ。

(10・23毎日)

ムスメ一人にムコ百人

小企業を望む者も多い。

(10・30朝日)

オーストラリア七六・一、日本

四七・五。

っている。

(3・13毎日)

女子大生の就職難が深刻化するなかで、茨城の流通経済大学という創立十一年のローカル新興大学では就職希望女子学生三人になんと求人三〇八件。学生数が少なく教授との肌のふれあいが可能、したがって学園紛争もない。しかも専攻が現代的な流通経済学であることなどが主な理由とか。彼女たちの先輩は仕事への熱意が最も大切という。

(10・25信毎)

大学生、職安に走る

大学係をもつ唯一の職安を訪れる大学生の数が例年になく多い。ここでも女子大生は深刻な就職難ではあるが、一方「カッコイイ」職種に偏り、グループや両親同伴、はては母親だけで相談というように甘さも目立つ。職安を通ず大学生は脱サラや中

家庭教師志願ふえる

就職のきまらない卒業予定者

や不況で本業がヒマになった既卒者に家庭教師志望がふえていくが、採用条件は厳しく、中高生なら英数、小学生なら算国理とまとめて教えられることが条件。文科系は不利。

(11・18朝日)

〔賃金〕

二倍働いて給料は半分

ILOの報告書では、全世界の労働人口の三分の一が女性であり、家事を含めると男性の二

倍は働いているのに評価は低く、給料は半分。男性を一〇〇とした女性の賃金はスウェーデンハ

三・二、デンマーク七七・九、

厳しい再就職者の賃金

北朝鮮は男女同一賃金で、三人子どものいる女性には六時間労働で八時間分の賃金を支給。「同一労働同一賃金」の原則の適用は差別との闘いの序の口とも述べている。

(1・7毎日、5・16朝日)

勤務で赤ちゃん産めません

(3・18読売)

都内の職安を通じた再就職者の平均賃金は男子九万四五〇〇円、女子七万円。男子では運転手(十三万円)技術者(十万円)が高く、女子では看護婦(八万円)経理事務員(七万五〇〇〇円)が高く、清掃婦・雑役(六万円)が低い。

男女間の賃金格差は、平均で女子が男子比七四・一%、三五一五四歳の女子が最も不利で男子の六五%の水準。中・高齢の勤労婦人の生活の苦しさを物語

男女の賃金格差

M百貨店のモデル賃金、勤続三年の高卒男子と女子の差は六〇〇円だが、勤続六年になると六六〇〇円の差になる。勤続年数がふえるにつれ、男女間の賃金格差は大きくなる。

参院予算委の福祉問題に関する集中審議に看護婦さんが出席。「いまの医療を守ろうとすれば、私たちの健康は破壊され子どもは産めなくなる、労基法の産前産後の六週間の休暇では休養はとれず、それ以上休めば賃金はカット。死産や知恵おくれの子を産む看護婦もしばしば」と現場からの声を訴えた。

(3・28毎日)

パートの退職金

不況でパートタイマーの主婦の解雇が相次いでいる。法的に身分保障がはつきりしないため、不利な立場におかれ、即日解雇で泣き入りというケースも。退職金を支給する所も少ない。これは一般従業員との勤務時間、勤続年数に差があるので法的に義務づけられないため。パートに出る主婦は就業規則を十分読んで退職金はどうなっているか知っておく必要がある。

(4・8 読売)

年金にも響く低賃金

Iさん(60)が十六年間働き続けた結果の厚生年金の老齢年金は月二万八〇〇〇円。受給額は賃金と加入期間で決まるので低賃金の女性はむくわれない。専業主婦はさらに不利、夫の死後の遺族年金は夫の年金の半額。

国民年金は厚生年金より分が悪い。「女性の地位の低さが年金にも反映している、これを何とかしなければ社会保障とはいえない」と日下部禮代子さん。

(4・9 朝日)

〔職場〕

スチュワードレス異変

日本航空のスチュワードレスに二つの異変が。「奥さんスチュワードレス」の予想以上の誕生と、若いスチュワードレスの退職の減少。不況風の影響か?

(1・24 朝日)

保母さん請願デモ

低賃金と人員不足、職業病などで苦しめられている福祉施設、保育所の職員が、厚生省、労働省などへ請願、デモを行なった。人員不足のため職業病がふえ、

倒れた職員のしわよせで残りの職員が倒れるという悪循環。低賃金がそれに輪をかけている、と行政の冷酷さを訴えた。

(2・4 赤旗)

ツーマン路線を守る女子車掌ら

一九六五年、東京都交通局は「再建団体」となり労働者の犠牲のもと大合理化を進めたが、全廃される女子車掌が闘いを続けて今も三六名が乗車し、合理化の歯止めとなっている。

手当と時短を餌に当局と一体で組合がワンマン制を承認した中で、婦人部は「ママさんダイヤ」を確立、支えあいながら働き続けている。「運転手や子ども、お年より、身障者のためにバスに車掌は必要です」と闘いの成果と今後の展望を話し合う。働く女が群をなすと、原始母権制を偲ばせるたくましさが見える。

(2・14 婦民)

緑のおばさん新たな闘い

東京二三区の緑のおばさんが学童擁護十五周年記念総決起大会を開き、職業病について訴えた。車の交通量がふえたため、排ガスによる目・ノド・鼻の痛みを訴える人が目立つ。「学童の生命を守るためがんばってきた私たちは、自分たちの体を守る闘いもしましょう」と、「職業病を認めさせよう、定年制に反対しよう」などのスローガンを決めた。

(3・16 朝日)

保母さんは労働過重

自治労は、保母さんの労働実態を調査してきたが、労基法違反が公然と行われているとして、行政闘争を進めることにした。

労働条件が悪く、とくに休憩時間はほとんどとれない、年次有給休暇も名目だけ、生理休暇もとれず、昨年一年間で十九人

の出産予定者のうち九人が切迫流産や妊娠障害で倒れた。五人の職業病患者も出、二人が公務災害の認定を申請中。

(4・24毎日)

寿地区の保健婦と助産婦

九〇軒の簡易旅館がならぶ横浜・寿地区で働く保健婦さんら二人「担当年数が長くなった」と配置転換されそうになったがこの地区の住民や労働者は「寿の地域医療にこんなに尽くす二人は地域の財産だ」と異動反対の署名を集め市に陳情。この労働者パワーのおかげで二人は引き続き寿地区を担当。

(5・13朝日)

看護婦さんが「自前保育所」

県が病院内に保育所をつくってくれないなら、保育所の自主運営をします——静岡の看護婦

さんが「女の闘い」を始め、病院内の医師公舎を保育室に占拠。

(5・29朝日)

健康をむしばまれる保母

保育行政の貧しさと、働く母親の福祉がなおざりにされているなかでそのしわ寄せを一身にうけている保母の健康破壊が急速に増加。最大原因は保母の絶対的不足にある。

六〇年代を通じて急激に幅を広げた女の職種は、単純・繰返しの過重労働と職業病を伴う仕事でもあった。(6・12読売)

看護婦も人間

三人で七九人看護、食事中にも呼出し。戦場のよう。しかも医療ピラミッドの底辺で誇りもない。全日本看護学生自治体連合会は「ロボット看護婦でなく人間性ある看護婦教育を」など

五つの要求を掲げて厚生省に団交中。(6・18・17・5信毎)

保母さんは過重労働

八王子労働基準監督署はこのほど八王子市に対し「市立保育園の保母の労働時間などに労基法違反の事実がある」と是正勧告書を出した。国の基準をたてにとる市当局と人員増を要求する市職組が対立。(6・28朝日)

働く女性の張り合い

働く女性の生きがいは……。

小学校教員は教え子をわからせることに情熱を注ぎ、育児の忙しさの中でも研究会に出席。食堂経営者は多くの人と知り合い、「安くてうまいもの」を作る生きがいがい。

ホームヘルパーは、服装に対する偏見、仲間同士の話し合いのむずかしさを乗り越え、「お

年寄りの真の幸せ」に責任と誇りを持つ。(7・27・29信毎)

幼稚園にも職業病

けい肩腕症候群と腰痛で訴えていた福岡の幼稚園教諭が四日「公務傷病認定」。幼稚園では初めて。(9・5朝日)

海外旅行は花盛り

労働条件の向上で休みが増えた百貨店では労組が「海外旅行代理店業務」を。対象は若年女子組合員。Sデパート労組は今年だけで八回も実施。批判の声も。(10・27毎日)

丸金証券労組、女三人の組合

今年三月丸金証券(東京千代田区、社員七〇人)は、人員削減を目的に女子社員二人に配転命令を出し、二人が拒否すると

いきなり解雇。二人はこれを契機に組合を結成し、解雇撤回、原職復帰を勝ちとった。七人だった組合も会社側の妨害に今は女三人。二〇代半ば、給料は五万六万五〇〇〇円。生活は苦しいが闘いは楽しいという。

(11・28婦民)

高給おしどりに退職勧奨

人件費高騰緩和策として、山梨県は五〇年度から高給取り共働き職員について夫婦どちらかに退職勧奨決定。地方自治法の権威、依静夫氏は「企業の結婚退職奨励の裏返しで法的根拠なし」。

(11・11朝日)

製本業界に ろう者と共に組合

賃金・労働条件劣悪、組合のない所が多い製本業界。その中で石坂善新堂（東京神田神保町、労働者二〇〇人）は賃金が安い

ろう者を多く雇い入れてきたが、組合つづしも行なってきた。昨年十一月、若い労働者中心にろう者と共に組合結成、待遇改善要求に会社側は二人の組合員を解雇。以来一年、手話を覚えた組合員は多くの支援仲間を得て二人の解雇撤回闘争を続け、水道橋で石坂闘争10・20総決起集会を開いた。

(11・14婦民)

〔平等めざして〕

母性保護は当然の権利

ILO婦人問題会議は母性保護を人間の尊厳を守る母性の権利と位置づけた。欧米の産休は十六週、イタリアの母親保護法は産前二か月、産後三か月。

日本は健保支給分べん費も賃金で違い、産休中の賃金保障も公務員一〇〇%、民間六〇%、家内労働ゼロとバラバラ。保護か平等かの二者択一でなく当然

の権利としての母性保障は国際婦人年の贈り物にふさわしいはず。(ゼンセン同盟 多田とよ子)

(3・17読売)

母性保障基本法を要求

ゼンセン同盟の過半数を占める女子組合員は、分べん費の無料化、産休中の賃金保障の公平化、妊娠婦労働者の労働条件改善、妊娠婦家庭にホームヘルパー派遣、などを盛りこんだ基本法をつくるように労働省に申し入れた。

(4・11朝日)

生理休暇

生理休暇が労基法に保障されて以来二八年、その間労使間の紛争が絶えない。

現在生休を設けている事業所が八割を超え、五割以上が有給だが、生休を請求する婦人労働者は二割にすぎない。これは生

休をたてに労力を安く買いたたこうとする使用者、職場環境を無視した生休無用論等、生休を正当な権利と認めない現実を示している。

(6・22信毎)

女子の定年延長決まる

口頭で定年通知をうけた女子職員、「定年を男女差別するのは憲法違反」と仮処分を申請。これに答えて平戸農協（長崎）は男子と同じ五八歳に延長を決定。全国各地の農協や企業への影響は必至。労働省の七三年度の調査では約二割の事業所で定年男女差別が。

(6・27朝日・毎日)

公務員試験、男女平等に

労働省婦人少年局は、国家公務員初級の行政事務B、郵政事務B、税務、国税専門官、航空管制官などが人事院規則で男子

に限られていると、人事院に女にも受験の機会を、と要請。

(9・11朝日、9・19読売)

「働く婦人の福祉運動」句間

主唱は労働省。テーマは、国際婦人年の平等・平和・発展のスローガンを受けて「職場における男女の平等をすすめる」。催しとして、職場の指導的な立場にある女性を対象にした「婦人職場指導者ゼミナール」。昭和四十九年度「婦人労働の実情」(労働省婦人少年局)も発表。

(9・21朝日)

お茶くみ論争

お茶くみは福利厚生か日常業務かをめぐり札幌市と労組が対立。経費節約のため、お茶くみを民間下請化した市を、臨時職員削減の合理化攻撃、お茶くみ

は日常の業務と組合は反発。

(10・11朝日)

「男女平等」への職場条件

女性の比率の高い、デパート、銀行、製造業などの人事担当者による「婦人労働問題打ち合わせ会」が東京婦人少年室主催で開催、相互に問題点を出し合い、労基署側は、男女別賃金は違反、結婚退職制は判例で不利などと助言。

(11・22朝日)

「ILO」

ILO一〇二号をめぐって

六月十一日の衆院外務委で四人の婦人参考人が婦人に関する社会保障問題はまだ解決されていない、と批准に反対または消極的意見を展開。(6・12朝日)

*

衆院外務委は、十三日、未批准婦人関係ILO条約をすみやかに批准するよう努力するとい

う五党共同提案を採択。

(6・14各紙)

*

ILO総会で採択されて三年もたつて政府がようやく「批准できる」と提出したが、女性に関する社会保障の最低基準さえ満たしていない現状で、参院では審議未了になった。産前産後十二週有給の一〇三号条約、雇用における差別待遇禁止の一

(7・7朝日)

ILO総会で保護論争

六月四・二五日、ジュネーブで開催の第六〇回ILO総会で「機会と待遇の平等」を取り上げて「婦人労働者への保護法例を修正・追加・

廃止するための措置」を討論。

(6・21読売)

家事は夫婦平等に

ILO総会は、六月二六日婦人労働者の地位向上を目ざす宣言案と、勧告一二三号を新時代に即応するものにした決議案および婦人労働者に対する機会及び待遇の均等を促進するための決議案を採択、「保護より平等」の姿勢。

(6・26朝日)

遅れていた日本

ILO総会で労働者代表の九割、政府代表も三分の二が女性かつてない女性色の中でリーダーシップをとったのは北欧四国日本だけが保護拡大にこだわったが社会保障が未発達の日本の後進性を感じたと日本代表たち。

(7・9朝日)

教育

軽井沢に全寮制私学

暁星学園が姉妹校の中学校を七七年度開校予定。国際的な町で国際人としての人間育成、英・仏語教育を重点の方針。生徒寮、教員住宅も建設予定。

(6・15信毎)

子どもの本の学校

数年前東京で始まった母親・保母・教師たちが子どもの読書につき勉強する「学校」が、今や全国各地に広がっている。

(7・13信毎)

みのり多い「旅教育」

東京・中野区の後元彦(35)紀代美(35)夫妻は六歳、五歳の娘二人と世界の秘境を訪ね歩いている。「旅に出ると親と子がふれあい、夫と妻は助け合う」と。

(8・6朝日)

大学生

戦後の学校スト第一号の上野高女、新学長就任拒否をした日本女子大、東大女子学生第一号など、女子学生三〇年の歩みをたどりつつ、女子の大学進学率

三二・四％の意味をシリーズで追求。(10・4より連載、毎日)

北大女子学生

今年の北大入学者のうち女子は二三七人。一割を越えたが、評判はあまりよくない。男子学生、教授の側にも問題はあがあるが、「大学に来て一番よかったのは結婚の相手をみつけたこと」という人も。

(8・23朝日)

教科書の男女差別追求

女の問題を考えるグループ



〈あこら〉の東海グループ主婦十人は、教科書の男女差別を点検。現実肯定的記述がめだち、自立した母親像がない。女性が教科書をつくらなくてはと提案。

(9・2朝日)

教科書の中の女性像

〈婦人問題懇話会〉のマスコミ分科会が、小学校の国語の教科書に登場する男女の像を一年がかりで調査。登場人物は女が半数以下、主人公では三分の一以下。内容的にも、父親は外で仕事、母親は家で家事という伝統

的な家庭がほとんど、圧倒的に男中心、男社会の教科書であることを指摘。(10・10毎日)

お茶の水女子大に博士課程

お茶の水女子大が来春から、

博士課程「人間文化研究科」を設置。現行の学部や修士課程のワクを超えた学際的な研究。全国初の独立した新構想大学院。(10・24毎日)

私がうけた教育

性欲は女にはないというのはウソッパチ。避妊も、性欲も、マスターベーションも教えず、ては。田中美津さんほか、二〇代の女たちが語る教育論。

(4・4より連載、毎日)

しつけ——日仏でこう違う

武庫川女子大前田講師が大阪

近辺在住の日本の母親とパリ在住のフランスの母親に、子どものしつけについてアンケート調査。フランスの母親は「人格尊重」がしつけ観の基調、日本の母親は「うそをつかない」が基調。(10・24朝日)

女性上位の大学進学

大学への現役進学率は女子三四・六%、男子三三・八%、高校進学率は女子九三・〇%、男子九一・〇%——文部省の調査で、進学率はいずれも前年を上回り、とくに大学・短大への「現役進学率」では、戦後初めて女子が男子を追い越し、「五人に二人は学生」時代。(10・24毎日)

*

女子の大学進学率が男子を上回ったといっても短大が大半。けいここの動機、大学出の伴りよ獲得、専門職でないと切り

捨てられるから、などの動機があるが、女性の社会的差別克服への模索、または社会の女性差別の反映と見る。短大の中味が問われる時。(一番ヶ瀬康子) 短大は女の人のライフサイクルに合っているのではない。女子に合わせた教育課程もあっていいのでは。(外山滋比古)

(11・2朝日)

まちの「児童文庫」が続々

松本市内に主婦らが自主運営する児童文庫ができたのは七四年二月。以来共鳴者たちが持ち家を開放、七五年十一月には六つ目が誕生。(11・9信毎)

ほしい「頼りになる大人」

こども相談室に来る子どもに「先生に言ったら？」と言うと「自主的に解決しなさいって言う」「お母さんは？」「どうでも

いいじゃないとしか答えない」子どもは心を大切にすると大人を求めている。(11・11東京)

「芸と学問」両立を

大正初期から戦前にかけて義務教育未修で芸者置き屋に預けられた子どもたちに教育を受けさせた松本市の通称「芸者学校」の資料が同市で発見された。教育の機会均等の先進理念がうかがわれる。(11・12信毎)

私にとって短大は

短大生の入学の動機は「経済的」が大半。就職後は高卒なみの待遇。短大で得たものは「友人」、共通した不満は「中途半端」で、不満は四年制より強く、「自分の子どもは四年制へ」の進学圧力が強まっている。今や女性の地位向上いかんは短大次第か。(11・18・20朝日)

保育・子育て



〔保育・保育所〕

〈おひさまの会〉の子どもたち

渋谷区神宮前にある〈おひさまの会〉は、小児科医毛利子来さんが、車があぶないと外に出してもらえず、一日中家にジッとしている子どもたちを大空の下へ「解放」しなくてはと、近くの公園などに出かける街頭保育から出発。七四年八月には拠点の「家」も出来、現在は九五入の子どもたちが五人の保父、保母さんと元気にひとときを過ごしている。

保育の指針「おひさまの会の保育」もみんなで検討を重ねて完成させた。「危険を避けながら外で遊べる子にしたい。社会と子どもを切り離してはならない」と保父の石川さん。

青山に、千葉に、同じような会が出来た。(1・1婦民)

保母不足へ「自給作戦」

東京・板橋の私立園長会が「板橋保育研修学校」を二月から開校、主婦を対象に保母資格取得のため受験指導を。

(1・29読売)

自主保育十年の努力

愛知県一宮市のかもめ共同保育園は共働きの母親たちがゼロ歳から二歳までの乳幼児のために十年前作った無認可保育所。月三万数千円の保育費では経営も困難。補助金の多い正式保育所の認可を、と懸命の努力をつづけた。その実績がみとめられ、県・市の補助金、県社会福祉協議会からの借金で、園舎建設のメドがたったが、二〇〇万円の不足額にお母さんたちは歯をくいしばっている。

(2・8毎日)

保育料九二％アップ

「零歳児の保育料、月十二万七〇〇〇円」——日本女子大学経営の保育所で、現行の六万六〇〇〇円を九二％値上げのモータール案に、父母たちはばう然。理事会は「人件費などからの逆算額」と回答。(2・14毎日)

少し安くなったけれど……

同理事会は二〇日、原案より一六・五％下げ、最高十万六〇〇〇円の改正案を同大教職員組合に提示。(2・21毎日)

ベビーホテル一泊一万円

①母親の労働権を守る②子どもの教育権を守る③母親が文化を享受する権利を守る―昭和二年、厚生省が保育所の目的とした三つの柱だが、今の保育所は、母親の労働権を守るのがせいぜい。昨年十一月、東京杉並区に開設された「メルヘン」は、母親の文化権を守ることを目標に、ゼロ歳児も障害の子も預り、二四時間保育も引き受ける。費用は二時間まで一六〇〇円、三分増すごとに五〇〇円、一泊一万円。(2・21毎日)

無認可保育所の実情

保育の賃金は五万円前後。預かっている数は基準以上。厚生省は「子は母が見るもの」が原則、過酷な労働状況を父母が支えあっているが、それも限界。

(3・28婦民)

ゆらぐ無認可保育所

保育所に入れない児童は全国で九七万人、不況下入所希望者は激増。全国で三〇〇〇か所の無認可保育所に国の助成はゼロ。十二年前に開所の牟礼共同保育所もその一つ。国の無策、周囲の無理解に傷つきつつ維持してきた草分け的存在。「子どものどん欲に生きる力」にひきつけられてここにとび込んだ山田菜穂子さんは助手として父母と共に市への交渉、施設の不備とのたたかいに明けくれる実践の中で「母親と集団保育とは車の両輪」と確信。(4・3毎日)

保育時間延長、労組拒否

大都市圏では全国的にはほとんどの自治体が長時間保育を実施しているが、東京では八王子など三市はまだ。八時間勤務の母親たちの十年越しの訴えが実り、

市当局は今年度からようやく開始することにした。

しかし労組では保育の労働過重と子どもへの悪影響を理由に反対。集団保育と自治体労働者のあり方をめぐって全国的波紋となりそう。(4・11毎日)

足りない乳児保育

山口県下松市には公私立六つの保育所があるが乳児保育はゼロ。

共働きの安田さん(28)は三歳の坊やを郊外の団地から市内保育所に七時半までに送り込んだつらい過去を語る。この団地から市内保育所に通う子が一〇〇人もいる、と団地保育所づくりに取り組む。(4・25朝日)

保母奨学金返済免除

福祉施設はため

福島県で「保母奨学金」で保

育学校を卒業、精薄者施設などに就職した二女性が返済免除規定に福祉施設がないため、卒後一年以内に児童施設に移らないと奨学金を返せと言いつ渡された。「保母資格を持つ寮母が必要」と関係者。「もともと保母不足解消のための制度なので」と国県。(9・12朝日)

映画になった保育クラブ

東京都板橋区立赤塚小学児童クラブの小学一年生から四年生までの四五人を主人公に「放課後の子どもたち」が完成。失われた子どもの世界を求めて構想されたもので、全国学童保育連絡協議会が企画に参加。カラー十六ミリ版三〇分。(9・17朝日)

団地ママが親子学級

母子がいっしょに遊びながら、しつけや遊び方を勉強していこ

働く婦人と保育

うという親子学級「チューリップ教室」が東京・江戸川区の団地に開設。民間主導型の親子学級は同区でも初めてのケース。区も保育資格をもつ職員を派遣、遊具類を補助し、「ぜひ成果を」と期待。教室の代表者は「最終目的は区立幼稚園の設置。それまでガンバラなくては」

(10・3朝日)

共働き家庭の学童保育問題

約一七〇〇人の関係者が集まり全国学童保育研究会が東京で開催された。

私設保育施設の場合は何よりも財政的な裏づけがなく設備環境が劣悪であり、公立の場合は絶対数の不足、運営面での質の低下が問題。今後は「自主共同保育の情熱プラス公立制度の財政裏付け」を目標とする署名運動を推進。

(10・12朝日、10・14読売)

「働く婦人と保育に関するシンポジウム」が東京で開催。

いま働く女性の六割は既婚婦人。なかでも、乳幼児を持っている女性は最も疲れているというデータが出たが、勤労意欲に関する調査では独身女性より意欲は上回るという結果が出た。

こうした意欲や新しい生き方への模索をしている子を持つ女性たちだが、不況のなか、企業の反応は「施設をつくってまで婦人を雇う気はない」とかなり冷たい。

(10・21読売、10・22朝日)

保母さん志願殺到

これまで慢性的な保母不足に悩まされてきた下町の各区は来年度新規採用試験シーズンを迎え、どこも定員を上回る応募者にうれしい悲鳴。遠い地方まで

呼びかけたり、個室の寮を用意したりの前年までの苦労がうそのよう、企業的女子学生しめ出しが原因か。

(10・28朝日)

“開かず”の保育所に陳情

東京・江東区南砂住宅団地内に建物が完成してはいるが、八か月も開園されないままの区立保育所(二か所)に、業を煮やした若い母親たち十四人が区役所に「一日も早く開園してほしい」と陳情。区は保母さん不足を理由に確答を避けた。

(10・29毎日・朝日)

保育園、いまの三倍必要

不況を反映して家業に従事する自営のお母さんがぐっと増え、働いていないお母さんも「家事や育児に追われて、働こうにも働けない」と過半数が訴えており「こんなに保育園の要求が強いとは……」と自治体は頭を抱えている。

(10・31毎日)

大阪に“リブ保育所”

〈関西リブ連絡会議〉が全日制の保育所を七月に発足させた。2DKのアパートを借り、「男性保母」採用などで、そのユニークな運営ぶりが話題。保育所のシステムは、月曜日から土曜日夕方までの六日制。二四時間保育のため、ローテーションをくみ、宿直を実施。夜間もリブ活動を心おきなくやる仕組み。

(11・5信毎)

運営ピンチ、零歳保育

長野県須坂市で、民間が市の補助で行う「家庭保育制度」が物価高で運営難。父母が他県までリンゴの産直販売をするなど深刻。「せめて、保母の身分を市の職員に」との声も。

(11・16 信毎)

ちぐはぐな幼保行政

行政管理庁がまとめた「幼児

の保育および教育に関する行政
監察」によると、保育所の対象
となる「保育に欠ける」幼児の
推計が、幼稚園と保育園側でま
ちまち。両者の整備計画は具体
的な地域別計画がない。

(11・25 朝日)

障害児も保育所に

「心身に障害があるからと保育
所から閉めだすのは、社会の障
害児差別意識を広げるもの」と
ダウン症児の母、平川さんは、
十日から八尾市役所の玄関に座
り込んだ。市は「重症の障害児
は保育所ではみんなについてゆ
けないし、保母不足からも無理
だ」の一点張り。「保育所で普
通の子どもも集団の中で育てた

い」とする障害児家庭はきわめ
て多く、平川さんらの運動が、
答申の具体化の引き金になるか
どうか。

(1・9 毎日)

障害児保育の実現を迫る

平川さん支援の動きが急速に
広まった。十二日午後には大阪
府下で障害児問題や差別問題に
かかる市民団体のメンバーら
約五〇人が集まり、一日も早く
平川さんが座り込みを解けるよ
う八尾市や府に障害児保育の実
現を迫ることを申し合わせた。

(1・13 毎日)

障害児全入の保育園

豊中市では昨年四月から、幼
稚園・保育園で障害児保育を公
的に認め、希望するすべての子
どもを受け入れる原則。

障害児の母親八〇人がその一
つ、岡町保育所を訪問。「隔離

施設では得られない」保育に感
動。

(2・5 毎日)

障害児保育に措置

大阪、八尾市では障害児を持
つ三人の母親の努力を支援する
人々の運動でやっと障害児措置
がみとめられた。この成否はす
でに「共同保育」を実施してい
る各自治体と共に行政・保育担
当者・親の三者が、今後いかに
その中身を充実させていくにか
かっている。(4・17 毎日)

〔子育て〕

若いお母さんの育児相談

このごろではその場のことよ
りも長い目でみた計画を尋ねら
れることが多い。育児には見通
しをたててかかることが必要な
ので大変頼もしい。医者や本に
あまり頼りすぎないこと。家庭

の事情や赤ちゃんの状態によっ
て育児も考えて、できるだけ楽
しんでやればいい。

(毛利子来 1・9 毎日)

ガンバレ若いお母さん

幼い子との生活は「つき合い
切れない」というところが多い。
元気な子は一日中あとを追わね
ばならず、おとなしい子は一時
もそばを離れてくれない。時に
は子どもを突き放し自分の時間
と生活をもつことが必要。子ど
もをもった不自由は、自分を太
切にしようとする母親の愛情に
よってのみ克服できる。

(毛利子来 2・6 毎日)

エンゼル一一〇番

育児電話相談を受けている東
京渋谷の赤ちゃん1110番が
「エンゼル1110番」を新設、
妊娠中の相談も受ける。助産婦、

保健婦受胎調節指導員などをスタッフに、育児の心がまえ、合理的の出産準備などアドバイス。

(5・1朝日)

オギヤの瞬間から重要

脳細胞は生まれた瞬間から一

〇〇%そなわり、脳の発達の一〇%が三歳までに。米国の保育所で、生後間もなくから環境を比較研究した結果、三か月間で精神発達の明白な差がみられた。

(多胡 輝 6・16信毎)

テレホン育児ますます盛ん

利用者は核家族の若いママがほとんど。年齢は二〇歳後半が六割、二〇代前半と三〇代がそれぞれ約二割ずつ。初めての赤ちゃんに関する相談が圧倒的(八割以上)。相談は湿疹、便秘、下痢など健康に関する心配が四割。ミルクを飲まない、食べな

いといった悩みが三割。最近は予防注射についての質問が急増。(11・4毎日、11・11東京)

〔母乳運動〕

厚生省が母乳推進

赤ちゃんは母乳で育てるのが本筋なのに、最近是人工乳育児が漸増していると、厚生省では今年から母乳育児運動に本腰を入れ、研究班を発足させる。

働く婦人の授乳のため産後休暇の延長を労働省に申し入れたり、粉ミルクの広告についても母乳優先を尊重するよう指導していく考え。(1・25朝日)

母乳運動その周辺

母乳育児を妨げているのは粉ミルク過信や母親の認識不足ばかりではない。PCBや農薬による母乳汚染を心配する母親も

多い。母乳中の残留農薬の濃度は下がっていない。働く母が母乳育児で職場を失わずにすむ状況をつくることも同時に提言すべきだ。(3・13毎日)

母乳運動への疑問

母乳運動ブームだが、母親側の状況をぬきにしている。環境汚染による胎児や母乳への影響も不問。出すぎる人の母乳を保管し、足りない人、出ない人に配分するシステム、外出する母が自分のをしほって保管し、他人が飲ませる方法など、スウェーデンの人乳運動に学ぶべきだ。日本の場合母乳ではなく、家庭に帰れに聞える。

(青木やよい 5・5毎日)

母乳、言語障害を予防?

ニュージーランドで行われた研究の報告によると、出生後数

週間母乳を与えることが、五、六歳の男児の言語障害を予防するのに役立つようす。母乳で育てられた男児は朗読能力、発音の明確さで、飲まなかった子に比べ明らかにすぐれているとのこと。女の子にはその差はみられず、理由は不明。(5・18朝日)

母乳運動

今進められている「母乳運動」には、人工栄養が子どもの精神や健康に悪影響を及ぼすといった意見がみられるが、これは当の母親を無視した画一的な押しつけ。すべての母親が安心して母乳を与えられるような家庭、労働条件、公害のない環境等、母親をとりまく状況を改善するのが「母乳運動」の方向ではないか。女同士の話し合いを。

(毛利子来 6・15毎日)

健康

自分のからだをよく知ろう

自分自身を守るためには、正しい医学的知識を持つことが必要だ。自分の性、からだについて無知であると不必要な薬や注射を受けることになる。からだの働き、構造などについて学習し、異状が現れて医者に行くのではなく、なぜそうなったかを考えるべきである。患者に何の説明もなく、すぐ薬を与え、注射をする医師を摘発すること。老人福祉の問題には力を結集していかなくてはならない。

(医師・穴山 学 2・28 婦民)

無痛分娩麻酔で妊婦死亡

無痛分娩のために笑気ガスの全身麻酔を妊婦に無断でかけたので妊婦が死亡。医師は心不全による死亡を主張。笑気ガスの無断使用で、さらに犠牲者が出ることが恐れられている。

(4・12 朝日)

家庭婦人の七割が自覚症状

都市衛生局が都内二〇—六四歳の女性三〇〇〇人を対象とした調査では、家庭婦人の七割が異常を訴え、うち医療を受けて

いるのは二割。半数近くは何も処置をしていない。定期検診の機会があるのは全数の四分の一、

検診をよいと思う人は三分の一、実際の利用者はさらにその三分の一。この結果から都は検診の質の向上や規模の拡大を図る構え。

(6・19 朝日)

気になる更年期障害

更年期障害は女性の二〇—四〇%の人に起きる。ピークは五〇歳前後。アメリカでは更年期の性について盛んに研究されているが日本はまだまだ。ひどい

障害は医師の指示が必要だが、精神的な強さも障害をのり切るのに大切だ。

(6・28 信毎)

女子医大生の無料検診

東京女子医大の無医地区研究会(顧問・石井妙子教授)の学生二〇人は静岡県小山町で二日から四日間、六人の先生と無料検診を行なった。七三年から、継続して保健衛生レベルの向上に取り組んでいるが、いそがしい母親に放置された子どもの虫歯、大人には高血圧が多いという。

(8・13 毎日)



農家主婦の貧血検査

長野県あづみ農協では十八日から、主婦を中心に貧血検査を開始。婦人部の貧血追放運動で、食生活への注意のよびかけなどが効を奏してきているが、農繁期でむりが重なりと再発することがあると、今年も各地区を巡回する。

(8・21信毎)

〔避妊〕

一年間OKの避妊カプセル

米マサチューセッツ工科大のニューバーン博士らの研究チームは、女性の体内に避妊薬を埋め込むための特殊カプセルの開発に成功したと発表。この方法だと一度の注入で避妊効果は一年以上継続するうえ薬がなくなるとカプセルも体内で溶ける。犬やネズミの実験では一〇〇%の成功を収めたが人体実験には

まだ三年ぐらいかかる予定。

(1・8毎日)

経口ホルモン剤の恐怖

オーストラリアの小児病医院の調査では、三つ口の子二二〇人中、二二人の子の母が妊娠五〜八週中に妊娠の有無を知るためのホルモン錠剤を服用。政府は薬の輸入や販売を禁止。日本でもEPホルモンの名で製造販売されているが、ビルもこの仲間。

(1・15朝日)

男性用ビル発見

メルボルン市の医師夫婦が安全で効果的な男性用経口避妊薬を発見。女性ホルモンと男性ホルモンを適切に組み合わせたもので、副作用は少ない。八か月の試用では、九週目から十八週目に無精子になったとの報告。

(3・3朝日)

ビル解禁をめぐって

世界のビル使用人口は五〇〇〇万人。日本でも四五万人が使用。問題の血栓症は日本を含むアジア・アフリカでは出現率が極端に少ない。避妊効果は現在の避妊法の中では抜群。ただ、子を産み終わる、長年避妊の必要がある人には、IUDや卵管結さつのほうが副作用は少ない。

(4・17毎日)

ビルの服用は用心して

ビルを飲む女性は毎日十分な栄養をとっていないと悪性貧血を起こし、使用後妊娠した時は胎児の脳の発育に障害を与える怖れがあるとアメリカのダーフアン・A・ルー博士が警告。原因は葉酸の欠乏だが、日本ではまだ研究が進んでいない。野菜を多くとること。(8・21毎日)

〔添加物・薬害〕

豆腐でAF2中毒

発ガン性が立証され生産販売禁止のAF2による豆腐製造業者の皮膚炎や神経障害が問題となっているが、豆腐好きの主婦が、コメ代わりに毎日食べ続けた結果、全身のしびれ、耳鳴りをおこし、高橋暁正東大講師はAF2中毒症と診断。この主婦はメーカーと国を相手に損害賠償の民事訴訟を提訴。

(2・19毎日)

ふたたび石油たんばく

安倍農相が「安全性が確認され、国民的合意が得られなければ一切認めない」と約束したおひざもとの同省研究機関が、これを打ち消し、早期実用化をうながす論文を発表し問題になっている。この論文は、飼料資源

開発研究の責任者のポストにある吉田実研究室長が「醗酵協会誌」(七五年一号)に「SCP(微生物たんばく)の飼料化をめぐる諸問題」として発表したもの。

吉田氏は「あくまで個人的な見解で、農林省の隠された意図ととられるのは心外」としているが、消費者団体は農林省の真意ではないかと反発している。

(3・26毎日)

〈拒否する会〉

農林省を追及

「土を生かし、石油タンパクを拒否する会」は、渋谷消費者センターで会合を開き、出席した農林省に対し同省が五〇年度から家畜飼料用に開発研究を進めるSCPの中に石油タンパクも含まれているのではないかと追及した。

(4・9毎日)

ベットで奇形児が――

ベットを飼っていると奇形児が生まれるという不安が妊婦の間に広まっている。信州大産婦人科の話では、一般論としては関連があるが、その因果関係は不明確で、ふつうでも奇形の発生率は二・五％。ベット飼育即奇形児出生というのはどうか。ただ妊娠初期の人は直接動物に触れぬほうがよい、と。

(6・19信毎)

植物たんばく静かなブーム

食糧危機、捕鯨禁止等で、従来肥料や飼料に回されていた脱脂大豆や小麦グルテンが見直され出した。低脂肪高たんばくの自然食品で、価格は肉の三分の一とあって、将来のたんばく資源不足を救う武器と、世界中で注目されている。

(6・23信毎)

リジン使用で学者らは反論

学校給食用小麦へのリジン添加をめぐる安全論争。文部省や国立衛生試験所の検査では問題なしとの結論。高橋昶正氏らは少しでも発ガン物質は排除すべきだと主張。長野県でも近く結論を出す。(6・21、28信毎)

三角筋短縮症北海道で多発

新しい注射被害として三角筋短縮症が報告された。北海道岩見沢では一九〇人の患者が発見され、〈大腿四頭筋短縮症の子どもを守る会〉は「すべての注射による被害を救済する」新方針。(6・30信毎)

種痘で脳症に

秋田市で種痘を受けた一年七か月の男の赤ちゃんが、九日後に接種が原因とみられる脳症を

起こし、治療を受けている。予防接種による事故は七〇年をピークに減少しているが、毒性の弱いワクチンの開発や接種方法の検討が必要。(7・2信毎)

ウレタンも発ガン性の疑い

塩化ビニール、チクロが発ガン性ありと使用禁止になったが、ピラビタールを成分にした鎮痛剤に溶解補助剤として使われているウレタンも発ガン性の疑いがあると大阪大が発表、中央薬事審議会で調査を急いでいる。ウレタン使用の鎮痛剤は現在十品目流通している。(7・24信毎)

クロマイ訴訟

クロマイの乱用により再生不良性貧血で八歳の娘を亡くした杉並区の両親が国と製薬会社、医師を相手どり、慰謝料、損害

賠償請求を訴えた。サリドマイド、キノホルムなどに次ぐ六番目の薬害訴訟。まさに薬害日本。
(8・1毎日)

〔合成洗剤〕

合成洗剤の不安なくせ

参院公害対策特別委員会では、主婦の三五%が洗剤で皮膚障害

を受けているのに安全とはおか

しい、催奇形性や発ガン性、PCBとの複合汚染について早急に研究を、学校給食の野菜、果物洗いから合成洗剤を追放せよと関係各省を追求したが、各省とも逃げ腰。
(3・27毎日)

合成洗剤毒性裏つけ

合成洗剤の毒性をめぐって学

界や消費者団体とメーカー側が対立しているが、都衛生研究所の毒性検査でマウスの受胎率がわずか二八・六%という結果がでて、毒性間違いなしと結論。今後人体影響などについて研究を進める。
(6・22信毎)

三一日から開くが、その重要議案の一つに給食調理員の「手荒れ被害」を取り上げる。大阪では、重症の皮膚障害にかかった三人が公務災害の認定を受けたが、他はまだ。合成洗剤から石けんに切りかえる運動も活発化しているがこれにも難点がある。
(7・30毎日)

リジン添加は自主判断で

各県に緊急通知

九が 月中絶送検

宮城 医師と母ら殺人で

合成洗剤は安全か

主婦の不安なくせ

使用基準あいまい



あきらかに見えるのは一（東京・毎日紙で）

逃げ腰の政府答ふ



年金にも響く

差別



女火消しは無償

出稼ぎや若者の都会流出で、岩手県内の婦人消防協力隊員数が、男子消防団員数を上回った。ある地区では男の団員十六人のうち、ふだん地区に残っているのは五人だけ。逆に婦人協力隊は四〇人。山火事的时候は十キロの水のタンクをかつぐ。消防団員は手当が出るが婦人消防協力隊は無償。「男みたいな女ばかりだからまかせて」と。

(1・13朝日)

女は三九まで

東京世田谷の保母経験九年、いま主婦専業の四二歳氏、区立保育所に再就職を希望したが三九歳の年齢制限で断わられた。

(1・28朝日)

男女別だて募集

早大の就職内定者は昨年末現在で男子七〇%女子四五%。求人企業は六〇〇〇社にのぼるが女性に門を開いたのは八%足らず。それも男女別だて募集。自宅通勤などの制約がつき、男子

は学力試験、女子は一般教養程度。男女同じ条件で採用する会社は珍しい。

(3・20朝日)

真っ先に首切りの的

秋田県能代市のA工業では昨年九月女性パート全員を解雇。十一月、三九歳以上の女性社員二六名をクビ。不況下では日雇労働の夫の仕事も少ない。労組は「女は一家の大黒柱でないから」と取り上げない。ストもならず、二月末「なんで女が犠牲にならなければならないか」とビラをまく。この一年、男性の

失職者二万、女性は五三万人。

(3・23朝日)

共働き教師は校長に不適任

教員の妻を持つ夫は管理職に不適格と、校長のポストと妻の退職を交換条件に迫られ、定年一年前に退職をすすめられた山口県の江中先生、「妻をイケニエにポストにつくのは差別」とヒラ教員で頑張り、県人事委に訴えた。山口県の小中学校では、妻が教員をやめねば夫は教頭にはなれず、これに見習う府県はふえるばかり。

(3・25朝日)

学問の世界にも男女差

A子さん(31)は京大工學部の教務技官。男性にとつては、助手のポスト待ちの身分であるが女性にとつては待つべきポストはない。後輩の男子が助手に昇格するのをむなししい思いで見送る。研究室の雑務に追われ、ゼミや共同研究の成果もあげられない。それでも研究をつづけたいばかりに給料も低く時間にしばられる身分に割り切れぬ思いを抱きながら職場を離れられない。(3・27朝日)

まだ残る実質的結婚退職制

名古屋放送の「三〇歳定年制廃止」の勝訴以来、結婚退職制や若年定年制はさすがに姿を消しつつある。しかし会社の慣行として暗に既婚者をやめさせようとはたつきかける実質的定年制は今も根強く続いている。東

京の文具メーカーに勤めているY子さん(26)は結婚一か月後会社から退職を言いわたされたが、労基署に文書で訴え撤回させた。仲間の二人は結婚後「慣行」とおり辞めていった。(3・30朝日)

勤続二六年でヒラ社員

独身で仕事一途のA子さんは四七歳の商社員。輸出関係の書類づくり、タイピストのまとめ役やら上役からの人事の相談まで実際は管理職として活躍しているが、同社には女性管理職のポストなし。男女の別なく仕事を評価してほしいという声に、男性は「なぜそんなに出世したがるのか」。

管理職中の女性比率は、日本では五・九%、アメリカ一五%。(4・2朝日)

初任給は同じでも

大手繊維メーカー、どちらも中卒で三五歳。M夫さん月収十三万円、F子さん八万五〇〇〇円。三五歳になれば男性は責任者となり、世帯手当、家賃に応じた住宅手当がつく。女性は三〇年間も切れた糸をつなぐ仕事だけで十万円をこそそこ。ある銀行では事務主任の試験もあるが女性は人事考課で落とされる。生活を支える男性を落とすと組合が黙っていないとか。女性はいくまで家計補助者として考えられていない。

(4・4朝日)

母性保護理由に配転

横浜の東洋銅板で産休あけに購買係から独身寮職員に配転になった女性、地裁に地位保全の仮処分を申請し、一審では「配転で働く意欲を失わせ退職させ

ようとの推認」という裁判所の判定で勝訴したが、二審では、「産後の低能率者に一人前の仕事を与えるのはかえって人権問題」と母性保護を逆手にとった会社側の主張が通り、敗訴。現在本訴を起こし公判中。

(4・8朝日)

産休をとったゆえに先生自殺

東京都港区で六か月の乳児をかかえる小学校教諭が自殺。産休を十六週間とったところ「規定いっぱい産休をとるような女教師に、うちの子を任せられない」と一部の母親たちに突き上げられ、自信を失ったものとみられる。

*

基本的には、男と女の先生に力量の差はない。出産、育児などが女教師に教職に専念するのを妨げることは起こり得るが、それなら母性を支える制度の保

障を要求するのが母親本来の主張であるべきだ。

(樋口恵子 4・13毎日)

出産の権利女教師にも

社会は、子を産む女を守る義務があり、女たちは子と自分の身体を守る権利があるはず。かつて自分たちも乳児をかかえた若い母親ではなかったか。教師とても女であり母である。母親たちは、女教師一人に大きな犠牲を強いるべきではなく、女という同じ戦線に立ち、母性と子どもの権利を主張し、守ってゆべきではないか。

(投書、4・20朝日)

差別、賃金格差なくせ

同盟の塩本婦人委員会主査らは、ILO一一号条約「雇用および職業についての差別待遇に関する条約」をすみやかに批

准し、男女間の差別を廃止し、同一賃金法を制定することを長谷川労相に申し入れた。

(4・18毎日)

女性保護法は足かせの時も

米国防省婦人局長、カルマン・マイミールさん来日。

アメリカでは、女性差別に利用されそうな、女子の夜勤や過動に関する法律は廃止し、逆に重量制限規定などの法を男性にも適用することが、女性の職場を上げ賃金を引き上げる道と考えている。米国憲法の男女平等修正案もあと三州の批准を得れば成立させられる。

(4・18読売)

父子家庭にも年金を

働きながら男手一つで子どもを育てる苦労は母子家庭以上に、国も自治体も、父子家庭に

は社会保障ゼロ。収入がよいとか再婚率が高いことを理由にされているが、差別である。兵庫県尼崎市は昨年四月から年金制度(月三二〇〇円、一人ふえるごとに一〇〇〇円増)を実施、新潟県中里村でも父子手当(月額一〇〇〇円)を支給している。尼崎市を見習うよう運動をすすめたい。

(〈父子家庭の会〉梶山政治)

(4・23サンケイ)

四五歳以上の女性に退職勧告

福井県のある町。財政難対策として四五歳以上の女子職員八名へ「退職勧奨のご案内」を送付。

通達後半月の期限つきで返答を迫る町長に対し、自治労県本部は地裁に訴える方針。また県地方課は「期限つきは好ましくない」と町当局へ注意。

(5・29読売)

霊山の女人禁制

七、八世紀ごろ役行者が開いたという山岳宗教の霊場、四国の石槌山は、七月一日の山開き、二日の大祭とも女人禁制。エベレスト登頂の時代というのに。

(7・2朝日)

「子ども産まぬ」が採用条件

二四日から京都で開催の〈反原発全国集会〉で、中国電力島根原子力発電所が定期点検の臨時工採用に「子どもを産む意思がない」ことを確認させているとショッキングな報告。二号機建設はもとより、運転中の一号機も停止させなければと一同。

(8・26毎日)

活動

〔グループ活動〕

地方自治勉強の婦人学級

目黒区婦人学級の一つへしらうめ会は地方自治をテーマに研究討論を重ね、署名運動などの活動を。「選挙制度と都市問題」「ゴミ問題」「目黒区史について」「公園緑地について」「川と私たちの生活」などがこれまでの各月テーマ。(1・19東京)

ただの女たち 集まろう

国沢静子さんらのグループ

〈主婦センセン〉が、最も抑圧される「子もち専業主婦」が関与することが女性解放の基幹だと「主婦(オンナ)を問う」集会を二月二十七日、池袋消費者センターで開催する。(2・14婦民)

たたかう女の〈女・エロス〉

七〇年夏、全国リブ大会での出会いが縁で意気投合した女たちが、それぞれの手記「女の思想」を出版したあと、女性解放の理論誌「女・エロス」をすでに四点出版、醒めた女の視点で状況をとりえる。(2・28婦民)

婦人民主クラブ創立記念の集い

紆余曲折二九年の歴史を知り、活動の基にしたいと、三月十五日、婦民ホールで佐多稲子委員長らとともに語る集いを。「本当の解放を目ざし、国際婦人年にふさわしい活動で足場を築いていきたい」と湯浅書記長。

(3・28婦民)

子持ち女同士で

いったん妊娠すると、今の社会では子どもが学校に入るぐらゐまで母親は閉鎖的な生活を余

儀なくされる。「そんな女が集まって手をつなぎ、情報を交換しあう場をつくらう」と呼びかけるグループ〈あんどあんで〉。レディース・ボイス社が呼びかけ人。時間単位(有料)の保育所も設ける。(4・4毎日)

〈行動する女たちの会〉発足

正式名称は〈国際婦人年をきかけとして行動を起こす女たちの会〉、一月に発足。世話人は市川房枝、田中寿美子さんら十人。井上ひさし、草柳大蔵、上坂冬子の三氏に「男本位の女



づくりに貢献」の表彰状を郵送。

(4・10朝日)

差別体験を語る

五日婦選会館で、十一歳から六九歳までの〈行動を起こす私たちの会〉の女性一〇〇人が差別体験の実体を語り合った。

実力も経験もあるのに十年間も臨時雇用のままの女性編集者、女性教師も多いのに女は家の仕事をしするものと教える教育。出口のない主婦の座から、地域、反戦運動を通じて自由をたたかいたった奥さん。税制上の保護を訴える独身女性、「生意気だ。女のくせに」といわれるという小学生など。「あらゆる面で私たちは行動を起こします」の宣言文で閉幕。(4・10毎日)

一日駆け込み寺

婦人年国際会議が開かれる六

月二二日、千葉有職婦人クラブが、千葉市中央コミュニティセンターで「一日駆け込み寺」を開く。(5・21朝日)

女のグループ全国で約八〇

国際婦人年を記念して「婦人コーナー」をつくった三省堂書店が、全国の「女のグループ」を調べたら約八〇。東京都内が約五〇、それぞれ機関紙、ニュースなど発行。(6・21毎日)

「私の声」南信地区のつどい

二〇日、下諏訪町で。出席者三〇余名。テーマは「私たちの台所作戦」。この地方は精密企業の密集地で不況の影響をじかに受けているが、この不況を契機にムダを整理し、価値観を問い直そうと討論が行われた。(6・26信毎)

亡命に協力した日本女性たち

チリの女性政治犯の家族には励ましの、政府には釈放要求の、ベルギー政府には亡命要請の手紙を送り、救援の国際キャンペーンを行なった日本女性グループ(ハムネスティ・インターナショナル日本支部)に感謝の手紙が。(7・4毎日)

青空野菜市

塩尻市連合婦人会は昨年に引き続き今年も市民会館前で青空野菜市を開く。種類や量を昨年の一・五―二倍に、値段は市価の三割安。(7・23信毎)

〈行動を起こす会〉合宿

通称〈女たちの会〉(会員五〇〇人)が二六日から三日間、茨城県の鹿島ハイツで討論合宿を行なった。普通の主婦を中心

に、学生、教師など。鹿島を選んだのは企業公害と闘う市民運動の中から独自の考えをもつ女性がいると思い、その人たちと連帯したかったからと。(8・30朝日)

婦人消防隊が訓練を披露

墨田区本所三丁目の町会に婦人消防隊が誕生、防災の日に訓練ぶりも披露した。隊結成の動機は配布された三角バケツを物置などで眠らせないため。六〇人が参加して消火コンクールも行なった。(9・2朝日)

〈女子学生の就職問題
を考える会〉結成大会

日本女子大など都内四女子大学生自治会を中心とするこの会は、自らの手で厳しい就職差別と闘うというもの。四年制の女子大生や下宿生はダメ、など就

職難のなかで公然と行われている女性差別の実態を調査し、特に悪質な企業名を公表する。

手はじめに政府、日経連などへの要請文提出を予定、今後都内の全女子学生に参加を呼びかける。(10・16朝日・東京・毎日)

女子学生就職陳情

〈女子学生の就職問題を考える会〉が首相官邸、文部省、労働省、日経連、経団連などに対し「実力行動」第一弾を行い、各々要請文を手渡した。前日の会の結成大会に比べると、静かな動きだった。(10・16毎日)

K子さん事件を闇に葬るな

生後九日目の乳児(M君)を相手の男に奪われた大阪の教師、K子さんが返還訴訟を起こし「未婚で働く母親は不適格」と差別判決をうけたのは七二年三

月。その後実力でM君を取り返し、和解調停の末現在は母子共に暮らす。未婚で子を育てる。ことで新たな差別に直面。

女性解放教育研究会がパンフを作り出版記念シンポジウムを大阪で行なった。女が一人で働きながら子どもを育てる困難さ、未婚で出産予定の女性に解雇の事例報告、「非嫡出子」の差別の実態をほり起こす必要性などが語られた。(11・14婦民)

〔集会〕

婦人年大阪連絡会第一回集会

三月八日、四〇余の婦人団体〈国際婦人年大阪連絡会議〉による国際婦人デー大阪集会が大阪国民会館に二二〇〇名を集めて開かれ、市川房枝さんの講演、パネラーの問題提起、集会アピールがあった。今後一か月ごとに集う。(3・28婦民)

同盟系の全国婦人のつどい

民間労組から約一〇〇〇人の女子組合員が参加。男女賃金格差が大きなテーマで、「女子の賃金は男子の半分以下」「ベアの配分を署名運動で妥結」などの声。(5・29読売)

働く婦人の中央集会

二五日、東京豊島区の文京高校で開催。参加者二〇〇〇人。今年の全体テーマ「保護と平等をめぐって」三五の分科会で討議。(5・26各紙)

*

保護か平等か―男と同じ仕事をしたい女に保護のおしつけは困るが、いま保護をはずせば健康にむり。労働条件を高めるとともに、男子の家事分担を、と梶谷典子講師。企業は保護廃止を狙うが、欲しいのは若く安い短期労働。利用される一部のエ

リート女性の平等論の一般化より、労務管理の一八〇度転換、と榎井常喜講師。保護には賃金ドレイでないという先駆的意味がある、男も女をまねて休息をと星野安三郎講師。(5・29読売)

国際婦人年記念シンポジウム

国連NGO国内婦人委員会主催の「現代における日本の婦人問題を考える」シンポジウムに約六〇〇人参加、六月七日東京YWCAで。

総理府の女性調査のひどさを引用、「女性の甘えが差別を助長している、家庭内で父母がはたして平等か、から考えて」と竹中の子さんが基調講演。

マスコミに現れる性差別を告発せよ。男性の家事が「手伝い」意識ではどうにも。夫婦財産は別産制がよい。母性をハンディとする米国より、大切な社

会機能として男性も含め、社会で担おうとするスウェーデン式の考えがよい。もっと公職につき、もっと婦人議員を送る。トルコ、テレビ、週刊誌の性の商品化増加を警告せよ、など意見統出。(6・9・12各紙)

国際婦人年長野県大会

松本市の市民会館でも国際婦人年記念県大会が開かれた。「男を追い抜け、追い越せてなく、女の立場に甘えず、男性の技術に追いつく努力をしただけ」と時計技術の世界的コンクール受賞の中山さん(諏訪精工舎勤務)。それぞれの運動の足どりを追ひ「婦人団体三〇年の歩み」を「証言」。(7・5信毎)

国際婦人シンポジウム

「今日の世界における婦人の役割」をテーマに、英・独・ガー

ナ・マレーシアなど十四か国の女性を招いて、八月一日、東京で話し合い、YWCAが同会創立七〇年と国際婦人年を記念して催したもの。(8・3読売)

〈母と女教師の会〉中央集会

八月九・十の両日東京で開かれ、一五〇〇人が参加、中教審路線の危険性を討議した。選別教育は子どもばかりか教師をも上級、下級に分け、女教師の大半は「下級先生」になってしまふ。女教師や母親自身が性差別、互いの足を引っ張り合う面も考えようなど。(8・12読売)

第二一回母親大会

母親運動二〇年、被爆三〇年、そして国際婦人年と、幾つかの節目が重なり、八月十七・十八日「男女の平等」を主題に、四七の分科会や、七つのテーマを

かかげた問題別集会に分かれて熱心に意見を交換し合った。(8・19・20読売・毎日・朝日)

全国保育園団体合同研究集会

長野・湯田中温泉で開かれた第七回集会の「産休明け保育」分科会では、ゼロ歳児を保育所に託して働く父母と父母との生活・労働観の違いが問題の深さを物語った。参加者はこの困難をのり越えるための申し合わせをした。(8・22毎日)

婦人科学者会議

日本科学者会議主催の婦人研究者問題全国シンポジウムが、大阪のなにわ会館で開かれた。研究者をめざす女性はいふたのに、就職先がない。やっとみつけた非常勤の口は給料が安く、身分が不安定、という実態が明らかにされた。(8・24朝日)

全P研全国大会

全国PTA問題研究会第四回全国大会が二三・二四の両日、東京で。五〇〇人参加。「本音を出し合おう 父母と教師」「PTA改革のきのう・きょう・あす」「教育運動のすずめ方」という三つの分科会で、報告、討論が行われた。(8・27信毎)

国際ゾンタ・アジア大会

婦人の地位向上と社会奉仕をめざす国際ゾンタの第三回アジア地区大会が名古屋で開かれた。アジア各国から約七〇人、日本の九ゾンタクラブから約一五〇人の指導的立場にある女性が参加。「アジアに於けるゾンタの役割」を主題に十のグループに分かれて論議を展開。(9・16毎日)

第五回離島婦人会議

東京・晴海の日本離島センターで開催。北は北海道の焼尻島から南は鹿児島県屋久島まで、三一の離島から三五人の婦人が参加、農業や漁業などの地域産業を育てていくために身を粉にして働いている婦人たちの現状を報告し合った。(9・22毎日)

こだまの会

名もない女の歴史を書き残そうと、読売新聞「赤でんわ」に、投稿が掲載された人たちがつづけている「こだまの会」では、提唱者の澤地久枝さんを囲んで語りあった。(9・30読売)

「職場の男女平等」懇談会

長野婦人少年室は、中信地区の女性従業員が多い事業所十七社の労務管理者を集め職場にお

ける男女平等のテーマで懇談会。事業所側からは職場内の昇進試験、勤続年数など、問題は婦人の労働意欲にあるという意見が多く出された。(10・9信毎)

婦人のつどい

東京都主催。中央区の勤労福祉会館で。メイン行事の講演とデイスカッションに約六〇〇人の婦人が参加、舞台と会場が一体となつて「男は仕事、女は家事」の男女分業へ怒りをぶつけた。(10・17読売)

二つの世界大会

先のメキシコ市の世界会議は国連主催で各国の政府代表やNGO代表が参加したが、婦人団体や労働組合の婦人ら民間の女性たちが集う会も二つ。

一つは東ドイツのベルリンで、国際婦人年世界大会。国際民主

婦人連盟(WIDF)の提唱、国連を含む四六の国際・地域組織が主催する革新色濃い集会で、「平和・平等・発展」に「民族解放」をつけ加えている。

もう一つはメキシコ市で、第十一回の国際自由労連世界大会が開かれるのに先だつて婦人年を記念する講座「婦人労働者の権利と機会の平等に関する講座」とシンポジウム「平等の権利および経済・社会・労働組合分野における婦人の統合に関するシンポジウム」が開かれる。主催は同労連。(10・17朝日)

ユネスコ国際シンポジウム

イランのベルセポリスで開催。

ユネスコ本部がイラン政府の協力を得てまとめた報告書が発表され、国王の妹アシュラフ・パールレビ王女は「文盲八億のうち七割が女、という問題を解決しない限り、婦人解放はあり得な

い」と演説。(11・1朝日)

官製反対 活発な集会

国際婦人年記念日本婦人問題会議に「草の根の女たちの声が反映されない官製集会は無意味」「天皇臨席は何のため」と反対の声をあげている女性グループが多い。

二、三人の小グループまでぶくむ集まり、「女のグループ連帯集会」も計画されている。国際婦人年メキシコ会議トリビューンに出席した有志が呼びかけて「女のグループ連絡会」(新宿・へあごら内)が発足、連帯の動きが芽ばえている。(11・1毎日)

国際婦人年記念

日本婦人問題会議

総理府、労働省、国連会議主催の「国際婦人年記念日本婦人

問題会議”が、五日港区の東京プリンスホテルで始まった。天皇・皇后が出席したが、「草の根の女たちの声が反映されない官製会議は無意味」「女性抑圧機構の頂点にある天皇の臨席は婦人解放の精神を踏みにじるもの」と各種の女性グループから批判が続出。(11・5各紙)

*

市川房枝さんは「長い弾圧の歴史を思うと、政府自身の手でこのような男女平等、開発、平和への参加の式典が行われることは感慨深い。だが、内閣に出来た〈婦人問題企画推進本部〉が男ばかりで、将来に期待が持てない」と祝辞。(11・5朝日)

会場外ではリブがデモ

会議に抗議するリブグループによる「ゲリラ活動」のうわさがあつたため、会場周辺は厳戒態勢が敷かれ、リブの関係者と

みられる女性には警官が離れず、行動を監視。(11・5朝日)

全国消費者大会

「インフレ、不況からくらしを守ろう」をスローガンにした第十四回全国消費者大会が都内の四会場で開かれ、約二〇〇〇人の参加者は値上げ三法案をはじめ、今後予想される公共料金の値上げに反撃する体制を固めた。これまでの陳情型運動を脱皮して、価格のからくりを消費者の手で解明したうえで値上げの不当性を追求することが重点。(11・6毎日)

まず平和を

東ベルリンで開かれた「国際婦人年世界大会」に参加した日本婦人代表団の帰国報告会が、新宿の日本出版クラブで開かれた。

国際婦人年のスローガンは平等・発展・平和であるが、この大会ではまず平和がうたわれ、平等の確立も平和あつてこそといった雰囲気でした、と大会議長団のメンバー山本まき子さんの総括印象。(11・7読売)

東京展で女性解放シンポジウム

男中心の文化の偏見を変え対等な女文化をと、三日の「東京展」会場内で女性解放グループ連合体〈女の波〉がシンポジウムを開催。バイオリン演奏、詩の朗読、講演など多彩な内容だったが、中でも五人の女性によるシンポジウム「エロスとは何か——美の意識革命」が好評。(11・8毎日)

政治参加を進める

メキシコ市で開かれた国際自由労連の世界大会に出席したぜ

ンセン同盟の多田とよ子さんは、七年前の大会にも出席。今回は政策決定機関への女性参加が強く打ち出され、それぞれの国で行動計画を決めて、何らかの形で前進させるよう図られていると報告。(11・9朝日)

手を結んだ婦人団体

「なくそう男女の差別、つよめよう婦人の力」をスローガンに、二二日「国際婦人年日本大会」が東京・神田の共立講堂で開かれた。四一の全国組織民間婦人団体が自主的に手を結び、昨年暮れから約一年がかりでみられたもの。(11・24各紙)

女の分断を連帯に

〈国際婦人年をきっかけとして行動を起こす女たちの会〉が五日から三日間、一年間の総括集会を開いた。(12・9各紙)

国際婦人年をふりかえると

婦人問題懇話会主催シンポジウムは「国際婦人年の総括と展望」で、田中寿美子氏が婦人年は三つの成果をもたらしたと報告。「婦人問題の視野の世界的ひろがり、国内婦人運動の戦線の拡大、婦人運動の課題の明確化」がその三点。

今年は国内の婦人運動も多様で、婦人参政権獲得当時のような活気をみせた。暦の上での婦人年の終わりは、「世界行動計画」実行の時となるべきだ。

婦人年資料としては、『あら』十二号などをすすめたい。

(12・30毎日)

〔抗議・要請〕

国連で日本政府を告発

昨年十一月、北沢洋子さんは国連の「アバルトヘイト特別委

員会」で日本政府、企業の南ア政策を告発、注目を集めた。

「南アは悪名高い人種隔離制度の国。日本は国連のアバルトヘイト非難決議に賛成投票しながら、独裁政権へのテコ入れを行い、現地に自動車、家電などの組立工場を続々建設し、クローム、マンガンばかりでなくウランをも輸入することになっている。政府とでなく、民衆と手を結ばなくては」と。(1・17婦民)

郵便料金値上げ中止を要請

郵政省はすべての郵便料金を値上げし(ハガキ三〇円、封書五〇円、第三種は五倍の三〇円)七五年十月一日から実施を決定した。〈婦人民主クラブ〉は書記長らが郵政省をたずね、「公共料金の値上げはすべての物価に影響する。第三種的大幅値上げは市民運動、団体の死活にかかわる」と、値上げ中止を

要請した。今後も各ミニコミ紙、団体に呼びかけ運動を展開していく。(1・24婦民)

P T Aも道路反対運動の輪に

上下十車線の大幹線道路が杉並区の住宅街を通り、学校や老人ホームのある環八寄りにインターチェンジが出来ることに〈高井戸地区公害対策委員会〉〈富士見ヶ丘子どもを守る会〉等が反対運動を続けてきたが、永久凍結の請願を区へ提出した。(3・21婦民)

中ビ連が男を「告発」

医学会総会の開かれる京都へ、〈中ビ連〉が乗り込み、「離婚宣告をされ、生活費ももらえない」と奥さんから告発された某医師に詰めより、ついに警官隊が出動。榎代表らは女性抑圧を

続ける医学界に反省をうながすため「医学会総会にも乗り込む」と。(4・6朝日)

良妻賢母は問題

新宿で「赤いカーネーションよ、さようなら」のピラをまき「良妻賢母の母の日」に反対する運動を〈子殺しを考える会〉の主婦二十数人が十一日の母の日に行なった。続発する子殺しの母親たちはごく当たり前の母親と同じ状況の人たち。すべてをわが身一つに背負い込んだ結果の子殺しなのだ。「子殺して母性が論じられることがあっても、父性が論じられないのはなぜか」と神戸大教授橋本峰雄さんは問う。(5・16読売)

「母親パワー」町を動かす

長野県埴科坂城町では町立四保育園の保育料三〇%アップを

町議会上に提案。町内の反対委員会の運動にもかかわらず可決されたが、町理事者は母親たちの訴えに応え二五%アップにとどめる方針。

(6・21信毎)

「おいらん道中」に反対

イタリアのベネチアで開かれるレガッタ祭に日本の伝統芸術として「おいらん道中」を披露しようとする浅草観光連盟に「売春問題ととりくむ会」(市川房枝さんら)が抗議。近く反対のアピールをイタリアの婦人団体に送る予定。しかし地元は着々準備を進めている。

(6・25朝日)

女らしさにかみついた

「婦人たち

「国際婦人年をきっかけとして行動を起こす女たちの会」の女性たちが、「マスコミに猛省を

促す運動」を始めた。NHKに抗議する要望書を突きつけたのに続いて、民放各社の「けしからん」ドラマや歌謡曲もやり玉にあげ「差別CM」を改めないスポンサーには、不買運動を起こすという。

(9・24・27朝日、10・11東京)

むなしく響いた主婦たちの声

「行動を起こす女たちの会」の子連れの専業主婦たちが、「すべての母親に社会参加の道を開くための保育対策を」と要望書を持って総理府内の婦人問題担当室を訪れた。室長の公式答弁は「ご要望は参考になります」という官僚的な一言だけ。

(10・24毎日)

“差別CM”やめませう

「私作る人、僕食べる人」のコーナーについて、ハウス食

品工業は「社会的影響なども無視できない」として放送を中止することに決めた。

(10・28朝日)

「郵便料金値上げに反対する

ミニコミ大共闘」結成

小包料金を平均四八%、ハガキを十円から三〇円に、封書二〇円を五〇円に、第三种郵便は六円から三〇円の大幅値上げに、

値上げは市民活動を封じるものと、十一月十七日、婦人民主クラブ、日本消費者連盟、日本ミニコミセンターなど六団体の呼びかけで値上げ反対の全国集会がもたれ、六〇団体が共闘組織を結成。社・公両党の議員も参加。

第三种郵便料金的大幅値上げが活動に響く、の声は切実。

(11・28婦民)

「ミニコミ大共闘」が公聴会

十一月二〇日、国会の延長会期切れを前に酒たばこ値上げ法案が通過。続いて郵便料金値上げ法案を審議。

「ミニコミ大共闘」は、九日参議院会館で、各政党に呼びかけて公聴会をもった。社会、公明、二院クラブの三議員と会談ののち、郵政省を訪れ、値上げ絶対反対の要望書を手渡した。

(12・19婦民)

〔公害〕

花王石けんに合成洗剤中止要求

一月三〇日へきれいな水といのちを守る合成洗剤追放全国集会」実行委員十三名は事後処理として、花王石けんに①合成洗剤の製造中止、②暴力による発言妨害の株主総会の無効、③台洗の被害者への補償を要求した

が、総務部長は「確かな被害事実があれば補償するが、普通の使い方をすれば害はないし、総会に暴力はなかった」と「今日はただ聞くだけ」の態度に終始。同会は今後花王製品の不買運動を続けること、二月十九日に社長と面会することを確認した。

(2・14婦民)

洗剤問題国会審議延期に

「きれいな水といのちを守る合成洗剤追放全国連絡会」は、三月十一日「合成洗剤の製造・販売・使用禁止と水質汚染防止、水質源確保に関する請願書」を各省に提出した。自・民・共産は拒否回答。公害委員会での質問は自民側参考人が辞退したため延期された。(4・4婦民)

洗剤追放、拡がる草の根運動

七月二十七日、岡山で合成洗剤

追放西日本シンポジウムが行われた。回を重ねて毒性についての議論は終わり、今は追放の時期。各地から次々と報告が。

(8・29婦民)

〈多摩川を愛する会〉発足

多摩川をきれいにしようという趣旨で発足。会員は流域の人びと。とりあえず四月から東名高速多摩川橋から下流四キロを活動区域として具体的に動き出す。アンケート調査やハンゴウ炊飯なども計画。(4・7毎日)

清掃登山の南米遠征

〈新潟県山のゴミ会議〉の五人隊長以外は二〇代の女性ばかり。二五日ベルーに出发、六、七千メートル級の山からも、持ち込んだゴミはきちんと持ち帰ることができると実証しようという。これまでも清掃登山は八

回やっている。(6・21朝日)

清掃登山隊、ワスカランに

「山のゴミは持ち帰ろう」運動

の〈新潟県山のゴミ会議〉のメンバーの四人の女性隊がアンデスの最高峰ワスカラン(六七六八メートル)に登頂成功。

(8・18朝日)

サッカリン緩和へ反対

発ガン性の疑いでアメリカでは使用中止のサッカリンの使用緩和が厚生大臣の諮問機関、食品衛生調査会で決まったが、主婦連・日本消費者連盟など、主婦パワーを中心とする民間団体は独自の調査で不安を抱き、追放集会を持つ。(6・23朝日)

リジン中止を要望

長野県では生活学校連絡協議

会の九人の主婦が県教委にリジン使用中止の要望書を提出した。また〈長野学校を考える会〉や学校生協でも添加中止の要望や署名集めを始めている。

(6・28信毎)

サッカリン使用中止に

〈サッカリン追放連絡会〉は、「サッカリンの使用を続ける」といつていた食品メーカー八社から「使用中止」の回答をとった。サッカリン使用の要望の強かった漬物業界も、極力使用しないよう申し合わせた。

(8・1毎日)

〔反核・反原発〕

原爆体験を伝える

〈原爆体験を伝える会〉は二月一日に「核を考える市民集会」を開き、十日から毎月曜、十回

連続セミナー「核はここまできていける——原爆から原発まで」を開く。メンバーの青木やよひさんは、女性解放も環境防衛もすべて「核」につながってくる自分を、ようやく見つけ出したと語る。(1・27毎日)

「ストップ・ザ・原発」

へひとりひとりが原子力の恐ろしさを考える会」は二〇人足らずの小さなグループ。毎月一回の学習会を経て、原発建設分の電気料金不払い運動の検討、原発反対の地域闘争との連帯を深める活動を始め、多くの消費者の参加を呼びかけている。(2・19毎日)

むつ湾の母港化反対

七四年十一月から原子力艦むつは六か月の期限でむつ湾に停泊、むつ市では住民の闘いでか

ちとった母港撤去合意協定により、撤去作業が行われているが、みせかけの一時後退で、いつても再出港可能な状態である。「むつ反対」の闘いに「母ちゃんパワー」を発揮した女たちは、男たちが最後に妥協して入港を認めたことを心から口惜しがる。政府は懐柔策として、むつ小川巨大開発、東通村原発、浅虫観光ヨット港等の建設を計画している。推進派知事も四選された。漁民の側に立たない漁協。漁民たちにとってこれからが本当の闘いになる。(2・21婦民)

「平和利用」にだまされるな

恐るべき原子力開発の実態を知ろうと各地で反対運動が続いている五〇市民団体が六月六日「原発市民集会」を東京市ヶ谷で開いた。

来日中のアーサー・R・タンブリン博士(元米国原子力委研

究所員)は「原発の副産物プルトリウム」の危険性は大きく、その管理のため市民のプライバシーは侵害される。自由な社会は原子力と共存しえない」と講演。(7・11婦民)

婦人の力で核兵器廃絶を

日本婦人団体連合会(柳田ふき会長)の主催で日米の女性七〇人が東京に集まり「核・廃絶をめざす婦人集会」を開催。アメリカ側の出席者は男性二人をまじえた十八人の反戦平和活動家。日本側は原爆体験者が核兵器廃絶を訴えた。(8・2朝日)

「消費」

物価高にいどむ主婦たち

北海道旭川市の灯油共同購入グループ。誕生は昨年十月。この活動のとは一昨年の灯油値

上がりに消費者たちが立ち上がり灯油放出の共同組織をつくったことにある。悪いのは大企業と政府だとわかったと主婦たちは意気さかん。(2・5赤旗)

力強いミニコミ紙

「消費者レポート」

創刊以来、二〇〇号を超え、とりあげられた問題は、まさに「新しい生活者運動」の歴史そのもの。「ジュースの表示戦争」「ニセ牛乳の告発」「合成洗剤追放運動」「AF2追放」「石油カルテルの集団訴訟」等々、目のつけどころは鋭い。東京都目黒区日本消費者連盟発行。(2・12毎日)

牛乳安売りモレッツ戦争

一六九円(自治会)対一五九円(スーパー)。埼玉県春日部市の公団武里団地で団地自治会

が県や市の助成を受けて、自治会牛乳の販売を始めたところ、団地内のスーパー三店が挑戦、一九〇円台の牛乳を二五九円に大幅ダンピング。団地で芽生えた消費者運動に団地族の反応は？

(2・14毎日)

合成洗剤追放、店頭に石けんを

合成洗剤は体や環境に悪影響

があると町田市では藤の台生活学校の人たちが市に「石けん類販売の行政指導、公共施設での石けん使用、石けんの安全性のPR」を請願、十二月議会で採択された。それを契機に「石けんを広める連絡会」も出来た。秋川市では生活学校と婦人会が運動を進め、七二年四月、粉石けんの販売活動に入り、現在は洗剤販売店に石けんを置いてもらうよう、業者、議員、消費者で話し合いを進めている。

(2・28婦民)

本当の消費者運動

岩手県の「盛岡消費者友の会」は活発な活動をしていたが目下開店休業中。四月上旬までは異動が多く主婦は一番忙しい時。会長も「主婦の集まりだから家庭の運営が第一。余暇を利用しての努力が本当の活動ではないか」と。

(3・18毎日)

主婦運営の消費者センター

東京西多摩郡羽村町に行政が口を出さぬ珍しい消費者センターが誕生。五七年に開設された婦人学級が母体。鉄筋二階建ての一階は食品テストを扱い、二階は展示室になっている。買物相談にも応じる。

(3・25朝日)

小売店より高い公設市場

名古屋市経済局物価対策課の

調査によれば、市の公設市場が市内の一般小売店より価格が高いことがわかり、「やっぱり思ったとおりだ」と消費者から強い不満の声。市経済局はこれを重視し、改善の方向へ厳しく行政指導する。

(4・27中日)

独禁法改悪へ女性の怒り

広く民意を反映するため、首相のお声がかかりで各界代表十八人の委員で発足した懇談会の最後の会議の席上、消費者代表中村紀伊、田中里子両氏は、委員の意見を全く反映せぬ「骨ぬき法案」に怒りを爆発、政府に絶縁状をつきつけた。

(5・17朝日)

何を売るかも主婦が決める

姫路市消費者協会では消費者参加の商品選びと価格決定が量販店との間で進められている。

(6・6朝日)

生活防衛する主婦グループ

東京都杉並にある東都生活協同組合は二年前にできた。ユニークな産直で供給量を年々着実にふやしている。

加工食品の添加物や農産物の農薬には厳しいチェックをし、鮮度と安全性で好評を得ている。

(6・10読売)

松本へ自然農法野菜の会

「疑わしい食品は食べたくない」という主婦らの集まり。農薬や化学肥料を使わない野菜の仕入れから始まって、幅広い食品公害追放運動を続けている。

(6・11信毎)

無公害を考える主婦たち

長野県下の幾つかの生活研究グループは無公害の粉石けんを使う運動を進めている。長野市

の北中・七瀬中町両生活学校、

松本地方の物価研究グループ

〈はしどい〉、小諸市の〈石けんのための連絡会〉等がそれである。業者も県内の注文だけでフル操業。
(6・20信毎)

〔福祉〕

ワカメ行商ついに結実

身障児をかかえ、ワカメの行商をしながら、共同作業所建設を目ざしてきた〈グループ若芽〉の母親たちの願いが区の援助により、ついに実現間近。

江戸川養護学校に通う障害児を持つ主婦八人のグループは「運動を通じ、当事者と行政当局、地元が一体とならなければ、福祉問題は解決できないと痛感。社会参加しながら偏見を是正していく、身障者自身の作業所を」と、語る。(1・15朝日)

〈グループ若芽〉に補助金

身障児のための共同作業所建設をめざしワカメの行商をしている母親グループに江戸川区は五〇〇万円補助の方針を決め二六日の本会議で正式に決定。工事費は一五〇〇万円かかる。
(3・23毎日)

〈グループ若芽〉の夢実る

グループの三年越しの願いが実り八月十一日ごろ着工の予定。完成は十一月。
障害者が地域の一員として暮らせる拠点にしたいと母親たち
(7・31朝日)

〈交通遺児母の会〉東京にも

全国で五万世帯、遺児十二万人だが東京の母の会は酒田市に次ぎ二番目。
初の行事は酒田市母の会の協

力で夏休みの遺児交流会。

(3・20朝日)

「駆け込み寺」の充実を!

〈行動を起こす女たちの会〉は、東京都民生局に離婚や夫の蒸発、暴力、死亡などで困っている母子のための制度の充実を申し入れた。
(6・2朝日)

「植物人間」家族救済へ

「植物人間」が交通事故の増加などからふえている。

長野市の一主婦が、同じ悩みをもつ者同士手を取り合って社会保障の拡充をめざそうと呼びかけ、多くの反響があったが、行政の反応は冷たい。宮城県では二年前から県単位の補助金を出しているのに。
(7・27、8・2信毎)

〔教育〕

男子にも家庭科を

〈家庭科共修をすすめる会〉では、永井文部大臣を訪れて要望。「家庭科の女子必修で男は仕事、女は家庭と役割意識ができ、それが女性の社会意識を決めている。男女を問わず人間らしい生活を営める教育を。戦後、男女共に学ぶ民主教育のホープとしてできたのに、女性だけに限定されるのは逆行」と市川房枝さんら。永井大臣は「教育課程審議会では、性にとられず選択の機会をふやすことを検討します」と前向きの返事。
(3・17朝日)

女性に参加した教科書を

福岡、〈女性性と職業研究会〉でも国語・社会・家庭・英語・道徳を共同研究。「一家の柱と

98

風潮



〔進出〕

世界のトップ女性政治家

女性政治家も千差万別だが大
体次の四つに分類できる。

自力でのし上がる実力派型は
サッチャー女史。父や夫の後を
継ぎ政界入りの七光り型はイザ
ベル大統領、バンダラナイケ首
相、ガンジー首相など。人気と
り人事的な目玉商品型は米国の
カーラ・ヒルズ夫人、池田内閣
の近藤科学技術庁長官、中山厚
相。愛人型は昨年アミン大統領
のこきげんをそねって解任され

たウガンダのバガヤ首相。とか
く女性業績がないと「やっぱ
り女は」となる。(2・23読売)

地方選挙の婦人議員

まだまだ少ない。学校、保育
所、ゴミ処理と身近な問題が多
いはずなのに。「有能な人がふ
えているのに、現状では、女の
くせにナマイキだと、男性側の
抵抗が強い」と市川房枝さん。
「住民運動や消費者運動で活躍
するのには、政治は男の仕事と思
う人が多い。女性が進出すれば、
地方政治の構造をゆるがす大き

な力になるはず」と横山桂次中
央大教授。(3・3朝日)

神奈川県は大量の女性候補

神奈川県は十八人進出で全国
一。身近な地域の問題とともに
婦人の地位向上を強く打ち出し、
婦人票の掘り起こしをはかる。

(4・10朝日)

女だけって気楽ヨ

独身女性ばかりの株式会社
「ホブ」が、不況の荒波を泳ぎ
回る。おしゃべりのできる美女、

ナレーター、モデルのあつせん
が主な仕事。珍しい商売として
ショーやパーティに人気。同社
四六人の女性たち、笑いがとま
らない。(3・6読売)

ハイミスでも堂々と

戦後のベビーブーム女子女性
は年間一〇一・二〇万人。相
手の男性層は年間六、七〇万人
で、ハイミスが増加。理由の第
一は、都市化による日本独特の
身分制度の崩壊。第二に女性の
精神的・経済的自立。

(10・1東京)

山の頂上ウーマンかつ歩

女性隊エベレスト初登頂が拍車になったか、このところ女性の登山熱が盛ん。穂高、剣岳のてっぺんには女性の姿のほうが多い。

登山用品店は女物登山グッズの仕入れに血まなこ。だが女性遭難者も激増して新記録というからご注意。
(10・8朝日)

〔衣〕

「現代衣服の源流展」

コレセットでからだをしめつけていた衣服から女性を解放、ゆるやかなドレス、すそを上げたボワレ、セーター・カーデガン・スーツなど社会に進出しはじめた女性の活動性をたくみに表現したシャネルなど、女性解放の記録でもある展覧会。

(4・1毎日)

婦人服の新傾向

今春からファッションの担い手がヤング層からヤングミセスや職場の女性にシフト。三、四、五月の売れ行きは昨年の三・五割増。

職業をもつ人がふえ、家庭にはいっても積極的に街頭に進出おしゅれを楽しみ、欲求不満を解消する。
(6・26朝日)

機能性を売り物に

日本に「上陸」する海外有名デザイナーに米のレンタ氏が加わり、秋から輸入販売。「家庭にじっとしていない、職場だけでなく広く社会参加する、活動的な女性」を念頭にデザイン、若さを失わない心の持ち主のためにとのことだが、ワンピース九万円前後では氏の想定ははずれそう。
(6・30朝日)

〔食〕

都会の奥さんはインスタント

日本栄養・食糧学会での女子栄養大、足立助教授の報告によると、純農村から都会まで都市化の段階に応じて食生活を現地調査した結果、都市ほど料理に使われる材料の種類が少なく、食事内容が粗末。
(5・24朝日)

「特価」オンナ酒場

女性店員へサービスのため、三越本店でオープン。名づけて「レディスサロン・ルージュ」。ツケはきかずトラは一匹も出ていないとか。
(6・10毎日)

夕飯材料の出前

工場・企業向けの食品会社が考え出した新商売。安上がりで

献立を考えずにすむと、二〇代から三五歳くらいの主婦に受けているが、批判も。
(6・21朝日)

〔住〕

不公平な公団の家賃

公団住宅の家賃が四万円台になっっている。公団に本当に入居したいのは子も産めぬ木賃アパートから脱出したいと思う若い夫婦が多いはず。初期建設団地の入居者は高所得者が多いのに家賃は一万五〇〇〇円。最近の入居者は若く、低所得者が多いのに家賃は高く、あまりに不公平。
(4・10読売)

〔家族〕

生活不安に離婚を迷う

七三年に福岡県の家裁が調停

した夫婦関係は七〇％が離婚問題、理由のトップは夫の浮気。

財産分与、慰謝料が①五〇万円以下、②一〇〇万円以下、③三〇万円以下では、どんなにひどい仕打ちを受けても素手同然で世間に投げ出されることになる。妻は離婚を願っても迷わねばならない。(4・5朝日)

離婚にみる家族生活

世界一離婚率の高いアメリカ。男女それぞれが夫婦生活の中で独立した個人として自己を大切にし、愛し合っているにもかかわらず自分の成長にマイナスと考えれば離婚することも。子どもはほとんど問題にならない。

日本の新しい家族の出現は、アメリカに比べれば遠い先のことである。

(甲南大教授・増田先吉)

(5・21朝日)

〔主婦〕

太ったネコから自立を

十六年前「妻無用論」で家庭論に一石を投じた梅棹忠夫氏と田辺聖子さんの対談。

社会全体のサラリーマン化で、夫は企業に忠誠を尽くし、妻は家庭を守るというパターンができた。しかし電化製品の普及などから、家事の省力化が進む現在、妻の存在が問われてきている。生きがいのある人生にするためには、女が独立した人格をもって結婚することが必要と田辺さん。(1・3毎日)

正月号の婦人雑誌

晴れ着や正月料理の豪華写真、レジャーガイド、星占いと続く婦人雑誌はカラフルで至れりつくせりのサービスぶりだが、むしろしさを感ずる。「主婦と社会」

という観点が欠けているのではないか。現実の主婦は、消費者運動、住民運動、学習に忙しい。この方面に力を入れてほしい。

(1・3読売)

社会参加への厚い壁

「何のために食わせてるのか」という夫の言葉に気がねしながら高速道路反対に出かける主婦。行動派でありながら、銀行員の夫の立場が気になり、政治色のある会合では表面に出ないようにする主婦。習い事に出かけるにもしゅうとのけん制。「女は、妻は、母はこうあるべき」というつくられた社会通念をはみ出ると周囲の暗黙の制裁が待っている。(4・3朝日)

主婦に収入訓練の場を

武田京子さんの呼びかけで開かれた「主婦の出口づくり」の

会に主婦二〇人が集まる。

二〇年、三〇年、夫、しゅうとめにつかえても家事は評価されず、いつまでも女は一人で食べる力がない。生活力をためすためにやった内職は一月四〇〇〇円。市民運動をやるうとしても手かせ、足かせは夫と家庭、などの体験談。武田さんは「これをグチに終わらせず、主婦が技術や資格を得られるよう具体的な行動を目標にしてゆきたい」と考える。(4・10読売)

〔消費生活〕

苦情の筆頭は食料品問題

日本消費者協会が七四年度消費者苦情相談の結果をまとめた。トップは食料品(二六・四％)でAF2、虫害、カップめん。次いで家庭用品、家庭用機器、衣料品、医薬・化粧品などの悪質人や集団のセールスなどの悪質

化の傾向に、特殊販売立法化が必要。
(5・29読売)

安くならない？牛肉

牛肉の自給率は七〇％だが、昨年の大暴落で農家の苦境を理由に輸入禁止。国会で「畜産物価安定法」が改正され、畜産振興事業団が手持ち輸入牛肉を放出、豚肉と同じ制度で価格安定を図る。店頭では輸出価格の三倍。生産者手取り四五％、あとは流通費用だ。(6・23信毎)

通産省は七月一日から本省と全国九局に相談室を設け、大企業に対する苦情から一般消費生活に関する苦情、相談、意見を受け、行政に反映させる。受付は平日十時―三時半。必要に応じて照会、行政指導も行う方針。
(6・28信毎)

洗たく安値攻勢は迷惑

長野県クリーニング同業組合は、近く長野市のA店を「不当廉売」として公取委に提訴。A店はコート類、ガウンなどの一部を除き一律一五〇円で人気。「不当廉売」とは、他をつぶすため採算度外視のこと。「当店は適正な利潤を得ている」とA店は反論。
(7・15信毎)

こわい米価便乗値上げ

米価引上げの影響は数字以上がつね。家計上の米代は七四年で二・六％。今年一九％上がる。と四人世帯で月七〇〇円弱。経企庁の数字だと物価指数へののはね返り〇・七〇七％。

カレーライス約四円、どんぶりもの五―六円が必要値上げ幅だが、低所得層、福祉施設の嘆きは大きい。
(7・23信毎)

便乗監視を

主婦連など消費者団体は、政府とは別に独自の監視運動を繰りひろげる。「不況で、業者も安易な値上げはできない」というが、大幅値上げはしなくても、量を減らしたり、質を落とすなどの実質値上げは考えられると指摘。
(8・31朝日)

出来秋を前に主婦の不安

九月一日に値上げは米価一九％。酒、タバコ、郵便、水道、バス、私鉄、国鉄、NHKなど値上げ申請目白押し。政府は便乗値上げ抑制の広告よりも、買い置きのおすすめや保存法、標準米の調理法を。
(8・25朝日・社説)

合理精神で高物価に対抗

北海道消費者協会がこのほど

催した「百元料理講習会」は、米価の値上げ、豚肉の高値続きなど、頭の痛い主婦たちで大入り満員の盛況。コッは、材料をムダにしないこと、季節の出ものを使うことなど。
(8・29朝日北海道)

変わりはじめた消費者行動

不景気の消費行動は菌みがきのチューブを最後までしぼったり洗たく回数を減らしたり、必需品節約。衣類はアクセサリなどで変化を。
(9・15朝日)

〔性〕

殺された女子学生

同せいの男に女子大学生が殺された。実家から五万円の送金で、三万六千円のアパートに。バーのアルバイトで半月十万円。昼間も喫茶店勤めで、ホステス

が大学生、のかつこうだった。
米国八大学の調査では四人に一人が継続的に異性と交渉、うち一割は三か月以上同せい経験者。
(1・27読売)

乱れた「性」千人を補導

売春・乱交などで警察に補導

される女子中高生が今年になって千人。目立ってふえており、警察庁は全国の警察本部に対策を指示。
(7・10朝日)

女性週刊誌が結婚入門書

現在四誌で週二〇〇万部売れる。男性との交際法、有名人の

私生活、身の上相談。未婚女性の愛と幸福の価値観を養っている。ハウ・トゥ・セックスの入門書でもあるのが人気の秘密。
(7・16朝日)

女高生の「中絶カンパ」

「級友が妊娠、親友が中絶費用

カンパを呼びかけているが応じないと非難されるし」との紙上相談への反響の四割は女高生。多くが「ありがたいなこと」と認めた上で、賛否両論。自分で責任をとれのほか、友情論、アドバイス、中には共犯の男性に友人集団で攻撃をも。
(8・6読売)

調査・統計



〔政治〕

婦人議員三〇年の全調査

昭和二十一年四月十日、敗戦後初の総選挙。四五人の女性が立候補、三九人が当選。いま十三人が死亡、現役はいない。

当時婦選運動などを続けていた人はごくわずかで、ほとんどの人は思いもかけぬ転機から国会へ。現在「第一期生」の現役はゼロ。十一回連続当選は山口シズエ。現在女性国会議員は二五人。その数はここ十年来ほぼ変わらない。

(8・14毎日)

ふえてほしい女性議員

日本婦人有権者同盟横浜支部が、横浜市内の一〇六人についてアンケート調査。

女性議員は、ふえてほしいが六〇%、「役立っている」は七割。

(11・13読売)

〔労働〕

男女平等おいそれとは……

総理府広報室が初めて行なった男女平等に関する世論調査結果を発表。(全国成人男女五〇

〇〇人対象、八三%回収、七月実施)

男女の地位に差があるのは「当然、やむを得ない」七割。でも「夫の収入は夫婦共同のもの」八割。

(9・15各紙)

景気調節用の婦人労働者

労働省「雇用動向調査」によると、昨年の女子雇用者数は昭和二五年以降初めて前年より減少。中高年層パートの減少が顕著。一方男子雇用者は増加する一方。女子労働者は六〇・九%が既婚、平均賃金が男子の五三

・九%、男女別定年制、雇用差別、昇進差別などは依然根深く不況時は真っ先にクビという現状。(9・11読売、9・21朝日)

主婦労働の値段、外国では……

米政府が評価した平均主婦の「値打ち」は年俸五五〇〇ドル(二六五万円)から七五〇〇ドル(二二五万円)。アメリカの三三歳の主婦が算出した例では週七日の勤務で年俸一万五三〇ドル(三一五万九〇〇円)と、政府の額の三倍近い。ワシントンポスト紙より。(9・19読売)

団地の主婦調査

日本女子大住居学研究室が都内三団地の主婦三四八人に調査したところ、家事に対する評価は重要な仕事と思う八四・九%。家事に対する態度はしかたなくやっている四一・五%、好きで楽しく二七・九%。家事に費やす時間できるだけ短く六一・二%。余暇時間趣味志向四五・二%、リラックス一・三%、増収希望一三・五%、技能を学ぶなど意欲型は一八・三%。
(9・24朝日)

家事労働の値段

協和銀行が既婚サラリーマンと主婦四〇〇人に主婦の仕事を見積らせた。男子の見積りでは炊事二万二一三五円、掃除一万二九一六円、洗たく一万二九一六円などで計約三二万円。主婦はそれぞれの項目の評価額は高

いが種類が少なく、総額二三万円。
(9・16読売、11・2毎日)

「くらし」

米寿の女性は男の二倍

一九七五年の還暦八七万人、古稀五五万人、喜寿三七万人、米寿六万人。いずれも女性が多く、とくに米寿は男性の二倍。
(1・1朝日)

女の長寿県は岡山がトップ

厚生省統計情報部の六九年四月―七二年三月までの人口動態分析によると、府県別の女性の平均寿命は①岡山(七六・三七) ②神奈川(七五・九七) ③東京(七五・九六)の順。

男性は①東京(七一・三〇) ②京都(七一・〇八) ③神奈川(七〇・八五)で、一般に男女の長寿県は一致しているが、岐

阜(男六位、女三七位)、愛知(男四位、女十八位)、高知(男二五位、女八位)のように差の大きいところも。
(1・5読売)

CMにはつられませんわよ

テレビのCMと主婦とのかかわり合いを調査したところCMと購買との関連はあまり密接でないのが実情。CMに対する感想は量が年々ふえて困る、ばからしき、大げさ等に反感。これからのCMは生活に役立つ情報にすべきだと。
(2・1毎日)

女性はおフィスのほうが寒い

皮下脂肪の多い女性は男性より寒さに強いはずだが西独での調査によると職場での最適温度は男性十八度で女子より四度低い。ただし家庭では共に二一度。西独でも女は家に帰ってからよく働くからか。
(2・4日経)

栄養面から見た食費

一年で三二・五%アップ

栄養的にバランスのとれた食生活には一人一日いくら食費がかかるかを全国五〇グループの栄養普及会会員が店やスーパーの一〇〇食品の値段をもとに計算して調べたところ昨年の平均は五七九円、七〇年より五九%、昨年より三二・五%増。これまでに安かった品物の上昇率が目につく。
(2・28日経)

二〇代男性は結婚難

戦後生まれが都民の過半数に達したが、二〇歳代は女一〇〇対男一一八・二。他県女性との結婚もあるが東京の男性の結婚難が続くそう。
(4・5毎日)

父親の出番は

宮城教委が行なった父親の家

庭における幼児教育の調査で、

父親は母親の日常の育児を「手をかけすぎる、何となく不満」と訴える一方、父親自身は「自分では手を汚さず、子どもにだけ込む積極さなし。母親の批判だけはする」と認めた。

しつけ役は、八二・一％が母。六・八％が父。父親の出番は「外出や母親の手にあまるとき、すもうやレスリング」と頼まれ仕事ばかり。(4・22毎日)

慶弔金は「西高東低」

東海銀行の「最近一年間の慶弔金の出費調査」(第一部上場企業男子サラリーマン五一七人を対象に四月実施)によれば、ほとんどの家庭がなんらかの形で出しており、大阪の一人当たり五万二〇〇〇円がトップ。東京は低額、名古屋はその中間。全般にこの慣習は必要だとする肯定派が多い。(4・26中日)

「強く」「自由に」…妻の座

余暇開発センターの主婦の意識と行動調査(首都圏に住む主婦一〇〇〇人に対して一月実施)によると、家事は夫もという声が三五％。家庭内の覇権はまだ夫にあるが、外出、小遣い、買物等、妻の自主権もかなり進んできた。社会意識も高まったが行動はまだ消極的だ。(5・11朝日)

ヤング夫婦の意識調査

東京のコミュニケーション・メントース社が、四五年以降に生まれた夫婦を対象に。

家計は、常に相談、合意の上でが四〇％、妻が決めるが四〇％で同じ。夫の小遣いは喫茶、昼食等職業費なのに、妻は、趣味、交際費と自由に使う。夫婦の関係は、友人、恋人、父や兄のような楽しい関係を

望む。

妻の半分が自分でかせぐ。日常家事では夫の六人に一人がきまつて手伝う。

交際は友達とつき合い、近所づきあいではなく他人に無関心。湯沢雅彦(お茶の水女子大)は「こんな夫婦に子どもができると、母子がひつつき、父がやや離れる日本的な夫婦に変化する。十年、二十年先にも友達意識を持ち続けたら、日本の夫婦関係も変わった、と言える」と分析。(5・15朝日)

休日 夫婦の争点

インテリアメーカーK社が行なった「休日について」東京・大阪の既婚男性二一一人女性二六二人対象のアンケート。

妻は外出に付き合つて。子どもと遊んで。家事に協力して。夫は拘束しないで。ゆっくり寝かせて。休日でも家事をちゃん

とが上位。さてお宅は?

(6・4読売)

主婦の一日

NHK国民生活時間調査によると、主婦の半数は朝六時から始まつて夜十時半に終わる。電気製品の普及で家事労働は軽くなったが、「省時間化」はまだ。原因は生活の高度化に伴う家庭雑事の増加。コマ切れの余暇はテレビで埋める傾向。(6・15毎日)

現代の「ノラ」たち

大阪府下の二市の婦人グループが五年がかりで「家庭婦人白書・新しい家庭婦人像を求めて」をまとめあげた。

結婚・出産というコースをたどり育児から手が離れたとき、自立への意識が芽生える。自立への第一歩である就職も保育所

不足、低賃金、家族の反対で妨げられる。
(6・19毎日)

家族計画世論調査

四半世紀続けられてきた毎日新聞社の家族計画調査は十三回目。全国二五〇地点、有夫五〇歳未満、主婦三七五〇人対象に五月末実施したが、若い母ほど「少数」を望み、完べきに近い計画出産。戦後日本の人口革命の第二の転換期として人口縮小への兆候が浮彫りに。

(6・26毎日)

女性の寿命七六・三一歳

昨年の平均寿命の伸びは男女とも七一年に次いで大きく、男(七一・一六歳)はスウェーデンに次ぎ二位。女はスウェーデン、ノルウェーに次ぎ米・仏・蘭と三位争い。七二年まで広がる一方だった男女差は七三年か

ら縮小に転じた。(7・13朝日)

建前論の男女平等

〈国際婦人年をきっかけに行動を起こす女たちの会〉が、三木首相はじめ各県を代表する男性一二五人を対象に行なった公開アンケートが公表された。

「家事育児は、女性だけの仕事だと思いませんか」等、二十数項目の回答率三七・六%。

回答内容は、おおむね建前論に終始。「家事育児は男女が協力してやるべき」「女性が働くのはよいこと」「自分の組織では男女平等」など。

(7・17毎日)

家庭のあり方の理想とは

老後のための長野県民会議の討議で、同居を望む年寄りは一八五%。しかし現実にはトラブルが絶えない。家族関係のもつれか

らホーム入りする人もいる。誰

もが年寄りに我慢を強いるが、今の老人の幸せは明日の自分の老後に結びつくはず。

(7・23信毎)

大阪娘のほうが親思い?

住友信託銀行の独身OL調査によると、自分の親との同居、東京一〇%、大阪二八%。相手の親との同居、東京六%、大阪二一%で、大阪のほうが親思い?

(8・4毎日)

あなたにとって家庭とは

板橋区の〈婦人の集い実行委員会〉が国際婦人年にちなみ区内七四〇人の同性の意識調査を始める。

「家庭とはどういうところか」「夫に何を期待するか」など。

(8・14毎日)

根強い「女は家庭に」

都内一〇〇〇人の女性とその配偶者六五〇人を対象にした東京都の調査で「妻が外に出ると家庭にうるおいがなくなる、家にいたほうがよい」は女で二五%、男で四九%、これが女性の社会参加の大きなネックになっていることがはっきりした。

(8・15朝日)

目立つ「家庭の中の孤独」

少女売春の摘発が相次ぐが両親健在、成績中程度が多く、共通項は「心理的な親不在」。家出経験者が九〇%以上、少年の五〇%に比べはるかに多い。性そのものより反抗、あてつけが動機らしい。

(10・11朝日)

交通遺児家庭に不況の重圧

交通遺児育英会が「交通遺児

教育調査」を発表。母と子の遺児家庭は月収七万円未満が三割、高校生十人に一人がバイト、「インフレ・不況・過労と心労による母親の健康破壊」の三重苦に痛めつけられ、家計窮迫による学業の低下や進路変更が、貧困化をさらに加速していると分析。

(10・17朝日)

テレビの前に一日五時間

東京の〈こだま会〉がテレビ番組と主婦の関係を七〇〇人に調査。首都圏の主婦は一日平均五時間テレビを視聴。年齢が高くなるにつれ時間増加の傾向。番組ではドラマが三五%でトップ。

(10・26朝日)

婦人の読書傾向

東京・御徒町のしにせM書店のアンケート調査によると、女性の読書時間は一日、二、三〇

分から四時間で平均二時間、一か月の読書のための費用が五〇〇円から五〇〇〇円で平均二、三〇〇〇円。最近の傾向として、テレビ・ラジオの人気タレントの著作がのびている。

(10・27東京)

理想三人・現実二人

日本の五〇歳未満の既婚女性の四九%は子どもは三人が理想と答え、五人以上の一%などに加えると、三人以上は八六%にも達する。

ところが「現実には産みたい子どもの数」となると平均二・三人。実際の平均出生児数も二・〇人。「子どもは二人まで」という日本人口会議の宣言どおりになった。

世界人口年を機に世界各国で行われたこの「出産力調査」、日本でも理想と現実の厳しさを浮きぼりにしているといえそう。

〔事件〕

(11・23毎日)

スケバン非行が急増

昨年中に傷害や万引きなどで捕導された女子中高生は約一万七三〇〇人、戦後最高を記録。中でも女番長グループ中心の集団暴行、リンチなど粗暴犯は急増し警察庁はこのような「非行少女白書」をまとめ報告。

(3・6朝日)

子殺しの可能性

宇都宮大のアンケートによると、子殺しの可能性は父親のほうが高い。幾つかの想定で父は

一六%、母は一〇%が子を殺す。ことに父親は失業したときに生きがいや失い他に心の支えになるものがないという結果がでた。

(7・5信毎)

「子殺し」白書

〈子殺しを考える会〉が今年一月から六月にかけて新聞に報道された子殺し八四件を調査。

母による子殺しの動機・理由は疲労と心労が主。その原因は母親の孤立感。

父によるものは妻の死、別居等が理由。

「男も母親と同じ状況下では子殺しの可能性を持つ」「女性が差別から解放されることが先決」と同会では分析。

世間では子殺しイコール鬼の母、母性喪失と見ているが、意外に一人で解決しようとする良妻賢母型に多い。(11・18朝日)

意見

〔国際婦人年〕

男女平等・考

アメリカのウーマン・リブも五年、労働の世界を中心に平等獲得の闘いは熾烈。よりよい職業（よりよい収入）への進出の一方、交換手、看護婦等への男性の逆進出や、育児中の男やめの権利等も平等に考慮。

「とりあえず、男とまったく同じ待遇と権利を与えよ」。まず手始めに「女性により良い職業を」活動を展開、結果として、一方では男性が女性の職場に進

出する例も出た。

一方、アメリカのインテリ男性の間でマン・リブが静かに進行。立身出世主義のたくましい男らしさを否定して人間としての解放を訴えている。

男女平等は男女の差異を差別としないことを前提として、より深い人間解放に移行する時期を迎えている。働きすぎの男型労働を女に向くように変える時代になるかも。（1・3、4朝日）

“お茶くみ差別”の総点検

お茶くみも仕事の一部と考え

ればいいではないかという意見もあるが、こういう主張のなかに不平等の入り込むすきがある。やりがいのある有利な労働と、やりたがらない不利な労働という労働の質的差が、男女の労働の差に置きかわっているのだ。性による差異が、不平等をもたらしえないような、男女同等に参加できるような生産の組織をつくらなければいけない。

（水田珠枝 1・3読売）

世界の婦人と手をつなこう

ことしは「国際婦人年」―。

平和への願いをこめて、戦争に反対し、世界中の婦人は手をつなこう。国も社会も家庭が土台人間としての幸福を前提に、婦人の力を社会、国家、世界へと伸ばすことが必要な時代が今。（神戸市主婦41歳 小矢ヒロ子）（1・4毎日）

連帯して行動を

「人は生まれながらに自由・尊厳・価値の平等をもち」「男女は同権」と世界人権宣言がされて久しいのに世界中に男女差別があることを国連も認めざるを



得ず、国際婦人年が指定された大切なのは行事ではなく、行動を積み重ねること。労働条件や民法上の権利の不平等、女の政治的進出が少ないことなど、無数の問題がある。無数のグループができ、連帯することを望む。

(田中寿美子 1・6 毎日)

国際婦人年をになう女たち

市川房枝さん 参議院議員。
「婦人自ら、もつと主張と行動を」と呼びかける。

(1・7 毎日)

久保田真苗さん 労働省婦人課長。国際婦人年諸行事の窓口となる婦人課を担当。

(1・8 毎日)

城ゆきさん 婦人通信西日本支局長。大阪準備会事務局長として、国際婦人年に情熱を注ぐ。

(1・9 毎日)

久米愛さん 日本婦人法律家協会会長。法と実態から男女差

別をひろいあげ、六月に女性の地位のシンポジウムを開く。

(1・10 毎日)

男性変える打出の小槌

女性は打出の小槌を持っている。女性は、女をしあわせにする男を産み育てることが潜在的に可能なのだ。自分の父親、男兄弟、恋人、亭主に失望した分だけ、より望ましい男性をこの世に送り出す能力をもっている。(それに気がついたのは、実は半世紀を生きてからだ)

人生は男だけで渡るわけにはいかない。女性がしあわせでなければ男性も愉快ではあるまい。

(牧 羊子 1・7 読売)

女の視線がつらい

女性差別は男性からの差別ばかりでなく、男女の役割に対する根深い伝統によっている。女

は伝統や習慣にしばられることに苦痛の声をあげながら、いつか自分でもその伝統に立っている。

女が今までどおり男の視線に合わせて生きてゆくことのほうが安易だという事実がまだ強い。しかし女が生来そなえている強さを人間全体の中で生かされるようにしなければいけない。

(佐多稲子 1・26 朝日)

「税金にもの申す」から

三年前、自分名義でマンションを買った。手付金二〇〇万円は、夫の事業を手伝い、その給料をためた預金からはらった。扶養控除は受けていないのに、二〇〇万円は夫からもらったものだと言税をとられた。女性

は自分で働いても、すべては亭主に隷属すると税務署はみるが……。

(杉並区主婦51歳)

(3・17 朝日)

大臣からの恋文

国際婦人年、婦人週間に三木総理、長谷川労相から印刷されたおもしろい魅力のないメッセージが届いた。訪中の折、私を主賓にし男性が拍手で迎えてくれた婦人デーの日のパーティを想起した。婦人週間のメッセージともなれば、女心をつかみとるほどの一言は入れてほしいもの。

(瀬戸内寂聴 3・29 朝日)

国際婦人年は現実から

国際婦人年のキャンペーンは華やかだが、高い人たちだけの運動で終わらぬように。保育所一つをとっても未解決の婦人問題が山積。毎日の生活でたった一つでも「ここが変わった」と思えるような運動であってほしい。(勤め人69歳 児玉勝子)

(4・3 朝日)

男女の不公平は？

「国際婦人年」ということで「男女の不平等を直そう」と世界のあちろちろで語り合われるらしいが、いま最もさんざんな目にあっているのは中年男性ではないか。「ろくでなし男性年（仮称）」の設置を呼びかけたいぐらいいだ。「国際母子家庭の年」とでも言ったら、中年男性も賛成するにちがいない。

（無定見党／秒針 4・26 中目）

民間含め行動計画の実行を

日本から二五人もの大型代表団が行くというのに官僚は「国連が一九七五年を国際婦人年と決定し」と熱意も主体性もない。国連から受売りの上意下達はやめてほしい。主体はどこまでも各国の婦人自身であり、大衆であるはず。

（田中寿美子 6・13 朝日）

気の抜けたビール？

国際婦人年世界会議は、まねなく男女平等の問題を論じ尽くしたかに、一見みえる。

ところが女性の社会的地位向上には、いつでも政治的ならみあいが必要。婦人問題を政治抜きで取り扱おうと、気の抜けたビールになる。世界会議も、もっと政治と結びつけた話し合いをしたほうが、すっきりとテーマを打ち出せたよう気がする。

（志賀信夫 6・24 毎日）

各党首脳は答えた

国際婦人年。各政党首脳から保育所整備、昇進、昇格、昇給などの男女差別、中高年雇用の促進など、ものわりのよい発言、意欲的な姿勢がかえってきた。各党の話はきれいごとすぎるようだ。単なる口さきだけの

サービスに終わらせないようガンバラなくては。

（影山裕子 6・25、26 朝日）

国際公用語

せっかくの国際婦人会議の活動も、言語のハンディキャップで、さえなかったとか。何語であれ、よその民族固有の言語を国際舞台での討論に使いこなすのは困難。言語的ハンディキャップに悩む日本こそ、エスペラントを国際公用語にするよう、率先して主張すべきだ。

（栗栖 継 7・23 毎日）

差別のない世界

国際婦人年世界会議やトリビュンで吹き荒れた第三世界旋風。——今、私たちに求められているのは、人はすべて、皮膚の色、人種の違い、性別を問わず、人間としての尊厳と値打ち

において平等であるという思想、態度と同化することである。

『ドリトル先生』シリーズが、各国出版社の販売促進のリストから徐々にはずされる動きがある。（藤枝浩子 8・5 毎日）

職場での男女不平等を正せ

ことしは国際婦人年というが現実はどうか。賃金、昇進、定年等、差別はひどい。社会的不平等の是正、働く者の福祉の追求を任務とする労組まで婦人労働に理解を欠く。働く女性の才能が十分生かされ正しく処遇されることは社会全体の発展向上につながるという認識をもたなければならぬ。

（9・19 毎日・社説）

「行動計画」正しく認識を

「世界行動計画」を論拠としてウーマンリブのグループがラー

メンのCMを告発したがこれは行動計画への理解の浅さを示す。採扱までの経緯からしてもこの行動計画は金科玉条ではない。が、一応の指針であるから正しい解釈をしたい。強引な引用によってこの計画をイメージダウンさせることは婦人全体にとっても損失である。

(上坂冬子 10・12朝日)

上坂冬子さんへの手紙

ラーメンCM告発における両性の役割固定の問題を笑われたが、この役割固定化の是非を明確にするのが問題の原点だ。私たちが見過ごしていたあのCMを告発した人々の意識と意志に敬意を感じる。このCMが社会通念であるうちは女は安定した職場は確保できまい。上坂さんが正しい認識をといいたが、この告発の正面に立たないため「行動計画」のイメージダウン

に一役買っていることを悲しむ。

(安達優稚子 10・18朝日)

「差別」

「起きて夫を待て」は横暴

結婚して十二年、今まで夫の

帰りの遅いときは、先に寝ていたが、よそのご主人から「妻たるものは起きて待つべきだ」と聞かされ、がっかりしている。外で働いて報酬を得るのは大変なことだが、家庭の仕事も、ま

じめな主婦にとってやさしいことではないのを認めてほしい。

(主婦36歳 神田晶子)

(1・28朝日)

「女」の壁

小学校三年、炭鉱の町で自分の将来を医者にと決心したが、私は女だった。父の猛反対にあり、自力でと思った時は戦争。

結婚、職業をもち自分の足で生きたい!!と再就職を願う大学へ。しかし女!!女!! 女は道具ではない。人間だ。私は女の解放こそ生涯の仕事と悟った。

(主婦54歳 伊藤みえ子)

(3・16朝日)

男にも家庭科教育を

つわりで苦しみ寝こむ。夫は

帰宅後、あり合わせて食事をする。夫も料理ができればとつくづく思う。女は子どもを抱えて

も収入のメドがつけば生活できるのに、男は家事ができたため、女手を失うと途方にくれる。これは家庭科教育の差別から生まれた悲劇だ。男にも家庭科教育をと叫びたい。

(4・11読売)

女所帯への風当たり

敗戦一年後、夫に死別。子どもと実家に身を寄せて勤めに。

二〇年過ぎ、やっとの思いで自分の家と土地を持つ。娘は嫁ぎ、一人暮らし。安心したのもつかの間、頭の痛いことが待ち受けている。女世帯への偏見、風当たりは予想以上。一人の人間として女が生きていることは生やさしいことではないが、残された人生を自分なりに悔いなく生きたい。

(原 春江61歳 5・1信毎)

日本に住んでみて

狭い家を有効利用しているが男性は家事を手伝わず、子どもは自立心がない。

(ジュディ・ハドリー30歳 オーストラリア)

*

男も子どもも甘ったれ。ネパールでは早婚だがちゃんと独立している。

(出口サユリ22歳 ネパール)

*

酒やタバコをのむのが男らしいと考えられている。テレビを何台持っけても基本的な生活が整っていないは無意味。

(コーラ・メイ・小林27歳
アメリカ)

* 夫の仕事と家庭が分離され夫婦が一緒に行動することが少ないのに驚く。母親だけに教育がまかせられているのもおかしい。

(フアリード・バサム24歳
レバノン)

* 両親が子守りを頼んで外出すると非難される。母親はいつまでも子どもにベッタリ。

(サスキア・石川・フランケ
33歳 ドイツ)

(6・17―23信毎)

公務員も定年を

世界的不況から地方財政はますます苦しくなる。四五歳以上

の女子の勧奨退職を行なっている地方もあるが公務員の定年は是非必要だ。私は男子六〇歳、女子四五歳を提案したい。反論もあろうが、強力で断行する為政者がほしい。

(会社員36歳 伊藤 広)
(7・29毎日)

納得できぬ女子四五歳定年

「公務員の定年を提案」に反論。女子四五歳といえば育児期を脱して一番脂ののり切った時。四五歳定年が決まればさまざまな面で女性に不利が生ずると思う。

(主婦43歳 米田澄子)
(8・7毎日)

入社試験でも差別

七五%の削減をみた大卒女子への求人は、大部分学部指定。しかも文学部優先、法学部指定外。その理由は釈然とせず企業

の怠慢としか思えない。

(学生21歳 松本裕美)
(9・17読売)

* 浪人した人はだめ、自宅通勤に限るなど納得できない。

(学生22歳 向山和恵)
(9・27朝日)

大卒女子、私の時も就職難

私の卒業した二〇年前も就職難。古いのれんを誇る企業におなされて入社させてもらい、黙々と働いたが結婚妊娠で辞職。こうしたことが現在の女子学生の就職にもひびいているのかと心痛む。

(主婦42歳 桜井静子)
(10・23朝日)

差別用語

公務員試験で女に受験資格のない職種があることで婦人少年局が人事院に抗議したが、適、

不適を性別で決めるのは「区別」でなく「差別」。これは言葉だけ安易に言い換えるのは無意味。「どもる」を「言語障害」では不適切で、行き過ぎにならないよう。

(9・18朝日・天声人語)

作る人 食べる人

このコマージュを差別というが、私はあれを見て女が作り、男が食べるという発想はない。年寄りのひがみでは?

(主婦 10・7朝日)

大事な娘を「片づける」とは

先日友人が来て「末の子もやっとな片づける」といった言葉が妙に気にかかった。人間尊重の世に「片づける」とはひどい。一般社会通念になってしまった言葉だが、それに代わる言葉はあらず。平和文化もこういう小

さい事柄から始まると思う。

(塾経営70歳 柳沢嘉七)

(10・9 信毎)

「インディオ」の呼び名

アメリカ大陸はコロンブスの

「新大陸」発見により大きく運命をかえた。素晴らしい文化を築いてきた原住民を誤った呼び

名「インディオ」として支配し続けた。私の住んでいるメキシコではインディオ保護庁なるものがあるが保護の名に隠れて、

彼らが最底辺で搾取されている現状を温存させている。彼らが彼らの言語や文化を公式に学ぶことが認められた時、はじめて

「インディオ」の呼び名を返上できるだろう。

(黒沼ユリ子 10・13 毎日)

女性侮辱はもっと別の所に

街頭や駅構内などに貼られて

いる女性の裸体写真のほうが

「私作る人」より侮辱であり、差別だと思ふ。青少年に与える

影響もあり、女性問題に取り組む諸賢の一考をわずらわしたい。

(無職73歳 水草武雄)

(10・19 毎日)

男女差別語の指摘について

〈行動を起こす会〉の婦人たちがNHKに女性差別について要望と質問状を手渡したというこ

とは方向として間違っていない。しかし男女差別以前に女性意識過剰語を女性自身追放すべきだ。

差別語は封じ込めたほうがよいがあまり性急すぎでは成果が上らない。

(池田弥三郎 10・22 朝日)

差別CMの中止に思う

「私作る人」の食品会社が問題のCMは中止したが、人の記憶

に食いこんで目的は達成。

女性活動家よ、攻撃相手をほんとにギャフンと言わせ、われ

われがもっとましなものを食べられるような運動を。

(会社員42歳 山本達男)

(11・7 朝日)

差別語に安易な規制はやめて

日本文芸家協会は、いわゆる差別語への使用規制問題について

送局など関係機関へ送付することをきめた。マスコミ各界で差別語への使用規制が強まっていることに対し、執筆に差しつか

え、国語の問題としても見逃せないという意見が出はじめた。

(11・8 朝日)

女性不在の生涯設計

三木首相の私的ブレーン提言のライフサイクル計画の中の女

性像は家庭で夫をたすけ、家事育児を分担、親の面倒をみ、それらにさしつかえない範囲で再

就職。これはおかしい。男性優位の職場の門戸を女性に開放するため、ワクの割り当てなどの

法規制も必要なのでは。

(加藤富子 11・12 朝日)

女の解放運動

近頃の女性解放運動が昔と違うのは法的平等が実現している

中で社会的慣習の平等をめざす点。アメリカより日本に運動が

少ないのは、不平等がより少ないからでなく、より多いから深い。

徳川以来男女差を無意味とする者は極めて稀れ。その中の一人

で最も早く徹底していたのが十三世紀初に曹洞禅をひらいた釈道元である。「礼拝得髓」は

直接に男女差別にふれる。

沖繩の混血児問題

知人の、混血児をもつ母親からの手紙によると、母が日本人で日本に住んでいても、外国籍の子には住民票もなく社会保障の恩恵も受けれない。法的差別から逃れる法として日本への帰化があるがこれも手続きが困難で費用もかかる。沖繩の混血児は三〇〇〇人。八〇%が母子家庭。またアメリカ国籍の場合に放置すれば無国籍になってしまう。復帰四年にしてこの現状だ。(村山美恵子 10・9 毎日)

映画「アリスの恋」を語る

「女性スト」のシンボリック的存在となったこの作品の試写を見た日本のリブ運動家六人の感想。「横暴な夫、妻が売春婦以下という存在が、日本と同じ。夫の死後、旅に出る行動力が離婚率の高さに結びつく。アリスは最

後まで完全にめざめてはいないが」。(11・16朝日)

主婦だけでやる運動のおかしさ

主婦だから、母親だからを基盤にした市民運動への取り組みは、家事育児は女の役割という家庭内での性的分業を肯定することになり、女の生き方の根本的変革とは結びつかない。主婦・母親專業としての自分を否定するところから本当の運動が始まる。(武田京子 12・15 毎日)

〔解放・平等〕

家事・育児をやる私の夫

一歳と二歳の子を育てるだけのなまけ母ちゃんだが、夫はとても協力的。これは夫の母の育て方の成果である。小学生の頃からの習慣が今の彼を育てたもの。夫族への働きかけと同時に、

息子たちを今から家事に慣れさせ、家事をいとわない大人に育てよう。(2・14 赤旗)

息子に料理と掃除を任せて

これからの男性は、社会に出て働く女性と結婚した時あわてぬように、小さい時から家事に慣れるべきと、春休み中、掃除料理を小、中学生の息子に任せた。その結果は「腕が上がったから、独身主義だ」「料理上手のきれいな奥様がいいや」。

(主婦41歳 安江明子)

(4・11 朝日)

女の手

電車中の若い二人連れ、女が手を動かして男のネクタイを結ぶ。あれが女の手、というものだと思う。この手が男をからめる手になるという事情があるから女自身が苦しい。今日の賃金

体系の中で、この女の手を労働力の再生産として賃金に組み入れるべき、という考えは、おもしろい。単に主婦労働を賃金にいうのではなく女の手の社会化ということか。

女の手が愛情の重石をつけて女を引きずるからこれは女から提出される問題である。

(佐多稲子 4・21 毎日)

駆け込み施設を

夜半すぎに赤ちゃんを背負った女性の来訪。夫が競馬に狂い、サラリーをつぎ込む、またはヤケ酒を飲み暴力のかぎりをつくす。こんなことなら母子三人で暮らそうと家をとび出したが行先はないと。彼女のような母子はかなりの数にのぼるはず。そんな母子が新しい道を聞くまで、身を寄せ、再就職の訓練を受けられる施設があれば……と思う。

(吉武輝子 4・28 朝日)

看護婦の夫は立ち上がった

共働き十七年目、妻は国立病院医療センターの看護婦。いまセンターの既婚者は五〇人。夜勤、高家賃、保育所でみな悪戦苦闘。先日有志が集まってヘンターに働く看護婦の夫の会」を発足。家庭生活を破壊する夜勤をへらせ、保育所に補助、既婚看護婦に宿舍を、と要求。

(団体職員43歳 山本健二)
(4・29朝日)

調停委員を公選に

調停委員が男の肩をもつ話が絶えない。公選にし、候補者に女性観・男性観の公開質問をしたい。(吉武輝子 5・26朝日)

解放された女

昔に比べ多くの面で女が解放されているが、それは集団的現

象にすぎず、個々の女は本当に解放されていない。解放とはモラルを無視することではなく、内なるモラルを自ら律すること。その意味でも解放とは個人の問題。(高橋たか子 6・9朝日)

父親も育児に参加を

幼児にとつて、集団保育も家庭生活も大切だが、これが女たちの手だけでなされている現状は変えなければならない。核家族化した現在では父親も育児の一端を担わなくてはならないし、社会・父・母が一緒になって育児にとり組んではじめて理想的な環境ができると思う。

(主婦39歳 中島節子)
(6・11朝日)

女はほんとうに強くなったか

家事・育児に対する男性の協力度も社会的配慮もない。四

〇歳になると、賃金は男性の半分。中高年女性の再就職はパートや雑役。まして経済力のない女には、離婚の自由も皆無。国際婦人年を機会にとくと考えよう。(青木やよひ 6・16毎日)

分業から共業へ

女は家事、男は生計の維持、と分業が長く続いたが、近ごろ職場で働く女性が増えてきた。しかし家事は依然として女の仕事だ。今は子どもの数も少なく出産・保育もほんの一時期のこと。性別分業の歴史を変え共業という形にすれば、また新しい男らしさ女らしさが生まれてくるのではないか。

(神田道子 6・30朝日)

おんなのむかし

万葉時代、男は女のところへ通うだけ。母親が子どものめん

どうをすべてみた。中世は女性の暗黒時代のようなだが乳母(めのと)など政治的に重要な働きをしている。戦国末まで財産も夫婦別々だ。日本女性のイメージが変わったのは徳川期以後、儒教の影響だが、それでも仔細に見れば結構自由に生きていた。考えなければならぬのはそれが現在まで続いていることだ。

(永井路子 6・30・7・1朝日)

「黙ってついて来い」

「黙っておれについて来い」と生命力あふれる女性を家に閉じこめてしまう男性、本当に大丈夫なのか。妻がいつまでも魅力的な召使いであり続け、夫が頼もしく威厳を保ち続け得るか。離婚問題で家裁を訪れる夫たちは、妻の自由と自立の能力を奪っておきながら、妻の一生を保証できる者はほとんどない。

(中島通子 7・7朝日)

社会参加の前に

今年は国際婦人年。これにちなんで「婦人よ家を捨て社会に出よ」といわんばかり。女が家事をべつ視して社会へ参加しようというのは問題。家事、育児に誇りをもち、それを良い方向にもっていくことが女の社会参加の第一歩。(30歳 佐藤杏子)

(7・7信毎)

「社会参加の前に」に反論

女性解放を訴える人が育児、家事をべつ視しているとは思えない。女が自分を高めるために活動できる場がほしい。行動する人たちに感謝。

(主婦32歳 愛川ゆき子)

(7・11信毎)

男性に協力し尽くしたい

国際婦人年の意味は、女性が

権利を主張するだけでなく男性との協力を誓うことにもあると思う。戦後女性は権利主張のため男性に対抗してきた一方、義務を忘れていた。能力、体力の差を考え、権力を求めるより、男性に尽くす伝統を守るべき。

(高校生17歳 城崎百合子)

(7・11信毎)

「男性に尽くす」に反論

男性に比べ能力に差があるとは女性の歴史を知らぬ言い方。日本の女性が男性に尽くす伝統をこわすなどというが、これが良い伝統だろうか。若い女性としては驚きた。男性の意識の変革こそ女性運動の本質だと思う。

(主婦67歳 山田歌子)

(7・16信毎)

男性に頼る生き方でよい

「男性に協力し尽くしたい」と

いう意見に反論。その考えの根底は男性に頼るということだ。これからの課題は、男女平等の思想の上にまず女性が目覚めること。封建的思想から脱皮し男女同権をしっかりと見つけてほしい。(高校生17歳 新海ちづる)

(7・23信毎)

お前とあなた

結婚したら「お前」とは絶対に呼ばせないという女性が多いが、「お前」とは昔は尊称だ。妻は「あなた」と夫を呼ぶが、子どもに「あなた」などといわれれば見下げられたと思う。男女共学で服装や髪型は中性化するが言葉は男性化。次の世代は妻が夫に「おい、お前」というかも。(高橋 博 8・2朝日)

新女権論

男は意地の発想——そして頑

固じじい。女は怨みの発想——そして意地悪ババアか鬼ババアか幽霊である。

女の甘えは攻撃だ。頑固じじいを駄目おやじ化する。男と女の習性を観察して、女はがっちりと権力を確保する。新しい女権。(加藤登紀子 8・16朝日)

解放運動の三女性

戦後「思想の科学研究会」に入り無名の人たちの聞き書きを始め、ことに一九三〇年代の解放運動の女性活動家に関心をもった。山代巴さんとも力を合わせ丹野セツ、九津見房子、田中ウタの聞き書きを出した。暗い時代の女の生活を記録しなければ歴史の真実は伝わらない。これらの人のことは若い人たちに読まれ研究されているがほとんどの人は知らぬまま三〇年代と似た誤ちがくり返されている。

(牧瀬菊枝 10・6朝日)

財界首腦の意見は

アメリカの「男女差別苦情処理機関」を日本にも。女性の地位向上に国が私的企業に介入すれば業界全部でやれるのでは。

(永野日商會頭)

*

国連の場で計画されたことから協力。地域保育所建設資金の企業一部負担は賛成。

(土光経団連会長)

*

男女同一賃金、同一労働は当然、労基法第三条に男女を入れるのに賛成。(桜田日経連会長)

(10・7朝日)

女性も政治に積極的進出を

〈行動を起こす女たちの会〉が話題になっているが、何か末節にとらわれすぎていると思う。社会は政治で変わるのだから、なぜ女性議員を多数出すことに

積極的にならぬのか。人間の半分は女性だから、その気になればできるはず。男性に対する抗議運動より女性にこそ呼びかけるべき。(無職56歳 浦川 実)

(10・29朝日)

〔働く〕

労働のなかの女性

法律相談で多いのは、社会的条件で自立できない女性の問題。労働者の三分の一が女性だが、職場では差別下にある。日産、古河の若年定年制、結婚退職制を不服とする裁判で「女性は生理的に劣る」という理由で敗れた。女は家庭に入れの通念が顕著である。最近女は育児が第一という「勤労婦人福祉法」ができた。役割分担を肯定する男の意識は強いが、労働者としての女の人権を主張していきたい。

(中島通子 2・28婦民)

「お手伝いさん」はいけな

退職後は「お手伝いさん」に考えている。働く女性が家庭内の雑用をこなすお手伝いをやろうのが後めたいというのはおかしい。男のエゴ的発想にのってはいらない。

(佐々木容子 3・7婦民)

転職：収入は減ったが：

八時間勤務からパートの六時間勤務に変えた。年齢に比例して、子どもが成長したとき、疲れ果て、抜けがらのようになっている。差の二時間は貴重で、本を読み、思索し、仲間と話し合い、やりたいことはいっぱいある。(西沢敬子 4・23信毎)

専門職に育児休暇を

「出産の権利は女教師にも」はもっともな意見。本来は働く女

性すべてに長期の育児休暇が必要だが、とりあえず教師、保育、看護婦、医師その他の専門職に一定期間の育児休暇のとれる制度の確立を要望する。

(主婦59歳 増井登志)
(4・30朝日)

欲しい女性労組

経費節約の妙策と、団地の主婦のパート目当てに弱電メーカーがつくったミニ工場も不況のあおりで次々閉鎖、多くの主婦が突然解雇された。その不当を労組に訴えたが、女性労働者に関しては経営者と意見が一致、全くとりあってくれなかった。超企業派女性労組をつくらねばという意見を、私も断固支持する。(吉武輝子 6・16朝日)

女の手仕事

戦後、電気製品の普及で女の

手仕事は極端に減った。手を使うより頭を使うほうが高級という風潮だが、手仕事には物との間に言葉がある。女の手仕事と同様に、男の良い職人も減ってしまった。手が働くことは頭だけを先行させぬこと。この辺で手仕事を考え直すことは女だけの問題だろうか。

(石垣りん 6・16朝日)

雨にぬれたカギツ子……

急に激しい雨がふり出した午後、団地の集会所に一年生くらいのずぶぬれの男の子が雨やどりしていた。カサに入れようとしたが入らない。明らかにカギツ子。どんな理由で母親が働いているかは知らないが、常に被害者になるのは最弱者である子どもだということを痛感した。

(主婦34歳 中村葛子)

(6・27朝日)

*

二七日付の意見に反論。カギツ子の母を責める前に、団地の連帯のなさに悲しさと憤りを感じるべき。働く母を敵視しないで、子どもは社会の子として育てたい。(主婦42歳6・29朝日)

主婦の内職になぜ酷税

内職とパートタイムでは税法上の扱いが全く異なり、パートの制限額の半分の額で控除が認められなくなる。せめて給与所得並みの控除を認めるべきだ。(会社員49歳 阿部喜一郎)

(7・7朝日)

控除受けられる

毎年十二月末日までに申告すれば自宅の一部を作業場として控除が受けられ、主婦の内職程度なら所得税はゼロになるのは。

(会社員42歳)

(7・12朝日)

女同士で能力交換センター

幼児がいるために看護婦の職を離れたが手を貸す人さえあればその能力を役立てたい。一方幼児の世話をしたい人もいるかも知れない。互いに能力を交換し合って女でも何かできるようなセンターを設立したらと夢をえがいている。

(主婦 岸本まき子)

(7・26朝日)

どちらが大切女性の地位と育児

最近母親が自分の生きがいのためと外へ出て働くケースが多いが、そのために保育所に預けられる子どもはどうなのだろうか。パートで得るお金と子ども的人格形成にかける時間とどちらが重いか考えたい。「カギツ子」の心：「狼」や「牙」を出さない自信はありや？

(主婦28歳 仲田鈴子)

(8・10毎日)

働く母は失格か

十日付の意見は解しかねる。母親も父親同様働く権利がある。集団生活の子が母親につきまると子に劣ることはなく、集団の長所もある。育児に専念するのも外で働くのも女性自身の選択に任すべきで、どちらかが他方を非難するのは思いがりと考える。(無職39歳 原 真智子)

(8・17毎日)

幼児期は母が見守りたい

十七日付「働く母は失格か」の意見はもっともだが、子どもは母親が家をあげることを望まないし私の経験でも母親は特に幼児期は家にいるほうがよいと思う。自分の生きがいのために子どもに不自由や寂しい思いをさせるのは疑問だ。

(主婦55歳 伏屋芳子)
(8・27毎日)

働く女と老人問題

幼い娘を抱えて働く私を助けてくれた母が亡くなった。私の女の自立は、母が老後にすら「自分の時間」を持たずに一生を終わったことの上に成り立っていた。そのツケが今度は、年寄りが寝たきりになったとき、共働きの妻に退職を余儀なくさせる。保育所と同じ発想の保老所は無理。老人問題と婦人問題の接点を見つめるべきとき。

(樋口恵子 9・14朝日)

職場の男女平等推進には

一般に企業側は女性を男性なみに評価していない。職場の男女平等には、才能を伸ばすチャンスと平等に与え、待遇を平等にすることが必要。女性自身は

甘えをなくし職業を人生の一部と自覚すべき。縁辺婦人労働力が男性の職を奪う矛盾は、労働時間短縮による就業人口の増加と社会保障の高揚で解決する。

(9・15朝日・社説)

女性を社会に受け入れよ

先にこの欄で「女は対内的なこと、男は対外的なことに向く」との意見があったが、男女の能力の差は相対的な個人差であり、いつの時代にも主體的に社会に参加しようとした女性が多い。男性は冷静に現実を直視し有能な女性を社会に受け入れるべきで女性の解放は男性の解放でもある。

(学生22歳 富田元嗣)

(10・10信毎)

ハンガリー女性の労働条件

ハンガリーでは出産後半年は

給与保障で休める。希望により計三年まで休職、国が生活費を補助する。夫のかせぎの半分を妻が分担し、家事育児の半分を夫が受け持てば、男が企業に過剰忠勤し、女が男に過剰サービスの必要はない。その代わり浮気の内容も対等。

(大学院生27歳 鹿島正裕)

(11・12朝日)

〔法・政治〕

財産の夫婦平等化を急げ

民法七六二条によって、夫の働いて得る収入は、夫の単独所有ということになっている。家事に専従する妻は、夫に養われ、夫から与えられない限り財産はないということになる。

遺産の相続も、妻は三分の一だし、離婚時の財産分与はいくらでもいようにしか規定されていない。現実の夫婦生活から

みて、これは変だ。

夫婦はどんな点でも対等な人間関係であるべきだから、二人の財産の持ちは平等にすべきだ。(下光軍一 1・25朝日)

入籍の問題

結婚して入籍をすすめられている女子学生から、入籍について問われたので「事が生じた時の不利に対して自分の処し方が決まれば、意に反してまで入籍することはあるまい」と答えたら、「現実には不利があるからと入籍するのであればいつまでも現実を改新できない」と言われた。日常生活の具体的な点検はむずかしい。

(コラム 小石 1・31婦民)

「実子特例法」では

真の解決にならぬ

菊田医師の「実子特例法」は必

要」に反論。「血縁の子と戸籍を含めた一切の縁を絶ちたい」親の願望をかかなる薬として法律をつくるより、こういう親が少なくなる方向にもっていくことが本當の福祉国家だと思う。

(勤務医57歳 高世幸広)

(6・12朝日)

「実子特例法」と日本的体質

ヨーロッパの特別養子制度と三年間取り組んできた身には菊田医師の除名問題は納得がいかない。

最大の理由は出生証明に虚偽の記載ということと思うが、子捨て子殺し時代の矛盾をつき、法改正への動きへの力を与えたと思う。それに対して国も医学者団体も何の方策も立てていない。この問題は日本人の「生命の尊厳」への態度を問われていることなのだ。

(千葉茂樹 10・8朝日)

選挙二法に私は反対した

公職選挙法と政治資金規正法の改正案が可決されたが、私は両案とも青票を投じた。公選法は党利をはかり、資金法は企業や団体の寄付奨励、共に改悪だ。次の総選挙にどの党、どの候補者に投票するか今から調査し、政治献金している企業や団体には抗議行動を、と国民に要望したい。

(市川房枝 7・6朝日)

〔子育て・教育〕

保育仲間がほしい

東京、港区青山通りから原宿かいわいで共同保育がしたい。家の中に子どもと閉じ込められていることからの解放を願って。

(渡辺 1・17婦民)

安心して母となれる社会を

女がはじめて子どもを生んだときの思いがけないほどの感動は、その後まもなく苦しみとなり、女、とくに働く女を圧迫することになりやすい。家庭、職場、育児、社会活動、すべてに意欲をもち生涯をフルに生きたいとのぞむ女性ほどジレンマは大きい。母性という女の特質がよるこびとなり、女の生涯を貫く原動力とすることができる社会をつくり出せたら、人間はもっとしあわせだろう。

(田中寿美子 2・17毎日)

子どもの病気にくじけず

保育園に送り迎えの途中のあわただしい診療。医師にも母親にも、子どもに対するすまなさがある。しかしここでくじけないでほしい。一生の仕事をもとうとする母親は、自分の主張を

しっかり持って多少の「ずぶとさ」が必要。背水の陣をしいている人は夫との家事分担も成功しているようだ。職場できたえられた目で保育所の内容を見きわめ、仕事に対する責任感から育児の自信もわいてくる。

(毛利子来 3・6毎日)

PTAの可能性

PTAが「女の学校」で終わっていないはずがない。公害から差別選別の教育からわが子を守る利己的な意識で出発しても、それを貫き通せば普遍的力となり得る。PはPの、TはTの論理を真剣にぶつけ合う時にきている。

(東間紀子 3・21婦民)

子育てと子殺しと国家

虫のいどころが悪いというのも必ず社会の事情が基にある。

子殺しは社会状況がからんで

いるのに、母親一人に罪をかぶせている。しかも「身障者」を殺した母は同情され、起訴されないこともある。「刑法改悪・

保安処分」は「役立たず」を棄民し、反乱しないよう治療処分する国家の殺意を表す。私たちの概念や感性が、知らぬ間に国家によって形成されるのは怖いことだ。

(評論家 高杉晋吾)
(3・14 婦民)

PTAも奉仕の心で

PTAの幹事や役員になることを、多くの母親たちは逃げ回るが、わが子を含めた子どもたちのために、多少の時間とエネルギーの奉仕をするのがPTAと考え、引き受ける心になれたらと思う。小さな力でも、日本の教育をよい方向へ向けるために努力する姿勢こそが、わが子のために役立つことを、母親は

自覚してほしい。

(平岩弓枝 4・6 中日)

子どもたちの未来

最近、胎児の奇型が急上昇。しかも小児ガンや難病が増加。環境汚染、食品汚染、農薬汚

染の中で体の汚染がそのまま子どもに出るといふ宿命を負っている女性。子どもに食物を与えているのも学校給食に気を配っているのも女性である。私たちが気づかないで、私たちが声をあげないで、いったいだれが心配する！

(青木やよひ 6・2 毎日)

保育園が静寂か

坪一〇〇万円もの高級住宅地に保育園ができるのを住民が反対。働く両親の立場になって考えたか。地域エゴを不愉快に思う。(編集者33歳 成田鉄雄)

*

せつかくの静寂に騒音は耐えられない。適地は他に十分あるのに。「社会要請」として強行する構えの区は、英知をもって冷静に判断してほしい。

(団体役員73歳 角田正則)

(7・3 朝日)

*

保育園建設に反対できる幸せのほんの一部分を働く子持ち婦人のために分けてあげて。

(主婦28歳 三浦峰子)

(7・8 朝日)

福祉園の隣がわが家

近くの住民が建設に反対する身障者施設や保育園、その両方を隣と向かいにもつが、そこで働く人々に頭が下がる。幼児の声も昼の一人居に変化をつけてくれるし、親の身になって考えたらとても反対運動などできるものではない。

(主婦51歳 松井順子)

(7・12 朝日)

もろくなったのか母性愛

母子心中が社会面をにぎわしている。戦時中、夫の生死不明の中で幼児を抱えた母親たちは心中など決してしなかった。その母たちに育てられた現世代の女性が、夫も生きていてなお母子心中するという。人の心の結びつきの薄さを嘆かずにいられない。(主婦52歳 椿 芳子)

(7・11 朝日)

“狂育”に思う

勉強時間が少なくなるからトイレに長くいるなという母親。体育の時間に骨折した子は、勉強ばかりで骨がもろくなったという。勉強の遅れを案じて娘を殺し自殺した母親。教育とは何かを忘れた“狂育”のむなしさ

に気づかねばならぬ。

(コラム女の机 7・23 信毎)

子どもをあずける

専業主婦の間でも子どもをあずけることは日常的になったが、

親は便利だけを求めその場しのぎに女から女に肩代わりしてもらっただけ。親のエゴでなく子ども自身のための保育機関を考えるべきだ。子どもの安全や幸福を母親一人の責任にゆだねてきた過去を、実践的に批判する時に今はきている。

(国立市公民館職員 伊藤雅子)

(7・25 朝日)

無認可の子どもたちに光を

無認可保育所のおもちゃのカンバ袋がまわってきた。

保育所の絶対数の不足をカバーするためのものだが、奇異に感ずる。育ちつつある子どもた

ちに必要なものを無認可だからと備えないでいいのか。保母さん

も社会責任で優遇しなくては。

(赤座憲久 7・29 毎日)

P.T.A.の上下関係

PとTは本来対等に教育について考えるべきだが実際には教師はいつも親に対しても先生の立場をとろうとする。役員も教育には口を出すべきでないというが、納得のいかぬものには意見を出すべきだ。民主主義の原理を教師はP.T.A.の場でとりあげてほしい。

(38歳 佐藤とし子)

(8・10 信毎)

子どもの病気

子どもが病気をすると、多くのお母さんが自責の念にかられる。これらを全部、母親の罪としてかぶる手はない。むしろ、

母親にだけ育児の責任を負わせるような考えをこそ改めてもら

うべき。父親もその持ち味で協力を。(毛利子来 11・6 毎日)

男女の共同作業が必要

経済・社会の進歩や発展も子どもを産むと同様、男女の共同作業であることを忘れがち。世界の深刻な問題、食糧危機、文盲、高い児童死亡率の改善は女性の地位次第。被差別者が自ら闘わず平等が与えられた例はない、女性自身は受身の態度を改めるべき。(ヘルビ・シビラ)

(11・7 朝日)

国際父親育児年を

妻に離別七年、子育て父さんの大発見。育児は女房に任せっきりにするには惜しい人間的労働。標準家庭で夫が三年育児に専念すれば、教育・産業改革・

南北格差は正などいいことずくめ。

男女分業は産業革命以後のこと。日本では明治維新まで武家以外には稀だった。

(鎮目恭夫 12・1 読売)

人生の座標軸は自分におく

「幸せいっぱい」の若いお母さん、夫と子どもへの没入は危険です。「せっかく一生懸命してあげているのに」というグチは子どもには理不尽な強制力として働き、自分には自信喪失と自己嫌悪をもたらしがち。将来こんなところでもたもたするより、今のうちに自分のできることを始めよう。共同育児でも何でも。

(毛利子来 12・4 毎日)

ガンバレ若いお母さん

不満はなくても、病氣や疲れでまいったときは、十分な育児

ができなくなる。家事や育児には亭主の協力が必要。それも五分五分の分担でなければ意味がない。精神的な疲れも、打ち明け話のできる相手が必要。特に核家族化傾向の昨今の若いお母さんには……。

(毛利子来 8・7毎日)

〔折にふれて〕

インドネシアでの教訓

インドネシアでは働く婦人に産前三週間、産後三か月の有給休暇が不文律で認められている。妊娠中の定期検診に行くにも気楽に職場を離れられる。彼らの生活の根底に「人間性」を重んじることが仕事の能率や業績をあげるよりも大切だという精神がある。

インドネシアの女性は、家庭婦人でも、何らかの形で自分の収入を得て、家庭外の世界にい

つも目を向けている。

(原 ひろ子 1・4読売)

「中性洗剤は支障ない」に反論

一月十七日の経済新聞に、家事評論家西川勢津子さんの「中性洗剤は適量であれば支障はない」が掲載された。婦民公害部

は「一人に適量でも大勢が使えばどうなるか。土や川や海の汚染を広げ、相乗作用で人体へ悪影響を与える。どう使うかではなく合成製品は使いたくないのだ。合成洗剤追放は自分たちを守るためであって、この運動を広げるのは、私たち一人ひとりである」と主張する。

(2・7婦民)

夫の陰で生きると

文学仲間であった友人が死んで彼の妻は言った。これでやっと自由に生きられると。しかし

社長になっていた夫の陰で彼女は若い頃革新的であったことはどこへやら、意見らしい意見を持たない女になっていた。

(コラム 小石 2・21婦民)

損と得

物を安く買った高く買ったということはそのまま損得につながらない。それを思いなやむことで身辺のものに対する感受性が閉ざされるはずと損なのだ。精神が富むことだけが得なのだと考えれば貧乏のどん底にいた時でも金のことは少しも考えず一切の美に目を向けてきた私は長年大変得をしたと思っている。

(高橋たか子 2・24朝日)

国際婦人デーになぜ排除を

八日、日比谷野外音楽堂で国際婦人デー中央大会が開かれる。

国際婦人年の今年の大会に、女の怒りの広がりを求めたいが、常任委員会は、実行団体に、日ソ親善協会、日中友好協会等六団体を排除した。残念だ。女性差別撤廃とアジア、アフリカの女性たちとの連携を基軸に取り組むことを問い直すべきだ。

(市村順子 3・7婦民)

妻の価値は無限

妻の家事労働を金銭的に評価するか否か論議されてから久しい。お手伝いをたのめば年間一〇〇万はかかる家事労働も妻の場合評価されない、と不満をいう主婦。しかし本来妻の仕事は評価できないところに価値がある。その無限の存在を金銭に換算することは自ら妻の価値を否定すること。

妻の仕事を評価しないのではないが、そのことがかえって「女は家庭に戻れ、家を守るこ

とだけが女本来の姿である」と
いう論理に利用されることを恐
れる。(金岡 都 4・7 読売)

娘に語りつく戦争

平和! 子どもたちに当り前
のこの言葉の重みを知るため、
またこれを失わぬため、幼い娘
たちに戦争の悲惨さを語りつこ
う。(主婦31歳 玉手理子)
(4・20朝日)

情報としての広告を

昔は老人に意見を聞いて生活
することができたが、新しい商
品の開発で、主婦が頼りにする
のは広告だけ。

メーカーは、売るためだけに
なく、商品知識を豊富に含んだ
情報としての広告をしてほしい。

(水野恭仁子 43歳)
(4・26中日)

夫婦なんて何よ

教育の中では自由と平等につ
いて学んだが、結婚八年、気づ
いてみると夕馬か飯炊きばあさ
んのような自分。子どもも夫も
すべてを捨てて一人自由に生き
ようかと思う。男たちよ、もっ
と平等という言葉を、女房の心
を考えてほしい。

(主婦34歳 稲沢杏子)
(6・12信毎)

一人で歩くときの「女」の顔

主人に子どもをあずけ久しぶ
りに外出。いつもは妻と母の顔
で歩いているが、一人の女とし
ての顔を忘れてしまつて顔が赤

らむ思い。男性にはどんな顔が
あるのか、子どもと一緒に歩か
なくなつた時、安心して歩ける
「女」の顔を捜さなければと思
つた。(主婦 井浦みずゐ)
(6・30朝日)

中ビ連への再評価を

中ビ連に対する批判を耳にす
るが、中ビ連の行動は、男の身
勝手さを突破する糸口。その行
動に拍手を送りたい。不当な抑
圧に甘んじ、喜んでシッポを振
る女性が多すぎるのが残念だ。
(無職 女 36歳 7・5朝日)

共感できぬ「中ビ連」

彼女らの行動は男女の本質的
相違に目をつぶっている。男女
にはそれぞれの役割がある。暴

君や女を食いものにするのはほ
んの一部の男で大部分の男は女
性に一目置いているのだからも
っと地道に先輩の歩んだ道を発
展させては。

(工員45歳 7・16朝日)

男はなぜ結婚するか

夫の妻に対する期待の第一は
家事、育児で、そのイメージに
反すればさまざまな圧力をかけ
る。仕事をもつ妻は結局それを
やめ、所得能力を失つて結婚を
生存の唯一の手段とする。夫に
は分業と私有と同じで妻の労働
力を家事育児に専属させる。し
かし家庭責任を妻に押しつけた
夫は所有者であるより月給運搬
人にすぎない。男女の分業で社
会も家庭も何を失つたか考えた
い。(中島通子 10・6毎日)

相談



悲しい学歴の違い

離婚後も顔を出す元夫

養子の暴言にショック

れないとは心が狭い。水に流して楽しみは外に。

(小糸のぶ 3・12読売)

夫は中卒、私は大学出、二八歳、一児の母。周囲の反対を押し切って結婚したが、何かにつけ意見が合わない。「たまには本を読んだら」といってはケンカになる。嫌悪感で、からだをさわられるのもイヤ。

(東京 Y子)

〔答〕夫婦生活もイヤなら別れるのも一方法だが、相手にないものねだりをするのはやめて、もう少しばらくやってみてはどうか。

(戸川エマ 1・4読売)

四六歳、三児の母。夫が女性と同せいしたため離婚。現在生活保護を受け人生をやり直す決心をした。ところが別れた夫が数日おきに来て飲み食いして困っている。

(東京 T子)

〔答〕きっぱりと断わるべき。食事も出さなければよい。生活保護受給のための離婚届と誤解も受けかねない。子の父ではあっても二人の間はきっぱりと縁を切るように。

(鍛冶千鶴子 2・12読売)

十二人家族の農家に嫁いで以来三二年、現在五五歳の老婆。子どもに恵まれず、夫の弟を養子にし、嫁、孫と幸せに暮らす。ささいなことで嫁に注意したら息子に「死ね」とまで言われた。ショックで自殺未遂。息子はわびているが水に流せない。

(山形 S子)

〔答〕老婆というが、そのために老いこむこともある。売りことはに買いこむことばとしてもあなただのショックは無理もない。しかし、今も死や家出しを考えら

義母が男と親密に

農家の主婦、三五歳。義父の死後泣き続けていた義母が料亭で働くようになって、妻子ある男性とつき合い、男は堂々と遊びにくる。夫はいいというが、せめて家には来てほしくない。

(秋田 A子)

〔答〕正論ですが、戦後個人の自由を認め合う時代になっていくことも考え、あまり神経過敏

にならぬように。あなたの家にその男性が出入りしないように夫からでも申し入れてもらえば。

(小山いと子 4・9 読売)

父が義姉と浮気

十七歳の女子高校生。五〇歳の父が六〇歳の義姉と浮気。母はそれを知り食事も睡眠もとれず、義姉は話し合ってもかえって居直る。私はどうすれば。

(茨城 K子)

〔答〕義姉も父もひどい人です。お母さんが離婚したいのなら別ですが、浮気がやめばよいのなら、あなたがお父さんに強く言って説得してみて下さい。

(戸川エマ 5・24 読売)

学歴のない負い目

結婚して一年の主婦。学歴コンプレックスのために人につき合えない。女の人が集まって話

しているとぞっとする。近所つきあいや、夫の実家とのつきあいのことを考えるとゆううつ。

(神奈川 S子)

〔答〕今の日本社会では学歴コンプレックスに陥るのも無理はない。これをのりこえるにはコンプレックスを逆用して自分の努力でその源を断つことです。もっと積極的に。

(平岩弓枝 6・7 読売)

被害者の娘に「暴言」

四〇歳の母。娘は三人組の不良青年に暴行された上、別の男にその件で脅迫されていた。明るみに出て法廷で真実を述べる娘に、終了後、加害者側弁護士が脅迫じみたことを言う。怒りでいっぱいだ、この弁護士の状態は違法ではないか。

(東京 A子)

〔答〕事実なら弁護士として許されないが、脅迫にあたるかは

家出した妻が心配に

軽々しく判断できない。法廷のたびにそのようなことがあるなら、その弁護士に所属する弁護士会に懲戒請求できるが、請求側も資料提出の必要がある。

(鍛冶千鶴子 7・29 読売)

長女は万引き常習犯

小五と小一の女子をもつ主婦。長女が万引きを何度かしたが、夫も私も体罰を加えて叱った。長女は両親とも妹ばかりかわいがるのが不満。事実なので反省もするが、今後は？

(茨城 S子)

〔答〕精神的にも肉体的にも変化多く、動揺しやすい時期、できるだけ良い点をほめるように。妹さんの前で叱らないとか、表情一つにしても二人を差別しないなど細かい配慮を。盗癖がないなど細かいようなら、児童相談所へ。

(平岩弓枝 8・23 読売)

二人の小学生をかかえ働く三七歳の男性。不況のために減配続きで妻が夜のアルバイトに出て妊娠。ケンカの末、三歳の子を連れて家出。自分の至らなさは反省しますが……

(東京 I生)

〔答〕ひたすら自分を責めておられるのに感心しましたが、少し行き過ぎのようにも。不況減配はあなただけの責任ではない。奥さんにもがまんがほしかった。大変だと思うが、動機を休んでさがし回るよりは、親せき、知人に打ち明け捜索を頼み、あなた一家を守って下さい。

(小山いと子 9・4 読売)

“まじめな夫”が浮気

三七歳の主婦。夫の両親と二人の子の六人家族。まじめな夫が浮気をしているらしい。やり

切れない思いだが問いつめる勇氣もない。姑への氣がねから衣服も作らず、イライラ子どもにあたる。

(埼玉 M子)

〔答〕夫婦でありながら、私一人がまんすれなどといういじけたアナクロニズムを抱くから逆にひがみが出てくる。なぜ身辺調査をしながら夫に聞いてみないのか。必要な衣服なら作つたらよい。明るくのびのびとふるまいなさい。

(小山いと子 10・2読売)

夫が会社の金を盗む

夫が会社の金を持ち出して行方不明。私が返済拒否すれば、公金横領で訴えられ、新築の家も没収でしょう。娘は婚約を取り消す決意、息子も泣く始末。帰ってきたら離婚するつもりだが、とりあえずどうすれば……。

(埼玉 S子)

〔答〕夫の横領は夫の責任、民法が夫婦別財産制をとる以上、あなたが責任を負うことはない。あなたは二人の収入で建てたものだから、二分の一はあなたの持

ち分。侵されないように対策をたてること。親の刑事事件は娘さんの婚約解消の当然の理由にはならない。

(鍛冶千鶴子 11・26読売)

生理日に発作起こす

十七歳、女子予備校生。先日生理の日、夜中に息苦しく体がしびれ、意識はあるのに口がきけず、硬直状態に。女で一浪という世間体、野心家の私は妥協したくない。今年いっしょに落ちたボーイフレンドのためにも

希望校に入りたい。

(千葉 A子)

〔答〕本人にお会いしていないので正確な診断はできませんが、心因性の症状のように思われます。心の葛藤の中で、本格的受験シーズンに症状の再発を恐れてお困りでしょう。彼とあなたは「受験」より「恋愛」を求めて挫折しかかっていませんか。とにかく、神経科医の診察を受けて下さい。

(平井富雄 12・29読売)

人



〔ひと〕

藤間勸素娥さん(64)

「女は家を出て自立せよ。」祖父の、元首相高橋是清にはげまされ昭和初期から日本舞踊に生きたつづける。藤間新流家元。

(1・6朝日)

女性解放運動の原典邦訳

三人の主婦が、二世紀前の英国婦人評論家メアリ・ウルストン・クラフト著『女性の権利の擁護』の邦訳を三月に完成す

る。ウーマン・リブのデモより

もその原典に取り組んだら——と山崎朋子さんの助言もあって育児・家事・家庭教師などのかたわら、難解な英文の翻訳に励んでいる。

(1・6朝日)

現代衣服源流展を演出

小池一子さん、コピーライター、株式会社コマートハウス主宰。ニューヨークのメトロポリタン美術館で話題をまいた衣服展を三月二五日から京都で開く。現に生きているファッションを美術工芸品として保存したい

と、十年ほど前から欧米の美術館、博物館を見て歩いた。

(1・22毎日、1・28朝日)

無名の女の昭和史

経営史研究所に勤務する森真澄さん(41)が、父方の祖母と母の日記をもとに、『たとえ小さな足あとでも』(筆名上原ますみ、芙蓉書房)を、七〇年三月に出版。「日記は、ほとんどが身辺雑事だが、巧まずして語られた女の昭和史そのもの。日本の女の生きてきた様子がよくわかる」と。

(1・28毎日)

外交で理想を燃やす

渡辺華子さん。本職は労働評論だが二年間国連の政府代表代理として活躍。これからの外交は女が入らなくては、という。理想に忠実であろうとする純粹さ精神の若々しさもこめてニックネームは「万年童女」。

(2・7日経)

高校問題に取り組む

古賀禰子さん(44)。三多摩高校問題連絡会議事務局長。一人娘裕子ちゃんの入学と同時に

定年は人生の夕暮れ

P.T.A活動に参加。中学浪人を出したくない願いから七一年にいまの連絡会議の前身をつくる。

(2・21赤旗)

母親連絡会生みの親

山家和孩子さん。若い時から柔軟な生き方を自ら選ぶ強さがあつた。戦後夫君と別居、五人の子どもをもってP.T.A運動に入る。昭和三〇年初の母親大会に出席したのをきっかけに会のため役となる。何回かの危機も忍耐と貫禄で切り抜ける。

(2・26日経)

英国で日本女性が学位

西田宏子さん(36)。オックスフォード大学のきびしい学位審査をパスして文学博士に。英文二三〇ページの大論文で題は「十七、八世紀の日本輸出陶磁器の研究」。(3・2毎日・朝日)

野鳥保護で環境庁長官表彰

下田澄子さん(51)。東京西多摩・戸倉小学校の校長さん。愛鳥モデル校の同校を、名実ともに充実したものに、と努力。「理科が好き。好きなことと環境が一致して幸せ」という三児の母。

(3・9朝日)

「猛勉」女医さん

東京外語大スペイン語科を卒業後南米に渡りオランダのカメラマンと結婚、三人の娘を育てながらブエノスアイレス大学で医学を学び医師の資格をとった岡本弘子さん(36)。東京の癌研究所に研究のため来日、十三年間の経験を手記にまとめている。

(3・12毎日)

韓国の痛みを肌に

随筆家の岡部伊都子さんは今、

「重苦しい韓国の民主化闘争に学んでいる」と語る。

岡部さんの随筆は人間としての解放を願う深い思いに裏打ちされているが、それは戦争で失った兄や婚約者への哀惜から。沖縄・朝鮮の痛みを共感したいという願いにと幅を広げたいという。

(3・14毎日)

女ひとり太平洋横断計画

東京足立の小林則子さんは九月二一日サンフランシスコ発六〇日の予定で沖縄までヨットで太平洋横断を計画している。この出発は沖縄海洋博協会主催のレースの出発と同時に。規定の艇より小さいため正式参加とならないが、世界の強豪と肩をならべる。乞成功！(3・15朝日)

歌でベトナム復興支援

反戦フォーク歌手、横井久美

子さん(30)。(ベトナムに心を寄せる会)を結成。これまでも相模原のM48戦車阻止闘争の、「戦車は動けない」を反戦街頭パネル展の会場で歌うなど。一昨年、日本の女性文化代表団の一人として北ベトナムを訪問し、収録テープでレコードを自主制作。四歳児の母。(3・21朝日)

婦人警官エースの退職

高松春子さん(57)。終戦直後の一九四六年婦人警官一期生として警視庁入り、以後全国のトップを走り続け、最近「ヤングテレホンのお姉さん」と頼りにされていた。独身で三〇年近く少年輔導や家事相談とソフとな面を担当してきた。

(3・25朝日)

八二歳の手習い

星野キンさん(82)。成人学

級でも珍しい「世田谷婦人大学」の二年間の全課程を修了、卒業証書を受けた。卒論は「家族制度の崩壊と老人のゆくえ」さらに大学院に挑戦します、とハッスル。(3・29読売)

北海道公立高校に

二人の女性校長

道内の二公立高校に、初めての女性校長が赴任。登別高校の川原イト校長(50)と室蘭啓明高校の吉山峯子校長(57)で、全道公立高校の現職女性校長はこの二人だけ。管内の教育界に新風を吹き込むものと期待されている。(4・9北海道読売)

主婦画伯

東京都墨田区の露峯三重子さん(35)。家業の印刷を手伝い、育児のかたわら、はり絵に取り組む。このほど個展を開き、隅

田川、浅草の街など、身近な下町情景など四〇点を出品。

(4・9毎日)

〈防衛を考える会〉

の婦人代表委員

角田房子さん(60)。防衛問題に国民の同意を得るための会だが、角田さんは女性ジャーナリストとしての姿勢で防衛庁に事実の公開を求める構え。戦前戦後のヨーロッパ生活で真の平和の重みを知って、日本の「平和」を皮肉る。(4・10読売)

〈女たちの会〉の事務担当

武田京子さん(41)。(国際婦人年をきっかけとして行動を起こす女たちの会)の事務。リーダーではなく、縁の下の力もちという。会員は三〇〇人。雑誌編集をして婦人問題と取り組んできたが夫君の転勤で、専業主

婦」となる。二児の母。「生活を足げにした運動はいや」と。

(4・10朝日)

『寺内貫太郎一家』の作者

平均視聴率三〇%の秘密を作者の向田邦子さんに聞く。「貫太郎のモデルは私の父。懐かしさと家庭というものの反省から書きました」。女性が主人公のホームドラマの定型を破った。十五年前父とケンカして家を出たきり。(4・14毎日)

女性局長、都庁を去る

縫田瞳子さん(53)は三十年十か月前、「弱者のために」と懇願されてNHKの解説委員を辞め、初の民生局長に就任したが、このほど辞表を提出。「福祉の基盤づくりに全力をあげた。これからは婦人問題に取り組みたい」と語るが、突然の辞任は三

期目の美濃部都政に波紋を呼び
そう。
(4・15毎日)

市議をやめる

幸田維久子さん(58)は大阪
府藤井寺市議。八年間務め今期
でやめる。主婦の読書会から立
候補したが、議員としてまじめ

に活動すれば読書会と両立せず、
三期目の立候補を断念。これか
らは市民として議会を外からゆ
さぶる。母と子の問題は女性議
員の手でと。
(4・22朝日)

生きがいを求めて

長沢信子さん(41)。「ライ
フワークがほしい」と人の手が
けぬ中国語を勉強。通訳の国家
試験もパスし、昨秋は友好使節
団の通訳。さらに挑戦して准看
護師の免許をとる。

(4・25読売)

全日本女子剣道選手権で優勝

田中由美子さん(20)。大阪
代表。一五センチの小柄。親
の反対を押して中一で剣道部へ。
優勝は監督さん、先輩のおかげ
と言う大阪体育大生。練習熱心。
郷里鳥取で体育教師になるのが
希望。
(5・4毎日)

海女代表

上村さんさん(81)。十一日
御木本真珠島を訪問されるエリ
ザベス女王ご夫妻にごあいさつ
する海女四代のキャプテン。今
は楽隠居だが娘のころは真冬で
もイソ着一枚でもぐるきびしい
生活。赤銅色、深いしわ、つや
やかな黒髪、カゼ一つひかぬ健
康体だ。
(5・10朝日)

日本児童文芸家協会の理事長

山主敏子さん(67)。もの書

き一家。亡夫は新聞社、息子は
SF作家、ヨメは生活問題のラ
イター。自分の能力を試したく
て記者に。戦後、労働組合の婦
人部長として、マスコミに働く
女性の地位向上に努めた。勤め
ながら児童文学を書く。唯一の
楽しみは一人旅。
(5・11朝日)

ベトナム反戦を訴える

和田あき子さん(36)。日本
がベトナム戦争に無関係でない
ことを膚で感じ、反戦運動「大
衆市民の集い」を。朝霞の基地
野戦病院に向かって百回余の反
戦放送をする。ベトナム戦争の
根底には差別があるのが女とし
て実感としてわかると。
(5・15読売)

イタリアで「カサド・国際
チェロ・コンクール」主催

原智恵子さん(61)。チェロ

演奏者カサド氏と結婚。夫君亡
き後その遺志を継いでチェロ・
コンクールを。今でも毎日三時
間のピアノ練習を欠かさない。
(5・15朝日)

手作りの貼りえ絵本

川上よりさん(61)。手がけ
て十年。祖母から聞いた昔話や
民話をいまの子どもたちに残し
夢を育ててほしい、と東京深川
図書館に贈りつつける。グリム
から魯迅まで手を伸ばしている
が、幻想的で素朴な味わいのに
じみ出る絵本に子どもたちは目
を輝やかす。
(5・15朝日)

米大陸横断航空レースに挑戦

及位(のぞき)ヤエさんは婦
人の世界最大航空レース、五〇
〇キロに初参加。飛行時間一
〇〇〇時間、現役では最古参。
肩書は日本婦人航空協会の理事

長。女性パイロット普及に努力。「飛行機の操縦は緻密で女性に向いている。レースでは日本女子の意気を世界に見せたい」と。

(5・16朝日)

壮挙、エベレストに初登頂

その時頂上は快晴、微風。エベレスト女性初登頂、田部井淳子登はん隊長とシュルパのアンツェリン氏。キズだらけ、ギリギリの登頂、女性の持つねばりと忍耐が勝利を。

雪崩で一時は全面撤収も。酸素が二人分しかなかったため、田部井さんが登る。ベースキャンプで待機の隊員は肩を抱き合って喜んだ。(5・18読売)

*

田部井淳子さん。「女性としてスピードと体力は男にかなわないと思ったが、執着心と粘り強さが利点だった。貧乏部隊で困ったが、登頂はこれからの人

生の大きな励みになるだろう」と。(6・11読売)

日タイ交流

小谷かつ代さん(29)。タイ人の大学助教授夫人。大学在学時から東南アジアに興味をもち、現在バンコックの大学で日本語を教授。タイは建設、道路工事まで女性進出がめざましい。自立し心豊かなタイの人を日本人はなぜべつ視するのか、とタイ研究に情熱をもやす。(5・20朝日)

政令都市初の女性議長

第四六代京都市会議長加藤つるさん(66)(自民)。議員六期目。女性に何ができる——と悪口をいわれながら今は京都市の内情に最もくわしい一人。だが市会の現状は複雑。真価を問われるのはこれから。お寺の主婦の

役もこなすスーパーウーマン。

(6・3毎日)

世代懇談会の十代代表

高橋千里さん(18)。群馬県下の短大一年生。化粧っ気がない。高校では弓道部員、一六四センチと大柄。先生は、努力型、強い責任感、奉仕精神豊かとほめる。母娘ともガールスカウトの団員。その一員として個人の考えを率直に話そうと思うと語る。(6・5朝日)

手造りネクタイで再起

飯田市の主婦、伊藤雪子さん(45)。骨腫瘍のため左足を切断、沈みがちな毎日だったのを、家族の励ましで手作りネクタイの講師の資格をとり、意願の講習会を開いた。「病気を忘れ、多くの人に喜ばれるようがんばります」と。(6・16信毎)

「南ベトナムにコメを」

清水谷子さん(42)。南ベトナム孤児救済市民センターの代表者。日本にベトナム戦争の責任がないとはいえないと、八月十五日までに五千万円を目標に募金活動。夜学に通いベトナム語を習って、自分の目で支援している孤児院を見て回る。本職は建築業。十一人の社員を持つ。独身。(6・21朝日)

詩作五十年の詩画展を開く

永瀬清子さん(69)。岡山県に住む、女流詩人の最長老。荻窪のシミズ画廊で「永瀬清子の来た道」展。

話がへたで詩で表わすほかなかった。詩を書くには地を這う虫の心が大切という。性格は開放的、骨つばさもある。「近ごろの人の詩は、人の知らぬことばを使って、心はどこに？」と

思わせられる」と語る。

(6・29朝日)

幸せな女性は美しい

へアの魔術師といわれ、世界的に有名な女性の美容を担当したマリア・カリタさんが弟子の招待で来日。カリタさんからみた日本女性は、「全体に西洋的になった。流行を追いすぎる」。

おしゃれの基本は「シンブル」それと心の美が大切。年をとったら倍のおしゃれを、と。

(6・29朝日)

トラックかあちゃん奮戦

上原ケサヨさん(35)。運送業の夫を助け、十一トン半、全長十一メートルの大型トラックを運転し、週二度関西と新潟方面へ往復。家では横になるひまもなく家事万端をやり、PTAの役員もつとめる。「私が働け

るのは母がいてくれるから」それにしてもたくましいヤマトナデシコ。

(6・30信毎)

林野庁担当区主任をめざす

遠藤栄子さん(23)。青森宮林局の東北林木育種場の紅一点。

この一月に主任試験を受けて合格、目下最年少の研修生。夢は自然休養林の保護育成。樋口宮林局長も「男性に刺激を与え、女性側にも自信をもたせるケース」と国際婦人年に寄せ成長を見守っている。

(7・2毎日)

東南ア留学生の戦時の姉

三人の留学生を生活指導し「お姉さん」と慕われた上遠野寛子さん(57)。六月末マニラに招かれて「教え子」と再会。マレーシアに向かう。

(7・6朝日)

沢松組ウィンブルドン優勝

全英オープンテニス選手権最

終日、沢松和子は日系三世アン・キヨムラと組んで女子ダブルスに優勝。

(7・7各紙)

ブラジルで日本語学校

堀内和子さん(41)。十一年前、四人の子育てをしながら血と汗で学園を。いま生徒数七〇人、「うまくいってるほう」。

(7・8朝日)

『ベルサイユのばら』の作者

池田理代子さん(27)。ベルばら旋風で三〇〇万部売れた。原作者はすらっとした美女。歴史を入念に調べてストーリーをからませる。尊敬するのはマルクスとベートルベン。ドストエフスキーも深く読んだ。東京教育大中退、学生運動もした。映

画化、テレビ化等ざわつくが、この才女流されはしまい。

(7・9朝日)

初めて女性が労基局長に

赤松良子さん。日本で初の女性労働基準局長に。「国際婦人年のご祝儀と疑われるほど、戦後三〇年一人も女性はいなかった」と笑う。今までと異なり部下はほとんど男。家族とは別居で單身山梨へ赴任、「労働省は女性の人材が揃っているので私のやり方が後輩に及ぼす影響は大きい」。

(7・15朝日)

日本の心を唄う八三歳

柳兼子さん。六〇年にわたる歌手生活を続け、最近「現代日本歌曲選集」のLPを。「皆さんはいいかげんな年になると歌うことをやめますが、経験を積み重ねばそれだけ技術も練れてまい

ります。ある時に開眼したというより、いつしか変わって」と。

(7・22朝日)

病に負けず描いた二〇点

長野市の重度心身障害者施設の寮生、寺島翠子さん(51)は二年前から卵の殻のモザイク画に取り組み、このほど、二〇点を完成させ展覧会を開く。

(7・24信毎)

合成洗剤追放運動を決める

芳賀得代さん(61)。全国漁協婦人部連絡協議会会長。私たちに海以外に生活の場はない、その海を殺していくのは合成洗剤、と全国の主婦と手を結ぶ。無公害洗剤をメーカーに造らせるのが目的。

二七で結婚以来、漁家の主婦の地位向上に目を向けて来た。「頼りにされる相手になるのが

生きがい」。(7・25毎日)

山本有三の蔵書寄贈

「路傍の石」などで知られる故山本有三氏未亡人はなさん(77)は熱海の中銀ライフケアに転居することになり、蔵書一万三〇六五冊を都に寄付。貴重な文献が多く、現在日比谷図書館の書庫で整理が進められている。来年五月開館の都立江東図書館に収蔵される。

(8・1毎日)

身障者競技で金メダル

中川りつ子さん(22)。国際ストークマンデビル競技大会で金メダル獲得。幼時の小児マヒで両足が不自由だが、快活、笑顔が絶えない。優勝種目はスラローム。一昨年の千葉国体見学でこの競技に魅せられ、勤務のあと二時間の猛練習。人に手を

借りるのはいやと、松葉づえで乗鞍にものぼった。

(8・2毎日)

二人の女剣士

矢野かなえ二段(大分県立野津高校三年)。女子剣道団体に初優勝チームの主将。剣道を始めた動機は「両親にすすめられて中学生のとき」。

姉川葉子初段(福岡・明善高校二年)。「男っぽいことがしたくて小学校四年から」。

(8・5朝日)

子どもの遊びと歌を記録

絹田幸恵さん(44)。十年前足立区立伊興小に赴任以来この地区の歌と遊びを同僚と記録、農村から都市化してすたれていくものを三二ページの本にまとめた。区教委でもこれを機会に昔からの遊びや歌を残す方法の

検討を始めた。(8・8毎日)

私は女性コック長

島静代さん(32)。コック、板前といえど男という観念をくつがえず女性もボツボツ。島さんは渋谷でフランス料理店を開き、コック長、店主として経営責任をもっている。女子栄養短大を出てからフランスでプロとしてみっちり勉強してきた。やりたい気さえあれば女性も十分進出できるという。

(8・8朝日)

NHK経営委員に

春野鶴子さん(60)。女性で四人目。主婦連の副会長でもある。NHKも国民大衆のもの、自分たちの立場とは矛盾しないと思っけて引き受けた由。

(8・15毎日)

父の死に報いを

戦時中、フィリピンで日本軍に協力したためスパイとして殺された日本人を父に持つ混血児が、スパイの娘として白眼視され生活苦にあえいでいる。椿タツ子さん(46)がそれ。大使館に問い合わせたが軍属としての証拠がなければ恩給もでない。支援の人々も「日比友好は政府レベルだけ」と嘆いている。

(8・16朝日)

“愛の手運動”

岩崎美枝子さん(35)は家庭養護促進協会に勤め、そこに「小さな命を守る愛の手相談室」を設けた。これまで四〇〇人近い子どもの里親をさがしたり親もとに帰したりした。「子どもの命の重さについて話し合い、耐えられない重荷を助けるのが目的」と。

(8・18毎日)

いけ花でブラジルの勲章

大野典子さん(52)。「お花は一つ」の主張から国際いけ花協会を創設して二〇年、ブラジルに支部ができて十五年、日本女性で初めて「ブラジル版文化勲章」を授与された。雙葉学園に在学中、礼拝堂の花に胸うたれてお花を始めた。

(8・19毎日)

炭鉱事故の損害賠償を請求

福元サカエさん(52)。戦後二番目の炭鉱災害、山野炭鉱爆発から十年、遺族たちはやっと損害賠償を求める民事訴訟を起こす。その遺族会会長。

あまりに少ない会社の弔慰金に遺族が結束して立ち上がった。問題は山積するが、地元革新団体、住民グループとも、しっかり手を結んでいる。

(8・22朝日)

余生をさらに婦人運動に

全国地域婦人団体連絡協議会会長、山高しげりさん(77)の五〇年の歩みをつづった随筆『山鷲』の出版記念と喜寿のお祝いをかねた会がこのほどホテル・オークラで開かれた。「さらに婦人運動にささげたい」と相変わらず元気。(8・23朝日)

「男」をテーマに創作

安藤千代子さん。上田市の主婦グループのリーダー。このほど、そのグループが『女の翼』と題して「男について」詩・小説・評論を書いた。安藤さんは「吉行淳之介における男について」という評論。

(8・26信毎)

「労力銀行」を創設

水島照子さん(55)。大阪の

女学校を出てロスアンゼルス洋裁学校で二年間学ぶ。労力銀行は二五年前に受賞した構想。労力は愛の通貨、利息は友情。いま全国に六〇支部、会員は七〇〇人余。三人の子どもの手を離れ、母親役は定年、これからは銀行にすべてを、と。

(8・27毎日)

資料の整理にあけくれ

縫田暉子さん。東京都民生局長を辞任以来、資料整理のあけくれ。NHKのニュース解説にも参加、婦選会館の国際部の仕事をボランティアで手伝っている。

(8・29毎日)

「ハウス55計画」

松田妙子さん(46)。日本の住宅が一般庶民にとって高すぎ、しかも設備の悪いことに気づき、「日本ホームズ」を設立、奮闘

したが、このほど住宅評論家に転身、通産・建設両省に「ハウス55計画」―これまでの半分近いコストで家を大量生産する―を打ち出させた。井・行動力・

酒・タバコ、皆、男以上の美人スーパーウーマン。(8・29毎日)

水俣病患者と

カナダインディアンを結ぶ

アイリリン・M・スミスさん(25)。写真家の夫ユージン・スミスさんと『水俣写真集』を出版、世界中に新しい水俣病が起こり得ることを目で知らせようと、カナダ奥地の水俣病様のインディアンを連れて水俣を再訪、日本の患者も今月中にカナダへ行く。(9・5朝日)

沖縄の国際海洋シンポジウムで

推進役をつとめる

エリザベス・マン・ボルゲー

ゼさん。「小さな水滴も落ち続ければ地球を変えて行くと信じて」国際海洋協会企画委員長として国際会議を一人できりもりする。

トーマス・マンの三女で、資源、軍縮、平和問題にも首をつっこみ、小説、戯曲、詩もやり、ピアニストでもある。エネルギーの源は「地球をよくしよう」という情熱」と、きっぱり。(10・1朝日)

「エルザ基金」を呼びかける

ジョイ・アダムソン夫人(65)。「野性のエルザ」をはじめとするエルザ・シリーズの著者。版權のすべてを投じてケニアと英国に「エルザ基金」をつくる。会う人ごとに動物保護の

必要性を強調、エルザ基金日本委員会ができるよう説いて回った。夢はヒョウの子を育て記録すること。(10・4毎日)

大張切り女性艇長

太平洋横断ヨットレースが十二日正午ホノルル沖合からスタート。「カワムラ」の艇長は、丹羽徳子さん(39)。ヨット歴二〇年、夫が仕事で参加できないので参加。三人の女の子のお母さん。(10・13朝日)

脱都会

山口美智子さん(28)。国立大出身の都会育ち。親の反対を押して都会への幻滅と自然への憧れから過疎の村の中学卒の青年と結婚。村の生活は良いことばかりではないがそれでもなお村がよいという。二児のママ。(10・15信毎)

婦人問題担当室長

国際婦人年で総理府に新設された婦人問題企画推進本部の室

長に久保田真苗さんが就任。「二五年動めた婦人少年局とは『家風』が違うが、いままでの婦人問題では解決しないことをわかってもらうことから、とにかく始めたい」。(10・19朝日)

聴聞十年……女の情熱

佐藤道子さん(45)。奈良東大寺修二会(俗にお水取り)に十年がかりで取り組み、秘法を解明、『東大寺修二会の構成と所作』(全四巻、平凡社)の第一巻を出版。(10・19毎日)

バスケットで最優秀選手に

生井けい子さん(23)。身長一六三、体重五八。

南米コロンビアの世界女子バスケット選手権、日本チームは二位、個人得点は八試合一二七点で四位だったが、「輪転ディフェンス」という独特の妙技が

認められた。(10・20朝日)

最後の奨学賞贈呈式

元人気女優山路ふみ子さん(63)。私財をなげうって、自然科学関係の奨学賞を十二年間続けたが元金を食いつぶし今回が最後の贈呈式。(10・25朝日)

日本駐在、初の女性大使

ザンビアの初代大使、ロンベ・チベサクンダさん。ザンビアの各省次官中最年少。三〇歳ちょっと。「欧米のウーマンリブには違和感。日本も第三世界に理解を」と。(11・4朝日)

二十絃箏欧州で好評

箏曲家野坂恵子さん。二十絃箏とバイオリンのための作品、三木稔作曲の「白樺」を携えて欧州各地を演奏旅行。高い評価

を受けている。(11・11朝日)

学生柔道日本一を教えた姉

知念正子さん(35)。中学卒業後柔道を始め、小さい体をカバーする猛練習。選手権(無差別)をとった東海大体育学部四年の弟を幼稚園から高校二年まで鍛え上げた。柔道四段。(11・12朝日)

自宅の居間で展覧会

東京・葛飾の飯島恵子さん(41)の居間は、土曜日になると自作の絵の展覧会場に早変わり。

「ふつうの展覧会だとなんとなく他人行儀で」という近所の人や知人が気楽に訪れては畳の上で鑑賞とおしゃべり。好評なので今後もつづけたいと。(11・13朝日)

女性二人目の裁判所長

野田愛子さん(51)。裁判官生活三五年、東京高裁判事から十七日付で札幌家裁所長に。家裁の問題点の回答を見つけることが抱負とか。(11・17、18朝日)

女性の根性 太平洋で証明

小林則子さん(28)。沖縄海洋博が主催する単独太平洋横断ヨットレースに参加申込み。日本からは男性四人の出場が決まっているが、女性が一人で一万二千キロのレースに参加することは「国際婦人年にふさわしい」と声援が送られている。(6・21朝日)

(6・21朝日)

リブ号で二つの女性世界新

小林則子さん(29)。愛用のヨット「リブ」号を操って単独

太平洋横断レースに参加、十一月十八日に女性単独ヨットの世界最長と国際レース新の二つの大記録を樹立。「女だてらにはいわれたくない」。身長一五三センチの小柄。(11・18各紙)

寝たきり女性の歌が

レコードに

脳性小児マヒで四二年間寝たきりの歌人、山野井昌子さんの歌集『車椅子』に感動した戦前的人气歌手、橋本一郎さんが五首を選び、作曲、テープに吹き込んだものがレコード化される。(11・18信毎)

ILO事務局長補に

初の日本女性

高橋展子さん(59)。前労働省婦人少年局長。

女性が事務局長補以上の職に就くのは、ILO五年の歴史を

通じ二人目。今度は世界的レベルで婦人労働者のために尽力する。
(12・16 毎日、朝日)

〔賞〕

オリベッティ国際賞

水谷春晶さん。第二九回日書展、オリベッティ国際賞。昭和生まれで初めて受賞。

(1・11 毎日)

毎日芸術賞

伊原直子さん・河原洋子さんに。二期会オペラ『オルフォイス』の主演で。(1・22 毎日)

『旅』賞

亀井真理子さん 雑誌『旅』五〇周年記念「日本旅行記賞」。東南アジア旅行記の『よみがえる山』で。(1・24 朝日)

毎日・日本研究賞

青木やよひさん「マルサスの影と現代文明」で。終戦直後、薬専卒業。ロマン・ロランに魅せられ、みずず書房の編集員として二〇年過ごす。六〇年安保をきっかけに市民運動に。四年前のアメリカ旅行で文明に懷疑を抱き、それがこの論文を生んだ。

小池保子さん・小坂富美子さん。「老人福祉の運動論」で受賞。

小池さんはセツルメント菊坂第二診療所の所長。長年地域に密着した医療の第一線を歩いて来た。

小坂さんは薬大卒業、杉並組合病院時代に医事評論家川上武氏を通じ小池さんと知り合い、薬局を手伝うかたわら、戦後医療史年表づくりに取り組んでいる。(2・9 毎日)

田村俊子賞

島尾ミホさん(55)。受賞作『海辺の生と死』は生まれ故郷奄美での幼年期の思い出を民話風につづったもの。

今は大きい二人のこともに、一日のできごとや幼児期の思い出を子守歌代わりに夜ごと聞かせたから、初めて書いた文章だが、ペンはすい、すい。作家島尾敏雄氏夫人。(3・14 朝日)

田村俊子賞と大宅壮一賞

吉野せいさん(75)。福島県いわき市の農家のバップ。作品集『涙をたらした神』が受賞。

高等小学校を卒業後、資格をとり二年ほど教員もした。その間、山村暮鳥らの影響を受け、社会運動にもふみこんだ。大正十年無一物の結婚生活を始めた。ものを書き始めたのは夫の死後、七十歳を過ぎてから。

芸術院賞

安川加寿子さん。ピアニスト、教育者、妻、母と一人四役を立派に果たしている。パリで育ちバリ音楽院を一番で卒業。今年二四日にはパリでチェロのフラショー女史と演奏会を開く。

(4・8 毎日)

第24回小説現代新人賞

沢田ふじ子さん(28)。十歳年上の夫君と二人暮らし。六九年に大学を卒業して教師生活。七三年夏、綴織工に。

小説は二年前から書き始め、未完を含めて四作目の『石女』が賞に。「織物を織って、書きたいテーマで小説を書き、ひっそりと生きたい」。

(4・8 朝日)

芸術院恩賜賞

られるのが願ひ。(4・22毎日)

第十八回農民文学賞

工に勲章なんて」と皮肉でなく言う。(5・7朝日)

片岡球子さん(70)。「面構」

丹羽賞功労賞

桜井利重さん(38)。四年前

環境庁長官賞

下田澄子さん。野鳥保護で。(5・9朝日)

下田澄子さん。野鳥保護で。

(5・9朝日)

連作のうち、江戸時代の浮世絵師・鳥文斎栄之で受賞。小学校

溝口歌子さん(67)。女子学

習院中等科の時、父とロンドン

教員、女子美大教授を経て愛知

へ。二年半英語をたたき込まれ

たもの。物静かな応対の中に気

芸大客員教授。絵と家庭を両立

させる芸当はムリとさとして独

丈さがのぞく。「農業が減びて

身。描けないときでも、ともか

た写真のために薬専へ進む。戦

代わりに何が栄えるのでしょうか。消えてゆく身辺の記録の

く筆を。休むと停滞するからと

後、日本の化学論文の英訳と、

ためカメラの勉強も。(4・26毎日・朝日)

記憶力も抜群。

『英語の化学論文』『民家巡礼』

中里恒子さん(65)。「わが庵」

田中絹代さん。「サンダカン

および多年の創作活動に対して

(4・16各紙)

不二今日子さん。「花捨て」

八幡娼館・望郷」で。(7・9信毎)

中里恒子さん(65)。「わが庵」

(4・24朝日)

第十一回太宰賞

芥川賞

吉川英治文化賞

第一回橘秋子賞(特別賞)

不二今日子さん。「花捨て」

林京子さん。「祭りの場」で。(7・18各紙)

(4・16各紙)

谷 桃子さん。いつまでも美

で。(5・7各紙)

第一回橘秋子賞(特別賞)

不二今日子さん。「花捨て」

芥川賞

(7・18各紙)

吉川英治文化賞

第一回橘秋子賞(特別賞)

不二今日子さん。「花捨て」

林京子さん。「祭りの場」で。(7・18各紙)

谷 桃子さん。いつまでも美

で。(5・7各紙)

与那覇しづさん(52)。十九

ジゼル、「白鳥の湖」のオデッ

「女工哀史」に叙勲の春

ゴルデン・マーメイド賞

年前から与那国島で保健婦とし

ト。デビューは一九四六(昭和

藤本ミサヨさん(62)。織工

として五〇年働き続けた。勲七

て奮闘。三三歳で保健婦の資格

二一)年。三年後に自分のバレ

等宝冠章。女工哀史そのままに

没後百年記念の第一回童話映画

をとり、島の衛生状態改善のため

エ団をもつ。昨年の引退公演後

も、客演の要請が多い。「長期

祭で。人形アニメ映画「マツチ

め「骨と皮になるくらい」がな

公演のできる場がほしい」。

若い後輩より安い。「年寄り女

地でも住民が最高の手当を受け

ばった。島民二三〇〇人の健康

公演のできる場がほしい」。

若い後輩より安い。「年寄り女

祭で。人形アニメ映画「マツチ

状態の生きカルテでもある。僻

公演のできる場がほしい」。

若い後輩より安い。「年寄り女

祭で。人形アニメ映画「マツチ

地でも住民が最高の手当を受け

公演のできる場がほしい」。

若い後輩より安い。「年寄り女

祭で。人形アニメ映画「マツチ

売りの少女』で獲得。

(8・21朝日)

保健文化賞

樋口田鶴さん(67)。個人表

彰。三〇年間の鳥取県米子保健所長としての功績で。

(7・25朝日)

第十四回女流文学賞

大庭みな子さん。『がらくた博物館』で。

(9・6各紙)

女流陶芸賞

村瀬敏子さん(25)。

(9・23毎日)

大仏次郎賞

山川菊栄さん(85)。『覚書幕

末の水戸藩』で。(10・1各紙)

現代俳句協会賞

中村苑子さん(62)。処女句

集『水妖詞館』で。

(10・4朝日)

朝日新聞社賞

松田鞠枝さん(52)。第四回

全国短歌大会で。(10・9朝日)

最高裁長官賞

原 手留貴さん(75)。調停

委員として。(10・18信毎)

第三回泉鏡花文学賞

森 茉莉さん(72)。『甘い

蜜の部屋』で。(10・30毎日)

毎日・日本研究賞

大久保操さん(40)。『単調の

必要悪』。

松原純子さん(39)、『日常性

の中に発する婦人問題と私の展

望』。

川村佐和子さん(37)、酒井

つねさん(49)、杉浦徳子さん

(46)、福田洋子さん(45)、『難

病と女性』で。(12・29毎日)

〔逝去〕

辻村景子さん(金城学院大学

教授)。胃がんのため、一月十

三日、七四歳で。(1・15毎日)

石島菊枝さん(元読売新聞記

者)。六月二二日直腸ガンのため

死去。七六歳。戦前、記者と

して活躍、婦選運動にも参加。

その後NHKの脚本家として劇

作活動を。葬儀は市川房枝さん

が委員長となり、友人葬として

婦選会館で。(6・23婦展)

中込ちあさん(昭和女子大名

誉教授)。八月二日老衰のため。

八九歳。昭和三年渡米、洋裁縫

学を学び、のち被服構成学の理

論をあみ出した。(8・3毎日)

柴田道子さん(児童文学者、

本名横田道子)。八月十四日、

気管支ぜんそくのため。四一歳。

『谷間の底から』で児童文学者

として認められ、部落解放運動

についても精力的に執筆。

(8・16毎日)

石田あき子さん(俳人)。十

月二一日心不全のため。五九歳。

(10・24毎日)

真田しんさん(八橋流箏曲無

形文化記録保持者)。

二七日急性心不全のため長野

市厚生篠井病院で死去、九一歳。

江戸時代初期、八橋検校が創始

した箏曲を伝承した。

(11・28朝日)

本



『女性のための文章教室』

内山みち子著。法的には男女平等であっても、女性は、社会的に数多くの不平等、不公平なあつかいを受けている。

「その矛盾とたたかう武器としても書く力を養うことが大切」「文章の基本は、正しくわかりやすく、切れ味がよく、感じよく」とであると、よい文章を書くためのハウ・ツーを細かく提示している。

新評論社、九〇〇円。

(1・1 婦民)

『試みの夜は明けて』

山崎孝子著。歌人であり、クリスチャンである山崎孝子さん(津田塾大教授)の脳腫瘍の手術から回復までの貴重な闘病記録。

生と死との対決の間の信仰再発見の著ともいえる。

最初は自費出版したが、周囲の人々の強いすすめで公刊に踏み切った。

副題「ある脳腫瘍体験者の心の記録」。注文制・子ぐま社、七〇〇円。

(1・9 毎日)

『漢をたらした神』

小説を書くことを志した娘時代から五〇年の空白を超えて、夫の死後、七〇歳にして筆を取り出した吉野せいさんの作品集。

詩人の夫、三野混沌氏との福島での開拓生活は厳しさの連続。その厳しさが詩のような文章で語られ、深く胸に迫る。弥生書房、一二〇〇円。(1・13 朝日)

『シモーヌ・ヴェーユ伝』

ジャック・カポー著。恩師アランの影響と自身の資質から、

急速に社会的弱者に近づく「抹殺すべきは国家という概念そのものである」と真理と愛のために無私の活動を続け、一九四三年没までの三四年の生涯の記録。

山崎庸一郎ほか訳。みすず書房、三五〇〇円。(1・17 婦民)

『ボクラ少国民』

山中 恒著。純真であったがゆえに為政者にやすやすと手玉にとられ、天皇ノ若ク幼イ兵士たるべく、天皇に明け、天皇に暮れた戦争教育告発の書。今なお潜行しているそれを如実

に描き出している。辺境社、一六五〇円。(1・24 婦民)

『原阿佐緒の生涯』

——その恋と歌——

小野勝美著。明治二年生まれの、自我の確立を持たず、我から恋することのなかった歌人阿佐緒は、激しく恋され、そして裏切られた。著者は愛情をもって、曲解されがちであった阿佐緒の実像に迫り、真実を究明している。ドメス出版、一〇〇〇円。(1・31 婦民)

『新法律入門』

菊本治男著。著者はテレビモーショングショーの『女の学校』のアドバイザー。『いざ』というとき泣かないために“必要な本。産報、六五〇円。(2・7 婦民)

『手仕事のおんな』

大谷晃一著。北海道から沖縄まで、手仕事ひと筋に生きてきた女たちを訪ね、その心と生き方をしるす。地方の風土と歴史に結びついた品物四八種の作り方も聞き書き。それぞれが郷土の名産。その下地をつくった彼女らの無言の業績は貴い。朝日新聞社、八八〇円。(2・10 読売)

仏の女性学者が記録映画

『鹿島パラダイス』——仏の女流社会学者ベニー・デスワルトさん(30)が一年間かけてつくったドキュメンタリー映画。日本の高度成長とそれがもたらしたヒズミ、崩壊する農村社会をえぐる。フランス語、英語版は完成したが、日本語版を目下製作中。(2・19 朝日)

『わたしの飛驒』

早船ちよ著。ここ十年来、よそのもの、旅びとの目で絶えず紹介され続けてきた飛驒を、ここで生まれ十六歳まで育った著者が「飛驒びとの目」を合わせ持つ複眼で見つめた書。けやき書房、八〇〇円。(2・24 毎日)

『ママさん先生奮闘記』

安藤登美子著。たまたま夫について渡ったアメリカで教員の資格をとり、公立小学校で四年生を担任。二年間の教師生活を通じて見たアメリカの子どもの姿、公教育のあり方を生き生きと紹介。ジャパンタイムス社、八〇〇円。(3・8 毎日)

『教育、青いノート』

早船ちよ著。『キューボラのある街』の作者の、教育について

ての文章を集めたもの。自分の思い出に残る牧歌調の教育とはあまりにも異質な今の選別教育。その中で取り残されてゆく子、疎外される就職組、見捨てられる心身障害者。母親の、作家の、目が教育不在の現実を鋭くとらえている。草土文化、八五〇円。(3・31 毎日)

『目で見る』

女性ファッション史』

青木英夫、メイ・S・青木著。ファッションは女性にとって感情や意図を表現する手段となる。コルセットやベチコートを重ねたスタイルは、性的魅力を誇張するためのもの。ズボンをはくことで男女同権への願望を表わした。多くの写真を使った視覚的な衣服史。衣生活研究会、二八〇〇円。(3・31 毎日)

「かけがえのない出逢い」

「愛の年代記」

「ホビの国」

「ひとり暮らしの戦後史」

宮部タキ編。市川房枝、桐島洋子ら五二人の女性が語る「私のおとこ友達」。おのろけあり、反省あり、主張もある。主婦だからこそ男友達を持つとう、性を意識せずに語りあえる相手は夫を持つ主婦にこそ一番必要……etc…。じゃこめてい出版、六八〇円。（４・６読売）

『螢草抄』

『九津見房子の暦』

『身体障害と衣服のデザイン』

宇都宮貞子著。独特な味わいを持つ、正確な植物民俗探訪記録をつづっている。周辺の各種植物との日常の交流をくわしく聞き出し、方言を生かしたムダのない文章で、人間と植物が親密にたけ合う世界を生き生きと描出している。創文社、二〇〇円。（４・７毎日）

塩野七生著。ルネッサンス期イタリアで起こった愛の悲劇を描いたもの。愛憎こもこもに情熱の限りを尽くしたこの期の人間の姿は、今日の人間観では推し測れないすさまじさだ。情念の世界を、女性らしい観察をおりこみながら、手際よく物語に仕立てている。新潮社、七八〇円。（４・14毎日）

青木やよひ著。砂漠のインディアンホビ族をたずね、野生の思考に生きるホビ族の生活を描いたあとにアメリカ資本主義の姿を指摘し、それがいかに先住民族抑圧のうえにたった虚構の民主主義であるかを浮彫りにしたもの。潮出版社、四二〇円。（４・21毎日）

おしゃれをしたい、機能的な服が着たいという身体障害者のための衣服を考えたもの。障害の状況に応じたデザインの工夫。着る本人、介助者にも便利で楽しくと心がける。実例が多く、研究されていない分野だけに、ユニークな実用書。デザイナー榎木八重子さんを中心にまとめられたもの。医業出版、三五〇円。（４・25赤旗）

塩沢美代子・島田とみ子著。男たちが戦死し、また結婚できぬままに戦後三〇年を生きた、戦中世代のひとり暮らしの女性たちの聞き書き。職業に役立つ教育を受けないまま、職業にかけて生きる結果に追いこまれた彼女たちの、社会的偏見、賃金、定年制など不当な差別をうけてきた苦難の歩みと今日の現実とを正面にひきずり出して、問題をつきつけている。岩波書店、二三〇円。（４・28朝日）

『教育の機会均等とは』

塚崎幹夫、塚崎昌子著。富山県が中教審答申の先取りの形で強行した「高校三・七体制」（普通科三、職業科七の割合）が多数の県民の反対で修正されるまでの抵抗の記録。きびしいテスト、本人の希望を無視した

進路指導の実態に、親たちがねばり強い反対運動を構築していく過程は同じ問題をかかえている人たちへ示唆するものが多い。三書房、四二〇円。

(5・12毎日)

『建礼門院右京大夫』

大原富枝著。平安後期を代表する女流歌人右京大夫の、平資盛との宿命的な恋が描かれる。藤原定家の要請により、後年書いた壇の浦で入水した資盛追想『建礼門院右京大夫集』をもとに小説に。激動の世に翻弄される愛の喜びと悲しみが熟達の手により浮かび上がる。講談社、一二〇〇円。

(5・19毎日)

『薄墨の桜』

宇野千代著。樹齡一二〇〇年の桜が蘇生した美話にからませながら、数奇な運命をたどった

女実業家と養女らの人間関係を描く。女の業の深さを掘り下げる著者のたくましい創作意欲に注目させられる。三井永一のさし絵も作品にふさわしい。新潮社、二〇〇〇円。

(5・26毎日)

『呪われたシルクロード』

辺見じゅん著。亜欧を結ぶシルクロードは暗く湿ったイメージはないが、日本のシルクロード(上州・信州・甲州から八王子を経て横浜に至る)は多くの怨念がこもっている。古老からの聞き書き、民話を紹介しつつ、その実態を浮き彫りにしている。角川書店、九六〇円。

(5・26毎日)

『モルガンお雪』

小坂井澄著。明治末期アメリカの大富豪と結婚して話題をまいたお雪の、一般に流布されて

いた華やかさとは別な、信仰を得て宣教活動を支援する姿が語られる。センセーショナルな扱いにも黙し続けたお雪の名誉回復の記録である。講談社、八九〇円。

(6・16毎日)

『ノモンハン』

五味川純平著。ノモンハン事件は太平洋戦争の影に隠れて本格的戦記はなかったが日本の公文書やソ連側の記録、関係者の回想などに著者の解釈と思想を加えて、悲惨な戦争の地獄絵を立体的に構成し、作戦指導者の無責任さを怒りをこめて摘発している。文芸春秋社、九八〇円。

(6・16朝日)

『くらしの歌』

増田れい子著。短いが楽しい随想集。ひときわ冴えるのは職人の話。その道の達人の数々の

苦労や楽しみとすぐれた女性記者の間に通じるものがあるからだろう。どの話も感動的な小説になりそうだ。柴田書店、一二〇〇円。

(6・23毎日)

『イタリヤだよ』

塩野七生著。古代ローマやルネッサンスの後光の中で、現代イタリヤのうらぶれているわけを解き明かす。弱体な政府、めまぐるしい政変からつくり出される政治は、無責任、非能率を生む。その特徴を生き生きと、時にはマンガ的に描き出す。文芸春秋社、一〇〇〇円。

(7・7毎日)

『気の長い話』

中里恒子著。どの一つをとっても中里さんを感じさせる随想集。文学は、好きで苦勞するけいこに似て、実ることなく

ても十年、二〇年を使い果たすことも多い。年期の長さ、その密度の濃さを感じさせる。河出書房新社、一五〇〇円。

(7・25毎日)

『子どもからの自立IIおとなの女が学ぶということ』

伊藤雅子著。子どもにとり母親でなければできないことは何か、という根元的問いかけをして、育児がどうして女の天職なのかと疑問を呈する。公民館保育室での実践を通して「母子分離」の意義を説く言葉は説得的。未来社、一〇〇〇円。

(8・25朝日)

『山鷲』

山高しげり著。婦人運動家の初めての随想集。市川房枝の印象、門馬千代子との友情、運動を支援した人たちへの回想など。

大正十四年から昭和四九年までに発表された短文は、戦前婦人運動の側面史である。風格ある名文は心あたたまる。牧羊社、一五〇〇円。

(9月 婦民)

『歴史のヒロインたち』

永井路子、馬場あき子編。持統女帝から八百屋お七まで、歴史をさわがしたヒロイン四〇人を対象として取り上げた対談集。対談相手は山本健吉、中村真一郎、円地文子、有吉佐和子らの諸氏。手堅く、ユニークに仕上がっている。光風社、八五〇円。

(9・8朝日)

『細川ガラシャ夫人』

三浦綾子著。豊臣秀吉の臣、明智光秀の娘の生涯を、キリスト教信仰と愛を中心に、逆臣光秀の人間の苦悩を理解する娘としての立場から描いた意欲作。

同じキリスト者としての著者の目はきびしく、暖かい。主婦の友社、九八〇円。(9・8朝日)

『大地に息づく中国』

A・W・カルストン著。石田

米子訳。二回にわたる訪中で、米人科学者が得た今日の中国の記録。旅行記とはいえ、印象を裏つける調査や研究が周到に行われている。現代中国に関する立派な入門書。特に人民公社で農民たちと一緒に労働をした部分は精彩がある。平凡社、二二〇〇円。

(10・6毎日)

『ぼくたちの学校革命』

久保島信保著。山梨県巨摩中

学の全教師集団の実践をまとめたもの。管理教育でこちこちになっっている生徒や教師をときほぐすために、学年部会で話し合い、それを全教師集団に提案す

る形で「学校直し」に取り組んだ。自分の生活の場である自分の学校という意識をもった生徒に「落ちこぼれ」などない。中央公論社、三八〇円。

(10・20毎日)

『七人みさき』

秋元松代著。土俗のうちにくぐもることによって、男と女の絶望的な愛を描き出した作品。『かさぶた式部考』の系列に入る。どろどろとした世界を越えて現れる男と女の愛のたかまりの静寂と澄明は、今までの作品にはなかったもの。河出書房新社、九八〇円。(11・9朝日)

『都市環境の蘇生』

末石富太郎著。生活・産業廃棄物の問題を軸に、都市環境がどれほど破局的状況にあるかを、多くの資料をもとに解明し、そ

の蘇生への道すじを提言している。
中央公論社、三八〇円。

(11・9朝日)

『ネバールの一粒の麦』

岩村昇、岩村史子著。日本キリスト教海外医療協力会派遣医としてネバールでの医療向上に献身した著者の、アフリカをも含めた見聞や体験を赤裸々につづったルポ。現地に溶け込んでの報告は反省の記録でもある。医療先進国と言われる日本の現

状に対しても数々の教訓を与えている。新教出版社、九八〇円。

(11・24毎日)

『言の葉さやげ』

茨木のり子著。女流詩人が、言葉と詩について語ったもの。柔軟な感受性を働かせ、すべてを具体的に考え、説いているのが、このエッセー集の強み。花神社、一二〇〇円。

(11・24毎日)

『わたしの記録』

エリメン・カンバースト著。英国の婦人参政権獲得運動の最も戦闘的な指導者である著者自身が書いた、闘いの記録としての自伝。

今日、あたり前になっている諸権利を獲得することに身を挺した人の記録は、体験の重さがあり、必読の書となっている。平井英子訳、現代史出版会、二五〇〇円。

(12・22朝日)

『暗い暦』

二・二六事件以後と武蔵章

澤地久枝著。日本をファシズムと戦争に導いた元凶の一人である武蔵章中將の「熱気と冷気の混合した性格、理づめな政治的判断と計算のできた軍人」としての実像を描き、戦争を防止する機会をたびたび逃して開戦した大元帥天皇の戦争責任へと導いていく。近來にない史論的太平洋戦争責任論。エルム、九八〇円。

(12・22朝日)

立ち上って

婦人問題で政府追及



田中清美 外相はシンドロモ下口審判

仕事減り手間賃はダウン

主婦も内職春闘



「激務で赤ちゃん産めません」
看護婦さんが涙の訴え

夢野要

男女差別賃金は違法

・にっこり・勤労の女性・



ウーマンパワー 婦人の日

「七人に差額」

使い捨てて告発する

物の命大切に、が映画にー



事件



〔母子心中〕

野田で娘道連れに放火、心中

四〇歳の母と八歳の長女がやけどで死亡。夫と長男は無事。

日頃から夫のマージャンや借金を苦にしていた。(2・12朝日)

三児絞殺、母親が投身

三九歳の母、十一、九、四歳の男児絞殺後、自分は野井戸へ。夫の死亡後、経済的には困っていないが。大阪で。

(3・3毎日)

東京で母子心中

四六歳の妻、十一歳の三男と。女兒がハンカで死んで以来ノイローゼ状態。(3・27毎日)

東京で母子三人

男の乳児を背負い、四歳ぐらいの女の子の手をひいた女性が京成電鉄に飛び込んだ。幼女は助かった。(3・28毎日)

神奈川で母子三人

三三歳の妻、三歳、五か月を

道連れに。二男の外科手術を控え発作的に。(5・23読売)

中一の次女を殺して

四一歳の母も重体。離婚話を苦にして。(6・14朝日)

妻妾同居を苦に

二六歳の内妻、四歳、二歳の二児と鉄道自殺。(6・14毎日)

東京では母子三人水死

二六歳の妻、二歳、一歳を道

連れに。

(6・15信毎)

栃木で母子三人

小五、小三の男子と三三歳の会社員の妻。(7・2毎日)

日立海岸でも母子三人

六歳、三歳の子と三七歳の主婦。(7・3朝日)

東京で母子三人

三六歳の妻、七歳、二歳を道連れに。(7・12朝日)

高松では子ども三人死亡

小六と小二の双生児とガス中毒死。三六歳の母は重体。夫婦仲を苦しむ。
(7・16毎日)

二児をしばって

四一歳の母と三歳の長男。五歳の長女はしばられながらも脱出。
(8・6朝日)

赤ちゃん投げ捨て母も投身

二一歳の誕生日に生後三か月の幼児をマシシヨンの十三階から投げたあと母親も。子どもをどう育てていいかわからないと書き遺して。
(8・6朝日、8・8毎日)

千葉で母子三人

三〇歳の会社員の妻、三歳、一歳と。
(9・30毎日)

茨城で母子三人

二六歳の妻、三歳と一歳を道連れに。
(10・5毎日)

二女殺し飛び込む

東京、八王子で。五歳と三歳の子を殺し三四歳の母鉄道自殺。高血圧で体が弱く、最近ノイロ―ゼ気味。
(12・23読売)

〔子捨て・子殺し〕

二歳の子を、母親けて死なす

団地の二三歳の母親がいたずらををしただけの幼児の腹をけて死なせた。子どもが未熟児で手がかかる上に、生活も苦しく、さらに不況のためパート勤めの工場を解雇されていた。
(2・5朝日)

十九歳の未婚の母、両親恐れ

東京でアルバイトホステスをして男性と知り合い、同棲い。先月出産したが結婚反対の両親を恐れ窒息死させた。相手は二歳「妊娠に気づかなかった」。
(3・11毎日)

育児費用が足りず

生後二か月半のわが子を殺し、ゴミ集積場に捨てた母親が緊急逮捕された。「育児費用が足りず、子どもを育てる自信がなくなった」と自供。
(4・28朝日)

身障の子、餓死さす

母親が出産のため留守にした一週間余り、父親が食事も水も与えず寝かせつきりにしていたため死亡。三歳を前に、歩行もできず言葉も話せない。「殺したほうが本人にも家庭にも幸

せ」と。東京で。
(5・9読売)

夫へのツラあてに

四年間に産んだばかりの子ども四人を次々に殺した疑いで大阪高槻署に逮捕された主婦は、「産んだ子どもは、全部男。生活が苦しく、夫が子どもに関心を持たず冷淡、妊娠を知っても声もかけないほどの断絶状態。ツラあてに殺した」と動機を自供。
(5・10朝日)

殺した子を袋で持ち運ぶ

二四歳の母、五か月の長男をボストンバッグに入れて持ち歩き、睡眠薬を飲んで自首。

(6・10朝日)

殺して流しの下に

産んだばかりの児を。二四歳、三児の母、生活苦から。

(6・21朝日)

赤ちゃん三人次々に

二八歳の元ホステス、「独身では世間体が悪い」と生後すぐ殺害、隠していた。

(7・18朝日)

四人を夫の愛人の実家に

松本市内で夫に家出された主婦(26)が、五歳を頭に生後二四日の赤ちゃんまで四人の子を、夫の相手の女の実家に置き去りに。

(8・9信毎)

乳児をなぐり殺す

育児に疲れた母親(29)。生後四〇日の長女が泣くので平手で顔をなぐり、子どもは脳出血で死亡。

(8・20朝日)

二児殺し自殺図る

団地の母親(27)。二歳と十か月の二児を絞め殺し、自分も包丁で自殺を図った。次女の発育不良など苦にし日頃からイライラ。

(8・21信毎)

六人目は殺す

愛知で子だくさんを気にした三十一歳の母が、六番目の子を助産婦も呼ばずに出産、殺害。自分も出血多量で重体。

(9・11毎日)

母親がチエ遅れの娘を刺殺

五六歳の母が二四歳の娘を刺殺。十年来二人暮らしたが、娘は来月から都の施設に入る予定。「一人で入れるのはかわいそう」とノイローゼ気味だった。

(10・13毎日)

預かった赤ちゃんを絞殺

横浜で二五歳の主婦が預かっていた近所の赤ちゃんを絞殺。預かっていたのは一歳の女兒で同年齢の自分の長男と遊ばせていたが、二時間以上二人が泣きやまないので発作的に。

(12・26読売)

未婚の母、乳児を殺す

A子は二年前から内縁の夫と同居、アパートの自室で出産したが、両親が結婚に反対のため、赤ちゃんをビニールの米袋に入れたまま放置。(3・11朝日)

【思い余って】

妻、夫を絞殺

離婚話がこじれ、「子どもと母親を道づれに死ぬ」とおどされた妻が夫の首を絞め殺し、強

盗殺人に見せかけた。

その夫は役員会で部長昇進が内定していた。(1・15朝日)

私の体を花で埋めて

東京の墨田区向島のアパートの屋上で四九歳の女性が焼身自殺。遺書には「葬式はいらない。からだを花で埋めて下さい」と。生活不安と独り暮らしのさびしさからか。(4・15毎日)

自閉症の娘殺す

千葉県柏市の主婦が自閉症の娘(14)を殺し、自分もそばで自殺。「治療に努力したが精神的にも肉体的にも限界に」との遺書。自閉症の原因は未解明で、治療のキメ手はなく社会復帰も困難。〈自閉症児親の会〉を中心に国や自治体に救済を求める運動が起きている。

(4・17朝日)

夫の暴力にたまりかね

頭と両足を切断した死体が横須賀市大津漁港で発見され、内縁の妻が逮捕された。日ごろ夫の乱暴がひどく、たまりかねて発作的な犯行。

(4・28朝日)

夫とその両親を殺傷して

四〇歳の妻が鉄道自殺。茨城で。

(6・10朝日)

住宅ローン苦に

三三歳の妻が夫と長男を殺人未遂。

(6・13毎日)

同せいで中の情夫を刺す

二一歳のウェイトレス。情夫は給料を本妻に送り、女の所得で生活していた。

(6・14信毎)

寝たきり老母とガス心中

五年にわたる看病疲れの娘(28)が養母(63)と共に。

(6・28朝日)

自宅に放火

夫婦仲の悪さを苦にした妻(37)。長野で。

(6・29信毎)

娘の学校ざらい苦に

小六の娘と電車に飛び込み心中の会社員妻(33)。遺書に「学校ざらいは私の責任」。

(6・24信毎)

学業の遅れを心配して

名門女子校中一の娘を殺し、後を追って母(39)も自殺。交通事故で三か月入院するのを悲観して。

(7・11各紙)

夫婦仲を悲観

P.T.A役員で活躍、娘の学習にも熱心だった教員の妻(36)。五歳の次女を殺し、自分も農業を。

(7・14朝日)

看護疲れの娘が自殺

東京・三鷹市で、児童文学者松井英子さん(60)に本名・小池秀子Ⅱが自殺。十年間寝たきりだった実母の看病疲れが原因とみられるが、八六歳の母親は娘の姿が見えなくなっても飲まず食わずで、発見されるまで三日間、ふとんの中で娘を待ち続けていた。

(9・17毎日)

看病疲れの老妻、夫を殴殺

寝たきりの夫(87)の世話をめぐり、口論、殴り合いの果て。妻、七五歳。

(11・1信毎)

〔世相の反映〕

中絶した医師を殺人で検挙

医師Sは、未亡人で子どもが四人もある女性から中絶期限(七か月)を過ぎていくにもかかわらず、生活が苦しいので中絶手術を頼まれ、胎児を人工早産させて殺した疑い。全国的に実子特例法の制定運動が高まっているが、波紋を投げかけそうだ。

(1・17朝日)

小・中・高校生の自殺ふえる

深刻な受験競争や家庭の崩壊などを背景に小・中・高校生の自殺がふえている。都教育委員会が調べたところ、都内公立校から報告のあった件数(未遂含)は七二年度からの三年間に五三件。防止策として「人命尊重の教育の徹底」を呼びかける通達を出した。

(1・30朝日)

内職の主婦犠牲

(5・10朝日)

夜の共かせぎと子ども

東京台東区のクツ製造業の作業場から出火、従業員のうち逃げ遅れたSさんが焼死。Sさんは夫と二人暮らし、家計のため日給二〇〇円でクツの底づけ作業。

(2・20朝日)

母は夜遊び、坊やは焼死

東京練馬の路上で夜十時頃針金で両手をしばられたはだしの四、五歳の幼女を発見。両親は夜の共かせぎで、二人の子の世話がでせず、長女の手をしばり外出しないよう言いふくめていた。

(5・10朝日)

保険金目当てに夫を殺害

岩手県花巻市の木造アパートの一室から出火、二歳の長男が死亡。母親は長男と二人暮らしでバーづとめ。この夜は子どもが寝たあと部屋にかきをかけて外出中。

(4・22朝日)

一億円の保険をかけて愛人と協力、夫を殺害した妻(33)の犯行が発覚。

(6・16各紙)

夫をバットで殺す

東京葛飾の中川で、三歳の坊やが水死。共かせぎの両親は、ストの中を懸命に出勤。保育園がスト休日で親類にあずけられていた間の悲しいできごと。

夫婦げんかの翌朝、東京で三歳の妻。

(8・5朝日)

幼児が包丁で赤ちゃん殺し

生後間もない赤ちゃんが、近所の幼児らに包丁で足を切られたり、頭を殴られたりで死亡。腹には犬のクサリが、首には七夕の飾りが巻きつけられていた。鹿児島で。

(8・20信毎)

女子高校生売春

静岡市内で小づかいかせぎに売春をしていた女子高生四人を含む十人の少女を補導。この四人は、いずれも成績は中程度。中流家庭の子で、不自由のない生徒。「小づかい銭がほしかった」とケロリ。

(9・23毎日)

慣れぬ脱穀機で下敷き

キタビラ付き自動脱穀機で稲の脱穀作業をしていた主婦、会田早苗さん(38)は機械の下敷きになり、首の骨を折るなど

で死亡。所用の夫にかわって一人で作業中の運転ミス。省力化で、大型農機具はかなり普及しているが、安全対策は、一つの盲点。

(10・22信毎)

少女売春昨年の三倍

少女売春が急増、東京では十月中旬までに昨年の三倍摘発。大人の誘いから少女を守る決め手はなく、「都青少年保護条例」も客の処罰はできないなど「欠陥条例」。婦人団体の間では改正を求める動きが活発になっている。

(10・22毎日)

教育ママ、隣家の幼女を絞殺

仙台で三九歳の会社員の妻が来春大学と高校受験を控えている二人の息子が猛勉強しているのに、隣の女の子が毎日キヤーカー騒いでうるさい、と四歳の幼女を殺害。

(11・15読売)

〔乱暴〕

校長、教え子にいたずら

下北半島・恐山のおもとの小学校校長が、再三教え子にいたずらをしていたことが父兄の訴えでわかった。処分検討中。全児童十二人、先生五人の複式学級という山の中の辺地校。

(3・15毎日)

東女大大学院生、教授を告訴

送別会後、教授二人にマンションに連れ込まれ……と告訴。

(6・27各紙)

二教授を書類送検

東村山署は二教授を書類送検したと発表。

(7・3各紙)

〔遭難〕

老婦人、奇跡の生還

ワラビ採りの老女(66)、山の水を飲んだ以外、一週間何も食わずに……。ワラビが入ったカゴを大事に持って元気で発見された。山口で。(6・15毎日)

女性の遭難続出

長野県下の山岳地帯で死傷すでに十三人。今夏はエベレスト登頂の影響か四割が女性登山者だが、他人に頼りがち、肉体的に無理がきかないといった指摘もされる。(7・30信毎)

〔だます・だまされる〕

「神経症治す」とだます

「催眠療法で、異常性格や神経

症をすっきり解消」と称し女性患者にいたずらしたうえ、三年間に一億円近くの治療費をだましていたインチキ催眠術士が逮捕された。被害者は一四〇〇人。(2・13朝日)

犯罪の表に「女」あり

女性の詐欺横領など知能犯の大型化が目立つ。最近で二一件、被害額は一八億五四二〇万円、さらに共犯事件では九件、十三億四五二万円。(7・22毎日)

女子行員、二億円詐取

足利銀行栃木支店貸付係が二年にわたり二億一〇〇〇万円。男に貢ぐために。(7・22各紙)

*

男は国際警察員と自称、住所氏名を教えず交際、犯行発覚前に女を消すことも考えていた模様。(7・24朝日)

*

取調べが進むにつれ、犯人はむしろ被害者であるような気がしてきた。大体女性はいつも「結婚」のエサに弱い。近ごろでは高校などで性教育をしているところも多いが、大半は生理的知識にとどまっている。いちばん教えなければならぬのは、本能的な欲望にふり回されず、相手の人間としての価値を見抜く知恵であるような気がする。

(7・30朝日「今日の問題」)

女係長、二千万円横領

名古屋の印刷組合庶務係長(46)。十七年間まじめに勤めた末、今年になって突然犯行を開始。(8・1信毎)

横領発覚して投身

会社経理事務員(26)が一月から七月までに二九〇万円を横

領、問いただされてその場で睡眠薬をのみ入院後、遺言をのこし七階から投身。(8・4毎日)

主婦から六千万円詐取

「ガンで入院しているおばあちゃんの治療費を」とPTA仲間からだまし取り、お手伝いさんつきのアパートで豪勢な生活。四八歳の女。(8・10毎日)

十五年間に二億五千万円

佐賀相互銀行佐世保支店で預

金勧誘係だった女子準行員松本秋子(61)が、客の預金二億五千万円を十五年間にわたって横領浮き貸しなどをしていったことがわかった。滋賀銀行、足利銀行事件に次いで、また金融機関のルーズな金扱いが明るみに。(9・18朝日)

女高生らを欺す

「三か月で一人前のモデルになれる」と高額の入会金をとって女子中高生を集め、ヌードモデルなどをさせていたモグリ芸

能プロ二社の経営者を逮捕。被害者は一四〇〇人。(9・26毎日)

五年間に一億円

名古屋の医療器材卸小売業の元経理係の女性(39)が五年間に会社の金一億円を使い込み。使途不明。(11・5朝日)

花嫁支度に

小諸市の肥料販売会社の女事務員(22)が二年間に会社の金

約五〇〇万円を使い込み、結婚資金に充当。(11・19信毎)

自分の会社へヤミ融資

大阪で農協貸付係の女性(54)が三年間に預金総額の半分以上の十億七千万円の「ヤミ貸し付け」をしていた。中でもその半分は自分の経営する共同事業のため。

長期間発覚しなかったのは、職員一人に八年間も貸付業務をまかせ、十分チェックしなかったため。(11・19読売)

合宿で探る行動の手がかり

「婦人年をきっかけに...女たちの会」

大田・田中・大谷

婦人問題に大谷

学童守る この身も守ろう

排ガス職業病訴え

教科書の中の女性像

15周年記念集会

女子の意見にポート

海外

〔中国〕

中国の婦人代表福島へ

中国婦人代表十二名が一月十日来日。農業交流のため福島へ向かい、生産から生活上の問題まで話し合った。

中国は農業を基礎とする方針で、国際的食糧危機とは無縁であると強調。日本で今、必死に農業を守っている「かあちゃん」たちと、力強く、暖かい交流をした。

(1・24 婦民)

国務院副総理にも婦人

女性の働く分野は、建築家、医師から、油田の採油隊長、国務院副総理までぐんと拡大している。婦人の解放は民族、階級、社会の解放をかちとって初めて実現できる。——中国婦人代表団歓迎委員会の招きに応じて八年ぶりに来日した巴桑（バサン）女史を団長とする中国婦人代表団の話。

なお国際婦人年は理解できるが、「平等・発展・平和」という主題を宣伝する思想と言動は支持しない、と。(1・30 毎日)

中国婦人代表団と交流集会

一月二五日、中国婦人代表団を迎えて、東京YWCAで各界の婦人三〇〇名との交流集会があった。巴桑団長、関屋YWCA会長らの挨拶。ついで「婦人解放」「教育・文化」に分かれて話し合い。「婦人解放」の分科会で巴桑団長は、チベットでの自分の農奴体験を語り「婦人解放は民族の独立、階級の解放なくしてはあり得ない」と強調した。

大阪でも、中学校や工場見学のあとの交流集会で村山リウさ

んが、戦後日本婦人の歩みを、巴桑団長は中国婦人の実情を語り、天の半分を支える婦人の連帯で世界の平和を、と挨拶した。歌や踊りもあり盛会であった。

(2・7 婦民)

北京の店にドレス「復活」

毛沢東主席夫人で党政治局員江青女史が二年近く前、公式行事に出席のときのファッションがうわさをまいたが、最近北京市内の有名店に堂々とドレスを展示。一般市民がドレスを見るのは文化大革命以来とか。スカ



イトはブリーツとタイトで色はピンク、花模様もある。

(4・3朝日)

離婚訴訟を大衆討議

法廷は妻の職場の会議室。女

性裁判長は、夫妻の言い分を聞き、夫の男尊女卑思想の誤りを指摘、夫および妻の職場代表の意見をよく聞いた上で和解を申し渡す。弁護士なしで社会的責任を問う方法。(8・29朝日)

はだしの医者

朱珍玲さん。文化大革命の中から生まれた全国で一〇〇万といわれる「はだしの医者」の一人。中国農学会友好代表団の一員として来日。ふだんは農民と一緒に働いている。相手の目をみづめて美しい北京語を話す二〇歳。(9・20毎日)

男のできることは女でも

大慶油田女子部隊は採油量を誇る。平均二二歳、七〇%が農民の子。並行する農業と生活全般の管理も女性。

理想は「夫も妻も工場と畑」で、分業肯定と違う。

つくり物工場の女性は靴底を古タイヤで修理。ボロで綿を作り軍手に利用した。

(9・22・23毎日)

〔北朝鮮〕

女性に片方の車輪

金主席が女性の社会活動、労働参加のあらゆる条件をつくったという北朝鮮では、学者、法律家、技術者など専門職女性は一六万二〇〇〇人。最高人民会議代議員中、女性が三〇%弱。

(10・20朝日)

〔韓国〕

キーセンパーティーも復活

韓国は七三年十月のエネルギーショック直前まで、一日平均二〇〇〇余名の外国人観光客で賑わったが昨年九月には九〇〇

余名にまで落ちこんだ。しかし今年に入って回復し始め、最近では一五〇〇余名に急増。日本人観光客相手のキーセンパーティーは最近も継続。当局が観光従事員証は七三年末廃止されたが、観光料亭は外国人専門の接待婦を置いている。最近ではキーセンが余って誘客行為も目立つ。

(4・26東亜日報より)

(7・4婦民)

注目される家族法改正の動き

昨年九月、韓国の全国女性団体協議会主催の第十二回全国女性大会が開かれた。六四の女性団体などから二〇〇〇名が出席して討議、「決議文」を採択。

①家庭、社会における女性の能力向上、②同一労働、同一賃金制の実現、③家族法(民法)の改正。

昨年韓国国会に民法改正案が提出されたが成立せず。男性議員の反対理由は「淳風美俗」が破壊されるというもの。現行民法は日本の旧民法と似ており、韓国でも時代錯誤になっている。

(7・25婦民)

〔フィリピン〕

戒厳令の国の

ファーストレディ

フィリピンは七二年九月二二日以来戒厳令を敷き国会は閉鎖されたままで言論の自由はない。新聞は政府批判をする権利がないため、連日イメルダ夫人の写

真で紙面をうめている。去る六月七日は夫妻で国家を代表して北京を訪れ、中華人民共和国との国交を正常化、マニラへ帰り二日目には佐藤元首相の国民葬のため東京へ。ついでにメキシコの国際婦人年の会議にも出席。知識人の中には「出しゃばりすぎ」の声も。(7・11婦民)

〔タイ〕

大学月刊誌で女性特集号

タイ国立チュラロンコン大文学部月刊誌が初の女性特集。

女性側「女でも国家に奉仕できる。アジアでは女を低く見がちで差別的。権利獲得にがんばる。議会にもっと女性を」。男性側は「男女平等は経済発展にも不可欠。不平等な法律は早急に改正を」。(3・6朝日)

〔インドネシア〕

異教徒結婚に冷たい目

回教指導者会議は最近「女性が異教徒と結婚するのはコーランの教えにそむく、男性はやむをえない場合認められる」と発表。七三年、宗教・国籍を超えた画期的結婚法が国会を通過、十月一日から実施されたが、人口九〇%の回教徒が怒り、大幅修正のザル法に。(10・31朝日)

〔ベトナム〕

女性將軍

南ベトナム臨時革命政府の要人グエン・チ・ジン女史は人民解放武装勢力副司令官と同時に、解放勢力婦人組織の頂点に立つ人。農村に生まれ少女の頃から独立運動に参加、投獄され、革命家、指導者であった夫を獄中

で失ったジン夫人は、女が男に与える激励と、女の持つ忍耐強さ、民族解放闘争の中で果たす女性の役割を熟っぽく語る。(5・15朝日)

北の兵士に南娘

南ベトナム臨時革命政府は規律正しい北部ベトナム人と物事にこだわらず享樂的な南部の人たちのきずなを固める方法として、両者の定住と結婚を奨励しているもよう。北軍兵士たちは「北部に帰らない、南部で結婚して落ち着く、まだ未開の土地がたくさんあるから」と語っている。(5・17朝日)

〔南ベトナム〕

第一線に立つ解放女性

解放前下積みの労働に耐えていた女性が、男女平等を尊重す

る臨時革命政府の下では、下は兵士クラスや政治工作員から、上は最高級の政府幹部に至るまで重要な職務についている。式典の壇上にはアオザイ姿の幹部女性が並ぶ。(5・21毎日)

〔バングラデシュ〕

結婚禁止年の提案

人口増加の悩みに、家族計画の専門家ノルル・イスラム・カーン氏は「結婚を一年おきに全面禁止する法案を」という大胆な提案を行なった。とりあえず七六年、七八年を結婚禁止年にしようと主張。(2・22毎日)

〔スリランカ〕

まず持参金廃止から

古くからの慣習であった結婚持参金制度を廃止すべきだとの

答申が、政府の諮問委員会（ほとんど女性）から出された。

（8・29信毎）

「インド」

女性銀行

二年前、農家の主婦数人から「牛を数頭買つて小さな乳業会社を作りたが」との相談に、若い社会事業家が組織した「女性による女性のための銀行」が立派に成長し、三〇を越す支店と一万人以上の株主をもち、インディラ共同銀行の名で経済活動、社会的地位向上に大いに役立っている。

（3・5朝日）

首相消費者運動を呼びかけ

インディラ・ガンジー首相はY W C A百周年祝賀会で「悪徳業者に対抗する強力な運動組織を」と呼びかけ、また教育ある

婦人は社会に役立つウーマン・パワー実現に奉仕の精神をもつことを説き、力の点で少数派の女性を支援することで、多数派の男性も自らを助けることになる」と語った。

（3・27朝日）

女性首相のためいき

ガンジー首相はニューデリー国際婦人年全国大会で、早婚・持参金・世襲身分階級制度・文盲などの追放、衛生運動・家族計画・婦人の教育の普及を説き「男たちは婦人年にうんざりと語り、同権を求める女性を笑う」と非難。

（4・24朝日）

女性の文盲追放を計画

世界の文盲人口総数八億中五億は女性とか。インドの場合、女性の識字率ゼロの村が一八〇以上で娘の修学にも無理解。与党の国民会議派婦人部は文盲追

放キャンペーンを計画。

（10・9朝日）

「ニューージーランド」

現役ママ大臣来日

ニューージーランドの観光・環境大臣ティカテキ・サリバンさん（43）が観光展出席のため来日。

マオリ族出身で専攻は政治社会学。林業大臣の父の死後政界入り、活躍を認められて大臣就任、以来国営ホテル理事會理事に。世界人口會議の政府代表団全員には「実力ある」女性を登用したという。

（2・15朝日）

「オーストラリア」

オーストラリアの家庭生活

オーストラリアの家庭では男性もよく働き、家を建てること

さえある。一般に家事分担がはつきりしており、夫は妻に一定額を渡し、妻は食費、自分と子どもの衣料、台所用品などに。

現在は労働人口の三分の一を女性が占め、その半分は既婚。より高い給料を求めている転職も多いが、妻も働く傾向が強い。

（大村知子 3・21婦民）

別居一年で離婚成立

新「家族法」が下院を通過九月一日から実施される。従来は宗教的背景もあって離婚がきびしく、三年以上の別居に加え、姦通・残虐行為等、十四の理由の一つが完全に証明されることが必要で、成立までに平均四五年、十二・二十四万円の法廷費用を要していた。

（5・24朝日）

苦しい主婦の地位

ピカピカの床、純白のシート

などに代表される伝統的な家の目標は以前よりいっそう基準がきびしく、主婦は家族の無料レストラン兼タクシー兼ホステス……。

しかも別れた夫から生涯生活費を受け取る権利は、新離婚法で解消。(グリーン・ゆうこ)

(6・23―24毎日)

〔サウジアラビア〕

やっと女性アナ誕生

女の仕事は育児と家事労働に限るといふ保守的なこの国で、最近やっとラジオ・TVの女性アナ採用が認められた。

(11・30朝日)

〔イラン〕

先頭に立つ王妃

政府が考案中の一種の離婚保

險「慰謝料基金」の設立にも大賛成というファラ王妃。一九五九年二一歳で王妃になって以来、婦人の権利拡大に積極的発言を続けている。(6・23朝日)

〔トルコ〕

はるかな女性の地位向上

トルコの女性参政権は、バルカン戦争や第一次大戦の女性の活躍を評価して日本より早く得られ、今年で四一年目を迎えるが、せっかくの権利も生きている。十八人もいた下院女性議員の数は選挙のたびに減り、ことに地方では地位は低く、教育の機会も少ない。(2・12朝日)

〔イスラエル〕

キブツに見る男女平等

この国独特の集団農場キブツ

では、大臣、国会議員でも、滞在中は料理運び、サラ洗いをする。性は非常に解放的だが、男女交際も対等・公開が原則で、被害、加害という図式は成立しない。(5・21朝日)

〔リビア〕

花ヨメは高くなった

石油による現金収入が結納相場をはね上げ約三六〇万円と新車なみに。約六万の花嫁をチュニアやエジプトに求める男も多い。(10・31朝日)

〔エジプト〕

カルスーム・その歌その死

「アラブの歌姫」ウム・カルスームの死去の報はアラブ世界を悲しみの底に沈めた。微妙な節まわしと情熱のこもった歌は

人々をとらえた。「アラブの心を最も巧みに歌った人民の芸術家」と首相も悼辞をおくり、国民葬。(2・5読売)

〔ガーナ〕

女性の迫力、ムンムン

母系社会を伝統的に維持してきたガーナは、どの分野でも女性の権限が強い。

マミー(女性) マーケットは数万人が入る広さ、女の迫力がムンムン。恋愛や結婚でも女性優位、金持ちの女は若い恋人をきれいに着飾らせて自分のそばに置く。(2・10―13毎日)

〔アルジェリア〕

ベールかぶって初の女町長

貧困無知と闘う、とアルジェ

初の婦人町長フェルハットさん

(10・25・27各紙)

(33)。この国は弁護士・建築家・医師など性差別がなく開業でき、非常に解放された女が多い反面、外出もままならぬ主婦も多い。一夫多妻が合法で、先ごろある官僚は花嫁が処女でない、と式の翌朝返した。

(11・3朝日)

「アイスランド」

女性ゼネストで國中マヒ

女性の賃金が二四%も低いのはけしからんと、十月二四日、十九歳以上の主婦や職場の女性の九〇%約六万人(総人口二二万)がスト。電話交換台は無人放送中止相次ぎ、銀行、小中学校は「半身不随」、男は子連れ出勤。

国民経済上に占める女性の重要さが認識されて大成功。各政党、労組もストを支持。

「スウェーデン」

家庭にも保育手当

外で働く女性が増えるにつれ、保育所不足は慢性化、そこでイエテボリ市が音頭をとり、個人的に子どもを預けあっている家庭にも一時間三五〇円の保育手当を出す。自分の住居を使わずにすむよう、市が空いているアパートを一時託児所として提供する。

(5・2朝日)

解放されている女

女だてらには過去の話。性別による職業区別や男女の役割を決める偏見を除く努力が国家的にすすめられている。

(ヤンソン由美子)

(6・30・17・1毎日)

女性の首切りに男性がスト

女子労働者は大黒柱でないことを理由に、女性の首切りを始めた。これに抗議して、男子労働者がストに突入。全国からカンパが寄せられ、中央組織の労働組合連合と雇用者連合が仲裁に。

(9・2朝日)

育児不能のタフガイなんて

一人でがんばらず、パートの共かせぎで家長の責任を降りれば、男のストレスも消え、妻も新鮮になれる——これは大学教育学科のレポートから。家事、育児参加の新しい男の役割を目指すもので、八人中六人が子どものためならよいと応答。

(9・17朝日)

幼児もつ両親は六時間労働に

スウェーデンのもと家庭大臣

オドノフ女史が「三歳以下の幼児持つ親を六時間労働に」と提案。パルメ首相は三年後の実現を目標としているが、「女性の早退が婦人の地位をおびやかす」「保育所完備が先決」と反対の声も盛ん。

(ビヤネール・多美子)

(11・17朝日)

「デンマーク」

女性より安月給と男性がスト

コペンハーゲンのカールスベリー・ビール会社で、男子労働者が女子労働者並みの賃金をよこせ、と賃上げスト。

女子労働者が九〇人解雇されたことで、女子の賃上げが認められ、男性より高賃金になった。男子も女子と同じような改正をうけ入れない限り、賃上げはむずかしい、と調停委員会。

(9・2朝日)

〔西ドイツ〕

妊娠中絶は違法

西独憲法裁は二五日、受胎後十二週間までの中絶を自由化する刑法改正案を人間の尊厳は侵せぬと違憲の判決。が、従来の母体危険、出生児障害の予想、乱暴などによる妊娠の場合のほか、社会的必要（貧困など）に基づく危険から守る場合を新しく認めた。（2・26読売）

〔スイス〕

女子大学生は少ないが……

学歴社会でないこの国では大学は花嫁教育とは無縁。性差別はないが、看護婦など女性専有分野の職業の報酬は低い。しかし老齢年金は、女六二歳、男六五歳からで、逆差別。

（岸本治子 10・7毎日）

〔フランス〕

女性の地位向上の動き

まだまだ男女平等とはほど遠いフランス社会で、女性の地位向上の動きが始まっている。新設された「女性の地位」担当相（閣外相）に起用されたフランソワーズ・ジルー女史がその先兵。「女性問題は根本問題」というフェミニスト、ジスカールデスタン大統領のツルの一声で登用された。（2・22毎日）

大統領はフェミニスト？

パリの「婦人国際デー大会」で、ジスカールデスタン大統領は「人類の歴史は奴隷制度とともに始まり、最初の奴隷は女性だった」と演説、現存の格差を指摘して、三項目を提案した。

- ①母性保護以外の全差別撤廃
- ②職業教育、社会的昇進政策

③母性と職業両立擁護体系化
司会のジルー女史は「女性は今なお男性からオブジェ扱い。オブジェとは珍重がられもするがボイと捨てられる」と映画で説明。（3・3朝日）

「第二の性」で発言

シモーヌ・ド・ボーヴォワール女史が初のテレビ出演。

政府は男女平等を目指す姿勢は見せているが婦人の地位はいまだ従属的。女性福祉のための予算も具体策もない。妊娠中絶合法化は大きな前進だったが、経済的独立なしに独立した精神はもてない。経済的理由から夫に頼る女に人間的尊厳は期待できない、と。（4・29朝日）

女性だけで女性向けTV番組

十年選手のジャーナリストやテレビディレクターらのグルー

プが担当、「時事問題を男性とは異なった視点から取り上げた番組」を目指している。これにこたえ国営放送は女性ニュースキャスターの起用も検討中とか。（5・29朝日）

意気高く「売春婦スト」

「世界でもっとも歴史の古い職業を公認せよ」と、約二〇〇人の売春婦がリヨンの教会に座り込んだ。南仏カンヌやニース、パリ、マルセイユなどでも同情スト。全フランス女性解放運動やフランス同性愛主義運動などの組織をはじめ、欧州各地の行動派からも激励の電報が。（6・9朝日）

まだ低い女性の地位

十年間でサラリーウーマンは一二〇万から八〇〇万に急増、全職業人口の四〇％を占めるが

三〇%は男性より低賃金。サイフは家父長にきり、妻が銀行口座を持つことに四一%が反対。(後藤操 6・9・10毎日)

母性保護廃止に政府が反論

男性と平等の権利を与える性差別禁止法審議会は、女性が平等を主張するなら有利な点と同時に不利なことも受け入れるべきとの見地から工場法の中の女性の特権廃止を決定。政府はこれに反対で保護規定と性差別禁止法に盛り込む方針。(6・25朝日)

「イタリア」

イタリアの母性保護法

労組の要求で次のとおり、一九七一年に改正。
▽妊娠の初めから出産休暇が終わるまでの期間、解雇禁止。

▽重量物の運搬、危険な労働、労働度の高い労働の禁止。
▽出産休暇Ⅱ産前二か月産後三か月。

▽育児休暇Ⅱ産後の休暇が終わった後一年以内は六か月間欠勤の権利あり。

▽有給の休息時間Ⅱ生後一年以内の子どもの母は一日二回。(2・26赤旗)

催眠術で避妊

カトリックではオキノ式以外の避妊は禁止だが催眠術で月経周期を変えるのは戒律に触れぬと、目下実験中。(6・30朝日)

男尊女卑の法に大ナタ

二〇日から新家族法発効で、戸籍の戸主制度廃止、発言権平等化で転居も妻の同意が必要となった。妻は旧姓でよく、結婚後の財産は共有、持参金は妻のもの、など権利拡大。

男十四歳、女十二歳で認められていた結婚は共に十八歳となり、発効直前駆け込み結婚騒ぎ。(9・22各紙)

“男性用ビルも認めません”

まだ実験段階なのにパチカン当局ははやばやのお達し。自然の産制、荻野式以外は依然ご法度。(10・15毎日)

「パチカン」

パチカンに女性大使登場

「女性大使お断わり」の九世紀に及ぶ不文律を破り、パウロ六世はウガンダの女性外交官の駐パチカン大使にアグレマンを出した。「男性優位」の法王庁に初の女性大使登場。(1・12朝日)

*

二三日、法王に信任状を奉呈したが、法王はウガンダ訪問の思い出話に終始。女性大使承認には言及せず。(1・25朝日)

「イギリス」

建前だけの同一賃金

今年いっぱいまで英国は一九七〇年に制定した「男女同一賃金法」の完全実施に踏み切ることになっているが、専門家たちは、法が完全に性差別をなくすまでに婦人労働者を守ってくれるかを疑問視している。新刊書「一部のための平等・英国女史教育史」の著者B・ターナー氏もその一人。(1・29朝日)

初の女性党首誕生か

英保守党の党首選出投票が二月四日に行われる。第一回の投票で対決するのは、総選挙で三

度も労働党に敗北し続け、その指導力が問われているヒース現党首と前教育相のサッチャー女史。どちらかが第一回で有権者総数の過半数を獲得し二位の候補に一五%以上の差をつけなければ第二回、第三回まで選挙が続く。(1・29朝日)

英で初の女性党首

十一日行われた野党、保守党の党首選挙第二回投票でサッチャー女史(前教育相)は男性候補四人を破り、保守党党首の座を獲得した。

一九二五年生まれ、オックスフォード大卒、五九年以来下院議員、七〇―七四年教育相をつとめる。双子の一男一女の母。

(2・12毎日)

*

この当選によせて――。

市川房枝さん――具体的な事実で婦人の地位向上の示された

意味を考えてほしい。

榎美沙子さん――料亭政治まかり通る日本の政界では無理。女性党を作るべきです。

山高しげりさん――日本でも女性性は政治に不向きとの声は減り、底流は育っているのでは。いい刺激です。(2・12読売)

サッチャー女史

女人禁制クラブ入り

英保守党社交クラブ「カールトン・クラブ」は、一五〇年来の「女人禁制」の伝統を破り、サッチャー新保守党党首を正式メンバーとして入会させることを決定した。(3・5朝日)

英政府が男女同権法案

英政府は十二日「世界でもっとも包括的な性別禁止立法」を下院に提出した。雇用、教育、社会慣習の全分野を包含、特に

これまでもれていた「悪意のない差別」も対象化、「無意識で」と逃げる道を封じた。職種、教育科目、営利目的の社交クラブ、組織結成など平等に解放されないと立法後は違法となる。(3・13朝日)

女性軽視と議員憤慨

「英議会はヨーロッパ随一の差別社会」と『ザ・タイムス』にぶちまけたのは労働党議員十年選手のルネ・ショート女史。婦人議員が生まれて五七年、最高記録は一九六四年の二九人だが、政界入りが出おくれたり、男には問われない家庭問題に立ち入られたり。(3・23朝日)

紳士の国にも暴力亭主

夫の暴力から逃れて、英国人母子一行十九人が欧州へ二週間の「遊説」に旅立った。暗い体

験を訴え、英国の女性支援グループの基金募金を兼ねて「駆け込み施設」を全国につくる呼びかけ。英国では三年前こうした施設をつくり四八時間以上の滞在者だけで母親五八四人、子ども二二〇人。(4・21朝日)

愛の誓いも平等に

英国教会は結婚式の礼拝の一部を改定。指輪交換の際、花ムコが「花嫁に与える」くだりは削除、「妻が夫に従う」くだりも女の希望があれば入れるなど、一六六二年以来の改定を七六年七月から実施する。(6・6朝日)

まだ強い性差別

女の平均賃金は男の半分、高等教育を受けるのは男二二%、女八%、女の教師は一%。有名クラブの出入り時間は限定され

ており、部屋によっては「女人禁制」のドアも。(6・23朝日)

女の「悲しい酒」

女性のアル中患者が激増。男女のアル中比率六対一が三対一にまで接近。しかも女性のアル中はコソソリ隠れて飲むタイプが急増しているため、実際の男女比は一对一かもしれない——英精神医学研究所発表。

(7・26朝日)

暴力亭主ビクビク？

英下院に夫の暴力に悩む妻を救う委員会が発足、①国庫負担の一時避難所設立②人口五〇万以上の都市に危機センター昼夜開場③アル中退治キャンペーン④学校教育に家庭紛争のテーマを、など提唱。(9・20朝日)

「主夫」として立派な男たち

サッチャー女史はいても、女性の平均賃金は男性の半分より少し高い程度。「男女同一賃金法」も女性職種には適用されない英国。

だが夫たちは日ごろから家庭生活のこまかい面でも不可欠な二本柱の一本役を果たし何か事が起きると実家の女手を要する日本と違い、平常のバターンを守れるのが普通。

(佐久間黎子 9・29—30毎日)

未来像はシンメトリー夫婦

両親がパートで半日ずつ働き、家事、育児は平等分担になるかも——。これはヨーロッパ諸国の大臣会議での英国内務次官の発言。伝統的役割変更希望者が女性だけのが障害だが、男性の育児参加願望面からなら改革も可能だろうと。(10・27朝日)

英国「性差別禁止法」施行

バブの女性開放から、就職・教育・住宅問題・店での客の扱い・広告まで、あらゆる分野での性差別を禁止する画期的な法が二九日から施行された。この法律がちゃんと守られているかどうかを監視する「機会均等委員会」も内務省内に発足。職員四〇〇人、年間予算約十四億という大組織。(12・31毎日)

〔ルーマニア〕

進出する婦人たち

全就労人口の四五％は婦人。軽工業七〇—九〇％、農業約六〇％、教職六四％、医療保健部門七二％。

ルーマニアの婦人の職業進出状況の一部であるが、家事労働との両立も大切であると、全国婦人評議会ビューロー員、マリ

ア・グロザさん。(1・8朝日)

〔東ドイツ〕

離婚激増

一九七四年の離婚数は前年の八％増と急増。しかも離婚申請者の三分の二は妻。離婚理由のトップは不貞ないし性的不満の三二％。政府はセックス・カウンセラーの利用を呼びかけている。(8・13信毎)

多くが仕事に意欲と喜びを

女性労働力(二六—六〇歳)の八四％が就業。保育施設、洗たく所増設中。勤務時間内に学べる婦人クラス、大学コースも制度化。夕食はパン、ソーセージなど伝統的に簡単な食生活なので問題はない。

(大高まさる 9・18—19毎日)

「チェコスロバキア」

婦人の生活と活動

働く婦人は全労働人口の四七%約三五〇万人、婦人議員は国会地方議会とも二五%。最近は出産休暇二四週を二六週に。出産補助金の倍増、家族手当増があった。「国際婦人年」には、婦人の労働と生活条件の改善、保育園幼稚園の増設その他が政府で企画され、同盟も全国規模のゼミナールや三世代交流会等を開催している。(1・9朝日)

母子保護に国家予算の九%

広範できめこまかな社会保障制度は社会主義国の通例だが、チェコの水準は最高。すべての子に支給される児童手当は、第二子には第一子の二一・四%、第三子四三%、第四子六三・七%、産休二六週で全国家予算の

九%。(2・26朝日)

三度映画化「女ロビンソン」

男の子にだけ「ロビンソン・クルーソー」の話があるのは不公平だと、チェコの女流作家が社会主義的立場から書いた少女小説として大成功を収めた作品『女ロビンソン』が一九五六年三度映画化。(3・5朝日)

女で——よかった

女に生まれてよかった。生理学者としていえば、女性の体は潜在的には男性よりはるかに強い、とソ連教育学アカデミー副総裁・生物学博士のアントニナ・フリブコワ女史が発言。(4・12毎日)

“カギっ子”対策

両親とも働いている家庭が多

いため「児童館」制度があり、学校が終わったあとの子どもの面倒(宿題・遊び相手)をみる。この制度について投書を求めたところ、莫大な量の投書があり、改めて親の関心度の高さを浮き彫り。(7・28朝日)

託児所不足

労働力の不足から、人口増加につとめ、出生率が増加したものの、それに追いつかない託児所施設。ピンチヒッターとして、大きな家を改造して、少数の子どもとの面倒をみる「ミニ託児所」が登場。その可否をめぐって賛否両論。(8・25朝日)

「ソ連」

花嫁売ります

イスラム教徒の国、ソ連領中
央アジアのトルクメンでは法律

を無視して、旧時代からの「嫁売り」の風習が根強く残り、娘さんの自殺騒ぎなどの悲劇もあとを絶たない。当局は新しいモラルづくりにやっきとなっている。(1・27毎日)

国際婦人年に関連する恩赦

五月十六日の布告で①五年以下の刑を受けた女②未成年の子どもをもつ女、妊婦、五五歳以上の女、身体障害の女などの残りの刑期が半減された。(5・25朝日)

家庭内ではまだ…

女が経済的に自立しているゆえに世界一高い離婚率、自身の幸せを求めて出生率は低下。しかし買物を手伝う夫は多くても炊事・洗たくまではしない人が多い。(石島ユタカ6・16・17毎日)

〔カナダ〕

法律知識をホームドラマで

法律を知らないために損する婦人が多いので、バンクーバーのラジオ放送局は法律を組み込んだホームドラマ（毎日五分）を作り、個人の権利意識を高めようと企画している。

（2・12朝日）

リブ“体現”の元市長永眠

オタワ名物元女性市長シャーロット・ウィトン博士（79）が永眠。五期市長をつとめた後、市評議員。

「女性」は男性の二倍の力量を発揮せねばならないが幸い大して難しいことではない」と女性の社会進出を常に勧め、リブの生まれるはるか前にリブを体現。

（2・26朝日）

妻の財産権保護が問題

カナダの女性の地位は一般に高いが、結婚中に蓄積された財産は離婚するとすべて夫の所有となる。夫の同意なしに妻が労働に加入できない例もある。

（マックギル大教授

史子・中川・スミス

（9・11・2毎日）

〔アメリカ合衆国〕

映画製作に女性進出

つい最近までハリウッドは女優と事務員と衣装係とメーキャップ係だけに女性の存在が許され、あとは男ばかりの世界だったが、「ハリウッド・リポーター」誌によるとこの世界も大きく変化。大手映画会社四社の副社長が女性。助監督、プロデューサーにも女性の名前が見られる。映画製作を志す女性には絶

好のチャンス。（1・23朝日）

女大臣登用に強い風当たり

フォード米大統領は十三日空席となっていた住宅都市開発長官にカーラ・アンダーソン・ヒルズ女史の指名を正式発表。しかし二〇年ぶりの女性長官指名に、議会、業界の反応はきびしく「女史が住宅、都市問題にズブの素人」を理由に、さっそく横やり。（2・15毎日・読売）

男を差別するな！

ボストンでは州と市の男女差別撤廃委員会に「女性更衣室の係員といえども、男性をも雇用するべきだ」との申し入れ。市当局は州委員会に原則修正を働きかけている。市営プールの女性更衣室係員募集に優秀な男性応募者が出現したため。

（2・24朝日）

子ども作らぬ全国組織

「親にならない自由」を主張する組織が三年前ポルチモアに創立、全米で会員二〇〇〇人を超すという。三分の一が独身。「親になることの神話」「子を持つだけで尊敬される時代の終わり」など討議。（4・4朝日）

反対したのは——おんな

最近「ニューヨーク・タイムス紙」女性記者が取材のため、アイズホッケー選手たちのロッカールームに押しかけたが「夫の裸を他の女性に見せるなんて」と奥さんたち。夫に投票させて「女性入室お断わり」になった。（4・9朝日）

仕送り怠る父親にこわい法

離婚急増の米国では政府の補助を受ける母子家庭数約三〇〇

万。子どもの扶養義務を逃れる

ため他州に移住するなどの父親急増で「全国的な拘束力をもつ連邦法」が望まれていたが、このたび制定された連邦法には、父親追跡の資料に協力、親捜し機関を設立、裁判訴訟・未納金回収を担当、公務員・軍属の場合は給料差し引きなど、離婚した父親に厳しい条項が盛り込まれた。

(4・9朝日)

男女差なく仕事選ぶ訓練校

ブルックリンのエリ・ホイットニ高校は毎年約五〇〇人の新入生を迎える職業訓練校。ウーマンリブ大賛成派の校長は伝統と無関係に自由選択のユニークで大胆な課程を実施。

ある男子学生は「ラジオ・テレビ修繕志望だったが美容師に決めた。人間の手でしかできず独創性が生かせる」と語った。

(4・9朝日)

刑務所も男女共同

過去一年間に、六つの刑務所が、ウーマン・リブの要求と経済的理由で男女共同に。刑務所が「家庭」のようになり前科者の再犯率が激減。(4・11朝日)

許された夫婦別姓

旧姓を守り通した婦人解放運動家の名を記念したヘルシー・ストーン同盟は一九二二年発足以来会員は着実に増加。テネシー最高裁が「妻は必ずしも夫姓を名のらなくてもよい」と判決。夫婦別姓を認めた州はメリーランド、ウイスコンシンに次ぎ三番目。(4・30朝日)

売られた赤ちゃん五千人

赤ちゃんを生む未婚の母と養子のほしい夫婦の間で赤ちゃんを売買するヤミ市場が、上院で

問題に。売買された赤ちゃんは七一年一年間で五千人。その後も急激に増加。未婚の母には、生活費、出産費用などを払う。養子の赤ちゃんは不足気味で、正規の手続きでもらおうとすると、三年から七年も待たなければならぬ。(5・19朝日)

空手や柔道で自衛

女が社会的に第二の性の役割しかもてないのは心理的な恐怖が原因と、空手や柔道を習う女性が増。(5・22朝日)

乱費された女性の地位基金

バンク・オブ・アメリカで昨年用意した三五〇万ドルが男女平等に関係ないフランス料理学校、アフリカ狩猟旅行などに充てられていたため、連邦地裁からきつい通告を受けた。同基金は同銀行婦人従業員が性差別待

遇を不満とした訴訟に対して会社側が支払ったもの。(5・29朝日)

自己主張教える講座流行

「自己主張は女らしくない」と教育されたため、自分の感情をうまく表現できずに悩んでいる女性が多い。何を欲し何を欲しないかをちゃんと話せるように教育する「女性のための主張講座」がニューヨークほか全国各地で人気。(7・16朝日)

多様化する女の子の未来像

ニューヨーク市内の小学五年生に未来像を調査したところ、男子は従来通りだが、女子は主婦志望が一人だけで、医師八人、芸術家二人、科学者三人、弁護士一人と多様化。結婚しないと答えたのは男子より女子が多かった。(7・26朝日)

苦情相談で大成果

S F C A (サンフランシスコ・コンシューマー・アクション) は一九七一年教会の片すみに机一つで誕生、不良商品の苦情相談で五万件、五五万ドルの利益を守る大成果をあげ、今は会員二〇〇〇人、年間予算三〇〇〇万円。(8・3毎日)

カトリックにも「リブの波」

七五〇人のカトリック系修道女の全米大会が、サンフランシスコで開催。司教と対等の権利を、女性の法王選出、などのほか、着たいものを着よう、などの「女」の訴えも。(8・11信毎)

アリスは何もしない日

全米女性連盟(NOW)は十月二十九日を「アリスは何もしない日」と定め、「女性は一切の

家事、育児、仕事を離れ、全国各地で催される集会、デモ、行進、示威運動などに参加するよう」呼びかけた。(10・11朝日)

*

二十九日の全米女性ゼネストは参加不調。大物女性たちは、仕事が重要、と非協力。多くがクビを怖れ、参加を認めない労組が目立った。参加OKの職場や男性の協力宣言もあったが。

(10・29・30各紙)

ニューヨークにリブ銀行

社長は女性(元銀行役員)で、行員二五人中女性二二人。資本金九億円だが、株主七〇〇〇人中八〇%が女性。目標は女性援助。女性用財政セミナー、図書室、会議室も。(10・17各紙)

男性用ビル市場へ

男性用ビルが目下米国でテス

トされており、三年以内に市場に出来ることになろう。一週間に一回飲むと、一時的な避妊が可能になり、副作用はないというもの。(10・18信毎)

リブ発祥地の一夫多妻天国?

全米で、一夫多妻の男が三万にのぼり、彼らに愛をささげる女約十萬。メッカはネバダその他の州で、モルモン教徒が多い。六九年ユタで十一人告発されて有罪は一人。最近ある老人は六人の妻、四〇人の子と記者会見、効用を弁じた。(10・24朝日)

男女同権法、通らず

ニューヨークとニュージャージー両州の男女同権を目指す州法修正案が一七〇万対一三〇万八二万対七六万の票差で共に敗北。反対派婦人団体のPR奏効か。(11・6朝日)

ウエストポイントに女性

米国の陸軍士官学校に来年約一〇〇〇人の女子士官候補生が、一二五〇人の男性と肩を並べて入学する。訓練に男女の別はなく、宿舎は男女別だが中隊編成は男女混成。(11・19朝日)

「メキシコ」

武装のウーマンパワー

五月二四日、メキシコ市の南約一〇〇キロのテミスコで五〇〇人以上の女性グループが、ピストル、刀、棒などで武装、町公会堂を占拠、町政の腐敗に抗議。(5・26朝日)

今も差別社会

五歳になれば子守り、十五歳で結婚、平均十人の子を産み、育つのは二、三人、平均寿命三

七歳のメキシコ農村女性。文明を
生み出すための血と汗の労働を
数世紀にわたり提供した第三
世界に、日本はあまりに無理解

(黒沼ユリ子 6・3 毎日)

婦人年は男性の陰謀では

「国際婦人年は、今の男性社会
が安全に続くよう政府がつくり
だした興行である」と告発する
解放グループも。(6・17 毎日)

働く女の現実は何?

子どもをベッドにしぼりつけ
て働いたり睡眠薬をのませて職
場のトイレに隠すため事故死が
あとをたたない。(7・28 毎日)

〔キューバ〕

女性が強く、また強く

キューバでは新家族法により

夫の家事分担が法律上の義務と
なる。「能力と可能性に応じ」
との微妙な一項に基づいて分担
をしない亭主族はそれを理由に
離婚の危険にさらされるかも。

(3・8 読売)

〔ペルー〕

革命軍事政権下のペルーでは、
女性の兵役が義務制となり、今
年十八歳になる全女性の兵隊検
査が始まった。十九から四五ま
での女性は平和時は予備軍、戦
時は現役。いずれもリブ史上初
の快挙。(3・8 読売)

〔ブラジル〕

妻の売買ご法度

ブラジルでは一九四〇年来の
現行刑法改正中で、環境汚染当
事者の刑事責任も明確化した。
女性関係も妻を売買、貸す、か

け事の対象とするなどは三年以
下の懲役。(3・25 朝日)

「女戦士」は生きていた

アマゾン流域のインディオに
は、年に一か月女性上位の許さ
れる季節がある。数人で男を襲
い、隣部落との対抗女相撲で体
を塗りたくってもみ合うなど、
「アマゾネス」の伝説の実在を
思わせる。(11・12 読売)

〔アルゼンチン〕

壁うがつ女の一念

ブエノスアイレスから約七〇
〇キロ離れたコルドバの刑務所
で、服役者二六人がトンネルを
掘って集団脱走を試みたが失敗。

壁にせつせと穴を掘った全員が
女性だったと聞き、市民はびっ
くり。もっとも同収容所の女性
のほとんどが過激派ゲリラ。

女性の実状は

(1・24 朝日)

男性の五、六歩あとを歩かさ
れ少し頭角を出す十倍もソソ
ンをする男尊女卑の国。大統領・
弁護士・医師・建築家・事業家
・管理職公務員など、どの南米
諸国よりも社会的に重要な地位
を占めているが。

(岡本弘子 9・8・19 毎日)

人民連帯を歌う

メルセデス・ソーサさん。フ
ォルクローレ歌手。連帯感を日
本に伝えるため来日。生きた女
性を讀み、現実の女性解放にも
関心が深い。(10・2 毎日)

国際婦人年・メキシコ会議

〔政府は秘密主義〕

代表に藤田たきさん

世界会議日本政府代表に元津田塾大学長藤田たきさん（78）が内定。（5・22読売）

団員はお役人ばかり

二〇人の政府代表団は藤田さんのほかは全員政府職員になる見込み。在野代表を加えないのかと婦人団体はおかんむり。「民間人を加えないのなら、民間婦人会議にも予算の補助」と

高田ユリさん。（5・30毎日）

一本とられた宮沢外相

「政府は婦人の地位向上に本気で取り組む気があるのか」——五日午前の参院外務委員会で田中寿美子氏（社会）が一時間以上にわたり追及、宮沢外相は頭を下げつ放し。メキシコ会議代表団の人选が役人ばかりであること、世界行動計画の草案を民間に知らせて意見をきく姿勢のないことなどについて質問。外相は「前向きに取り組む」などくり返すのみ。（6・5朝日）

民間の声聞きなさい

五日午後、労働省婦人少年局が開いた国際婦人年国内連絡会議第三回会合で、婦人団体の代表たちが怒りをぶちまけた。

まずやり玉にあげたのは、外務省の秘密主義。メキシコ会議で採択される予定の「世界行動計画」の草案を民間に知らせることなく、この日も簡単な骨子のみ配布。「この文書を知らせて民間の声を聞くべきだ」との要求にしぶしぶ承諾。

（6・6朝日）

日本は学ぶ立場

日本では女の地位が低い。むしろ途上国から学ぶ立場と藤田さん。（6・11朝日）

〔会議前夜〕

お祭りに強い反発

メキシコ市内は一般市民の関心も盛り上らず肝心のメキシコ女性には「貧しさからの解放が先」と反発の声も強い。

（6・16朝日）

遅れがちな準備

三〇〇年前の尼僧院を改装したプレスセンターはペンキも乾かずタイプが箱入りのまま山積み。開会式会場も入口にハシゴをかけて修復中。それでも十三日からポスターが現われた。

(6・16毎日)

南北ベトナムが代表派遣

南北ベトナムが初めて顔を並べて国連の会議場に登場することがほぼ確実となった。

(6・14読売)

世界の女性代表続々メキシコへ

十九日の開幕の前に、世界の女性を代表する「顔」が続々とメキシコ入りを始めた。世界初女性宇宙飛行士のテレシコワさんを団長とするソ連代表団も十六日夜到着予定。十六日までに

国連からシビラ夫人、ブルース夫人をはじめ、イランからアシュラフ・パレビ妃殿下がメキシコ入りした。(6・17読売)

日本代表団メキシコ着

十六日午後六時半メキシコ着。「先進国と第三世界が争わないよう同宿の中国代表団とも協力していきたい」と記者会見。

(6・18毎日)

大物出席も絶望的

いったん出席を確約したインドのガンジー首相は、不正選挙問題で、どうやら出席が絶望的。やはり政情不安から、アルゼンチンの女性大統領イサベル・ペロン夫人も欠席となりそうで、最高位にのぼった女性が、政治の場で男性同様、泥まみれになっているのは皮肉。

(6・18読売)

メキシコ大統領夫人会見

十八日マリア・エステル・エチェベリア・メキシコ大統領夫人は日本人記者団と特別会見。

「第三世界の女性ほどひどい差別を受けている存在はない。この状況はすべて先進資本主義国が生み出したもの。先進国の女性はこの現実をよくみていてほしい」と第三世界の女性の立場を強調。(6・19毎日)

世界会議の序曲はじまる

世界会議に先立って十六日から三日間行われるアメリカ科学振興協会主催の「婦人と開発に関するセミナー」の開会式が十五日夜六時早くもオープン。五

〇か国、九十九人の専門家・ボランティアが出席、日本からも二人参加。男性による開発が女性に与えるマイナス面を「食糧生産」「教育・伝達」「健康・栄養

・家族計画」「消費組合と婦人の組織化」「人口の都市流入と雇用」の五部門にわけて討論する。

開会式のエチェベリア大統領夫人は「女性が開発や社会改革に参加できるような処方せんが使えなければ」と力をこめて演説。(6・17毎日・朝日)

ジャーナリスト討議会も

十六日午前十時から開始。セネガル議会の女性副議長、「ミズ」のグローリア・スタインム編集長など女六人男四人のパネラーを迎え、「マスコミ」と男女平等」などにつき、世界の報道関係者がディスカッション。

(6・17朝日)

壇上の女性たちの歩みに共感

国際婦人年の目的実現のためには、マスコミの役割が重要だ

と開かれた「ジャーナリスト・

エンカウンター」三日間の討論

に、各国三〇〇人の記者が参加

その八割が女性。この日は、ア

フリカ・アラブ・ラテンアメリ

カのパネラーが地域の女性の現

状をレポートした。「ミズ」の

グローリア・スタイネム編集長が

「壇上の女性が、女としてここ

までたどりついた歩みを話して

ほしい」と質問。若くして未亡

人となり子どもを抱えて社会的

活動に参加した経歴を語った人

再婚相手が男女平等論者なので

外交官を続けられる、と夫の理

解の大切さを語った人など、そ

れぞれの体験談に深い連帯感が。

(6・18朝日)

本会議前の民間会議

「女性と発展セミナー」「ジャ

ーナリスト討論会」が無事終了。

三日間の「ジャーナリスト討論

会」は、初日、女性の権利主張

と家庭破壊の解決法という深刻

な悩みが中心に。二日目はマス

コミが女性を採用しないのはけ

しからんというウップンが爆発。

最終日のハイライトは、パネラ

ーのグローリア・スタイネムが、

ミス、ミセスを「ミズ」に替え

るべきだと表明。「母系・父系

社会をへて、今や地球は第三の

新しい社会に突入しつつある」

に大拍手。(6・20読売)

予備会議で早くも政治色

開幕前日行われた予備本会議

(非公開)でベトナムと中東の

政治問題が登場。出席者の七割

が女性だったが、男性代表の発

言が続き、エクアドルの女性代

表が反発したほど。

(6・20朝日)

対照的な二人の闘士

世界中から集まった婦人運動

家たち。なかでも有名なのは、

アメリカのベティ・フリーダン

さん(NOW創始者)とグロー

リア・スタイネムさん(『MS

S』編集長)。十八日に終わっ

たジャーナリスト討議会で、二

人の質疑応答は対照的。フリー

ダンさんは「政治、経済、社会

の変革なしには女性の解放はあ

りえない」。一方、スタイネム

さんは「婦人解放のためには、

社会構造よりは文化・意識の変

革が必要」と強調。

(6・23毎日)

〔開会式〕

大物レディ勢ぞろい

予定より遅れ、十九日午前十

一時開幕。

歴史的行事とあって各国が自

慢の大物女性を送りこみ、十三

か国のトップレディが次々と壇

上に。(6・20朝日)

*

世界の女性指導者が豪華な顔

を見せ、男性を制する雰囲気。

真の男女平等は富の公平な分配

と平和強化を通じてのみ達成で

きるとの圧倒的な空気の中で開

幕。(6・20読売)

*

エチエベリア大統領は、「女

性の解放は人類の解放を意味す

るのであり、世界の政治経済

秩序の抜本的変革なしには達成

し得ない」と強調。ワルトハイ

ム国連事務総長とシビラ事務局

長も第三世界寄りの立場を明ら

かにした。(6・20毎日)

回教国もベールをぬいで

強い差別が残るオマーンやア

ラブ首長国連邦からも、ベール

をぬいて女性たちが参加。

(6・20読売)

インディオ婦人らデモ

開会式の途中、メイド・掃除婦など低賃金の人々一〇〇人ほどが貧しい女性のことを忘れてほしくないとして押しかけ、代表一〇人が入場を許されおとなしく引き上げた。(6・20読売)

*

デモ隊の実体は二〇人のメキシコ農民女性。「よくいらつしやいました」と歓迎ブラカードを掲げ、私たちも参加させてというメキシコの情熱を発露。婦人警官がお引き取り願った。(6・20毎日)

議場に赤ン坊の声

道路に立ち見の人があふれるほど。六〇〇〇人の九割が女性、子連れもあちこちに。会場内外でも「メキシコ女性解放運動」グループが「婦人年ナンセン」のピラを手渡し、ただ働き

の家事を告発。「婦人会議は各国が政治目的のために女性を利用しようとしている」と訴えた。(6・20朝日)

マッチズモとサムライズモ

メキシコの女性解放運動を目ざすメキシコ女性は「マッチズモ追放」と張り切っている。「マッチズモ」とは男らしさを誇示する「オス」の意味をもつスペイン語「マッチョ」からきたもの。インディオの社会では女の地位が高かったが、スペイン人がインディオの女性を妻にしてべつ視。女性を低く見るマッチズモが定着したとか。エチエベリア大統領夫人との会見の際、同席の役人に「サムライズモ・ノー」と言ったら「サムライズモ・ノー」と反撃された。日本のほうがよほど男性中心だからか。(6・21朝日)

冷やかな地元女性たち

国際婦人年世界会議が行われているメキシコシティの地元女性たちは——。「上からの女性解放は、庶民に直接関係があるとは思っていない。特に関心はありません」(文部省勤務)「教育も平等になるとよい」(日本人商社員宅のお手伝い)「女の解放といっても夢のような話。差別をまず取り除かなくては」(小学校に子どもを迎えに来た母親)——など。(6・27毎日)

〔本会議 討議開始〕

いよいよ本格討議

二日目の二〇日は、午前一〇時三〇分から、本会議と第一、第二委員会の三つに分かれて本格的な討議に入り、国際婦人年の目標、現行政策とプログラム、

世界行動計画その他を討論する。(6・21読売)

十三か国代表が演説

飢えの追放、植民地支配反対を叫び、自国の女性の地位の高さを宣伝する第三世界、セクシズム反対、男性社会の打倒をぶつ先進国——二〇日朝から始まった世界会議の一般討論では夕方までに十三か国のトップブレデイが壇上に立ったが、ここでも富める国と貧しい国の女性解放の考え方の違いが鋭くあらわれた。(6・21朝日)

藤田代表発言

総会の一般討論で国際婦人年の意義を強調、世界行動計画の支持を表明したあと、日本女性の賃金格差、就職の機会の不平等、職業と家庭の両立問題などを説明、十年後に男女平等などに

れだけ進歩があったか、国際的な評価をする機会を設けてほしいと提案。
(6・21朝日)

藤田代表、行動計画案を支持

二〇日午後六時、藤田代表は十五分間英語で日本の状況を説明、行動計画案を支持した。
(6・21毎日)

職場の不平等も訴え

各国代表の演説が延びたため藤田代表の演説は三時間近く遅れ、午前中超満員だった会場はガラあき。だれた反応だったが日本女性のエベレスト征服のくだりでは割れるような拍手。
(6・21朝日)

*

高齢のうえ、事故以来立通しということがなかった同代表、途中でとちったがわるびれずエベレスト征服を日本婦人の進出

ぶりにたとえて紹介、満場のかつさいを浴びた。
(6・22中日)

きれいこと過ぎる

藤田演説に対し「公害や核兵器問題をアビールしなかった」と第三世界代表たちから不満の声も。
(6・22各紙)

〔行動計画討議〕

国連会議実質討議に入る

二一、二二日を休み、二三日から審議を再開、本会議が非政府機関を含め中ソなど二三代表の一般演説を続けて聞くほか、第一、第二両委員会も世界行動計画などの実質審議にはいる。
(6・23読売)

森山代表も支持表明

二三日、第一委員会は今後十

年間の行動計画案の討議を開始したが、席上、日本の森山真弓

代表が発言、日本の急激な成長が大気汚染などの公害、インフレ等をもたらし、男性より女性を苦しめてきたことを語った。
(6・24読売)

三木メッセージを朗読

二四日午後七時一〇分、藤田代表は二〇番目の発言国として演壇に立ち、三木首相のメッセージを読みあげた。
(6・25毎日)

らいてうの言葉も引用

藤田代表はその冒頭に「元始、女性は大太陽であった」を引用。事前のテキストにないハプニングに日本人記者団を驚かせた。
(6・27信毎)

荒れる婦人会議

二三日の深夜総会では再び中ソ論争。また二四日はイスラエルのラビン首相夫人の演説にアラブ各国が抗議の退場など荒れ模様。
(6・25朝日)

宣言案三つともえ

世界行動計画をあきたらないとする第三世界急進派が宣言案づくりを急ぎ、一方、米英も独自の対抗案を。ソ連も第三世界に対する指導権獲得をねらって自らの宣言案を途上国に提示し始めた。
(6・25朝日)

修正案、宣言案の乱発

今会議の焦点、世界行動計画は、二五日から第一委員会で実質討議に入り、二五日夜修正案提出を締切ったが、五〇数か国から三〇件を越す案が出され、

宣言案も七七か国と米英ソなど

提出、二五日から発足した作業部会の議事進行は進まず、深夜作業を続行してもまとまる見通しは立ちにくい。(6・26毎日)

南北ベトナム代表国連で初演説

二五日夜十一時、ベトナム代表(レ・チ・スエンベトナム婦人連合副議長)が国連関係国際会議で初の演説、解放に果たした婦人の役割を高らかに訴え、ベトナムに対する国際的援助を要請。(6・27朝日)

「行動計画」原則的に合意

「世界行動計画」は二七日午後再開された第一委員会では原則的に合意、本会議で採択を待つのみとなった。(6・28毎日)

対決、二つの宣言案

難航の宣言案は一本化できないまま二八日夕二つの案が提出された。閉会式ぎりぎりまで一本化の裏交渉が続けられるが、微妙な情勢。(6・30毎日)

“セクシズム”をめぐる投票

辞書によると、“性本位主義”“セックス本位主義”の意味をもつ“セクシズム”という言葉、決議案に取り入れるべきかどうかで米ソが対決、二八日ついに投票へ。結果は賛成二〇、反対二六、棄権一〇で否決。賛成は米、パナマ、日本など。反対はソ連、中国、エジプトなど。お

国によっては「男女平等現代語辞典」が必要?(6・30読売)

第一委「行動計画」を採択

三〇日午前十一時からの第一

委員会では行動計画を採択、第三世界の主張がほとんど全面的に認められた。(7・1毎日)

*

先進国ウーマンリブが主張している中絶の自由や性の解放は取り入れられなかったが、男性の家事協力、出産・育児の問題は女性が決定期間を持つ、雇用面での差別撤廃、政治への参加促進、未婚の母の擁護、教科書再点検などは加わった。

この計画は強制力のない勧告だが、達成状況を報告するモニタリングは二年ごとに行われ、国際的な相互監視の目にさらされる。(7・1朝日)

第三世界の宣言案採択

七月一日、西側と第三世界の対立する宣言案が妥協決裂のまま第一委員会にかけられ、強行採決により、第三世界案が賛成八九、反対一、棄権十四で採択

され、「メキシコ宣言」として発表されることになった。テーマは婦人問題からさらに遠ざかり、政治対決一色に塗りつぶされた。(7・2朝日)

合意なきまま宣言採択

最終日(二日)は宣言と決議を採択、午後早く終わる予定だったが、またも修正案が続出、緊急動議でようやく反対三ながらも採択された。(7・3朝日)

日本も途上国案に賛成票

最終日の二日夕「メキシコ宣言」(七七か国グループ案)を絶対多数で採択。西側先進諸国のなかで、日本だけが賛成票を投じたことは、発展途上国グループにかなりの共感と称賛の声を呼んでおり、日本外交の大幅な変化を印象づけている。(7・3毎日)

〔閉幕〕

政治と密着「女性解放」

この地球上のすべての女性と男性のための平等・発展・平和の新しい時代がいまスタートした。―オヘダ議長はこう結んで閉幕を宣した。

宣言に先立って総括演説を行なったシビラ事務局長は、アフリカ地域代表が述べた「私たちはこれから何百万という恵まれない女性が待つ私たちの家（国）に帰ります」という言葉を引用し「今歴史的な一ページがメキシコでスタートした」と叫んだ。貧富の格差が婦人問題の原点となり、政治抜きでは女性の地位向上は語れない会議だった。

（7・4毎日）

世界会議終わる

二日午後十時五十分、平等・

発展・平和をテーマに先月十九日から二週間にわたった会議の幕を閉じた。オヘダ議長（男性）が閉幕を宣言すると、大拍手が鳴り響いた。議場の熱気とうって変わって、外は雨あがりの寒さに包まれた。

「世界行動計画」「メキシコ宣言」各種決議三四が成立、第二次世界会議を一九八〇年に開催するよう国連に勧告することも決まった。

（7・4読売）

藤田代表、国内委員会設置へ

二日深夜、宿泊先のホテルで日本人記者団と会見した藤田代表は、「採択された世界行動計画を出発点として、国の実情に合った計画を立て実行に移すよう政府に働きかけた。国内委員会と婦人問題担当長官ができれば仕事を進めやすくなるだろう」と語った。

（7・4毎日）

「婦人の地位委員会」存続

間もなく消滅する運命だった国連の婦人の地位委員会。「国際婦人年世界会議」のカナダ代表、労働省婦人局長シルバー・ゲルバーさんの「ツルの一声」で一命をとりとめることに。

「婦人の地位委員会を消滅させるのはおかしい」と言うゲルバーさんに、先進諸国の発言には、反対するのがお決まりの第三世界の女性たちも支持、存続が決定した。

（7・3読売）

〔トリビューン〕

（民間会議）

ムード派から告発派まで

トリビューン目ざし日本からも女性グループが続々入り込む。世界の女の実態について正しい情報を集めたいというへあくらグループ、世界の婦人と交

流を求める〈行動の会〉、ボランティア活動の視察かたがた会議の雰囲気にもふれたという〈婦人少年協会〉、リブ活動を志す〈リブ新宿センター〉など趣旨はさまざま。（6・18中日）

日本からも二〇〇人参加

民間集会「国際婦人年トリビューン」の開会式は十九日午後五時半から。二〇〇〇人収容の会場を埋めつくしたのは大部分が白人女性たち。日本からも二〇〇人近く参加。会議の感想は「さあ、わからないわ」の和服女性もいたが、〈行動の会〉〈へあくら〉など女性解放運動の人々の中には「開発をすれば女性が解放されると思うのは誤り。日本の高度経済成長は女性の犠牲においてだと訴えたい」と意気込む人も。

（6・20朝日）

日本女性「内ゲバ騒ぎ」

二〇日午後、日本の井上繁子淑徳大講師が、日本の女性運動について説明したが、英語のテキストを静かに読む「日本の」なつましい演説だった。パネラーの発言後質問に移ったが、ボストンに住み、アメリカのリブの一員である日本の女性が共闘を呼びかけた。この「質問」に井上さんがオロオロしていたところ、突然、質問者の列を無視して日本語で発言したのはリブ・センターの田中美津さん。「井上さんの話はきれいいこと。日本の女性はもっと虐待されている」とぶちあげ、聴衆騒然。

(6・21読売)

*

二〇日、日本の井上繁子淑徳大講師が「戦後の婦人の地位の向上」に重点を置いて発言したが官庁の白書のように冷静そのもの。このため質疑に移ると米

国でリブ活動をしている日本女性が立上り、挑発的な発言。日本女性同士の対決に会場は騒然。

さらに「へあごら」という女性解放グループがたどたどしい英語で訴えると、割れるような拍手。

(6・22朝日)

ふるえた日本人

田中さんと対照的なのは、続いて発言に立った「へあごら」の斎藤千代さん。けんそんした声で手もわなわなふるえ、内容がよく聞きたれない。あとで深尾特派員が本人に確かめたところ「憲法ではきれいなことをうたっているが、日本の婦人はまだまだみじめと言った」つもりだとか。

(6・23読売)

*

興奮のあまりふるえ声。何を言っているのかわからなかった。

(6・22毎日)

三〇〇〇人が中絶論議

トリビューンは世界各国の女性代表約三〇〇〇人がつめかけ熱気に包まれている。二三日は中絶の自由と必要性について、米・仏・エクアドル・コンゴの代表が演説、続いて活発な中絶論争が展開された。

(6・24毎日)

熱気ムンムン

どの会場をのぞいても通路まで満員、何が飛び出すかわからない面白さにひかれて五〇〇〇人を超える女性が連日押しかけ女の解放を求める熱気ではちきれんばかり。

(6・26朝日)

戦争の悲惨さ訴える

二五日午後、「女性と帝国主義」という会合で南ベトナム代表の一人が出席、いまなお民族

独立や人種差別撤廃のために闘う人々との連帯を強調した。日本の女性へは、医療品、学用品、オモチャなどの援助を訴えた。

(6・27朝日)

国連本会議に修正案を

自分たちの声が反映されないと不満が強かった民間参加者らは、二五日、ベティ・フリーダンの音頭取りで結集、行動計画草案に対する独自の修正案提出を決めた。

(6・27信毎)

「女性の世界組織作れ」

ベティ・フリーダンの女史ら十五人は「一般女性の声を反映していない」と二六日朝、シビラ夫人に「トリビューン」でまとめた要求をつきつけた。シビラ夫人は「本会議に提出された多くの修正案とダブる点が多いようです」とやんわり。

(6・27読売)

シビラ夫人貫祿の説得

二六日「トリビューン」会場に訪れ、「民間の声を無視している」という抗議に対し、十分の説得を行なった。これで、トリビューン側も納得、あっさりケリがついた。(6・28読売)

英文リポートで差別を告発

「日本の高度成長が女性を犠牲にして成し遂げられたことを明らかにしたい」と、自分たちでお金を出し合って作った英文のリポートに関心がもたれている。

『日本の女性が発言する』というこの自主リポートを編集したのは第三世界の研究家北沢洋子

さんら英語に強い女性グループ。出来上がったリポートは一八〇

ページにもなり、「夫に尽くす従順な女性という日本女性のイ

メージが変わった」(米国ウーマンリブ活動家)「こんなに男尊女卑社会だったとは」(インド女性記者)と、話題になっている。(7・4朝日)

〔会議を終えて〕

藤田さんら帰る

日本政府代表团五人は四日午後六時四五分羽田着。「会議はすぐに政治的発言となり、改めて婦人問題の複雑さを感じた。今後世界の平和や経済問題などにも女性が積極的に参加しなくては、と痛感」と藤田代表。

森山局長ら残りの八人はアメリカで開かれる日米婦人問題専門会議に出席、十七日帰国。

(7・5毎日)

婦人年メキシコ会議の報告会

二二日午後、東京・中野のサ

ンプラザで開かれた。約三〇〇人が出席する盛況。しかし「政府代表は、メキシコで何をやったのか」などの質問に藤田さんらはしどろもどろ。今後については「行動計画を各省としてどうするかもう一度検討する」と森山局長。(7・23朝日)

〔社説〕開会に先立って

国際婦人年世界会議に望む

国際婦人年のハイライト、世界会議が十九日(日本時間二〇日)から二週間、メキシコシティで開かれる。国連加盟国のほか、南ベトナム臨時革命政府、PLO(パレスチナ解放機構)代表などの出席が予定され、一

五〇か国が参加する大型会議だ。これと並行して、代表团以外の民間女性による討論会「トリビューン」が開催されることも注目されよう。婦人問題をめぐっ

て、これほど大規模な国際会議が行われるのは、空前のこと。お祭り騒ぎは慎むべきだが、この機会を十分活用して、実り豊かな成果をあげるよう期待したい。

国際婦人年の目標は、男女平等の促進、経済・社会・文化の発展への婦人の参加、国際友好と協力への婦人の貢献の三点に置かれている。一般に「平等、発展、平和」と要約されるが、これは国連憲章自体の理念にほかならない。世界会議の目的は、この三目標の具体化にある。このため議題を五項目に分け、三部会で討議するが、最大の焦点は「世界行動計画」の審議採択であろう。

同計画は精神規定として各国政府に勧告するもので、条約のような強制力は持たないが、今後十年間、各国の婦人問題に対する姿勢や方向は当然その基本線に従うことになる。それだ

けに計画立案をめぐる各国の思惑は入り乱れ、去る三月、ニューヨークで開かれた世界会議諮問委員会でも議論は紛糾した。

男女平等の推進に力を入れる欧米の先進工業国。南北の格差是正を目ざし、計画に「国家経済権利義務憲章」を盛りこむよう求めた開発途上国。反植民地闘争への婦人参加を強調した共產圏諸国の三グループに分かれ、奇しくも婦人年の三目標「平等」「発展」「平和」のそれぞれに、力点を置く形になった。その結果、原案は追加項目でふくれ上がり、今回の第二次案は、全二〇六項目の膨大なものになっている。二三か国による諮問委員会の実情がこれだとすれば、一五〇か国が集まるマンモス会議での議論百出は、今から予想される。

開催地メキシコでは、世界会議が富める先進国の主導型にならぬよう、警戒する空気が強い

といわれる。出席国としては多数を占める開発途上国の主張が

大きく表面化しそうだ。わが国は前記三グループの中では、欧米先進国の一員とみなされ、事実、諮問委員会でも、このグループに同調する立場をとったが、今回の会議では代表団は、各国の実情報告や主張に謙虚に耳を傾け、開発途上国グループの反発や誤解を招かぬよう、十分留意すべきである。自己主張を急ぐことなく、大勢を見極めて慎重な討議を進めるよう望みたい。代表団の構成が官庁関係に偏りすぎ、婦人団体、労組婦人部などの批判を受けたことは記憶に新しい。どれだけ民間の意見を反映できるか、懸念する声も多い。代表団は政府代表である以前に、わが国の婦人の立場の代弁者であることを銘記し、国内世論を広く忠実に伝えるよう努力してほしい。

政府代表の言動におのずから

制約があるのは、各国とも共通した事情であろう。その意味で、民間人の自由な討論の場「トリビュン」に対する期待は、公式的な世界会議以上に大きいともいえる。並行的に開かれるこの会議が、婦人問題前進の重要な契機となるよう願う。

(6・17毎日)

婦人問題を見直す世界会議

わが国は、建前では、完全に男女平等が保障されているとはいえ、現実的にはまだまだ厳しい男女格差が存在するだけに、メキシコ市で開かれる「国際婦人年世界会議」は、婦人問題を見直すこの上ない機会といえよう。

会議の議題は、①国際婦人年のテーマにそった婦人の地位向上②国際平和、人種差別撤廃への婦人の参加③男女の地位と役割の現状と変化④開発への婦人

の参加⑤世界行動計画の決定、と盛りだくさんだが、最大の焦点は「世界行動計画」である。

男女の完全な平等確立のためこれから十年間に何をなすべきかを問うもので、各国は、当然、今後このプログラムにそって婦人問題に対処することになるため、ニューヨークで開かれた諮問委員会では議論が百出、行動項目は大幅に追加され、ついに二〇六項目にふくれ上がった。お国柄を反映して、欧米先進国が「平等」に、開発途上国が「発展」に、ソ連、東欧諸国が「平和」にと、それぞれの力点が違った結果である。

わが国は、欧米先進国と同一歩調をとってはいるが、胸を張って、婦人の地位は先進国なみと言い切るにはかなりの疑問がある。戦後、婦人の地位は飛躍的に向上した。社会進出も目覚ましく、就業者の四割は女性だが、その経済的地位は相変わらず

ず低い。學歷、勤続年数などの条件の違いはあるにせよ、女子の平均賃金は男子の半分にすぎない。「だから、進み過ぎた北欧などより、かえって日本の経験のほうが發展途上国の参考になるかもしれない」と、政府代表の藤田たきさんはいう。

女性を取り巻く政治的・社会的条件が、先進国に比べて大きく立ち遅れていることは事実。だが、それは、長い歴史的風土のもとで培われたものだけに、「婦人年」や「婦人週間」に、思い出したように婦人の地位の向上を叫んでみたところで簡単に変わるものではない。時としては、法律や制度を変えることよりはるかに困難な社会意識の变革に立ち向かうには、いたずらに、男性の理解のなさを嘆く前に、まず、女性が就職時の「腰掛け」意識を捨てるなど、自分を変えなければならぬまい。もちろん男女の平等は、婦人

の社会的進出にだけかわる問題ではない。家庭においては女性には重要な役割を果たしており、主婦の地位が、いわゆるほど低いものとも思えない。財布にぎるといふ意味では、むしろアメリカなどより高いとさえいつてよい。ただ問題は、出産・育児という女性の役割が、社会進出の壁になり、家庭中心に生きるか、それを犠牲にして職業をとるかという二者択一が迫られるところにある。望ましいのは、保育所を完備し、育児休暇制度を普及させ、働きながらでも安心して子どもを産み、育てられる環境を作ることであり、制度的不備によって、選択の幅がせばめられてはならない。

わが国の現状からいって、アメリカの婦人運動のように、「保護」より「平等」をと割り切ることは危険だが、少なくとも残業規制など一部の労基法上の保護規定は緩和すべきである。

過度の保護は、かえって女性の職業をせばめ、社会進出のブレーキともなりかねない。

(6・18読完)

世界婦人会議と男女平等

「国際婦人年」の最大の行事、世界婦人会議が、メキシコ市で始まった。国連がことしを「国際婦人年」と決めたのは、一九六七年に国連で採択された「婦人の差別撤廃宣言」を中身のあるものにしたという考えからである。高い理想とあまりにも貧しい現実の落差をどうするかを、改めて世界各国に問いつけたことになる。

国連が昨年テーマにした「人口」に比べ、ことしの「婦人」は率直にいって社会の関心が高いとはいえない。だからといって、メキシコ婦人会議を「女性のお祭り」などといってすますことはできない。現地からの報

道によると「平等より貧しさからの解放が先だ」という第三世界の発言が会議をリードすることになりそうだという。

一見無色に見えるこの会議も、ソ連、アメリカ、第三世界の対立という国際政治にまき込まれることは避けられそうもない。ことしを「国際婦人年」に、と口火を切ったのはソ連だが、「国際会議を開け」というアメリカの主張にソ連は会議に金がかかるより、国連は開発途上国の地位の低い婦人のためにもっと金を使えと反対し続けてきた。米、ソが第三世界を意識しつつ、双方の妥協でやっと会議開催にこぎつけたいきさつがある。

「母性保護」「男女平等」について、も「平等」に力を入れるアメリカに対し、ソ連は「母性保護」を主張している。日本女性代表团がイデオロギーによる「女性の闘い」の洗礼を受けるのは初めてのことだろう。

考えようによつては、この国際会議は平和なれしてきたわが国の女性が、世界のきびしさに改めて目を開くきっかけにもなりうる。「母性保護」と「男女平等」について、わが国ではこれまでこの二つを対立的、観念的に割り切る傾向がなかったとはいえない。日本の女性代表団が、「母性保護・男女平等」については各国がそれぞれその国の事情に応じた道を選ぶことが正しい」という判断と認識を、世界会議を通して深めることを期待したい。

わが国では男女によつて意見の違う問題が少なくないが、「職場における男女平等」は両性の考え方の最も対立する問題の一つだ。男性は女性の職場を「腰かけ」と見る意識が強く、女性は職場は男中心で女は差別されているという考えが強い。意欲あり、能力ある女性ほど疎外感を感じさせられていることも事

実だ。若年定年制は全企業の二割近くあり、秋田のある銀行は女子に対して男子と別の内容の給与表を作成して訴訟されたにたつた。

こうした昔ながらの男社会的発想は改める必要がある。職場においては性の「差異」があつても「差別」があつてはならないと思う。職場における「男女平等」は「働く機会の平等」という合意から出発しなければならぬ。ある商事会社は、最近補助的な仕事しかさせていなかった女性社員を、営業部門に登用する方針を決めた。

十八世紀、英国の女権拡大運動の会員は青い靴下をはき、賛成する男性もそれにならつた。婦人の地位改善には男性の協力と頭の切りかえが必要だ。同時に、女性も「職業意識が低い」という批判を、一人一人の自覚で乗り越えてゆかねばならない。されいで、カッコいい仕事より、

福祉部門への参加に熱意を燃やしてほしい。(6・20朝日)

〔社説〕世界会議を終えて

国際婦人年会議を顧みて

国際婦人年世界会議は、二週間の会期を終えて、二日(日本時間三日)幕を閉じた。

この間の審議経過を見ると、婦人問題はややタナ上げされ、開発途上国の主導による政治会議に終始した感が深い。しかし

曲がりなりにも、会議の大勢を集約した「メキシコ宣言」と、今後十年間のガイドラインを示した「世界行動計画」が採択されたことは、大きな成果といえる。

このマンモス会議がいかにか政治色の強いものだったかは「メキシコ宣言」の内容が、よく象徴している。同宣言には「家庭と社会における男女平等の権利

と責任の確立」「女性差別撤廃を目指す特定措置」などと並んで、外国企業による内政干渉の拒否や、民族解放、人権差別撤廃、全面完全軍縮の達成などが盛りこまれた。国際婦人年の三大スローガン「平等」「発展」「平和」のうち、「発展」に焦点を置いた第三世界の主張が色濃く反映しており、本会議の表決では、米国、イスラエルが反対、西側先進国は棄権したと伝えられる。

この中で、三月の諮問委員会以来、欧米先進工業国グループに同調してきたわが国代表が、ひとり賛成票を投じて注目を集めた。この選択は、将来わが国が婦人問題のみならず、政治、経済の諸問題で、第三世界との連帯を深めたいと願う、積極的な方針を示したものである。

この国際会議は、わが国の婦人問題のあり方に、幾多の教訓を与えた。

第一は婦人問題の取組み方が、諸外国に比べ、政府・民間一体化の姿勢に欠けることである。今回の代表団の構成が、官庁関係に傾きすぎたことは、開会前から批判されていた。政府、民間の交流が不十分で、民間の意向を反映しようとしなかった不備が現れ、官民一体の体制のもとに、積極的な言論を展開した各国との差が目立った。婦人問題のような恒久的な議題には、何よりも政府と民間との共同歩調が必要である。世界会議は、この点についてわが国の反省を促すものであった。

第二に、日本の婦人運動が団体、個人の別を問わず、まだ閉鎖的で、国内のワケを脱していないことである。国際的な共鳴や支持を得、国際的な場で通用するまでに、まだまだ努力と蓄積が必要なことを、この会議は否応なく思い知らせてくれた。それは、単に言語の壁の問題だけでなく、日常的な運動に、国境を越えた友愛、連帯が乏しかった当然の帰結であろう。日ごろ、何の交際もない者同士が、突然一堂に会しても、相互理解は生まれない。常にお互いの運動の実態を認識し合い、それぞれの立場をよく知ってこそ、連帯感も湧くのだ。

曲折にみちた審議を通じて、これまであまり公にされていなかった第三世界の婦人生活の実態を学んだことは、国際的な視野で婦人問題と取り組む際の貴重な手掛かりとなろう。

「世界行動計画」は、原案はるかに上回り、全二一九節の膨大なものになった。これは条約でなく、あくまで精神規定であり、強制力は持たないが、採決に加わった以上、計画の諸条項を尊重するのは、国際信義上、当然のつとめである。

わが国の現状に照らして、向こう十年間にこの規定をどこま

で忠実に達成できるか、懸念する声も聞かれるが、段階的にせよ準備を急ぐべきであろう。国際婦人年のハイライトは終わったが、婦人問題はこれからだと銘記しておきたい。

(7・4毎日)

婦人年世界会議をかえりみて

男女差別は、本質的に悪であり、人間の尊厳に対する罪である。男女の絶対的平等を高らかにうたいあげて、国際婦人年世界会議は、その幕を閉じた。この会議で採択された二一九項目に及ぶ「世界行動計画」は、今後十年間の婦人問題に関する重要な行動指針となるもので、婦人運動は、その実現をめざして、この日、新たなスタートを切った。

会議は、終始、発展途上国ベースで進められ、新国際経済秩序の確立など、極めて政治的な

主張が行動計画に織り込まれた。世界人口会議などの動きからみて、ある程度予想されたとはいえ、先進国グループは、途上国の圧倒的な熱気に、改めて南北問題の重味を、はだ身に感じたに違いない。

貧困からの解放なくして男女平等はあり得ないと、国際間の富の再配分を求める途上国側の言い分には、それが、厳しい現実と先進国への怨念で裏打ちされているだけに、さからいがたい迫力があつた。ウーマンリブ的な発想はもちろん、男女平等の在り方を問う、先進国側にとつては現実的な主張までが影を薄くしたのも無理はない。

会議に並行した民間の討論などで、富める国の象徴、アメリカ女性に冷たい目が向けられたが、これを対岸の火事とすることはできない。東南アジア諸国にとって、わが国は、まさに中南米諸国におけるアメリカとい

えるからである。しかも、南北問題は、ただ単に国際的な問題ではない。インフレによって拡大された貧富の差は、南北問題を引きうつしたような状況を、今、国内に生んでいる。

この会議が、国際政治の対立の渦に巻きこまれたことは否定できない。そのため、地道な婦人問題の論議がおろそかになったことも事実である。しかし、もともと、婦人問題が、政治・経済・社会体制と密接なかかわりを持つ以上、それもまた、やむを得なかったのではないか。いたずらに、発展途上国の攻勢にマユをひそめるより、みせかけの繁栄に目を奪われ、その底辺にあるものを見失っていたわが国の婦人運動の在り方にこそメスを入れなければならない。もちろん、国の発展段階や歴史的風土によって、婦人問題のありようが異なるのは当然である。行動計画も「個々の国々が、

目標に優先順位を設け、独自の戦略をたてるべきだ」とする。その観点に立つて完全な男女平等が保障されているはずのわが国が、行動計画にそってなすべきことは決して少なくない。

たとえば「政策決定段階における婦人の平等な参加」などもその一つである。婦人委員がいる審議会は、一人でも女性が増加しているものを含めて、全体の三〇％強にしか過ぎない。人口審議会にさえ女性が入っていない。

しかも婦人委員の多くは消費関連部門の審議会で、これは明らかに、男は外、女は内、という固定観念の産物といつてよい。個人差はあっても男女差はない、という理念からいえば、こんなおかしい話はない。男女の役割の分担についての偏見は打破されるべきである。

行動計画の実施状況は二年ごとにチェックされ、国連に報告

されるが、国はそのチェック機関の構成にあたって、女性の意見が率直に反映されるよう、十分な配慮を払う必要がある。国に「やる気」があるかないかを示すリトマス試験紙の役を果たすことになるだろう。

(7・4読売)

婦人世界会議の残したもの

「国際婦人年世界会議」は予想通りというより、むしろ予想以上に国際政治にふり回された大会だった。

最近の国際会議には、西側先進国、社会主義国、第三世界間の紛争が持ち込まれているが、

“人類の半分を占める女性の団結”を訴えるこの会議も国際政治の潮流とは無縁ではなかった。

開会に当たってエチオピア・メキシコ大統領は、「平等」という一つの目標のため、先進国と開発途上国の女性が連帯する

ように訴えたが、「第三世界国士の連帯」「西側先進国相互の連帯」のように、連帯の分断化がいつそう強まった印象を受ける。

貧困から解放されたとしても“差別撤廃”という女性の解放に直ちにつながらない、という西側先進国グループの指摘は無視できぬ。しかし、貧しい国では「男女差別」以前の「人間差別」がある。教育、職業、医療、食糧など、人間存在のあらゆる基本的な面で、第三世界では女性へのシワ寄せが先進国以上に大きい。こうした第三世界の主張はイデオロギーを越えた事実の重みを持つ。

体制変革、世界新経済秩序などの主張を織り込んだ「メキシコ宣言」をめぐり、この大会の評価はそれぞれの国の立場によってまちまちだが、考えてみれば、これだけ多様化した国際情勢の中で一致した結論を求める

こと自体が無理である。この大会の意義を求めるとすれば、まずイデオロギーの差異を超えて

ともかく世界の婦人が一堂に集まったことにある。対立が拡大する可能性も否定しないが、同時にそれぞれのグループが違った世界を知り、そこから新しいものを生み出す希望もある。

ついで「世界行動計画」がともかくまとまった点は評価すべきだろう。この「行動計画」に盛り込まれた目標がいかに高く、現実との落差がいかに大きくても、国際婦人年事務局長シビラ夫人の言葉のように女性の地位向上

運動の「終わりではなく始まり」となりうる。

この会議で注目された点の一つは、日本代表が西側先進国十四か国が棄権した「メキシコ宣言」の全文に賛成の一票を投じたことである。国連の会議で、すでにわが国がシオニズム問題で中立の態度を表明しており、さらに資源問題で第三世界の立場を配慮せざるをえない事情からであろう。新経済秩序の一部、資源国有化など幾つかの部分について棄権はしているものの、独自の態度を表明したことは画期的なことである。第三世界と

西側先進国間の橋渡しこそ、今後のわが国の国際政治への役割になってゆくのではないか。

わが国にとっては、この世界会議の結果を国内婦人運動にどう生かすかが問題となる。日本は西欧と同じ先進国グループに属しながら、国内に「南北問題」を抱えている。働く婦人に対する評価は戦争直後と今日であまり変わっていないとは思えない。好況時には補助的労働力としてかり出された婦人が不況になるとまず先に整理の対象とされている。

世界の先進国の中でわが国は

ど婦人にとって働く場所の少ない国はないといわれる。まず、婦人の就職の機会をもっとふやすことから始めるべきだろう。

国際的に保護より平等への動きが強まっているが、専門性を生かす職業教育・訓練の重要性が、婦人の側にもっと認識されねばならない。

ついでに、働く婦人のもろもろの問題を早期に解決する「かけこみ委員会」を設けることを検討してはどうか。

(7・6朝日)

最終号に

索引が

入ります

●インデックスは、八五年分までの刊行後、索引として一分冊にします。それまでは、巻頭目次の内容別分類でお探しください。

●表記は、「婦人」「主人」など、当時の新聞記事そのままにしています。マスメディアの表記が、いつ頃から変わったかにも、女性史上、興味深いところですよ。

●ただし、年号は原則として西暦に統一し、官公庁にかかわる年号表記などのみ元号も付記しました。

●できるかぎり努力しましたが、不備な点も多いと思います。どしどしご指摘下さい。

●ご研究、学習会等にご利用の場合は、ご一報ください。ご便宜をお計りします。

大きい言葉のハンディ

婦人会議に將時出席した日本
政府代表團は十一人（うち男性四
人）。まことに積極的な第三世
界、最後まで男性代表は消滅さ
なかつた国々に比べると、日本の
婦人代表たちの影は薄かつた。
あらかじめ強調された陳謝以

外、本會館二三の委員、會費を徴して、日本の場を代表して發着した人代表は、もうは、前回の會館に在りて在るのベトナム外交官の婦人代表にわたした。去西前回の婦人代表は、本會館の調停の場を代表して發着したものでなく、本會館にも出て進出したに在る、と日本の新聞記者は、この本會館を除き、本會館にはあめりかを見せなかつた。一國派のハンティは、野大舎といふある日本の代表は、い、オーストリア、ニ、ウ、ランド

最大の意義

[illegible]

大田(大田) (大田)

[illegible]

「、目も眩しい活躍をしたが、
日本の貴族で活躍できることは
出たがらへ落ちこつたのだ。
中華貴族もメキシコと同じス
ベイン語の強みから、誇りにす
ぎ」という批判が出るほど國際的
に活躍していた。

次に、國際會議の経験不足をあ
げる。代表團の構成は労働、厚
生、文部、農林そして外務の五
人の協成チームだが、外務省を除

婦人代表たちの間には強硬な意見が、どのような流れで動いていくかなど細かい点の事柄が十分出来ていない面もつがえた。婦人会議ではなをするかという明確な目標を欠いていたため、決議案も出さずじまつた。決議案は決断し、は多分に国内政治向けと自派社会での指導権を確立しようというねらいもつがえたのだが、日本がもつては大きな国際会議の経験者があ

かつた。女性側もさるるとながら、これまで女性を外へ出す機会をいつてもつてゐたが、この男性中心主義にも問題があり、また、「国際会議」に個人を参加させる「国連外交官」制度も、いふやうに女性を増員するにたいへんむづかしいものがある。このため、女性側の出るべき道にたつたのは、女性側が女性側になつてゐたのである。

国内各省は婦人會議後、互に取組ひ、必成が生まれた。また、

(メキシコ市「有吉特派員」)

をどうする、どうしたものだが、
 そういう悲惨な状況に追い込んだ
 戦争や人種差別をなくすために
 は、女性がどんな役割を果たせる
 かを突っ込んで議論することの
 ほうがもっと有意義だったと感
 ずく(「エニージラ」下巻代表
 ティリカネ・サリバン夫人)

女性解放の
 きつかけ

代表は、女性解放

根本を奪ふなければいけないとい
った。因によつて意見の違いはあ
つたが、人類の半分を占める女性
は問題して、苦しんでいる女性の
解放に力を含めるべきわけにな
つたと原久（北朝鮮解放代表水
ージョン・スク女史）
「トリビュン」などで、ラテン
・アメリカの女性たちがアメリカ

10

帝國主義傳へたてと云ふものの
 性の中にベトナム反戦運動や、
 核兵器に反対する運動に身をてい
 してきた革命的な女性もいるのたか
 ら、もっと手を結べるはずだ」
 (ギリシャ雑誌記者レナ・ドウキ
 ドウさん)

第三世界の
 宣言も尊重

探検できなかった

た。しかし第三世界の宣言も女性に
にこつてよいとはたくさん撥り
込められているから私たちも嬉し
いでいゝものだ。それに宣言より
も世界行動計画の方が具体的に重
要な意味があり、これを全て一致
で採択できたことは全く大変
国政府首席代表フタル夫人
「女の会議ではなかった。男が

自分たちの政治目的のために女を利用した会談だった。男たちは女たちの屈辱を忍び、第三世界と先進国の女たちが互いに憎しみ合うように仕向けたのだ。この世界はまだ男の世界であることを見せつけられた。女が政治権力を握る闘いをさらに強める以外にない」(米国のワーマン・リブ活動家クリステン・アムンゼンさん)

得て、政府を突き上げることだ。女性という立場では世界中の国がまだ未開國だから、私たちが女性には困窮して新しい女のネット・ワークをつくらう。この会報はそのための紐わりではなく始まりです」(国際婦人年事務局長シハラ夫人)

(メキシコ市川松井特派員)

資料集

資料1

世界行動計画

一九七五年七月一日 国際婦人年世界会議において採択

序 章

1 国連憲章を署名するにあたり、国際連合の諸国民は、戦争の惨害から将来の世代を救い、基本的人権、人間の尊厳および価値、男女および大小各国の同権についての信念をあらためて確認し、一層大きな自由の中で社会的進歩と生活水準の向上とを促進すること等を特に約束した。

2* 最近数十年間の最も偉大で重要な業績は、多数の民族および国民が外国による植民地支配から解放され、自由な諸民族の共同体に加わることができたことである。

過去三十年間、経済活動のあらゆる分野で、技術的進歩が達成され、すべての人々の福祉を増進するための大きな可能性をもたらしした。しかしながら、外国による植民的支配、外国による占領、人種差別、アパルトヘイトおよびあらゆる種類の新植民地主義の残滓は、依然として開発途上国および関係するすべての人民の完全なる解放と進歩にとり最大の障害の一つとなっている。科学進歩の恩恵は、国際社会のすべて

の構成員に公平に分配されていない。世界人口の七〇%を占める開発途上国は、世界の収入の三〇%を受けているにすぎない。現在の経済秩序の下では国際社会の統一のとれた、かつ、均衡のとれた発展を達成することは不可能であることが実証されてきた。したがって、総会決議三二〇一(XXIX)に基づき新しい国際秩序を確立することが必要である。

3 国連憲章発効以来、上記の基本的原則および目的を強化し、細かく規定し、実施するための条約、勧告その他の文書が採択されてきた。(注)そのうちいくつかのものはいかなる種類の差別もなく、すべての人に人権と基本的自由を擁護し促進することを目的としている。

また、他のものは、経済社会の進歩発展の促進、あらゆる種類の外国による支配、従属、新植民地主義を撤廃し、男女同権を促進するという、さらに絞った目的を掲げている。

これらの国際文書は、国際社会が、諸国民の発展における格差および人種、性別その他のいかなる理由に基づくものであれ、すべての形態の差別がもたらす悲劇についての認識をますます高めつつあること、また平和、衡平ならびに正義の

中で進歩発展を促進しようとの明らかな意志を有していることを反映している。

4 これらの文書を通じ、国際社会は、一国の全面的な発展および世界の福祉、平和のためには、婦人が男性と同様にあらゆる分野に最大限に参加することが必要であることを宣明し、すべての人は、差別なく社会的・経済的進歩の成果を享受する権利を有し、同時に、かかる進歩に貢献するべきであることを宣言している。

国際社会は、性別に基づく差別を、基本的に不正なもの、人間の尊厳に対する罪、および人権の侵害であるとして非難している。国際社会は、一九七〇年代の国際開発戦略の確固たる目標の一つとして、開発努力全体への婦人の全面的な参加をあげている。

5 これらの厳粛な宣誓と、特に、国連婦人の地位委員会および関連専門機関の行なってきた業績にもかかわらず、これら諸原則の具体化は遅れており、また不均等である。これら多数の文書の作成および実施にあたり遭遇する困難は、各国間、地域間等の著しい相違がもたらす複雑さによるものである。

6* 歴史は、婦人が、男性とともに人々の物質的、精神的進歩の促進および社会の進歩的な刷新の過程に果す積極的な役割を裏証してきた。われわれの世代においては、婦人の役割は、強力な社会変革の勢力として、ますます抬頭していくであろう。

7 政治・経済・社会・文化構造ならびに発展の程度および、婦人のおかれた社会的地位によって、婦人の地位は、国および地域により、著しい相違がある。しかし、基本的な共通点

が婦人を団結させ、法律上、経済上、社会上、政治上、文化上、存在する男女の地位の相違と闘わしめている。

8 国際経済関係を支配している不均等な発展の結果、人類の四分の三は緊急かつ切迫した社会・経済問題に直面している。これらの問題のしわ寄せをより大きく受けるのは、その中の婦人であり、開発過程における婦人の状況と役割を向上するためにとられる新たな措置は、新経済秩序の建設という全世界的計画の不可欠の一部を成さなければならない。

9 多くの国では、婦人が農業労働力の大きな部分を占めている。このような事情と、婦人が農業生産、食品の加工、流通の分野で果す重要な役割にかんがみ、婦人は、大きな経済的力となっている。にもかかわらず、農村労働者が技術的設備をもたず、教育、訓練の機会を与えられていないことを考慮に入れるならば、多くの国において農村婦人は二重に不利な立場におかれているといえよう。

10* 工業化は、婦人に職を与え、開発過程への婦人の参加の主要な手段の一つとなるが、生産の技術的構造は一般的に男性および男性の必要に合わせたものであるため、婦人労働者は多くの点で不利をこうむっている。したがって、工業およびサービス業における婦人労働者の状況に特別の注意が払われなければならない。婦人労働者は、現在の経済危機、失業の増加、インフレーション、大量の貧困、教育上や医療のための財源の不足の影響、都市化その他の人口移動による、予見せざる、かつ好ましくない副作用を苦痛をもって感得している。

11* 科学技術の進歩は、多くの国において、婦人の状況にプラスとマイナスの両面の影響をもたらした。政治的、経済的、社会的要因は、これらの進歩がもたらす望まじからざる影響を克服するにあたり重要である。

12 過去数十年間、多くの国で婦人運動および何百万人の婦人が他の進歩的勢力とともに、国内面、国際面でこれらの問題に対する世論を喚起してきた。

13* しかしながら、世論は、外国支配下にある地域の多数の婦人、特にアパルトヘイトの下にあって、日々圧政の恐怖を経験し、人間の最も基本的な権利を回復するため、たゆまず闘っている婦人を看過している場合が多い。

14 婦人が、多くの国で、経済社会活動の政策決定段階、政治行政への参加に際し、日々未だに当面している諸問題の現実と、世界成人人口の約五〇%の潜在力が十分活用されていないという損失が、国連をして一九七五年を国際婦人年と宣言させ、全体的な開発努力への婦人の全面的な参加を確保し、男女の平等な権利、機会および責任に基づく国際協力ならびに世界平和の強化へ婦人を広く参加せしめるための一層強力な活動を呼びかけるに至らしめたのである。国際婦人年の目的は、婦人が真の意味で、また完全な意味で、経済的、社会的、政治的生活に参加するような社会の概念を定め、社会がそのように発展していくための戦略を作り出すことである。

15 本計画は、婦人の地位に関し、すでに採択された国際文書および諸計画の実施を強化し、これらをより時代に即した形に拡充し位置づけることを意図している。

本計画は、国際婦人年の諸目標達成のため、低開発および婦人を男性より低い地位におとしめている社会・経済構造上の問題を解決するための国内的国際的行動を促すことを主たる目的としている。

16 男女平等の達成とは、両性とその才能と能力を、自己の充足と社会全体のために発展させる平等な権利、機会、責任をもつべきことを意味する。そのため、家庭ならびに社会の中で両性に伝統的に割当てられてきた機能および役割を再検討することが肝要である。男女の伝統的な役割を変える必要性を認識しなければならない。婦人をあらゆる社会活動に同等に参加させるためには、家事の負担を軽減するような社会に組織されたサービスが設立・維持され、特に子供のためのそれが提供されなければならない。家庭と子供について、男女の共同責任が受け入れられるためには、主に教育を通じ、社会通念を変えるためのあらゆる努力が、払われるべきである。

17 政府は、男女平等を促進するため、法の下での男女平等、教育と訓練の機会均等を目的とした設備の供与、報酬および適切な社会保障を含む雇用条件の平等を確保すべきである。政府は男女が婚姻上の地位と無関係に平等な条件の下に雇用される権利、ならびに経済活動のすべての分野に進出しうるような措置を承認し、実施すべきである。すべての人が無料の初等普通教育を受け、さらに中等普通義務教育、雇用条件の平等および母性保護を受ける機会につき定める法の実施を促進するような状況をつくり出す責任がある。

18*

政府は、多くの国の、特に恵まれない層の婦人たちに負担のかかっている苛酷な労働条件と、不合理な重労働の負担を改善するため努力すべきである。政府は婦人の境遇を改善し、男性と同等に婦人を開発に全面的に参加せしめるために必要な保健サービスや、栄養その他の社会的サービスを利用しやすくすることを保証すべきである。

19*

個人および夫婦は、子供の数および出産間隔を、自由にかつ責任をもって決定し、そのための情報と手段をもつ権利を有する。この権利を行使することは、両性の真の平等の達成にとり基本的であり、これを達成することなくしては、婦人が他の諸改革の恩恵を受けようとする試みにおいて不利をこうむることとなる。

20*

保育所および他の育児施設は、子供が家庭において受けるしつけや世話を補うものである。同時にこれら施設は、男女平等促進の重要な鍵である。政府は、したがって、このような施設をまず第一に次のような子供に押し与えるよう、取計らう責任を有する。親の一方または双方が雇用されている場合、自営および特に農村婦人に関しては農業に携わっている場合、訓練または教育を受けつつある場合、または就職や訓練、教育を受けようと希望している場合。

21

開発の主たる目的は、個人および社会の福祉に継続的な改善をもたらし、すべての人に恩恵を及ぼすことに鑑み、開発は、それ自体として望ましい目標とみなされるだけでなく、男女平等を促進し、平和を維持するための最も重要な手段ともみなされるべきである。

22

開発への婦人の参加は、婦人の活動が社会、経済、文化生活のすべての場面を包含するよう拡大されることを必要ならしめるであろう。婦人に必要な技術訓練を与えることにより、その貢献を一層生産的ならしめ、そしてすべての計画の方針決定・企画および実施への婦人の参加の拡大を確保することが必要である。また全面的な参加とは、婦人が発展の恩恵の正当な分け前を受け、もって、すべての部門の人々への一層公平な所得配分を確保することを促進することである。

23*

すべての人々に対する人権を推進し擁護することは、万人がその達成を目標としている国連憲章の基本的諸原則の一つである。全世界における人権の擁護と男女の完全な平等の確保にとって不可欠の要素は、平和、正義、万人の平等およびあらゆる紛争の原因の除去を基盤とする持続的な国際協力である。真の国際協力は国連憲章に基づき完全に平等な権利、天然資源に対する主権およびその利用の権利を含む民族の独立と主権の尊重、内政不干渉、領土保全を防衛する諸国民の権利、武力による領土の取得またはかかる試みの不容認、互恵、武力行使または武力による威嚇の回避、諸国家の経済権利義務憲章（注二）の基本的目的を成すところの新しく公正な世界経済秩序の推進および維持に立脚しなければならない。国際協力および平和は、個人の尊厳、人格の尊重、個人の自立と団結、民族解放、政治的経済的独立、植民地主義、新植民地主義、ファシズムおよび他の類似のイデオロギー、外国による支配、アパルトヘイト、人種差別主義およびあらゆる種類の差別の撤廃を必要とする。この目的のため、本計

画は、平和の促進および維持を目的とするあらゆる努力に婦人が全面的に参加することを要請する。真の平和は、新しい国際秩序を確立する責任を婦人が男性と分かちあわぬ限り達成され得ない。

24 本計画の目的は、婦人が現実、あるいは潜在的にもっている独特のかつ多面的な貢献が、現存の開発行動計画ならびによりよき世界経済の均衡の概念の中で見失われないことを確保するにある。

国内および国際的行動に係わる勧告は、あらゆる分野、特に婦人が特別不利な立場にある分野において必要な変革を促進することを目的として提案されている。

25* 一個の人間としての婦人の人格の全的な発展は、婦人が母親として勤労者としてまた市民として開発過程に参加することと直接関連している。婦人の人格の調和のとれた発達にとつて等しく有意義で最良の条件を与えるために、婦人もつこれら種々の役割の調整を促進するような政策が開発されるべきであり、このことは男性の発展にとつても等しく意味を有することである。

第一章 国内行動

26 本計画は、国際婦人年の目的を達成するため継続的な長期努力の一環として、一九七五年—八五年の十年間にわたる国内行動に指針を与えるものである。これらの勧告は、すべてを網羅しているものではなく、婦人の境遇および生活の質を

取扱った他の既存の国際文書および国連組織の諸決議とあわせて検討されるべきである。これらは十年間に優先的に行動を要する主要分野を述べたものにすぎない。

27 本計画中の国内行動に係わる勧告は、第一義的に各国政府、そしてすべての公的機関民間の機関、婦人団体、青年団体、使用者、労働組合、マスコミ、非政府機関、政党、およびその他のグループに向けられたものである。

28 婦人の地位は、社会、文化および地域により大きい格差があり、おのずから必要とするものも、問題点も異なってくる。したがって個々の国は、独自の国内戦略を策定し、本計画の中から自身の目標および優先順位を決定すべきである。今日の変動する社会条件の下にあっては、評価分析のための実効的な機構が設立されるべきであり、目標は、特に第二次国連開発の十年のための国際戦略(注三)および世界人口行動計画(注四)に掲げられたものと関連づけられるべきである。

29* 婦人に完全な平等を実現し、いかなる種類の差別もなしに、自由にあらゆる形態の開発に参加し、教育および雇用の機会を得られるような社会的経済的構造の変化が促進されるべきである。

30* 政府のあらゆるレベルにおいて、これらの目標および優先事項を実施するために適切な行動をとるとの明確な意向表明がなされるべきである。平等および婦人の社会参加という理念に対する政府の側の約束は、搾取の危険のない制度を確保するよう社会内の基本的な諸関係を変えようというより広い意味こそ十分に効果的たりうる。

31 婦人が参加すべき国内の戦略および開発計画の策定整備に際しては、婦人の利益と必要を十分に考慮しつつ、目標および優先順位がうちたてられることを確保し、かつ、婦人の状況を改善し、その開発過程への貢献を増大するように十分な配慮をしつつ、諸方策が決定されるべきである。婦人はあらゆるレベルの政策決定段階に平等に参加すべきである。適切な行政機構および制度が存在しない場合は、これらを設けるべきである。

32 本計画を実施するための国内計画と戦略は、婦人の必要とするものや問題が、境遇や年齢により異なるという点に配慮すべきである。しかし政府は、婦人が最も不利をこうむっている地域、殊に農村ならびに都市におけるそのような地域の婦人の境遇の改善に特別の注意を払うべきである。

33³² 本計画の実施に際しては、社会構成員全体の利益を考えた総合計画を基礎とすべきであるが、特に差別的通念の結果として特殊な地位におかれている婦人のためには特別な措置が必要であらう。

34 政府内に十分な職員と予算をもった国内委員会、婦人局あるいはその他の機関の如き各省庁の所轄分野にとらわれない多部門的機構を設置することは、婦人に対する機会均等の実現および自国内の諸活動への婦人の全面的な参加を促進する上で効果のある過渡的措置となりえよう。これらの機構には、公共の分野での政策決定や実施に責任を有する社会のあらゆるグループを代表する男女が参加すべきである。関係各省庁および部局（特に、教育、健康、労働、司法、通信、情

報、文化、産業、貿易、農業、農村開発、社会福祉、財政、企画部門）および適切な民間ならびに公共の機関の代表がこれに参加すべきである。

35 これらの機構は、あらゆる分野とあらゆるレベルにおける婦人の実情を調査し、必要とされる立法政策と計画について優先順位を定めて勧告を行なうべきである。本計画の国内計画の枠内での実施状況を評価するために、国内で達成された進歩を調査評価する追跡計画を、継続的に実施すべきである。

36 これらの機構は、また、地域レベルあるいは国際レベルで行なわれる類似の諸活動および非政府団体による諸活動や婦人自らの発案になる諸自助計画の調整に協力すべきである。

37 性により差別を行なわないこと男女の権利と責任の平等の原則を、憲法と法で保証することが肝要である。したがって、これらの法律に掲げられた原則が広く受入れられ、これらに対する態度の変化が奨励されるべきである。このような法を制定し、施行することが、それ自体社会ならびに個人の姿勢と価値観に影響を与え、これを変え重要な手段となるよう確保することも大切である。

38 政府は、婦人の地位に関する国内法を、人権の原則および国際的に認められた基準に照らし再検討すべきである。国内法を必要に応じて制定し、現状に即したものとし、関連国際文書に合致させるべきである。そのような法を施行する場合、特に本計画第二章で取扱われている各分野につき十分な配慮を行なうべきである。関連の国際条約を批准していない政府

またはそれら条約の諸規定を十分に実施していない政府は、これらを実行するための処置を執るべきである。関連の国際文書に掲げられている権利以上の権利を婦人に保証する国内法を有している国があることに留意すべきである。

39 適切な機関に、国内法令の近代化、改正、時代遅れの国内法令の廃止について責任をもたせ、恒常的検討を行ない、それらの条項が差別なく適用されることの確保を図るべきである。例えば、法律委員会、人権委員会、市民権連合、提訴委員会、法制諮問委員会、苦情受理事務所等がこれに該当しよう。政府はこれらの機関が効果的にその機能を發揮しうよう全面的な支持を与えるべきである。非政府団体もまた、関連法規が十分であり、現状に即しており、かつ差別なく適用されることを確保する上で重要な役割を果しうる。

40 婦人に自らのもつ権利を知らしめ、婦人に他のあらゆる種類の援助を与えるために、適切な措置が執られるべきである。このため、マスメディアが公共教育計画を通じて広範な協力を提供しうようその認識を高めるべきである。非政府団体も婦人に関し類似した役割を果すよう奨励されるべきである。この意味において、最も切実な問題を抱えている農村婦人に対し特別の注意が払われるべきである。

41 開発に婦人が参加する機会を拡げ、婦人に対する差別を撤廃するためには、政府機構およびその他の機関を通じ、社会全体が各種の措置および行動をとることが必要である。

42 ここに掲げた措置の中には、最小の経費で実行しうるものもあるとはいえ、本計画の実施には一部の重点の再検討と政

府の支出形態の変更を必要としよう。政府は十分な資金の割当を確保するため、政府にとって承認しうるかつ政府の目標に合致したあらゆる援助資金の調達の可能性を探索すべきである。

43 特定の計画を実施するにあたり資金の不足している政府を援助するための特別の措置も考慮されるべきである。多国間、二国間援助はこの目的のために不可欠であるが、これに加え経済社会理事会決議一八五一(TV)に基づき設置された国際婦人年基金を、最終的な処分について将来考慮することとして上記の諸政府を援助するため暫定的に延長すべきである。国連および専門機関により開発途上国を援助する目的で特別の財政的責任を付与されている諸国の婦人は、特に開発途上国の婦人の地位向上にふりむけられた政府援助と関連して設定された諸目標の実施のために貢献するよう要請される。

44 本計画の目的の中には、国によってはすでに実施済みであるが、他の国においては段階的に達成するほかないものもある。さらにある種の措置は、その性質上他の措置よりも実施に長い期間を要する。したがって各国政府は、本計画実施のために短期、中期、長期の目標および目的を設定するよう要請される。

45* 国連事務局は、本世界行動計画に基づき、この計画を婦人の地位委員会の継続的な監督と総会の総括的な監督の下に実施することを目的とし、いくつかの最も重要な目的を含んだ独自の二か年計画を策定すべきである。

46* 一九七五年から八〇年までの当初五年間に、下記諸項の達

成を最低限の目標とすべきである。

(イ) 婦人、特に農村婦人の読み書き能力および市民教育を大幅に伸長すること。

(ロ) 工業および農業部門の男女に基礎的な技能に関する技術的、職業的な訓練を共学の形で拡張すること。

(ハ) あらゆるレベルの教育の機会均等、初等学校教育の義務化、中途退学の防止措置、を図ること。

(ニ) 婦人の雇用機会の増大、失業の減少、雇用契約・条件における差別を撤廃するための努力の強化。

(ホ) 農村および都市において基礎設備的サービス確立し、増強すること。

(ヘ) 男性と同等な選挙権および被選挙権、雇用の機会と報酬を含めた雇用条件の平等、および平等な法的能力およびその行使における平等に関する法の制定。

(ト) 地方、全国および国際レベルにおける政策決定に婦人の参加を奨励すること。

(チ) 保健教育・サービス、衛生、栄養、家庭教育、家族計画、その他の福祉サービスに対する総合的な措置に対する大きな配慮。

(リ) 結婚、市民権、商業活動等に関する市民的、社会的、政治的権利の行使における平等に対する配慮。

(ル) 食糧の自家生産、販売、伝統的には無報酬のボランティア活動等、家庭における婦人の勤労の経済的価値の認識。

(ロ) 家庭でも社会でも婦人が一個人としての人格を認められるよう、学校および学校外教育ならびに生涯教育を通じ男

女の再評価を指向せしめる。

(イ) 労働者団体、教育、経済、職業機関内における婦人の団体を暫定措置として奨励すること。

(ロ) 特に農村に住む婦人、都市の貧民等の婦人の重い労働負担を軽減するのを助け、もって地域社会、国内、国際問題への婦人の全面的参加を促進するため、近代的な農業技術、零細工業、就学前児童の保育施設、時間および労力節約の設備の開発。

(ハ) 婦人に平等の機会と国家活動への全面的な参加の達成を促進するため、政府内に各省庁の所轄分野にとらわれない多部門的機構を設置すること。

(ニ) これら最小限の目標は、地域行動計画においてより具体的に敷衍されるべきである。

(ホ) 十か年世界行動計画の諸目標のすべてのレベルにおける達成のために、また婦人の福祉ならびに婦人の地位向上のための情報普及を目的とした機関、計画の設定、運営について、特にボランティア専門家の効果的な活用により、非政府団体や婦人団体が積極的に参加すること。

第二章 国内行動のための特定分野

49 この章は、国内行動として主要な分野を特にとり上げている。しかし、各々の分野は密接に関連し合っているものでそれそれ別個に取扱われるべきでなく、提案されているガイドラインは総合的な戦略および計画の枠組の中で実施されるべき

である。

A 国際協力および国際平和の強化

50 国際協力および平和の維持と強化のためには、国家間および国内の平等の建前に基づき、すべての人の人権を促進擁護することが不可欠の条件である。より多くの婦人が、国際協力の促進、国家間の友好関係の増進、国際平和および軍縮の強化、植民地主義・新植民地主義・外国による支配と制圧・アパルトヘイト・人種差別に対する闘争に参加するよう、国内および国際組織における個人としてのまたはグループによる平和活動を評価し奨励すべきである。

51 国連の非難の対象となり、かつその原則に反して、政治上あるいはイデオロギー上の理由をもって、個人またはグループに精神的、肉体的迫害を与えるような行動を含む、重大な人権侵害撤廃のため、世界中の婦人はその団結を宣明すべきである。

52 政府間あるいは非政府間の機関で国際安全保障と平和の強化、国家間の友好関係の発展および活発な協力の推進をその目的とするものの努力は支持されるべきであり、婦人はこれらの機関の活動に積極的に参加するよう大いに奨励されるべきである。

53 国連は、国際平和の日を指定し、毎年この日を各国においてまた国際的に祝賀すべきである。関心ある個人およびグループは、この目的のため、会合・セミナーを企画し、これは、新聞その他の報道機関により広く報道されるべきである。婦人はこれらの目的に全面的な支持を与えらるるとともに、国際協

力・諸国間の友好関係の発展および国際平和の強化への障害を克服する方法を男性と同等に追求すべきである。しかし、平和は一日の祝賀で済まされる問題ではなく、たゆまぬ監視を必要とする問題であることが強調されなければならない。

54 国家の主権と国際法の原則を尊重しつつ、国家間の情報および意見の自由な交流を促進すべきである。——共通問題を研究するため、各国の婦人の交流を奨励すべきである。教育・文化・科学その他の交換計画の発展と、諸国民の間の相互理解、なかならず、青年の間の相互理解を促進し、国家間の友好関係と活発な協力を発展せしめるような新しい手法を開拓すべきである。これらの目的のため、マスコミを十分活用すべきである。

55 男女は、自らの子供たちにすべての国と民族に対する相互尊重と理解、人種の平等、両性の平等、民族自決権および国際協力、世界平和および安全保障を維持することを希求することの尊さを鼓吹するよう奨励されるべきである。

56 上記の問題が討議されるすべての国際フォーラム、特に国連安全保障理事会、軍縮および国際平和に関するすべての会議、その他の地域レベルの機関等の会合に、婦人は、男子と同等に自国を代表して参加する機会をもつべきである。

B 政治参加

57 婦人が数の上では人口の半分を占めているにもかかわらず、ほとんどの国において政府の各種部門の指導的立場にある者の割合は小さい。したがって、婦人は政策決定に参加し、開発のための計画立案には婦人の意見および必要

は看過されることが多い。婦人の大多数が開発計画の策定に参加していないため、計画のもつ影響に気づかぬことが多く、また計画の実施およびその目的とする諸改革を支持する熱意にも欠けがちである。婦人の多くは、また、政治生活に効果的に参加するための教育、訓練、市民意識および自信を欠いている。

58 本計画の主要目標は、法律および実体の両面で、婦人が男子と平等に、投票し、全国、地方および地域社会のレベルで、公職および政治的活動に参加する権利と機会を確保することであり、また婦人に市民としての責任を自覚させ、社会ならびに婦人に直接影響をもたらすような問題を認識させることである。

59 政治的生活への参加とは、有権者、院外運動家、被選挙人、労働組合運動家および司法を含むあらゆる政府の部門の公務員としての参加を意味する。

60 婦人が男性と同等に、投票する権利、選挙される権利、すべての公職に就き、公務を行なう権利をもつことが法律で保証されていない場合は、これを一九七八年までに制定するようあらゆる努力を払うべきである。

61 公職に就くため、特定の資格が要求される場合は、これら要件は両性に対し等しく適用し、特定の職務を行なうに必要な専門的知識に関するものだけに限られるべきである。

62 政府は、一九七五年―八五年の十年間に、あらゆる段階における選挙および任命による公職、公務に就く婦人の数を増すための、目標、戦略および予定表を設定すべきである。

63 これらの目標を達成するためには、特に下記の措置が必要であろう。

(i) 婦人の平等な政治的参加に関する公けの政策を明らかにし、広範な広報を行なうこと。

(ii) 公職に婦人の平等な参加を達成するため、政府は特別の指示を出し、公務に就いている婦人の数および各々の分野における職務のレベルにつき定期報告をまとめること。

(iv) 採用、指名および昇進に際し、男子人口との対比において婦人の経済的・社会的・政治的能力のレベルを設定するための研究を行なうこと。

(v) 両性の衡平な代表比率が達成されるまで、特に要職への婦人の採用、任命、昇進に役立つような特別の活動を行なうこと。

64 政党、圧力団体等を含み政治問題および公的な問題への積極的な参加が必要であることを婦人有権者に啓発するような特別活動やキャンペーンが展開されるべきである。

65 一般人全体に対し、政治の各過程において婦人の役割が不可欠なことから、一層広範な婦人の政治参加および指導力を促進する必要を啓発するための教育および情報普及活動も行なわれるべきである。

66 農村・地域社会・青少年育成計画および政治活動に婦人と女子青年の参加の増大を奨励し、これらの計画における婦人の指導力を培うような訓練への参加を奨励するため特別な運動が行なわれるべきである。

C 教育および訓練

67 教育および訓練を受けることは、多くの国際文書により認められている基本的人権であるのみならず、各種の社会経済グループ間および両性間のギャップを埋めるための社会進歩にとって決定的重要性をもつ要素でもある。多くの国において婦女子の立場は著しく不利である。これは一個人として当初から将来の社会的地位にとって深刻なハンディキャップとなつてはいるだけでなく、開発計画に果す婦女子の貢献および開発過程そのものの有効性にとって、著しい障害となつてゐる。

68 文盲と教育および基礎的技能訓練の欠如は、未開発、低生産性、保健福祉の貧困という悪循環の原因の一つをなしている。大多数の国で女子の文盲率は男子よりも高く、農村の文盲率が都市部よりも一般に高い。

69 大半の国において女子の就学率は教育のすべての段階において男子よりも著しく低い。女子は男子よりも早く中途退学する傾向がある。教育が有料となつている場合、両親は選択をせまられると男子を女子よりも優先させる。教育の性格および内容ならびに選択の範囲に関して差別のある場合が多い。女子の選択する学科は社会における男女の役割についての伝統的な態度や観念に支配されている。

70 婦人が無学で教育や訓練上の差別を受けている限り、社会全体の生活の質を向上するために極めて必要とされる改革への刺激が失われるであろう。なぜならば、ほとんどの社会において子の人格形成期における教育の責任は母親にかかつてゐるのであるから。

71 政府は、国の必要に応じ、生涯教育の観点から学校および学校外教育のすべての水準の教育、訓練の機会を両性に平等に与えるべきである。

72 とるべき措置は、すでにある国際基準、特にユネスコによる一九六〇年の教育における差別待遇の防止に関する条約および勧告、ならびに一九七四年の技術教育および職業教育に関する改正勧告に適合させるべきである。

73 教育、訓練および雇用戦略は人口動態の見通しに基づきかつこれと調整されるべきである。教育の内容および構成はその地域社会に独自の文化と、科学技術の発展による進歩を考慮し、その地域社会の現在および将来の必要に応え得るものとするべきである。また、教育は個人が積極的な市民生活および家庭生活に十分対処し、責任ある親となるための準備として役立つべきものである。

74 文盲根絶の目標期限を定め、十六歳から二五歳までの婦女子に対する計画を優先するべきである。

75 読み書き能力は、人々の日常生活にとり直接の利益と価値をもつ修学活動の不可欠の一部として促進されるべきである。文盲克服のため、政府の努力と並行して協同組合、民間団体および企業等すべての社会的機関を十分に利用すべきである。

76 休暇中または兵役期間に、読み書き、算術、栄養および食物保存法を教えるための、特に青年によるボランティアを組織することも一案である。そのようなボランティアには必要な技術的知識を備えた男女両性を含むべきである。このボラ

ンティアはまた、地方住民を教師として訓練することにより使えるボランティアの力を強化拡張できるであらう。

77 農村地域の婦女子に対しては、経済、社会の開発に全面的にかつ生産的に参加することを可能にし、技術進歩の恩恵に浴し、日常生活の労苦を減ずるような総合的、または特別の訓練計画を開発しなければならない。そのような計画には、近代農法、機具の利用、協同組合、企業能力、商業、流通、畜産、漁業ならびに保健、栄養、家族計画、教育についての訓練を含むべきである。

78 男女に対し差別なく、無料の義務教育を、可能な限り速やかに、効果的に実施するべきである。教科書、給食、交通、その他必需品を可能な限り無料で供与するためにあらゆる努力が払われるべきである。

79 就学年齢の女子に多い中途退学を防止し、婦人が読み書きの学習および基礎的訓練に参加できるよう、安い費用の託児制度を設け、また就学または訓練の間、束縛的な家事から婦女子を解放するようなその他の措置を執るべきである。

80 学校で学んだことを保持させるため、また、婦人の家庭、職業生活における活動を助けるため、パートタイムの教育継続計画を実施すべきである。

81 教育および訓練の計画、カリキュラム、水準は男女について同一のものとしなければならない。両性を対象とする教科課程には、一般科目のほか、工業・農業技術、政治・経済、社会の時事問題、親としての責任、家庭生活、栄養および保健を含むべきである。

82 教科書その他の教材を再検討し、必要な場合には、社会における積極的な参加者としての婦人像を反映するようにこれらを改訂すべきである。必要に応じ、教育方法を国の必要に適應させ、かつ差別的態度の変革を促進することが確保されるよう改訂すべきである。

83 教育および訓練上の差別的慣行の内容を明らかにし、教育の平等を確保するために調査研究活動を推進すべきである。新しい教育技術、特に視聴覚教育を奨励すべきである。

84 男女共学と、男女合同の研修訓練を積極的に奨励し、新しい職業と変遷する役割について、両性を啓発するため特別の指導を行なうべきである。

85 広範に分化した既存および新規のあらゆる種類の職業訓練計画を両性に平等に開放し、もって、青年男女に高度の技術が必要とする職業をも含む広い職業選択の可能性を与え、かつ国の必要と、就職の機会を調和させるべきである。男女は、奨学金、研究費を受ける機会を平等にもつべきである。特に家庭における責任のために比較的長期にわたり職業を離れていたのち職業活動に復帰することを希望する婦人に対しては特別な援助措置を講ずべきである。各種の技術および学問の分野における教育訓練を行ない、自立的な生活態度を奨励するため多目的研修センターを設置することも考えられる。

86 青年男女は、職業指導計画を通じ、根強い定型的な男女別の職業という観点からでなく、自らのもつ真の適性と能力に応じ職業を選択するよう奨励されるべきである。また、彼らに開放されている雇用機会を十分に利用するために必要な教

育および訓練についても知識を与えられるべきである。

87 一般社会人、両親、教師、カウンセラーその他に対し、少女にしっかりした基礎教育と、十分な職業訓練および、より高度の教育訓練を受ける広範な機会を与えることの必要性を認識させるため、広報上のあるいは学校内外の教育上の計画に着手するべきである。その際、教育の手段、社会の態度を変える手段としてマスコミを最大限に活用すべきである。

D 雇用および関連の経済活動

88 本計画は、労働の権利、同一労働同一賃金、労働条件および昇進における平等の権利を認めているすでに承認されている国際的基準に従って、婦人労働者に対する機会と待遇の平等および労働力への婦人の参加を達成せんとするものである。

89 資料によれば、婦人は、世界の経済活動人口の三分の一以上を占め、就労年齢（十五歳から六四歳）の婦人のうち、約四六％が労働力に組込まれている。このうち六五％が開発途上国、三五％がより開発の進んだ地域の婦人である。これらの資料は、現在公式統計にあらわれてこない婦人の多くの経済活動（第三章参照）とあわせると、婦人は国の経済と開発に大きな貢献をなしているにもかかわらず、これが十分に認識されていないことを示している。さらに、婦人労働者の大半が集中している職種は男子のそれと異なる。圧倒的多数の婦人が低水準の技能、責任、報酬の限られた職種に集中している。婦人は、賃金、昇進、労働条件、雇用慣行において差別を経験している場合が多い。さらに文化的制約と、家庭に

おける責任も婦人の雇用の機会をせばめている。就職の機会が著しく限定されており、失業が広範囲に存在する場合には、差別をしない政策がとられているところでも、婦人が収入を得る仕事につきうる機会は、実際には一層少なくなる。

90 政府は、婦人労働者に対する機会と待遇の平等、同一労働、同一賃金の権利を保証することを明示的な目標とした政策および行動計画を策定すべきである。このような政策および計画は、国連および国際労働機関（ILO）の作成した基準に合ったものとすべきである。性または婚姻上の地位を理由とする差別を撤廃する原則を定めた法律、諸原則を実施するための指針、提訴手続き、ならびに実施のための効果的な目標、機構等をこれらの政策や行動計画に盛り込むべきである。

91 使用者、労働者、社会一般の男女に、婚姻上の地位にかかわらずなく婦人を雇用する積極的な姿勢を培い、男女別の労働分担の考えに基づく障害をなくするため、特別の努力を払うべきである。

92 婦人に収入のある仕事を与え、失業および潜在失業の問題に対処するため、各種の経済活動を創出し、特に農村地域において、自営、自助活動を奨励し支援するような特別の措置をとるべきである。既存の自助活動は婦人の参加を通じて、これを奨励、強化すべきである。

93 政府は、地域社会の開発および経営能力養成のための訓練計画のような自助活動への新しい基盤を探索すべきである。これらは両性に対し平等に開放されなければならない。

94 婦人の経済活動の範囲を広げるため、協同組合および小規

模工業を政府の支持援助の下に、開発奨励することも考えられる。すでに協同組合が存在している場合は、これに対する婦人の積極的な参加を勧奨すべきである。特に婦人が主要な役割を果している食糧生産、流通、住宅、栄養、保健の分野で新たな協同組合、事情に応じ婦人協同組合を組織すべきである。協同組合は、保育の面でも、最も適切かつ、現実的な措置たりうるものであり、かつ雇用の機会を提供することにもなる。

95 このような計画を効果的に実施するためには、協同組合活動および経営能力の十分な訓練養成、改良された機器を調達するに必要な資金入手の可能性と当初資本、流通面での援助、農村における十分な社会サービスおよび娯楽施設、農村地域における都市の分散発展、ならびに保育施設、交通および水の便利な供給路等、基礎的な下部構造面の整備が不可欠である。

96 国の総合農村開発の策定にあたって、農村婦人の参加を増すよう特別の努力が必要である。農村開発政策および計画は産業の多角化、輸入代替ならびに農業、林業、水産業、畜産業、農産加工業その他の不可欠な関連構成要素とともに雇用の機会の創出を配慮すべきである。

97 熟練労働および技能を要する作業に従事する資格を有する婦人の数の大幅な増加を達成するための特定の目標期限を設定すべきである。

98 商・工・貿易業の管理および政策決定部門の婦人の数を増加するためにも特別の努力が必要である。

99 昇進のため男女が平等の資格をもちうるよう、技能訓練、

研修所内および職場内での訓練は、婦人に対し、男子と同一の方法および同一の条件で開放されるべきである。

100 政府、使用者、労働組合は、一九五二年のILOの母性保護に関する改正条約および勧告にうたわれた原則の線にそい、産前の業務に復帰することを保証した産休を含む母性保護および育児時間に対する権利をすべての婦人労働者に対し確保すべきである。母性保護に関する規定は男女の不平等な待遇とみなされるべきではない。

101 家庭と職場における責任の調和を図るためには多角的な方法が必要であることに特に留意すべきである。労働時間の総体的短縮、時差勤務、フレックスタイム制度、男女双方に対するパートタイム制度、子どもの世話を授けるための保育施設や育児休業、共同炊事施設、その他各種の家事軽減設備等がこれに該当しよう。政府および労働組合は、パートタイム労働者の経済的、社会的権利が十分に保護されることを確保すべきである。

102 婦人のみを対象とする保護立法は、科学的、技術的な見地から再検討を加え、必要に応じ改訂、廃棄、またはすべての労働者にその適用を拡大すべきである。

103 婦人の労働条件の改善に重要な役割を果す最低賃金制度は、家内工業および家事使用人に対しても適用実施すべきである。

104 婦人、特に少女について労働搾取が存在する場合、これを撤廃するため特別の措置がとられるべきである。

105 一国の社会保障制度上の婦人に対する差別的待遇は、最大

可能な限り廃止すべきである。婦人労働者は男子と同等にこれら制度の適用を全面的に受けるべきである。

106 政府は、雇用における婦人の地位を飛躍的に向上させるため、特に使用者および労働者の組織による総合的な努力を奨励促進し、経済生活および社会全体における婦人労働者の地位に関係のあるすべての民間団体とも協力すべきである。

107 労働組合は、指導部を含むあらゆるレベルの組合活動への婦人の参加を増加させるための政策をとるべきである。また、婦人労働者に対し、就業および訓練における機会均等および指導者養成訓練を推進するよう特別計画をつくるべきである。労働組合は、婦人労働者の問題に特に留意しつつ、労働者の直面する問題に対する新たな建設的なアプローチの開発に指導的役割を果たすべきである。

E 健康および栄養

108 人はすべて健康に対し否定しえぬ権利を有するが、多くの国、特に農村においては、事実上婦人は、この権利を男性と同等に享受するのを妨げられている。保健要員や施設が著しく不足している社会では、この状況がより顕著であり、婦人の生産性が損なわれるため、家庭、社会および開発にとり大きな損失をもたらしている。婦人はまた妊娠、出産、授乳の期間、特別の配慮を必要としている。

109 個人の健全な身体的、精神的発達にとり十分な栄養が基本的な重要性をもっており、婦人は食糧の生産、加工、消費等を通して、この分野で重要な役割を果たしている。食糧不足に際し、婦人は、家族のために自己を犠牲にし、あるいは社会

が婦人に対し男性より低い価値しか認めないため、婦人は男性よりも甚しい栄養不足を経験する場合が多い。

110 開発活動への婦人の全面的な参加、家庭生活の強化および生活の質の全般的な向上にとり、健康、栄養その他の社会サービスにより受けやすくなることが肝要である。これらのサービスが十分効果を上げるためには、農村地域優先の総合開発計画中に、組入れられる必要がある。

111 政府は、特に農村における公共の社会保健計画に対し十分な投資を確保すべきである。

112 地域社会が自らの保健上の必要性を認識し、各種の社会経済的状况に応じた保健サービスの供与に関する決定に参加し、その地域社会の全成員が容易に利用しうる基礎的な保健サービスを発達させるため、総合的で簡便な地域社会保健サービスを整備すべきである。

婦人、特に農村の婦人自らが、十分な訓練計画を通じ、自らの属する地域社会に保健サービスを提供することを奨励すべきである。婦人がこのようなサービスを男性と同等に利用することを確保する措置がとられるべきである。巡回病院および医療団はすべての地域社会を定期的に訪問すべきである。

113 総合的保健サービスの枠内で、政府は下記の措置を通じて、婦人に特有な健康上の必要に特別の注意を払うべきである。

産前、産後および出産時のサービス、出産年齢期間中の産婦人科および家族計画に関するサービス
幼児、就学前の児童および学童を対象とした性による差別のない総合的、継続的な保健サービス

思春期前および思春期の少女、出産年齢をすぎた婦人に対する特別の保護

ならびに婦人特有の健康問題についての研究

有資格の医療要員および医療補助員の利用により基礎的な保健サービスを強化すべきである。

114 幼児、児童、母親の死亡率を低下させるための計画を栄養改善、衛生、母親および子供の健康管理、母親教育を通じて策定すべきである。

115 既存の保健施設を婦人が利用することを阻んでいる偏見、タブー、迷信を克服するため、啓蒙活動を発展させるべきである。医療設備の存在を都市貧民および農村の婦人に知らせるため特別な努力を払うべきである。

116 保健教育およびサービスの大規模な計画の一環として、農村および都市の近隣社会内での保健教育、母性および子供の保護についての研修コースを設けることも考えられ、これに婦人の積極的な参加を勧奨すべきである。これらの研修は情報メディアおよび存在するすべての社会的伝達網を通じ広報すべきである。研修には、利用できる医療施設およびその利用方法に関する情報をも含めるべきである。医師はできるだけ多くのこれら研修の参加者に対し、定期的な健康診断を行なうべきである。

117 婦人は、保健サービスの受益者としてだけではなく、供与者としても重要であるので、婦人に十分な情報を与え、保健計画および政策決定過程にあらゆるレベルおよび分野で積極的に参加せしめるような措置をとるべきである。地域社会が

行なう健康管理および医療サービス改善活動に婦人を積極的に参加せしめるよう努力すべきである。また婦人に医療補助要員としての訓練を受け、健康管理組合および自助計画を組織することを奨励すべきである。村落レベルでは集落に基礎的な保健サービスを提供する保健要員として村民を訓練するための人材確保および研修を行なうべきである。

118 婦人は、保健業務に就くためのすべての研修制度、課程に参加し、最高レベルに至るまでこれを継続する権利を男子と平等にもつべきである。伝統、宗教または文化上の理由をもって、特定の保健業務に婦人が就くことを排除している慣行はこれを廃止すべきである。

119 家族の健康状態を改善し、主として婦女子にかかっている水運搬の負担を軽減するため、利用に便利な安全な水の供給（井戸、ダム、貯水池、水道等）、排水その他の衛生設備を供与すべきである。

120 国の食糧・栄養政策において、政府は、国民の中の最も弱い層（思春期の少女、妊産婦、授乳期の母親および幼児など）がミルク、乳製品および特別の高栄養食品等の特定の食品を摂取しうるよう優先度を付すべきである。母乳および離乳期における良い食物習慣を奨励すべきである。栄養失調の危険にさらされている母親および子供に対しては、補充的な食糧計画を導入すべきである。栄養欠陥は、基本食品または他の普及食品の強化もしくは欠如している栄養物の直接配給により防止すべきである。

121 地方村落レベルにおける食品加工、保存、貯蔵の技術、設

備を改良し、かつ農村婦人に利用可能とすべきである。この活動に刺激を与えるため、食料の製造、品質改良および流通を目的とする協同組合を組織し、適切な場合は、消費者を教育するキャンペーンを組織すべきである。

122 農村ならびに都市の菜園の利用、またよりよい機具、種子、肥料の提供により、婦人が適当な種類の食糧の生産に、より能率的に貢献しうるような機会を創出すべきである。

123 以前には、受け入れられなかった栄養価の高い食品を日常の食生活にとり入れる上で、最も効果的な方法を研究するため、情報メディアを通じ栄養教育運動を展開すべきである。これらの運動は、婦人に、一層栄養価の高い食品を購入し、食料の浪費を防ぐように一家の収入を最も経済的に使用する方法についても教えるべきである。効果的な栄養計画についての情報を交換するため、セミナー、個人的な交流、出版等を計画すべきである。

F 近代社会における家庭

124 家庭は、その経済的社会的文化的機能において変化しつつあるが、家族各員の尊厳、平等、安全を確保し、個人としてまた社会的存在としての子供の均衡のとれた成長に資する条件を与えるものであるべきである。

125 全体的な開発過程において、婦人の役割は、男子と同様に、社会および国の経済に対する貢献とともに家庭への貢献という観点から考える必要がある。家庭においては、親、配偶者、家事担当者としての役割に高い地位を与えることは、男女の個人の尊厳を高めることにはかならない。家事活動は、家庭

生活にとって必要であるにもかかわらず、一般的に低い経済的地位しか認められて来なかった。しかし、すべての社会は、家族共同体を維持し、子供を生み教育するという家庭の基本的機能を果たすことを願うならば、これらの家事活動に一層高い価値を付与すべきである。

126 家庭はまた、社会的、政治的、文化的変化の重要な手でもある。婦人が平等の権利、機会および責任を享有し、男性と同等に開発過程に貢献すべきならば、家庭内で伝統的に夫婦のそれぞれに割当てられてきた役割を状況の変化に応じ、絶えず再検討、再評価することが必要であろう。

127 核家族、大家族、同棲、片親家族等、あらゆる形態の家庭において、婦人の権利は適切な法律および政策により保護されるべきである。

128 婚姻に関する法は国際基準に合致したものとすべきである。特に、男女が自由に配偶者を選択し、両性の自由にして完全な合意によってのみ婚姻関係に入る同等の権利を有することを確保すべきである。法により結婚の最低年齢を定め、かつその最低年齢は男女、特に女子が結婚前に教育を完了し、潜在能力を開発しうるよう十分な教育期間が与えられるものとすべきである。結婚の公式登録を義務づけるべきである。

129 これらの権利を侵害するすべての制度および習慣、特に児童婚および寡婦継承を廃止すべきである。

130 男女が（婚姻中に取得したものも含め）財産を取得、管理、享受、処分、継承する権利を含め、自らの個人的権利および財産権に関する完全な法的能力を享有し、行使しうるような

立法上のあるいはその他の措置がとられるべきである。制約がある場合は、両性に平等に適用されるべきである。婚姻中における平等な権利と責任の原則とは、両性が、家庭と職場の責任を調和させることの重要性を考慮しつつ、家庭において積極的な役割を果たし、家庭および子供に関する事項の決定権を共有すべきことを意味する。婚姻の解消にあたって、この原則は、婚姻の解消の手續きと事由の範囲とを緩やかにし、夫婦双方に平等に適用すべきことを意味する。婚姻中に取得した財産は衡平に分割すべきである。社会保障および年金が家事労働をもカバーするよう適切な措置をとるべきである。子の監護に関する決定は、子の利益が最も良く確保されるよう配慮して下すべきである。

121 家庭内の紛争の解決を助けるため可能な限り十分な家庭相談サービスを設け、法律その他の関連事項に造詣の深い、婦人を含む職員から成る家庭裁判所の設置を考慮すべきである。

132 青年男女が結婚生活における責任、および親としての責任を十分に担えるようにするために、性心理面での発達を含め、人間関係、結婚、家庭生活、保健等の教育計画を学校の適当な教育段階における教科および学校外教育の計画に組入れるべきである。これらの計画は、家庭および社会における相互尊重と権利および責任の共有の理念に基づいたものとすべきである。個々の社会における育児の習慣は、性に基づく優劣という考え方を助長しかつ固定するような慣行を廃止すること

を目的に検討されるべきである。

133 片親家庭の増加にかんがみ、これに対しては可能な限り援

助および恩典を追加しなければならない。未婚の母は親としての完全な地位を認められるべきであり、非嫡出子は嫡出子と同じ権利と義務をもつべきである。結婚しているといないとにかかわらず、出産前後の母親に対し特別の養護施設や宿泊所を設置すべきである。

134 社会保障制度には、家族構成員の経済的安定を強化するため、最大可能な限り、児童手当および家族手当を含むべきである。家族手当、児童手当、母親報奨金等の措置が家庭および社会における婦人の地位に与える影響につき、文化圏別の包括的な研究を行なうことも考えられる。

G 人口

135 社会、経済、人口要因は密接に関連し合っており、一方の変化は常に他の変化をもたらす。婦人の地位は、これら諸要素の決定要因であるとともにその結果でもある。婦人の地位は開発過程および出生率、死亡率、人口移動（国際的、国内のおよびそれに付随した都市化に伴う移動）等の人口動態の様々な構成要素と不可分に結びついている。

136 婦人の地位、特に教育収入のある仕事に従事しているか否か、雇用の性格、家庭内の地位は、すべて家族の規模に影響を与える要素である。逆に、子の数と出産間隔を婦人が自由に責任をもって決定する権利およびその権利を行使するための知識と方法を利用しうることは、婦人が教育および雇用の機会を活用し、責任ある市民として地域社会の生活に全面的に参加しうるか否かに決定的な影響をもつ。

137 上記の権利の行使および国の諸活動のあらゆる局面への婦

人の全面的参加は、結婚年齢、第一子出産年齢、出産間隔、出産終了年齢および出産した子供の総数等、人口学上の重要な諸変数と密接に関連し合っている。

133 ひんばんな妊娠、若齢または高齢の妊娠、近接しすぎた妊娠間隔、出産前、中、後における不十分な看護等による出産に伴う危険および非合法な妊娠中絶は、出産に関係した死亡率、疾病率を高める結果となる。胎児や乳幼児の死亡率が高いところでは、これを低下させるというそれ自体望ましい目標が、平均的な婦人の妊娠回数を減らし、小家族が理想とされる場合においては社会がそれを受け入れるための必要条件ともなりうる。生まれた子供が成人するまで生きのびることが現実期待しうる状況となれば妊娠回数の減少は一層達成しやすくなるであろう。

139 世界には、都市化に伴って主として青年男子が移動する地域もあれば、青年女子が農村から都市への移動の流れの主体を構成する地域もある。このような状況は、部分的には都市または農村における婦人の就職の機会の相違を部分的に反映しているが、またこれは、文化によって婦人の様々な役割の受け入れ方に差異があることにも関連している。都市への人口移動において男女のいずれが中心となるかは婦人の社会的地位如何によっても左右されるが、このような選好的な人口移動の結果、都市および農村のいずれにおいても男女構成比の不均衡を生じている。このような人口の構成比の不均衡は、個人および家族の幸福、都市および農村における安定居住にとり有害である。世界の女子人口の半分強が現在開発途上国

の農村地域に住んでいる。これら地域の地方農村地域社会に特有な人口動態的、経済的および社会的問題にかんがみ、特別な開発努力が必要である。

140 本計画は、世界人口行動計画の諸勧告、特に婦人の地位に関連した勧告を支持する。

141 総合的な開発の枠内で人口政策および計画を策定・実施するにあたり、政府は、婦人の境遇を改善するための措置、特に教育と雇用の機会、労働条件、結婚最低年齢を適切な高さに設定し、実施することに関連した措置に、特別の注意を払うよう要請される。

142 各国は、自国の人口政策を決定する主権を有するが、個人および夫婦は、制度化された組織を通じ、自らの子の数と出産間隔を自由にかつ責任をもって決定し、また不妊を克服するための情報および手段を利用する可能性を持つべきである。家族計画の知識・手段およびサービスの普及を妨げるすべての法的、社会的、財政的障害を除去すべきである。不妊症、低妊娠症、先天性の出産欠陥の原因についての知識を高め、これらを減らすためあらゆる努力をしなければならない。

143 家族計画の成功には、男女相互の理解と協力が必要であるから、家族計画のプログラムを男女双方に同等に知らせ、かつその双方の協力を得る努力を行なうべきである。この政策により、婦人が子の数と出産間隔を決定する権利を男性と同等に行使用することが可能になる。これらの目標を達成するために、効果的であり、かつ相異なつたそれぞれの社会に適用している文化的価値とあい入れるような受胎・出産調節

の手段を開発することが必要である。家族計画は、保健、栄養、その他の家庭生活の質を向上させるための措置に組み込まれこれらと調整されるべきである。

144 政府は、開発過程の一環として死亡率、疾病率にかかわる状況改善のため統一的な活動を組織的に行ない、婦人の健康に特に影響を与える危険を減ずるため特別の注意を払わなければならない。

145 婦人の地位を向上し、婦人を社会経済開発に全面的に貢献させるための政策および計画には、人口移動およびそれが婦人の家庭と職業生活に与える影響を考慮に入れなければならない。

146 都市化の様々な態様の原因と結果については、特に婦人の多様な必要を満たすため適切な社会政策を打出すにあたり必要な情報が得られるよう、慎重な検討を行なうべきである。

147 適切な産業および雇用の機会を創出することを含む農村の開発計画は、都市部への人口移動とそれに伴う諸問題を減らすような形で着手または拡張されるべきである。伝統的に都市よりも農村において高い文盲・死亡・出産率を低下させる手段として、教育および保健施設の農村への分散も推進すべきである。これらの措置をとることにより、農村婦人は、国民生活の主たる潮流に接触する機会を多く得、国の進歩と繁栄に貢献する機会をもつことになる。

H 住居および関連施設

148 大半の婦人は依然として男性よりも住宅内および住宅周辺で時間を過すことが多い。したがって、住宅およびその関連

付帯設備、ならびに近隣環境を整備することは、婦人の日常生活に直接的な改善をもたらす。健康や快適といった配慮に加え、上手に設計され、適切な設備をもった住宅、関連付帯設備および近隣環境は、単調さや、日常の骨の折れる仕事から解放し、他の趣味や活動に従事することを容易にし、婦人の生活を人間の尊厳が要求するものに近づける結果となる。

149 都市・住宅開発および人間居住の計画設計に際しては、婦人の意見と必要が配慮されることを保証するような立法上の措置およびその他の措置がとられるべきである。

150 住宅の設計には、家族全体、特に婦人および子供の必要を考慮に入れるべきである。次のものの使用を奨励すべきである。

- (イ) 維持に手数のかからない建築材料
- (ロ) 安全な設備および付属品
- (ハ) 労働を省力化する内部仕上げと快適かつ衛生的な外観
- (ニ) 移動、保管、代替に便利な家具
- (ホ) 現実的かつ適切と思われる場合には婦人が、読書、裁縫、織物、(場所によっては、社会連帯を増すための共同空間がこれに該当する)等の活動を行なうための場所

151 近隣社会との関連で住宅を考える場合には、特に、婦人が明らかに必要としているもの、水、食糧、燃料、その他の必需品を得るための労力、および往復の距離を減じようとするもの、の便宜、設備、近辺の施設を含む設計を行なうべきである。

152 近隣社会網の設計に際しては、地区センターを婦女子が利

用しやすいよう配慮すべきである。

- 153 婦人が使用しうる新しい設備の使用法および住宅所有および管理にかかわる種々の面について、研修、指導講座を設けるべきである。

I 他の社会問題

- 154 急激な近代化と工業化がもたらす社会問題にあらかじめ対処し後刻必要となる救済措置を軽減するうえで、社会サービスの果す役割は重要である。特に開発過程の初期の段階では通常婦人の方が男性よりも社会問題の影響を受ける。

- 155 したがって政府は、非政府団体のなしうる貢献に留意し、人的・技術的資源を、すべての社会集団の利益となるよう動員するための有用な手段として、社会サービスの開発を奨励すべきである。

- 156 農村から、あるいは海外から移住した婦人および都会のスラムおよび新開入植地に住む婦人労働者とその家族の必要を満たすため特別の努力が払われるべきである。訓練、職業相談、保育施設、資金援助、および必要な場合には、語学研修、その他の援助を供与すべきである。

- 157 高齢婦人は、男性に比し少ない保護と援助しか受けられない場合が多いので、これら婦人の必要を満たすため、特別の注意が払われるべきである。これらの婦人の大半は、五〇歳以上の年齢層に属し、その多くは極めて貧しく特別の保護を必要としている。

- 158 犯罪の防止および犯罪者の処遇の分野では、世界各地で増加しつつある女性の犯罪および、未成年犯罪者、常習犯罪者

を含む女性犯罪者の更生に特別の注意を払うべきである。この分野の研究には、女性犯罪と、急激な社会変革によりもたらされる他の社会問題との関係についての研究を含むべきである。

- 159 婦人、特に少女の売春および不正人身売買と闘うための立法上その他の措置がとられるべきである。このような慣行を防ぎ、犠牲者の更生をはかるため、国際機関および非政府団体との協力のもとに試験的計画を含む特別計画を実施すべきである。

- 160 人身売買および売春禁止に関する国連条約（一九四九）をいまだ批准せずまたはこれに加入していない国の政府は、かかる批准・加盟を行なうべきである。

第三章 研究、資料収集および分析

- 161 政策立案、進捗の評価および社会経済上の考え方における基本的な変化を実現する上において、十分な資料および知識が必要であるので、本計画は婦人の境遇のすべての側面に関する国家・地域・国際レベルでの研究活動、資料収集および分析に高い優先度を与えている。

- 162 現在、婦人の経済的貢献を評価する上で主要な障害となっているのは主として、開発過程に影響を与え、またそれによって影響をうける婦人の地位を測定するための資料および指標の不足ないし不備である。

- 163 多くの婦人は、家事にのみ従事しており、また、家事は、

どこでも経済活動とはみなされないため、国の統計上経済活動人口から自動的に除外されている。また、婦人は経済活動を行なっていないものとされ、それゆえ婦人の状況について行届いた調査が行なわれていないため、誤って単に家事従事者として分類されている婦人の数も多い。このことは、特に家事活動に加え、自営手工業その他の家内工業または自給農業における無給の家族労働者でもある婦人についていえる。さらに失業統計は、経済活動人口を構成すると認められていない婦人（例えば家事従事者または主婦として分類されている婦人）を除外しているため実情を正確に反映していない場合が多い。

しかし、これらの婦人は、実際には職業を求め、あるいは雇用の対象となりうる場合もある。

164 先入観により歪められている他の例は、婦人は男性がいないときにのみ世帯主または家長になりうると想定されている場合の、世帯主または家長に関する資料である。そのため、実際に婦人が世帯主でありながら、統計上誤って男性が世帯主となっている場合が多い。

165 国の統計作成における上記の、あるいはその他の相違はまた、各国間の資料の比較を非常に困難にしている。例えば、市場外部門では、経済活動と非経済活動の区別は、不明確な場合が多く、用いられている基準も恣意的で国ごとに違っている場合が多い。

166 国および国際的レベルの統計計画の一環として、特に婦人の地位および必要に留意した、科学的かつ信頼性のある資料

基準と適切な経済社会指標を早急に確立すべきである。

167 個人の特性（例、農村・都市居住の別、年齢、同棲をも含む婚姻上の地位、読み書き能力、教育、所得、技術水準、近代的および伝統的な経済活動への参加）、および世帯、家族構成等に関する統計調査はすべて性別に報告、分析されるべきである。

168 上記資料の収集にあたっては、下記事項測定のため特別の努力が払われるべきである。

(イ) 国民生活のすべての部門における地方ならびに国家の企画および政策立案への婦人の参加

(ロ) 食糧生産（換金作物および自給農業）、水および燃料供給、流通および輸送における婦人の活動の程度

(ハ) 家事、家庭内の雑務、手工芸その他家内経済活動の経済的社会的貢献

(ニ) 婦人の物品および、諸サービスの利用者としての活動が国民経済に与える影響

(ホ) 経済活動および家事に費す時間とレジャーに費す時間について男女の対比

(ヘ) 生活の質（例、職業に対する満足度、所得状況、家族の特性、余暇利用）

169 国連は上記勧告を踏まえ、資料収集、図表作成、分析の基準を拡大すべきである。各国の統計当局も、国連および専門機関の設定した基準を採用すべきである。

170 国連は、関連の専門機関、国連社会開発研究所、地域委員会はかの機関との協力の下に、一九八〇年以前のなるべく早

い時機に婦人の地位の分析に関連する社会・経済指標の集積を進めるべきである。

171 本計画は、諸種の文化にまたがる研究、特に開発過程への婦人の貢献を阻害している差別的慣習、実行、態度および通念の原因や変革のメカニズムの研究に高い優先度を与えている。

172 特定の国や地域の問題を対象とする研究は、その国や地域の状況を熟知している適切な男女によって行なわれるべきである。

173 情報や研究の結果の広範な交換を推進すべきであり、国連大学、国連訓練調査研修所、国連社会開発研究所、国連社会防衛研究所等を含む既存の各国および各地域の研究機関ならびに大学を最大限活用すべきである。規則的な情報と知識の交換を促進するため、国連との協力の下に、このような研究所および大学のネットワークを確立すべきである。

第四章 マス・メディア

174 婦人の地位向上にとつての主な障害は、社会における婦人の役割に対して社会一般が示す態度やその役割の評価に存している。マス・メディアは、社会変革の推進者として大きな潜在力を持ち、偏見および定型的観念の除去、社会における婦人の新しいいかつ拡大しつつある役割についての認識の強化、対等な担い手としての発展過程への婦人の参加の促進に大きな影響を与える。

175 現在、マス・メディアは、婦人についての旧来の観念を助長する傾向を示し、しばしば婦人の品位を下げ屈辱をもたらすような婦人像を描き出しており、かつ変化しつつある両性の役割を反映していない。また、異国の文化を異なる社会におしつけることにより有害な影響を持ちうる。

176 マス・メディアとはラジオ、テレビ、映画、印刷物（新聞、定期刊行物、漫画、戯画）、広告、集会、その他類似の集りだけでなく、多くの国において農村地域に浸透するために重要な演劇、物語、歌、人形劇等の伝統的な娯楽をも含むものと解釈されるべきである。

177 政府機関および非政府団体は、メディアの描き出している婦人像を把握し、また情報伝達者、娯楽、教育および広告の提供者としてのマスコミの多面的な役割の善悪様々な影響を把握するための、国内的、地域的、国際的研究を奨励支持すべきである。

178 政府機関および非政府団体は、各国における婦人の現状、特に男女の変遷する役割につき情報を得られるような措置をとるべきである。

179 メディアの管理運営者は、男女の変遷する役割と、家族、地域社会、社会全体にかかわる重要事項について男女が共に真剣な関心を持つている事柄について社会一般の意識を高めるよう努力すべきである。また男女についてよりダイナミックなイメージを描き出し、婦人の役割の多様性ならびに社会に対する婦人の現実の貢献、および潜在的な貢献を考慮に入れるよう要請されるべきである。

180 また、マス・メディアの管理運営者は、農村や少数集団の婦人を含み、古今を通じあらゆる身分・職業の婦人の役割と業績を描き出すべきである。また、婦人に自信と同性への信頼ならびに自らの人間としての価値と重要性の自覚を涵養せしめるよう努力すべきである。

181 一層多くの婦人が編集者、コラムニスト、記者、プロデューサーその他として、メディアの管理・企画部門に任命されるべきであり、またメディアの内部において描き出された婦人像についての批判的論評を奨励するべきである。

第五章 国際的および地域的行動

A 世界的行動

182 国連は、一九七五―八五年にわたる十年間を、婦人と開発のための国連の十年と宣言することにより、この期間を通じ、国内的、国際的な活動が継続的に行なわれることを確保すべきである。

183 上述の十年および本行動計画は、国際社会が婦人の状況改善のための諸措置に重要性および優先性を与えることにつき、明確な意図表明を行なうことを呼びかけるものであり、この趣旨は、これをもって、社会進歩と開発の諸目標の達成の手段とし、かつ、それ自体を一つの目的とすることにある。本計画は、国連組織内のすべての機関が個別および共同の行動を行なうて、計画に含まれる諸勧告を実施することを期待するが、これらの機関には、地域委員会、国連児童基金（ユ

ニセフ）、国連開発計画（UNDP）、国連人口活動基金（UNFPA）、国連工業開発機構（UNIDO）、国連貿易開発会議（UNCTAD）、国連訓練研究研究所（UNITAR）、ならびに諸専門機関をはじめとする関係国連機構および機関を含むものである。これら諸機関の活動は既存の機構、殊に、経済社会理事会および行政調整委員会を通じ、適切に調整されるべきである。各機関は婦人の地位の向上ならびに、開発に対する婦人の寄与の強化のために自らがとった措置を評価し、かつ本計画実施のために必要とされる措置を具体的に定めるべきである。

184 国際機関および地域的政府間機関で国連組織に属さぬものも、本計画を実施し、上述の提案にいう十年間に、国際婦人年の諸目標を達成するための計画を策定するように要請される。

185 国際的非政府団体およびその国内傘下団体も、共同で、また個別に、各々の活動分野において、上記の十年間に、本計画の諸勧告の実施のために行動すべきである。

186 本計画は、第二次国連開発の十年のための国際開発戦略、婦人の進歩のための統一的国際行動計画、人種差別撤廃闘争十年計画、世界人口行動計画、世界食糧会議の諸勧告、ならびに一九七四年にアジア太平洋経済社会委員会（ESCAP）およびアフリカ経済委員会（ECA）の両地域のために採択された開発への婦人の参加のための地域行動計画（註五）等をはじめとする本計画と類似の、もしくは関連する諸目標をうち出している他の諸計画、諸戦略を支持する。

187 婦人は、国内的レベルにおけると同様、国際的レベルにおける政策立案にも全面的に参与すべきである。各国政府は、すべての国際機関、会議および委員会への上席代表中に婦人が衡平に参加することを確保すべきであるが、これらの国際機関、会議、委員会には、政治的および法律的問題、経済および社会開発、軍縮、計画立案・行財政、科学技術、環境および人口などを取扱うものを含むべきである。諸国際機関の事務局は、その雇用政策中において婦人に対して差別をもたらし恐れのある規定や慣行を撤廃することによって模範を示すべきである。これら諸機関はまた、第二次国連開発の十年終了のときまでに、男女の職員数の衡平なバランスが達成されることを確保する必要なすべての措置をとり、かつ、この目的達成のために、目標、戦略、ならびに実施予定計画を作成すべきである。この男女職員数のバランスは、すべての実質的重要性のある分野、および実施計画が起案され実行される現場の部署のすべてに適用されるべきである。

188 諸国際機関は、その現存計画ならびに新規の諸計画との関連における本計画のもつ影響を検討し、本計画の実施のために必要とされうる行・財政措置の改訂に関し、それぞれの政策決定機構に適宜勧告を行なうべきである。

189 国際的行動は、既存の諸計画を支援し、かつ次の主要分野においてその範囲を拡張すべきである。

- (イ) 研究、資料の収集および分析（第三章参照）
- (ロ) 技術協力、訓練、ならびに国連組織内の諸機関による国内および地域活動との調整を含む諮問サービス

(ハ) 国際基準の改善および継続的な検討

(ニ) 非政府機関その他の団体等に対する情報の普及ならびにこれらとの情報の交換および連絡

(ホ) 本計画の目的および目標の達成の進捗状況のモニタリングを含む再検討および評価

(ヘ) 国連組織内のすべての機関ならびに本計画に言及されている国内および地域機構との全般的調整を含む執行・管理能力

1 技術協力の運営活動

190 国連開発計画、国連人口活動基金、国連環境計画、世界銀行および国際通貨基金（IMF）を含む国連専門機関、地域委員会、政府諮問機関、二国間援助機関および財団、ならびに国際ないし地域開発銀行その他国際金融機関等は、その達成目標、資金および対象地域や、対象層等の面において高度に専門化されたプロジェクトを通じて活動を行なっている。援助機関の世界的な体系の大きさおよび種類の多さにかんがみれば、数多くの地域において、ひとたび何が必要とされているかが理解され、かつそれが国連組織を通じて伝播されれば、遅滞なく行動を開始することが可能である。

191 したがって、意識的かつ大規模な努力によって、各国政府ならびに国際社会が、婦人にその状況改善に必要な技能、訓練、機会を与え、開発努力全体に全面的かつ効果的に参加することを可能ならしめる諸プロジェクトおよび活動に、高い優先度と関心をふりむけることを確保すべきである。

192 各国政府および国際社会を支援するための現地調査が行な

われ、本計画の諸目標実現のための開発プロジェクトに必要な各地域における基礎データが確立されるべきである。

193 すべての既存の計画およびプロジェクトは、その活動分野を婦人を含むうに拡張するという観点から、再吟味されるべきである。同時に、婦人を含むような新規の、かつ斬新なプロジェクトも策定されるべきである。

194 次の諸分野は、特に重要である。

(イ)〔総合農村開発〕婦人に食糧の生産者、加工者および販売者としての役割を与えることに特別の注意が与えられるべきであり、その際婦女子の訓練の必要が強調されるべきである。殊に訓練が必要とされるのは、近代的な農法、マーケティング、購買・販売技術、および基礎的会計と経営法、衛生ならびに栄養の基礎知識、手工業ならびに協同組合の諸分野である。

(ロ)〔保健、生殖、成長ならびに発達〕家族保健および児童保健、家族計画、栄養ならびに保健教育を含む。

(ハ)〔婦人が経済的役割を果たすことができるようにするための雇用機会創出に関連するすべての段階およびすべての分野における教育ならびに訓練〕

(ニ)〔青年関係プロジェクト〕ただし女子青年の参加に十分に重点をおくことを確保するよう確認の要あり。

(ホ)〔開発計画ならびに政策の策定、殊に中級ならびに上級のポストにおける参加のために婦人を育成することを狙いつける行政〕

195 UNDPの地域代表は、駐在国の政府を助けて国別計画の

枠内ではかかる援助要請を作成するにあたり、主要な役割を果たすべきである。諸専門機関によって特別コンサルタントあるいはタスクフォースの形で供与される助言活動もまたプロジェクト要請の策定にあたっての協力となりうる。特別な支援を必要とするかも知れぬ重要分野を示唆するために、定期的な再検討に着手すべきである。各プロジェクトは、婦人の地位の向上面での影響と成果を測るため、絶えず、再検討ならびに再評価をうけるべきである。

196 婦人は、国連その他の国際機関の主宰により行なわれるUNDPの国別および地域計画、地域間ならびに全世界的プロジェクトの策定および実施に全面的に参画すべきである。各国政府は、公けの政策策定および管理に責任ある国家計画機関その他の機関に、開発における婦人の参加問題に関して特に適格な人々を含むことの重要性を念頭におくべきである。

2 国際基準の策定ならびに実施

197 国際条約、宣言、および正式勧告の作成、ならびにこれらの実施に関する報告制度、その他の手続を整備していくことは、国際計画の重要な要素であり、継続されるべきである。

198 婦人に対する差別撤廃に関する条約をその実施に関する効果的な手続とともに準備し、採択することに高い優先度が与えられるべきである。

199 然るべき機関により既存の国際文書の効果的实施に関する検討、および定期的な再検討により、現代世界の変動する諸条件に照らし、かつその採択以来集積された経験に照らし、これら文書が十分なものであるかどうかを見究めるべきであ

る。

200 婦人にとつての新しい関心分野における新しい基準の整備の必要性は、本計画の実施との関連において絶えず再検討されるべきである。かかる新しい基準の必要性を見究めるために適当な調査研究が行なわれるべきである。

三 情報ならびに経験の交換

201 国際レベルにおける情報と経験の交換は、進歩を促し、婦人に対する差別的撤廃ならびにその国民生活のすべての分野における婦人の一層広範な参加を助長するための諸措置の採用を奨励する効果的な方途である。異なる政治、経済および社会組織ならびに文化を有し、また異なる開発の過程にある諸国が、問題や困難や成果に関する共通の知識と共同で開発した解決方法から、利益を得てきた。

202 効率的な国際機構を設立し、または婦人の地位委員会の如き既存の機関を利用して世界のすべての地域の婦人にその国内的あるいは地域的な諸問題に関して相互理解を深め、あらゆる形の差別や圧迫の撤廃のための闘いについて互いに助けあう機会が与えられるべきである。

203 国連技術協力計画の下で開催されるものを含み、会合やセミナーは、地域的ならびに国際的経験と情報の交換の実現に最も有用であったが、これらはさらに継続されるべきである。

204 国際共同社会によって支援された教育並ならに情報普及計画を整備拡大し、既存の国際基準、本計画の達成目標、各々本計画の関連の章の下で企画されている研究の成果ならびに

データをすべての部門の人々に知らしめるべきである。

205 世界の特定の国々における婦人の境遇を記述する資料も準備され、広く配布されるべきである。かかる資料は年報または年鑑の形で発行されるべきであり、最新の必要な事実を含まなければならない。婦人の地位を向上し、また婦人を開発過程に参加せしめるに際し有用であることが証明された手段や技術に関しても資料を作成し、広く広報すべきである。

206 諸国際機関は、政府機関であると非政府団体であることを問わず婦人およびその関連事項に関する情報を頒布する努力を強化すべきである。かかる努力は、婦人の境遇、その変遷する役割ならびに開発努力への政策策定やその実施を通しての参加に関する定期的刊行物の出版、情報メディアや補助手段の利用、あるいは婦人に関するニュースレター、パンフレット、図表等々の資料を広く配布することによって行ないうる。

B 地域活動

207 アフリカ、アジア太平洋、欧州、ラテン・アメリカおよび西アジアにおける地域委員会は、本計画に対する関心を増大せしめ、各国政府および非政府団体に各々の地域において本計画の目的の達成のための効果的戦略の作成および実施に必要な技術的な支援と情報面での支援を供与すべきである。これら地域委員会は、もし、これまでまだ行なわれていないのであれば、この目的のためにしかるべき機構を設立すべきである。このような機構は、地域内諸国からの専門家から成り、当該地域の委員会の諸活動に勧告を与えるための地域常設委員会を含みうるが、その対象となる諸活動とは、当該地

域における政府やその他の機関の開発における婦人の参加をめざす諸活動とかかわりのあるものを指す。

常設委員会の機能は次のようなものを含みうる。

(i) 婦人の境遇およびその進歩を助け、あるいは進歩を制約している諸要素の正しい理解に必要とされる情報を特定するために国別の研究に着手し、あるいは国内機関を援助すること。

(ii) データその他の情報の収集のための調査の企画および実施を援助すること。

(iii) 地域内の統計機関および国際的努力と共同して婦人の境遇に関する報告の手法ならびに本計画の達成目標に向かっての進捗状況を測るための指標の開発を指導すること。

(iv) いろいろなレベルの婦人の進歩のための諸計画の調整と相互支援を促進する情報交換ならびに地域内各国の経験と分かちあうための、取次ぎの役割を果たすこと。

208 地域委員会の構成国は、技術的、財政的援助を要請するに際し、UNDP地域事務所と協議しつつ、婦人の機会強化のための諸プロジェクトに与えられる優先度を高め、かつこれらプロジェクトが全体的総合開発計画に占める重要性の認識を増大するように努力するべきである。

209 地域委員会は、政府ならびに非政府団体に対し、国家の開発における婦人の役割の強化のために必要な行動を選定し、政策戦略ならびに計画を立案し、また、かかる計画のための技術および財政援助要請の作成につき協力すべきである。また、地域委員会は、域内の研修訓練機関がその教課内容の中に、

開発における婦人の参加に関連する題目を包含するよう奨励し、訓練計画、なかんずく婦人の指導的役割に対する能力を強化し、本計画中に示唆されている諸活動のための計画を作成し実施する中核を育成することをその当初の目的とした訓練計画の創設を援助すべきである。

210 地域委員会はまた、利用しうる人材を駆使して域内各国間の技術協力を推進すべきである。例えば、訓練を受けた婦人は自発的にまたは特別チームの一員として他の国の婦人たちに短期間の協力を与えることができる。域内の現地事務所には特別顧問を配置し、域内の現地業務体制の強化を図り、上述の機能や目的を一層効果的に実施すべきである。これら地域委員会は、また、婦人の進歩のための計画を賄うために既存の多国間および二国間援助財源からの資金抛出の増加を図ることもでき、また、国内レベルまたは地方レベルにおける回転基金の創設を含む新しい財源を確保することもできるはずである。

211 本計画の実施にあたり上述の地域委員会およびその他の地域事務所を有する国連機関は、既存の国連その他の地域センターで本計画の目的に関連する活動分野、例えば開発計画の作成、読み書き能力、社会福祉、社会防衛、雇用、保健および栄養、社会開発等の分野における研究訓練センター等の計画を調整するよう格段の努力を払うべきである。

212 アフリカ開発銀行、アジア開発銀行および米州開発銀行のごとき地域開発銀行、ならびに中米経済統合銀行および東アフリカ開発銀行のごとき、準地域銀行および二国間資金機関

は、婦人の開発努力への参加および平等の達成を含むようなプロジェクトに対する開発援助に高い優先度を与えるように要請されるべきである。かかる援助は、自助努力を含む斬新な国家計画および地方計画への国家的支持の強化に役立つであらう。

第六章 再検討および評価

213 本計画の諸目標達成における進捗状況の総合的ならびに徹底的な再検討と評価が、国連組織により、定期的に行なわれるべきである。かかる再検討ならびに評価は第二次国連開発の十年のための国際開発戦略のもとにおける進捗状況の再検討および評価の手續の一環を成すべきであり、今後、設定される新規のいかなる国際開発戦略とも緊密に調整されるべきである。

214 国連総会はすでにその一九七四年十二月十日の決議三二七六(XXXIX)において、国際婦人年世界会議の諸決議中、関連ある勧告を一九七五年の第七回特別総会および第三十回総会において審議することを定めている。本計画はまた一九七六年春の第六十回国連経済社会理事會において審議されるべきである。国連事務総長は、一九七八年に各国政府と協同し、かつ国連組織の現存の機構および財政を考慮しつつ二か年ごとに行なう再検討の第一回に対するしかるべき準備を行なうよう要請されるべきである。経済社会理事會は、このような組織的評価の結果を必要に応じ、本計画の目的および勧

告に適切に修正を加える目的をもって、検討すべきである。215 婦人にかかわりがあり、本計画に関係のある趨勢ならびに、政策に関するモニタリングは、国連の特別活動として継続的に実施されるべきである。これらの活動は、国連組織のしかるべき機関によって一九七八年を第一回として二年ごとに再検討されるべきである。このモニタリングは間隔が短かいので必然的に選択的ならざるを得ず、主として新しい趨勢、および政策に焦点を絞ることにならう。

216 本行動計画はまた、地域委員会、国連開発計画(UNDP)、国連児童基金(ユニセフ)、国連工業開発機関(UNIDO)、関連専門機関およびその他の政府間機関、非政府団体により、今回の世界会議後の各々の会期において審議されるべきである。本計画に関するこれら諸機関の討議および決定は、経済社会理事會およびその関連機能委員会や諮問機関(婦人の地位委員会、社会開発委員会、人口委員会、統計委員会、開発計画委員会、および再検討評価委員会)に、それぞれの一九七六年および一九七七年の会期に提出されるべきである。本計画実施に関する活動計画がこれらのすべての機関の会期の議題に、少なくとも二年ごとに含まれるべきである。

217 地域レベルにおいては、地域委員会が婦人の開発努力のすべての面における一層大規模かつ効果的な参加に向かつての進捗状況をモニターする責任を引受けるべきである。かかるモニタリングは第二次国連開発の十年に対する国際開発戦略の再検討ならびに評価の枠内で実施されるべきである。地域委員会は、その経済社会理事會に対する各々の地域におけ

る社会経済情勢に関する報告において、開発における婦人の参加に関する情報をも提供すべきである。地域委員会はまた適当な間隔において（例えば二年ごと）、この行動計画の目的達成に向かっての進捗状況を審議すべきである。地域委員会は、域内政府が、その会期その他の関連会議に対する代表団に婦人が平等な参加の機会を与えられることを、奨励すべきである。

218 国内レベルにおいては各国政府は、各々、本計画の達成目標の成就への進捗状況を定期的に再検討し評価するように、また必要に応じ他の既存の報告制度（例えば第二次国連開発の十年に対する国際開発戦略、世界人口行動計画、世界食糧会議の勧告、婦人に対する差別撤廃宣言の実施および婦人の進歩に関する統一的国際行動計画等の報告制度）に折り込んで経済社会理事會に本計画の実施ぶりにつき報告するよう奨励されるべきである。

219 各国政府は各々の開発計画との関連において、本計画の持つ意味合いを評価し、その実施のために必要な財政的ならびに行政的措置をとるべきである。

注一 関連国際文書参照。

二 国際婦人年世界會議において、何人かの代表は国家経済権利義務憲章への言及は、第二九回總會において各代表が本憲章に関し述べた立場の変更を意味するものではないとの意見を表明した。

三 一九七〇年十月二四日總會決議二六二六（XXV）。

四 一九七四年国連世界人口會議報告書参照。

（国連出版物 MeE/5 X III 3）

五 地域行動計画について、国連文書（E/CONF.66/BP.223）参照。

関連国際文書

A 国連文書

1 一般文書

・国連憲章

・世界人權宣言（一九四八）

・経済的、社会的小および文化的權利に関する國際規約（一九六六）

・市民的小および政治的權利に関する國際規約および選択議定書（一九六六）

・人身売買および他人の売春からの搾取の禁止に関する条約（一九四九）

・奴隸制度、奴隸取引ならびに奴隸制度に類似する制度および慣行の廃止に関する補足条約（一九五六）

・あらゆる形態の人種差別撤廃に関する國際条約（一九六五）

・社会の開發と進歩に関する宣言（一九六九）

・第二次国連開發の十年のための國際開發戰略（一九七〇）

・世界人口行動計画（一九七四）

・新國際經濟秩序樹立に関する行動計画（一九七四）

・国家経済権利義務憲章（一九七四）

二 特に婦人の地位に関連した文書

- ・婦人の参政権に関する条約（一九五二）
- ・既婚婦人の国籍に関する条約（一九五七）
- ・婚姻の同意、最低年齢および登録に関する条約および勸告（一九六二および一九六五）
- ・婦人に対する差別撤廃宣言（一九六七）
- ・婦人の進歩のための統一的国際行動計画（一九七〇）

B 専門機関文書

一 ILO

- ・すべての種類の鉱山の坑内作業における女子の使用に関する条約（№45, 1935）
- ・工業に使用される婦人の夜業に関する条約（№89, 1948）
- ・同一価値の労働についての男女労働者に対する同一報酬に関する条約（№100, 1951）および勸告（№90, 1951）
- ・母性保護に関する条約（№103, 1950：改E）および勸告（№05, 1952）
- ・社会保障の最低基準に関する条約（№102, 1952）
- ・雇用および職業についての差別待遇に関する条約（№102, 1958）および勸告（№111, 1958）
- ・職業訓練に関する勸告（№117, 1962）
- ・雇用政策に関する条約（№122, 1964）と勸告（№122, 1964）
- ・家庭責任をもつ婦人の雇用に関する勸告（№123, 1965）

二 ユネスコ

- ・教育上の差別待遇反対に関する条約（1960）
- ・教育上の差別待遇反対に関する条約の加盟国の間に生ずる紛争の解決のための調停、あっせん委員会の設立議定書（1962）

（注、行動計画およびメキシコ宣言の訳文は、外務省国際連合局の訳文を基本としたが、日本語としてあまりにも難解な部分は、原文に照らし、一部修正した。）

注 * 印は追加項目（*）印は修正項目

〈追加項目〉

序章 2、6、10、11、13、18、19、20、25

第一章 29、45、47、48

〈部分修正項目〉

序章 23

第一章 30、33、46

資料2

婦人の平等と開発と平和への婦人の寄与に関する

一九七五年のメキシコ宣言(全文)

国際婦人年世界会議は

世界人口の半数を構成する婦人の問題は、社会全体の問題であり、婦人の現在の経済的、政治的、社会的状況を変化させることは、婦人の必要を真に充足することを妨げている構造および態度を変化させる努力の一環とならなければならないことを自覚し、

国際憲章の諸原則に立脚した国際協力を、世界の諸問題を解決し、衡平と正義に基づいた国際社会を建設するために発展させ強化させるべきであることを認識し、

国際連合諸国の人民は、国連憲章に署名するにあたり、「戦争の惨害から将来の世代を救い、基本的人権と人間の尊厳および価値と男女ならびに大小各国の同権とに関する信念をあらためて確認し、一層大きな自由の中で社会的進歩と生活水準の向上とを促進すること」を特に公約したことを想起し、

国際連合の創設以来、世界人権宣言、植民地およびその人民に対する独立の付与に関する宣言、第二次国連開発の十年の国際戦略、ならびに諸国家の経済権利義務憲章に立脚した新国際経済秩序の確立のための宣言と行動計画を主要なものとする極めて重要な文書が採択されたことに留意し、

国際連合の婦人に対する差別撤廃宣言が、「婦人に対する差

別は人間の尊厳ならびに家庭および社会の福祉に反し、婦人が国の政治的、社会的、経済的、および文化的生活に、男子と同等に参加することを妨げ、また、国家および人類の寄与に役立つ婦人の能力の完全な開発に対する障害である」としていることを考慮し、

国際連合総会が一九七五年を国際婦人年と指定し、この婦人年は、男女間の平等を促進し、全体的な開発努力への婦人の参加を確保し、世界平和強化への婦人の寄与を増加するためのより強化された行動に捧げられるべきであることを想起し、

さらに、経済社会理事会が決議一八四九(IV)において国際婦人年計画を採択し、総会が決議三七五(XXIX)において同計画の完全な実施を要求したことを想起し、

婦人が人類の歴史において、なかならず、民族解放、国際平和の強化、帝国主義、新植民地主義、外国による占領、シオニズム、異民族による支配およびアパルトヘイト撤廃のための闘争において果している役割を考慮し、

婦人があらゆるレベルの政策決定により大きく平等に参加することが、開発の速度と平和の維持を促進するのに決定的に寄与するであろうことを強調し、

また、すべての国の男女が平等の権利と義務を持つべきであ

り、男女がこの権利義務を獲得しこれを行使するために必要な条件を作り出すことはすべての国家の課題であることを強調し、

全世界の婦人が、相互の間にいかなる相違が存在しようとも、不平等な取扱いを受けあるいは受けて来たという苦痛に満ちた経験を分かち合っており、かつこの現象に対する婦人の自覚が増大するにつれて、婦人は、植民地主義、新植民地主義、シオニズム、人種差別、およびアパルトヘイトのもとで行なわれているようなあらゆる形態の抑圧に対する闘争の自然な同盟者となり、その際、今日の世界の経済的社会的変革のための巨大な革命的潜在力を形成することを認識し、

社会の社会的経済的構造の変化というものは、必要な前提条件の一つではあっても、それ自体で長期にわたり不利をこうむって来た人々の地位を直ちに改善することは保証し得ず、したがって、婦人が国家生活および国際生活に完全に、直ちにかつ早期に参加することにつき、緊急な考慮が払われるべきであることを認識し、

低開発状態は、婦人に対し、急速に撤廃すべき搾取という二重の負担を課し、かつこの目的のために各国の開発政策を完全に実施するに際して現在の国際経済関係の不均衡な制度が重大な障害となっていることを強調し、

出産という婦人の役割が不平等と差別の原因となるべきではなく、また育児には、婦人、男性および社会全体が責任を分かち合う必要があることを自覚し、

婦人の地位を向上せしめることと、婦人が国の発展に男性と

同様に積極的に参加する機会を持ち世界平和達成に寄与するのを可能にするような、より効果的な方法と戦略を見出すことの緊急性を認識し、

婦人が国際平和の促進、達成および維持において重要な役割を果たさなければならず、かつ婦人が、この目的のために存在する各国の組織および国際的な組織への完全な参加を通じて行なう平和への努力を鼓舞することが必要であることを確信し、国際婦人年世界会議で採択された世界行動計画の実施が、その中で、平等、発展、平和の達成のための重要な寄与となるべき各国のおよび地域的、国際的行動を促進することが必要であることを考慮し、

以下の諸原則を宣明することを決定する。

一、男女の平等とは、人間としての男女の尊厳および価値の平等ならびに男女の権利、機会および責任の平等を意味する。

二、婦人が男性と平等の地位を享受するに至る道程でのすべての障害を撤廃し、もって婦人が国の開発に完全に参加し、かつ国際平和の確保と維持に参加することを確実にしなければならない。

三、婦人が社会に統合され、子供が十分な保護を受けるのに必要な施設を創設することは国の責任である。

四、各国の非政府機関は、婦人が機会を活用するよう支援し、婦人の権利に関する教育と情報を増進し、自国の政府と協力することによって、婦人の地位向上に寄与すべきである。

五、男女は、家庭および社会において平等な権利と責任を有する。男女間の平等は、社会の基本単位であり人間関係涵養の

場である家庭において保証するべきである。男性は、家庭の健全な発展のために、家庭生活に、より積極的、創造的かつ責任ある態度をもって参加し、もって婦人が社会の諸活動により多く参加することを可能にし、両性の家庭と職業の可能性を効果的に連繫すべきである。

六、婦人には、男子同様、自らの知的能力を最大限に開発するための機会が必要である。したがって、各国の政策と計画は、婦人に対しあらゆるレベルの教育および訓練をうける可能性を完全かつ平等に与えるべきであり、かつ、このような計画と政策は、婦人を自己充足のための婦人の必要と国の発展の必要性とに合致した新しい役割に、意識的に指向せしめるものとすべきである。

七、婦人の労働する権利、同一価値労働に対し同一賃金を受ける権利、職業上の昇進についての平等の条件と機会を持つ権利、および完全な満足すべき経済活動への婦人の他のすべての権利を、あらためて強く確認する。これらの諸原則が効果的に実施されるための再評価が、世界の経済関係再構成の必要性にかんがみ、現在緊急に必要となっている。この再構成は、婦人に対し、国の経済的、社会的、政治的および文化的生活の潮流に統合されるためのより大きな可能性を提供するものである。

八、すべてのコミュニケーションおよび情報手段ならびにすべての文化メディアは、今日なお婦人の発展を妨げている態度上のならびに文化上の諸原因の除去を援け、また、婦人が変化し拡大しつつある役割を果すことの価値を社会に対し肯定

的に投影することについての責任を高い優先度をもって認めるべきである。

九、婦人が政治分野での政策決定レベルその他のレベルで、自国および世界の諸問題に積極的に参加することは、婦人が平等の権利を完全に行使し、さらに発展するための、そして国の福祉のための前提条件であり、したがって、婦人が自国および国際社会の政治生活に参加しうるために必要な資金を使用しうるようにすべきである。

十、権利の平等はこれに対応した責任を伴う。したがって、可能な機会を完全に活用し、家庭、国、人類に対する自らの義務を遂行することは婦人の義務である。

十一、身体上の一体性とその人間生活における正当な位置づけに対する尊敬を教えることは、社会教育の主要な目標の一つであるべきである。人間の肉体は、男女の如何を問わず、不可侵であり、肉体に対する尊敬は、人間の尊厳と自由の基本的要素である。

十二、すべての夫婦と個人は、子供を持つか否か、および子供の数と出生間隔を自由に決定し、そのための情報と教育および手段を入手する権利を持つ。

十三、人間の尊厳に対する尊敬は、すべての婦人が婚姻するか否かを自由に決定する権利を包含する。

十四、不平等の問題は、世界の圧倒的多数の婦人に影響する問題として、低開発の問題と密接に関連しており、低開発は不適切な国内構造の結果としてのみならず、極めて不公正な世界経済体制の結果としても存在する。

十五、いかなる国といえども、完全かつ十分な開発のためには、婦人が男性同様すべての分野に最大限に参加することを必要とする。世界人口の約半数の潜在力が十分に活用されないことは、社会経済開発にとっての重大な障害である。

十六、開発の最終目的は、すべての人間により高い質の生活を達成することであり、このことは、経済その他の物質的な資源の開発に留まらず、人間の肉体的、道德的、知的および文化的成長をも意味する。

十七、婦人は全体的な開発への努力に参加し寄与する権利を有しているのであるから、国は婦人を開発に参加せしめるために、それに必要な经济社会政策の変更を実施しなければならぬ。

十八、国際的経済関係の現在の状態は、開発の促進と、全人類、なかんずく婦人の関心事である飢餓、幼児死亡、失業、文盲、無知および後進性の撲滅を目的とした開発途上国の生活水準向上のために、すべての人的、物的潜在力をより効果的に活用する際の重大な障害となっている。したがって、社会経済体制の如何を問わずすべての国家の間の平和共存の原則に基づいた衡平、主権平等、相互依存、共通の利益および協力、ならびにすべての国、なかんずく開発途上国の経済的社会的進歩の国際社会全体による促進、および国際社会を構成する国家の進歩に立脚した、かつ諸国家の経済権利義務憲章を基本的要素とする、新国際経済秩序を緊急に確立し実施することが重要である。

十九、すべての国の自国の天然資源、富およびあらゆる経済活

動に対する完全かつ恒久的な主権と、その主権の表現としての国有化に対する不可譲の権利は、経済的社会的開発過程の基本的な前提条件である。

二十、経済的社会的目標の達成は、婦人の権利の実現にとり極めて重要ではあっても、婦人に対するあらゆる形態の差別撤廃のための特別な措置がとられない限り、それ自体のみで、婦人を男性と平等な基盤の上で開発に完全に参加せしめる結果とはならない。したがって、すべての職業分野における婦人の参加と地位の向上を促進し、平等な教育の機会と家事労働を容易にする如き施設を供与する開発モデルを作成し実施することが重要である。

二十一、世界の広大な地域における農業部分の近代化は、なかんずく農村地域の何百万という婦人が開発に参加する機会を創造するだけに、進歩のために不可欠な要素である。各国政府、国際連合、国連専門機関、その他の権能ある地域的、国際的機関は、農村婦人の能力を最大限に活用し、その自立を助長するための諸計画を支援すべきである。

二十二、婦人の完全かつ平等な社会参加に必要な経済的、社会的、法的条件およびそのための態度が存在していた場合でも、開発への婦人の参加促進を目標とした努力や措置は、全体的な社会経済成長の一環とならない限り、成功裏に実施し得ないことを強調しなければならない。種々の経済的、社会的、政治的、文化的部門への婦人の完全な参加は、人民の動的な進歩および開発の重要な指標である。個人の人権は、全体の発展の枠内でしか実現され得ない。

二十三、この宣言のかかげる目標は、国家間の関係が、国家の主権平等、民族の自決、武力による領土の獲得またはかかる企図の拒否、および領土獲得を承認することの禁止、領土保全と領土防衛権、他国に対する内政干渉等の諸原則によって、人間相互の関係が男女の権利平等という至高の原則によって支配されると同様に支配されている世界においてのみ実現される。

二十四、国際協力と平和は、民族の解放と独立、植民地主義と新植民地主義、外国による占領、シオニズム、アパルトヘイト、あらゆる形態の人種差別の撤廃、および人民の尊厳と自決権の承認を必要とする。

二十五、婦人は生活のあらゆる分野、家庭、共同社会、国家および社会における平和の増進に重要な役割を有している。婦人はかかる存在として、平和増進に資するあらゆるレベルの政策決定過程に男性と平等に参加しなければならない。

二十六、植民地主義、新植民地主義、帝国主義、外国による支配と占領、シオニズム、アパルトヘイト、人種差別、武力による領土の獲得およびかかる領土獲得の承認は、男女および児童に測り知れぬ苦しみ及ぼすものであり、男女は協力してこれらを撤廃しなければならない。

二十七、国際連合の糾弾する人権侵害に対し抗議するすべての国の婦人の連帯は支持されなければならない。収監、拷問、虐殺、集団処罰、住居の破壊、強制立退、恣意的な移動制限を含む、男女および児童に対するあらゆる形態の抑圧および非人道的取扱いは、人道に対する罪であり、世界人権宣言そ

の他の国際文書違反とみなされる。

二十八、全世界の婦人は、強姦、売春、暴行、精神的虐待、未成年結婚、強制結婚、商業行為としての結婚等の、婦女子に対する人権侵害の撤廃のために団結すべきである。

二十九、平和は、婦人が男性とともに、第三国または多国籍企業による公然または隠然たるいかなるタイプの内政干渉をも拒絶することを要求する。平和はまた、婦人が男性とともに、いかなるタイプの政治的経済的圧力、威圧にもさらされることなく、自らの経済的、社会的、政治的体制を確立する国家の主権の尊重を促進することを要求する。

三十、婦人は男性とともに、核軍縮を手始めとして、実効ある国際管理のもとでの、現実的な一般全面軍縮を促進すべきである。真の軍縮が実現するまで、世界中の男女は、警戒心を捨てず、国際平和の達成維持のために全力を尽さなければならない。

ゆえに、
国際婦人年世界会議は、

一、平等、発展、平和という国際婦人年の目標に対する信念を
確認し、

二、これらの目標達成を公約することを宣明し、

三、各国政府、国際連合の全機関、地域的国際的政府間機関および国際社会全体に対し、婦人、男性、児童が尊厳、自由、正義、繁栄のもとに生活しうる公正な社会の建設のために献身するよう強く要請する。

資料3 国際婦人年世界会議において

採択された諸決議（一九七五年七月）

国連発行 国際婦人年世界会議資料より要約

決議	決議要約	提案国 票決結果 日本
<p>第一委員会決議</p> <p>1 アフリカにおける婦人の進歩のための研究及び訓練</p> <p>2 世界行動計画の諸目標達成を目的とする諸計画に関する国際協力</p> <p>3 南アフリカ、ナミビア及び南ローデシアにおける婦人の地位</p>	<p>アフリカの大多数の婦人が置かれている不安定な境遇を考慮し、パンアフリカ婦人機構の婦人訓練センターの発展を援助する。</p> <p>婦人が発展に寄与できるよう、各国に要請。この計画の指揮を可能な限り婦人にゆだねる。</p> <p>アパルトヘイトは人間性に対する犯罪であり、集団殺人的な犯罪であって、その主たる犠牲者は婦人であること、及びその根源は全人類の関心事項であることを認識し、南アフリカ、ナミビア、南ローデシアの少数支配非難、アパルトヘイト撲滅、人種差別、植民地支配反対の闘争を支持する。</p>	<p>マリ他アフリカ四か国 全会一致 ○</p> <p>マダガスカル、モーリタニア、セネガル 全会一致 ○</p> <p>アフリカ諸国 全会一致 ○</p>

4 世界行動計画実施
における国連組織
の役割

5 婦人と健康

6 第七回特別総会及
び国連のその他諸
機関の会議への婦
人の参加

第二委員会決議

1 婦女子搾取の防止

2 国連及び専門機関
の雇用における婦
人の状況

世界行動計画の実施のため、十分な人員（特に婦人）、資金を配分
するよう各国、各機関に勧告する。

社会的・政治的・経済的生活への婦人の全面的な参加は、多くの
婦人が良好な健康を享受できないことにより制約されているこ
と、医療要員の不足・迷信・偏見・禁忌があることなどを認識し、
婦人の健康の確保、これを阻害するような政治・経済・社会的要
因から保護し、母子保健を助長する。

婦人に対する差別撤廃宣言（一九六七）に留意し、国際会議への
婦人の参加が限定されていることに着目、各国政府に対し、第七
回国連特別総会、国内における政策決定段階への婦人の参加を確
保するよう、また政府代表には男女双方を加えるよう要請する。

売春は婦人の尊厳に対する最も悲痛な侮辱の一つであること、現
実に多くの国で存在していることを認識し、売春・人身売買等の
婦女子に対する搾取を精力的に排除し、更生をはかるよう各国に
勧告する。

婦人が国連に就職し、そこで働き、昇進し、昇進の恩恵を受ける
条件は、男子の場合と比し、決して国連憲章が要請しているよう
には衡平ではないとの周知の事実を確認するような資料（一九七
三刊）が収録されていることに留意し、加盟国間の国連職員配分
の偏りを是正、婦人の雇用促進を国連・専門機関及び諸機関に勧

フィンランド、
スウェーデン、
スーダン
76 | 13 | 6

オーストラリア
97 | 0 | 6

コンゴ、他
85 | 0 | 13

タイ
全会一致

米、ウルグアイ、
ドミニカ、日本
全会一致

3 母親及び児童の健康の保護

告する。

都市化が急激に進行し、特に開発途上国において著しい都市化が、家族の健康、特に母親の健康に大きな影響を与えることを考慮し、流入人口が健康に有害な標準以下の住宅事情の下に生活している事実を認識し、農村から都市部への人口流出率を低下させる努力を払わねばならないことを考慮する。また、無資格者による頻繁な非合法妊娠中絶が母親の健康に深刻な問題となっていることを認識し、開発途上国の農村地域においては一般に母親及び児童の死亡率そのものが都市部よりも高いことを銘記し、さらに世界の最も緊急な問題の一つは、栄養不良及び栄養欠損であることに留意し、都市・農村の母親・児童に対する十分な保健活動を各国に勧告する。

4 婦人に対する助成的援助

低収入婦人を保護するため婦人を対象とした金融機関の設立を奨励するよう関係国に勧告する。

5 人口及び開発への婦人の参加

婦人と開発に関する政策の基盤とすべき人口に立脚した研究の必要を強調し、人口動態が家庭及び社会における婦人の役割に与える影響、都市化の過程が、婦人の役割、生活条件、開発への参加の機会に与える影響、教育水準、婚姻上の地位同棲、家庭外における婦人の経済活動、出産の形態及びこれらに関係する文化的、生物学的、その他の要因との間の相互関係、出産と母親の疾病率、死亡率、乳児、幼児の死亡率との間の相互関係等の調査研究を経済的に勧告し、国内計画の実施を要請する。

アルゼンチン、
メキシコ、イン
ド、イラン、他
全会一致

○

ガーナ、ジャマ
イカ
全会一致

○

キューバ、メキ
シコ、ドミニカ、
ヴェネズエラ、
他
全会一致

○

6 開発への婦人の参加のための特別資金

7 老人、身体障害者を含む婦人に対する社会保障及び家族保障

8 開発過程への婦人の参加に関する政策策定のための研究

9 家族計画及び婦人の開発への全面的参加

10 一般国民の参加

11 家庭

国連総会に一九七五―八五年を「婦人と開発の一〇年」と宣言することを勧告、各国政府に一九八〇年までに行動計画を実施するため、あらゆる努力を払うよう要請、必要な資金援助を行なう。

多くの国で婦人は社会福祉の社会保障の恩恵に関して不利な立場に置かれていることを考慮し、各国政府に対し、妊産婦、高齢婦人、ハンディキャップを背負った婦人の福祉政策の充実を要請する。

開発研究の中での婦人の活動に十分な関心が払われなかった事実を認識し、国連事務総長に対し、開発への婦人の参加に関する政策を整備する準備として、開発における婦人の境遇についての情報を収集・整備することを要請する。

開発への婦人の参加の過程において、婦人に対し、子供の数と出産間隔を自ら決定しうるような情報及び手段を与える必要性を認識し、各国政府、国連諸機関、専門機関に対し、婦人問題との関連で世界人口行動計画の実施を要請し、各国政府には家族計画のための教育、母性及び児童保健サービスを要請する。

各国に婦人の地位向上のため、婦人自らの自発的活動を後援することを要請する。

家庭は社会の根源的かつ基本的な核であり、社会的諸関係の最初

アフガニスタン 全会一致

ドミニカ、フィリピン、英、他

ブルガリア、パナマ、ベルー、

91―0―14

△

他

オランダ 全会一致

○

英、米、スウェーデン、エジプト、ガーナ

77―4―15

○

他

キューバ、ドミニカ、メキシコ、

全会一致

○

他

パナマ

84―0―16

○

の教場となっていることを銘記し、男女は共に不可欠であり、團結して人間生活を可能にすることに留意し、各国政府に対し家庭を形成すること等を要請する。

12 政治及び社会参加

公正な各国社会の建設、基本的な民族の諸権利及び民族自決権のための闘争、侵略戦争に対する闘争、新国際経済秩序の確立及び平和、安全保障ならびに軍縮の強化における婦人の役割の重要性が増加しつつあることを認識し、各国及び国際的な経済・社会・政治変革の担い手としての婦人の参加は根本的に重要であることを確信し、かつこのような婦人の参加を認めることは、国際社会が恩恵として与える譲歩ではなく、当然なされるべき正義の行為であることを宣言し、各国政府に対し、婦人の政治社会活動への参加を容易ならしめるよう呼びかけ、適切な場合にはそのための国内委員会を設立することを要請する。

13 婦人及び通信の媒体

マス・メディアが多くの場合、婦人について型にはまった屈辱的かつ非道徳的なイメージを提示し強化する傾向があることを認識し、ある種のメディアが婦人の性のシンボル及び経済的利益追求の手段として屈辱的に搾取していることを非難する。各国政府及び各機関に対し、国内マス・メディアをして婦人の尊厳あるポジティブなイメージを投影するよう勧奨すること等を要請する。

14 政治的、経済的、社会的及び文化的発展過程への婦人

世界人口の半数以上が婦人である以上、男女がすべての活動分野に全面的かつ平等に参加することは各国の政治的、経済的、社会的発展に不可分であること、また新国際経済秩序と国内の構造変

ベル、他

全会一致

○

ドミニカ、
ベル

全会一致

○

キューバ、チェ
コ、ユーゴ、ベ
ル、他

90—6—13

△

の男性と同等なパートナーとしての参加

革とが、婦人の男性と同等のパートナーとしての政治、経済、社会、文化面への参加を促進することを認識し、差別的慣行は人間の尊厳に対する脅威であり、婦人にとって、思想の自由、市民的、政治的権利の享受、人格と能力の陶冶、選択の自由を放棄することとは不可能であることを考慮し、子供の養育、教育、援助、保護についての親の責任を両親に平等に負わしめることの重要性を念頭に置き、すべての国に対し、婦人がより良い、より公正な世界の建設に男性と平等の基盤に立って参加しうるよう国家間の新しい関係を設立し、先進国と開発途上国間の格差とを速やかに克服すること、婦人の権利の完全な平等を保証するような法を制定、または法改正を行ない、婦人を何らかの形で差別し、政治的・経済的・社会的・文化的発展過程への婦人の参加を制限するすべての法規を撤廃するよう要請し、婦人がすべての職業分野に男性と平等に参加し、すべての役職につく平等の可能性をもち、同一価値の労働に対し同一の報酬を受け、教育と訓練の機会を平等にもつことを確保し、家事を男女にとって容易にするための社会サービスの諸部門を拡充発展させるような社会経済の進歩を奨励する。

15 農村地域の婦人の条件

開発途上地域の農村婦人が食糧生産に大きな役割を果たしていることを考慮し、婦人はいたるところで、家庭で消費される食糧の調達と調理について、また家族生活のあらゆる局面において中心的な役割を果たしているにもかかわらず、現在まで多くの国でこの役割が十分に認められていないことを自覚し、各国政府に地方開発及び地方婦人に恩恵をもたらすような措置を要請する。

コロンビア、メキシコ、インド、キューバ

56—0—8

○

16 婦人と発展

極端な貧困が基本的人権の障害となっていること、婦人の中で最も人権を奪われている人々でも、すべての人間と同様の尊厳と尊敬を受ける権利を有していることを認識し、すべての男女に対し忍び難い貧困の桎梏の下にあえぐ婦人及びその家族に対し何よりも関心を持つよう強く要請するなど、婦人に対し、貧しい者、恵まれない者の救済に協力するよう要請する。

17 国際標準職業分類の改正及び拡張

婦人の役割と社会的経済的寄与に関する情報が欠如していることを念頭におき、ILO及び国連の関連諸機関に対し、婦人労働等に関する統計基準の再検討、整備、各国のセンサスへの協力を要望する。

18 教育及び訓練

福祉ひいては人類の生存自体に対する挑戦が強まりつつあるのに対し、各種の社会、経済集団間の格差を減少し、婦人に対する偏見を解消するためには、教育の拡充が不可欠であること、また、教育の利益は、性、年令、人種、宗教、種族のいかんにかかわらず、すべての人間の権利として平等に与えられるべきであることを確信し、さらに、婦人に教育の機会均等が与えられない限り、婦人が社会における自らの役割について自由な選択を行ない、これを行使することはできないことを認識し、教育、訓練の分野における婦女子の機会均等や、すべての教材から性に関する偏見を排除すること等を要請する。

19 男女の平等及び婦人に対する差別の

婦人に対する差別は、婦人のもつ巨大な潜在力を社会のために全面的に活用することを阻害し、人間の尊厳及び人権尊重の原則と

法王庁

80-3-13

△

ニュージーランド

全会一致

○

インドネシア、他

全会一致

○

英、ニュージーランド、ブルガ

全会一致

○

撤廃

相容れないものであることに留意し、各国政府に対し、国連、ILO、UNESCOその他の国連機関により作成されてきた婦人に対する差別撤廃関連諸条約の批准を要請する。

50 婦人の地位向上のための国際訓練調査研究所

国連の下に婦人の地位向上のための訓練研究機関を設立することを勧告する。

21 開発への婦人の参加のための措置

国連の諸機関に対し、婦人の開発への参加を促進するよう要請する。

22 世界平和及び国際協力促進への婦人の参加

国連総会が、一九七二年十二月十八日の決議三〇一〇(XVII)において、国際平和と協力の発展への婦人の寄与を拡充することの重要性を認めていることを想起し、各国政府に対し、婦人が職業外交官になるための学業を修めるよう奨励し、採用、昇進の障害を排除すること、婦人が国際公務員または、国際機関、地域機関に就職し昇進する機会を一層多く与えること等を要請する。

23 国際平和と安全の強化及び植民地主義、人種主義、人種差別ならびに外国による支配に対

各国政府、政府間機関、非政府機関、婦人組織、婦人グループに対し、平和を強化し、あらゆる形態の植民地主義を完全かつ決定的に撤廃し、アパルトヘイト、人種主義、外国による支配と侵略を終らせるための努力を強化するよう要請する、他。

リア、他

イラン、米、ジ 全会一致

チャマイカ、エジ

プト、メキシコ、

他

米、ニュージー 全会一致

ランド、オース

トリア、他

フィリピン 全会一致

東ドイツ 75—2—22

△

○

○

○

する闘争への婦人の参加

24 パナマ領「運河地帯」の問題

25 国際会議への参加を通じる婦人の世界平和への寄与

26 バレスチナ及びアラブの婦人

27 ベトナム国民に対する援助

28 チリにおける婦人の状況

植民地的状況、人種主義、人種差別、外国による支配と占領が存在し続けることは国際平和に対する脅威であり、全世界において婦人が男性とともにこれらを撤廃するために闘っていることを考慮し、新運河条約に関する米国とパナマとの間の交渉は同地域に対する主権を有する当局の同意によらない支配と占領を撤廃しなければならぬとの見解を表明する、他。

国連総会の代表団中婦人の割合は一〇%以下であることに留意し、各国政府に対し代表団中の婦人の数を大幅に増やすよう努力することを勧告する、他。

何百万の人間が植民地主義の桎梏の下に苦しんでいるときに人間の平等について語ることの空しさを再確認し、世界のすべての婦人に対し、バレスチナの婦人と人民に対し、連帯と支援を宣明するよう訴える他、民族解放運動に対する支持を要請する。

ベトナムの婦人が民族解放のために闘い、全世界の民族解放と婦人の解放の動きに寄与した役割を評価し、既存の国際機関の基金を通じてのベトナム人民援助を要請する。

婦人収監者が屈辱的な状況の下に置かれていることを留意し、チリにおける抑留者の即刻解放を要請する。

アルゼンチン、他 58 | 0 | 33 △

米、他 全会一致 ○

アラブ、アフリカ 66 | 3 | 35 △

アラブ、アフリカ 94 | 0 | 6 ○

アルジェリア、他 全会一致 ○

(注) 日本の欄の記号は決議に対する日本の態度で、○は賛成、△は棄権。



お陰様で〈あごら〉成人式……

例によってドロナワのドロナワ。情宣もご案内状の発送も遅れに遅れて、キモを冷し続けた二十周年記念集会。

その朝〈あごら九州〉から航空便で送られた三百本のバラが会場を彩って、ともかく幕をあけられました。

「〈あごら〉らしい手づくりの温かな会でうれしかった」と、帰りがけ、口々におっしゃってくださったおことばで心労もホッと溶け、ああ、このやさしさに支えられて二十年続いたのだと、改めてしみじみとありがたく感じました。

全国から駆けつけて下さった皆様、お情けがあたかなお湯のように心にひろがっています。

またみなでお会いしましょう。(斎藤千代)

二十年で咲いた花々

半田 たつ子

〈あごろ〉二十周年記念の集い……ウーン。

『We』を編集・発行し、十年間で幕を引いてしまった私。

十年前の集いで、〈あごろ〉二十周年、『We』十年を一緒に祝おうね、と斎藤千代さんと約束したのに、恥ずかしいなあ。

でも、斎藤千代さんが闘病中とは……。午前と夜は、ずせない用事の間を縫って、せめて午後の部だけでも、と馳せ参じたのでした。

ステージに輝く真紅のバラは、〈あごろ九州〉の女たちの情熱と歓喜を象徴します。〈あごろ〉の種子は各地に、豊かな花を咲かせているのです。それが二十年の歳月の重みです。

夫と永別した後、私の心の景色の変わりように本人が驚いています。「元氣というもの」が潮の引くように退き、「しみじみと共感できるもの」に、ひたひたと満たされて

いたのです。だから、

「厚くなったり、薄くなったり、質も量も千変万化、皆様をハラハラさせ続けた『あごろ』ですが、

不戦

不差別

不暴力

の〈あごろ〉流ジャーナリズムだけは、なんとか貫き通したのではないかと思います」の文章は、私のハートにびつたりきました。これに続けて、「！経済的には大ピンチの〈あごろ〉！」の呼びかけ。そうです。これこそが、ミディコミの最大の泣きどころなのです。

田嶋陽子さんの勢いそのものの語り。「フェミニストが、フェミニストにだけ通じる言葉をどんなに連ねても、乾ききった大地をうるおすことはない」と……。フェミニズム雑誌の草分け『あごろ』が、フェミニズム運動の先輩、田

中寿美子さんに感謝状を贈り、マスメディアの超売れっ子、田嶋さんを招いたところに、『あごろ』が継承し、さらに発展させたフェミニズムを見ました。

「ボトム会議」とは、見事な命名。マスコミで大活躍の下村満子・増田れい子のお二人が、「ミディコミは話しかける対象が明確だ。その手応えをもつのが強み」「ミディコミを読まなければ真実のことはわからない。またミディコミが伝えたものは古くならない」と話されたのは印象的でした。これを受けて斎藤さんが、「何をやっても、ごまめの歯ぎしり」だが、女の情報が管理されたものでしかないのを何とかしたかった。マスコミは整理された情報を伝えるが、ノイズを拾うことが大切と、カネなし、権力なしで二十年やってきた」と語られたのは、胸に響きました。

司会のしま・ようこさんが、「どんな女の運動にも害はある」と率直に発言し、ソフトにリラックスモードで運ば

れるのも〈あごろ〉流。私は、何よりも斎藤さんに「ありがとう。ご苦労さま。お身体が悪い時はどうぞ休んでね。

重い荷を一人だけでかつがないで、皆にも分けてね」と言いたかった。そして、会場にかけつけた方たちには「どんなに高い志があっても、ミディコミを持続させるのはお金志を共有するなら、お金をだして！」と訴えたかった。でも『We』を十年でやめてしまった私に、言う資格があるだろうか？ 忸怩たる思いをふっくらせて下さったのは、しさんの（そしてたぶん斎藤さんの）さりげないお誘いでした。

最後に、思い切って壇に登りました。そして、言ってきた。私流のささやかな形で〈あごろ〉二十周年に参加できた、いま思っています。しみじみとした歓びに、ひたひたと潤っています。ありがとう！

二十周年 記念号は

二月に……

田嶋陽子さんの「おもしろフェミニズム」に始まり、下村満子・増田れい子さんほか七人が問題提起した「あごろボトム会議」、そして夜の「私は言いたい」（河野信子さんほか）——182号に掲載予定です。どうぞお楽しみに。

編集後記



◆この表紙の色がローザ・メヒカーナ（メキシカン・ピンク）別名タマヨ・ピンクとも言われる色です。メキシコが誇る画家タマヨが好んで使った、激しいでも温かなピンク。

一九七五年、メキシコ・シテイはこの色であふれていました。コロンビアに予定されていた第一回世界婦人会議が、コロンビアの政変のためにメキシコ市に変わったこと、そして、この第一回会議で次の候補地とされていたテヘランが、やはり政変のためにコペンハーゲンに変わったことなどを思い出します。

「国連女性の十年」をめぐる十年、世界は激動に明け暮れました。ナイロビ会議から北京会議に至る十年は、さらに激動が続くことでしょう。

その激動の中で、女の地位は世界が激動したほどには変わっていないように思われますが、東西冷戦の終結が南北熱戦の始まりとなった今、せめてあくまでも、「南」と共生し、共感する「女」であり続けたいと願っています。 (千)

◆メキシコ会議の新聞記事を改めて集め、整理し、記者の方々のナマのお話を聞けたことで、その時浪人生だった私なりに一九七五年を追体験できた。

中でも、大荒れトリビューン（6・28毎日、一八六ページに掲載）は、南北問題と女性問題の交錯をなまなく物語り、私の心に残っている。 (丸)

◆母子心中も子殺しも多いのですね、国際婦人というのに。

メキシコの〈あごら〉のワークショップ「日本の女性と過去と現在」の基調スピーチで「私たちはサッチャーさんのような女党首が生まれることよりも、

心中や子殺しのない社会を目指している」と訴えていたことを思い出しました。 (藤)

◆繰り返し繰り返し見たつもりだったのに最終段階で大ボカを発見。多分、まだいくつも問題点が出てくるのでは……と心配です。

でも、いつまで発行を遅らせても限りがなく発車！ お気づきのこと、どんな小さなことでも連絡してくださいね。 (川)

◆分類一つでも、世代間で意見が分かれる。たとえば「事件」の中の「世相の反映」、「脱穀機で事故」が、なぜ「世相」なのかと疑問が出る。「この頃から農村の機械化が進行、父ちゃん

出稼ぎのあとの母ちゃん農業が主流になってきた」と年輩者の説明を聞いても、まだストンと胸に落ちない。「原体験の有無と情報の理解度」なんて論文になりそうだなあ。 (小)

◆繰り返し読んだたくさんさんの記

事の中で、私が一番心にひっかったのは「産休を許されている期間全部とった女教師が、母親たちに責められて自殺した」という記事でした。この頃まで産休は全部とらない人が多かった……。権利の獲得も難しいけれど、定着にもたくさんさんの犠牲と努力が必要なんですね。 (木)

◆大幅な遅延、不手際。日々の作業に励み、少しでも良い本を、と思ったが何かが足りない。もしかすると「愛」なのか、いや、きつと「愛」という名の情熱なのだ、と反省。

そして当時の女たちの情熱に感謝しつつ、ジェラシーさえ感じている自分に気づく。

一九七五年、十四歳だった私は、もうすぐ三十一歳である。

(石)
(この号の編集には、特に石黒真貴子、黒沢照代、鈴木とき子、丸山聖子さんが力を尽くしてくださいました。)

へあごらは、ギリシャ語でへ人と人が出会うひろばの意味。

女の生き方、人間の解放について話しあうひろば。さくのないひろばです。

経歴も年齢も性別も関係なく、同じ平場で話しあおう。ちがう価値観にも耳傾けよう。

そして、女も、男も、生き生きと、のびやかに生きられる社会を目指そう、と、

一九七二年以来、資料誌『あごら』（現在の「特集」）を、また一九七七年からは『月刊あごら』を発行しながら、さまざまな話し合いを重ねてきました。

特定の、管理された情報は氾濫していますが、私たちのほんとうにほしい情報は手に入りにくい現状のなかで、女の側が必要とする情報を集め、資料に基づいて討論したいと願っています。

あなたの地域の、職場の、そしてあなた自身の情報を、どしどしお寄せください。

全国各地のへあごら拠点にもお出かけください。

●『月刊あごら』購読料は、月額六八〇円から九八〇円。年間購読料(前納)は七、二〇〇円です。

●一年分を前納した方は会員になります。

●会員は次のような活動に参加できます。

①北海道から沖縄まで各拠点独自の活動(例会・研究会・各種集会・月刊編集その他)への参加

②月刊『あごら』の編集

③『あごら書房』の利用と運営

④あごら書房の運営

⑤可能性教室(「フェミニズム英語」「自立の心理学」などの運営、その他)。

●会費は月額六百元(年額七千二百円)、『月刊あごら』の購読料込み。前納制。入会金は不要。

●申し込み方法

住所氏名・連絡先電話を振込用紙に書いて

年間購読料七、二〇〇円を郵便振替・東京015264へあごらへ。

●連絡先・〒160 東京都新宿区新宿一の九の六 あごら ☎03-3354・3941

©1992 禁無断転載

『あごら』 179号(特集36号) 1993年1月16日発行

- 編集 『新聞切り抜きに見る女の16年』編集会議
- 発行所 BOC出版部 〒160 東京都新宿区新宿1-9-6 TEL03-3354-3941 FAX03-3354-9014
- 発行人 <あごら> 運営会議
- 定価 2,575円(2,500円+税75円) ●振替 東京0-5264

この ひろい宇宙に
たった一つの地球

その 大きな地球に
たった一人のわたし
そして あなた

かけがえのない地球
かけがえのないわたし

かけがえのないあなただから
たいせつに たいせつに しよう

あなたも

わたしも

地球も

たった一度きりの人生だから

思いきり

のびやかに生きよう

だれもが だれをも

ふみしだくことなく

胸の底まで深く息をし

ああ 生きててよかったねと

ほほえみあえる地球にしよう

〈あこら〉

人と人の出会うひろば

〈あこら〉

人と人の共に生きるひろば